赤っ恥の完敗!! どうするんだ青木真也!?

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2009 134

特別定価940yen

「俺はまだ終わっておらん」
——ジョーはなぜ闘うのか

辰吉丈一郎

男の散り際

戦士が最も美しく見えるとき、それは〝散り際〟である——!!

特集 死(引退)と再生(復活)

桜井“マッハ”速人 よみがえった野生
魔裟斗 最後までカッコ良すぎる男
川尻達也 「魔裟斗戦よりカルバン戦!」
五味隆典 いまこそ魔裟斗戦に名乗りを挙げろ!
高山善廣 脳梗塞からの帰還
ハヤブサ それでも不死鳥はよみがえる
特選! 心に残る引退名場面
ミルコ・クロコップ 地獄の2年間——!
天山広吉 モーレツ復活ロード
梨元勝 往生際の悪い芸能人は誰だ
W★ING 最狂最悪の散り際!!

kamipro

2009 No.134 CONTENTS

表紙写真／菊池茂夫

特集 男の"散り際"を考える! 引退と復活

死と再生の

特集　引退と復活

　今月号のテーマは「引退と復活」、すなわちファイターの〝死と再生〟です。

　戦士が最も美しく見える瞬間、それは引き際であり、またどん底からよみがえるため必死にもがく姿だったりします。〝死と再生〟それは隣り合わせ。再生は死の始まりでもあり、死は再生の始まりでもある。

　戦士たちはリングに上がり続けるかぎり、この螺旋からは逃れられません。

　魔裟斗のように、その個性をまっとうしたまま螺旋を登りきるのか。それともセルゲイ・ハリトーノフのように無策に転がり落ちるのか（死という概念は何も引退ばかりを指すものではありません）。また、一敗地にまみれてもなお、その存在を求められる青木真也や所英男は、この先どんな再生劇を見せてくれるのか。そして桜庭和志や田村潔司は――。

　闘う戦士の数だけ、死と再生の螺旋をめぐるドラマは存在します。

螺

旋

英雄の引退はマット界に何をもたらすか——？

最後の正統派スター
魔裟斗の引退

いきなりミもフタもないのだが、魔裟斗の引退に関しては、何も言うべきことがない。引退会見での彼の言葉を聞けば、もうそれで充分なのだ。

この時期に引退すること、最後の相手に今年のMAX優勝者を希望していることについて、彼は「カッコつけマンだからです。最後までカッコつけて辞めたい」と言った。噂される川尻達也との対戦に関しても「それが皆さんの見たいカードなら、喜んでやります。立ち技ナメんなよっていうのを見せてやります」。

魔裟斗はすべての疑問を正面から受け止め、その言葉にはごまかしが一切なかった。思ったことはすべて言う。言ったことは実現させる。それが魔裟斗というファイターの、K―1でスターになる前からのスタンスだったのである。文句のつけようなどあるはずもなく、深読み、裏読みも不要だ。

最近のファンには信じられないことかもしれないが、K―1MAXスタート直後の魔裟斗はヒール的な存在だった。メディアにクローズアップされたのは、彼が夜遊びをするし酒も飲む〝イマドキの（それもかっこいい）若者〟だということ。コアな格闘技マニアからすれば〝いけすかないヤツ〟である。これまた信じられないことなのだが、当時は「魔裟斗＝女性人気」で、コア層への求心力は小比類巻貴之（現・太信）が担うという構図だったのだ。

そういう存在から始まって、魔裟斗は誰にも文句を言わせない、言う必要のない高みへと到達したのである。世界トーナメント二度の優勝は日本人選手として唯一無二。その知名度も、格闘家の枠を超えている。〝人気者だが、じつは裏では……〟式の批判とも無縁だった。むしろ〝裏での

て、それ以外のスター選手のあり方が見えなくなっていたという面はあると思う。
ましてや魔裟斗は、従来の直球な（あえ

死と再生
引退と復活

式の批判とも無縁だった。むしろ〝裏での

評判〟のほうが表のそれよりよかったほどだ。礼儀正しく、練習は絶対に手を抜かない。ブレイクしてからは、周囲がMAXのすべてを魔裟斗中心にしすぎてしまったきらいはあるようだが……。

魔裟斗に対しては批判がなかった一方で、〝記者や編集者が思い入れしすぎるあまり……〟という極端に偏った記事も見当たらなかった。そこまで思い入れる必要がないくらい、彼は自分について冷静に見極め、置かれた状況を理解し、それを自分の口で過不足なく表現できたのだ。

彼の言葉を伝えさえすればそれで充分で、そこに活字プロレス的な〝加工〟の必要はなかった。だから引退に関しても、何も言うべきことがないのだ。

過度の思い入れや深読み、裏読みが不要だったのは、彼の野望やスターとしてのあり方が直球すぎるほど直球だったからでもある。あまりにも直球すぎて、最初は異色に感じられたくらいだ。

「ほかのスポーツに負けないくらいしんどいことをやってるんだから、プロ野球選手やサッカー選手に負けないくらいの人気と収入がほしい」

「どうせ騒がれるんなら、若い女の子に騒がれたい」

強くなりたい。金がほしい。女にもてたい。若いファイターなら誰もが考えて当然のことを、彼は当然のこととして口にした。それがビッグマウスだと言われると、彼はこう反論した。

「僕、ビッグマウスじゃないですよ。思ったことを素直に言ってるだけです。僕をビッグマウスに感じるんだとしたら、それはほかの選手が本音を隠してるからでしょ」

魔裟斗にはファイターとしての類まれな才能があった。思ったことは躊躇も遠慮もせずに口にするだけの素直さがあった。そして言ったことを現実のものにするために、努力も惜しまなかった。そうして彼は、自分の力で望むものすべてを手に入れたのだ。

魔裟斗の引退に関しては、だから本当に言うべきことがないのだが、他のファイターへの影響については思うところがある。その存在感ゆえに〝魔裟斗の呪縛〟とでもいうべきものが生まれてしまったような気がするのだ。

それはたとえば〝イケメン〟であったり〝女性人気〟であったり〝地上波での露出度〟である。〝ドラマ出演〟に〝CM出演〟、〝バラエティ番組のMC〟、〝ファッションセンス〟、それに〝タレントとの結婚〟もそうだ。魔裟斗の存在は、そのあとに続く選手たちの〝スターとしてのあり方〟を暗黙のうちに規定してしまったのではないだろうか。

もちろん、それは魔裟斗自身の責任ではない。彼はあくまでも自分が望む姿、彼が理想とするスター像を追い求め、実現させただけだ。ただ、周囲にはそれが大きすぎて、それ以外のスター選手のあり方が見えなくなっていたという面はあると思う。

ましてや魔裟斗は、従来の直球な（あえて言うならベタな）スター像の集大成にして究極ともいえる選手だった。だから、他の選手も〝魔裟斗的〟とでもいうべきフィルターを通してしかスターになることができなかったし、選手自身もそうあらねばならないと思い込んでしまったフシがあるはずだ。

山本〝KID〟徳郁のキャラクターに〝興行を背負う〟という役目は本当にふさわしいのか。須藤元気には、地上波では捉えきれない変態性やアクもあったのではないか。五味隆典はMAXや『HERO'S』の選手にコンプレックスを抱く必要などあったのか。そして秋山成勲には、あの特異な個性がもっと広く共有されるような打ち出し方が他にあったのではないか——。

これは自戒も含めて書いているのだが、〝魔裟斗的なスターとしてのあり方〟を全員が追う必要など、本当はないはずなのだ。魔裟斗引退によってMAXが危機的状況を迎える？　確かにそうだ。だがそれは、主催者やファンやマスコミが無意識に〝魔裟斗二世〟を求めてしまうからではないか。

魔裟斗がいないからダメなのでも、魔裟斗がいなくても大丈夫ということでもない。もっと別のスターのあり方、格闘技イベントのあり方があったっていい。誰も魔裟斗のようにはなれないし、なる必要もない。もちろん〝魔裟斗二世〟を目指す選手がいてもいいのだが、それには覚悟を決めてかからなければいけないだろう。最低でも命懸けだ。

魔裟斗は、それくらいのことをやってきたのである。

（橋本宗洋）

前門のカルバン・"勇気のチカラ"でまた踏みだすか!? 後門の魔裟斗

死と再生
引退と復活

2009年格闘技界のキーパーソン

川尻達也

"反逆のカリスマ"の引退発言について一番話を聞きたいファイターといえば、この男しかいない！　五味隆典にDREAMライト級王座、そして魔裟斗——09年全方位クラッシャー宣言した川尻が、いまファイターとして、そしてDREAMを背負うもう一つの大黒柱としていったい何を考えているのか？　クラッシャーの"プロ意識"に迫る！

聞き手／橋本宗洋　撮影／金山フヒト　試合写真／乾晋也　構成／鈴木佑

——まずは先日の『DREAM・8』名古屋大会なんですけど、リングサイドでご覧になっていていかがでしたか？

川尻　いや～、おもしろかったですね。メインが締まればいい大会になるんだなって、あらためて思いましたね。

——強かったですねえ、マッハさん。

川尻　嬉しかったですね。ファンとして憧れてきた人だし、師匠でもあるんで。ひさしぶりにって言ったらアレですけど、底が見えない強さが出てたなって。

——一方で、今回の青木選手のチャレンジに関してはどう思いました？

川尻　凄いと思いますね。僕は、これまで階級性にこだわってやってきてたんですよ、競技として。『PRIDE武士道』でも、最初は70キロじゃなきゃやりたくないって言ってたくらいなんで。

——修斗のウェルター級（70キロ）からPRIDEライト級（73キロ）に変えるのにも抵抗があった、と。

川尻　1キロ違ったって嫌ですからね、本当は。一階級上げるようなイメージでやってましたからね。ましてやウェルター級で6キロ差ってなったら、相当な違いなんですよ。しかも青木くん、「出ればいい」って雰囲気じゃなかったじゃないですか。「いっちゃうんじゃないか」って、お客さんにそう思わせることができる青木くんって凄いな、と。

——競技として考えたら、かなりムチャなことですよね。青木選手がなぜそれをやったのかっていったら、DREAMを盛り上げるためっていう。

川尻　そこしかないんじゃないですか、彼の頭の中には。やらないですよ、普通の感覚だったら。僕だって普通の感覚だったらK—1やらないし（笑）。

——マッハさんも一夜明け会見で"大黒柱宣言"してましたよね。トップ選手って、みんなそういう意識があるのかな、と。

川尻　少なくとも『やれんのか組』って言われる選手にはあると思いますよ。一回、闘う場所を失なってるから。必死なんですよ、必死。この世界で生きていくためには、DREAMをなくすわけにいかないんで。

——川尻さんも3月の試合の煽りVで、五味選手、JZカルバン選手、それに魔裟斗選手の名前を出されてたじゃないですか。

川尻　そうですね。

——で、五味選手に関しては純粋なエールで、カルバン戦はタイトルを目指すという意味で、まあMMAファイターとしての王道ですよね。そこで気になるのが魔裟斗戦に関してなんですけども。

川尻　あれは、聞かれたからですよ。「あ

えてもう一回、K―1ルールで闘うなら?」って聞かれたから、「それだったら魔裟斗選手しかいないでしょうね」って。僕はK―1でトップ目指してるわけじゃないんで、階段を登る必要はないと思うんですよ。

――K―1ファイターという競技者だったらトーナメントを勝ち上がらないといけないけど、そういう立場ではない、と。

川尻　じゃあ、もう一回K―1でやるとして、それがなんのためかっていったら、お客さんを盛り上げるためだと思うんですよ。そしたら、魔裟斗選手とやるのが一番ですよね。日本人でトップだし、噛み合うと思いますし。

――逆に言うと、それだけ魔裟斗選手のことを認めてるわけですよね。

川尻　選手として、尊敬しかないっすよね。K―1の日本人で一番、実績を挙げた人だし。実績以外でも、これからああいう人が出てくるかどうか。文句言える場所がないじゃないですか。それくらいの人ですよ。

――その魔裟斗選手が、最近になって引退を発表したじゃないですか。あと2試合で引退する、と。それを聞いた川尻さんの心境っていかがでした?

川尻　今年じゃなければ交わることがないのかと思ったら、逆に興味が出てきちゃいましたね。

――「あえてやるなら」という以上の感覚というか。

川尻　でも、「俺でいいのかな」とも思うんですけどね。「ほかにやるべき相手がいるんじゃないかな」って。逆に「いままで交わったことがないからこそいいのかな」っていう感じもありますし。そこはファンの判断でしょうね。お客さんが盛り上がるんなら、僕も盛り上がれるんで。

――まして、やるとしたら今年しかないわけですからね。川尻選手も一度はK―1ルールを経験してるわけですから、「そのトップの人が引退するのか」って興味を持ってもおかしくはないですよね。

川尻　そうですね。僕もプチK―1ファイターなんで(笑)。

――で、そういう川尻さんの声が、魔裟斗選手にも届いててですね。

川尻　みたいっすねぇ(苦笑)。

――魔裟斗選手いわく「立ち技ナメんなってのを見せてやります」、と。

川尻　いや、僕は全然ナメてないんすよ! ビビッてるくらいなんですから……謝っちゃおうかなぁ。

――クククク! 「ナメてるわけじゃないんです!」って。

川尻　「すいませんでした!」(笑)。

――僕がおもしろいと思うのは、川尻さんが「K―1はもう絶対やらない。やる必要がない」とは言わないところなんですよね。

川尻　そうですねぇ。そこはもう、本当にファンの声なんじゃないですか。僕は調子ノリなんで。ファンに観たいって言われたら「じゃあやっちゃう?」ってなっちゃうんですよ。必要とされてない試合ほど、選手にとって悲しいものってないですからね。いま格闘技界に必要なのは、ファンが望むものを実現することだと思います。溜めてる場合じゃないっすからね。

――やっぱりいまの川尻さんにとっては、そこが一番大きいわけですよね。

川尻　でも魔裟斗選手とやるとしたら、7月しかないんですよね?

――そうですね。大晦日はMAXのチャンピオンとやりたいって言ってますから。

川尻　だけど僕、DREAMのベルト獲りたいんですよ。

――選手としての最大の目標はそこですからね。

川尻　だから、まず大事なのは、5月にカルバンとやりたいんですよ。そこで挑戦者決定戦をやって、秋にタイトルマッチを考えてるんで。そこで7月にK―1ルールで魔裟斗選手とっていうのは……。

――だから僕らは「魔裟斗とやってくれ!」って思うんですけど、「それってメチャクチャ大変なんだろうな」っていう。

川尻　それだけ必要とされるっていうのは、純粋に嬉しいですけどね。いろんな可能性が広がるし。……あ、でも、それを必要としてない人もいるみたいですけどね。

――そうなんですか?

川尻　某専門誌は、僕にK―1やってほしくないみたいですよ。毎回、取材があったんですけど、武田戦のときだけなかったんで。「乗れない」ってことですかね(笑)。

――出ますね、スタンスが(笑)。実際の話、格闘技を競技として考えたら、総合の選手がK―1でやる必要は全然ないわけですからね。

川尻　本当はそうなんでしょうけどね。でも、いまはそういう状況じゃないですから。四の五の言ってらんないんですよ、プロとして生きていくためには。青木くんだってそうじゃないですか。できれば70キロでだけ闘いたいはずなのに、DREAMを盛り上げるためにウェルター級GPにも出たわけで。競技としての正しさだけを言ってられないんすよ。僕は競技にこだわってきたし、大事にしたいところなんですけどね。いま必要なのは、格闘技の熱を高めることだと思うんで。日本の格闘技界って特殊ですからね。やらなくて済むんだったらいいけど、やらないことで何かを失なうこともあると思うんで。「なら自分が」って。

――じゃあ、バイトしながら競技として正しいことだけをやっていくのと、K―1ルールっていう本来はよけいなことをしつつDREAMという大きな舞台を盛り上げることを比べたら、後者を選ぶ、と。まあ究極の選択かもしれないですけど。

川尻　いや、それ全然、究極じゃないっすよ。そんなの100パーセント、DREAMですよ。

――あ、そういうもんなんですね。

川尻　あたりまえじゃないですか! バイトしながら格闘技やるつらさを知ってる人間は、100人中100人、そう言いますよ。

昨年の『Dynamite!!』、川尻は"一歩踏みだす勇気"でK-1ルールでの武田幸三戦に臨み、見事に1RKO勝利! ここはぜひとも"ミスター勇気のチカラ"として、魔裟斗戦に向けてまた一歩踏みだしてほしいところだが……。

魔裟斗は引退会見で川尻戦について「皆さんが観たいカードなら喜んでやります」と発言。ちなみに『kamipro Move』で行なったアンケートでは、魔裟斗と闘ってほしいファイターとして川尻が断トツの1位を獲得! う〜ん、やれんのか!?

尻達　也

――でも、「食えなくても競技としての正しさを追求すべきだ」って人もけっこうい

間の主張なんて、誰も聞かないですからね。それだったら魔裟斗選手とやってで

の世代なんで。蝶野vsリック・ルードとか。

――第2回G1決勝ですね(笑)。

もできそうっていうか。

――それこそ魔裟斗戦でも、っていう。

いま格闘技界に必要なのはファンが望むものを実現することだと思います

川尻

――でも、「食えなくても競技としての正しさを追求すべきだ」って人もけっこういるんじゃないかな、と。

川尻　ああ〜。いますよね、「金じゃない」っていう人。僕は昔から、そういう人に食ってかかってましたから。「金ですよ」って。自分にプライド持って闘ってるんだから、お金がほしいのはあたりまえだし。こっちは汚いジムで、バイトしながら「いつか格闘技で食えるようになりたい」って頑張ってやってきたんですから。金じゃないとは絶対に言いたくないですよ。金じゃないっていうのは、何か後ろ盾がある人の意見なんじゃないですか。

――選手というより運営側の理想論なんですかね。ああ、あとマスコミとか（笑）。

川尻　でも、ライターの人も一緒じゃないですか？　格闘技の原稿だけで食えなかったら、バイトするんですかね？

――いや、バイトより先にほかのジャンルの原稿を書きますけどね。

川尻　K―1やるのだって、それと一緒ですよ。それに、K―1で魔裟斗選手とやることも強くなるためには必要かもしれないですけど、バイトは必要ないですからね。

――ましてやお金を稼げば、強くなるために使えるわけですしね。

川尻　そうそう！　もちろん競技としてのこだわりは捨ててないんですけど、それを言うためには発言権も必要じゃないですか。

――伝えるための力、ですよね。

川尻　バイトしながら格闘技やってる人間の主張なんて、誰も聞かないですからね。それだったら魔裟斗選手とやってでも発言権を得ていかないと。

――K―1やるのもファイターとしては正しいし、競技としての正しさを追求するためにも、いまはよけいなことをやってでも格闘技を盛り上げなきゃいけない、と。

川尻　それがあたりまえのことだと思いますけどね。

――話はちょっと変わるんですけど、川尻さん『1976年のアントニオ猪木』を読まれたそうですね。

川尻　読みました、はい。猪木さんの時代のことは、あんまり知らなかったんで驚きましたね。僕は闘魂三銃士とか、あのへんの世代なんで。蝶野vsリック・ルードとか。

――第2回G1決勝ですね（笑）。

川尻　リック・ルードの腰フリは強烈に覚えてるんですけど（笑）。

――そういうプロレスを観てきた人かたしたら、猪木さんも相当メチャクチャやってますよね。

川尻　ねぇ！　現役のボクシングの世界チャンピオンとやるって、なんであんなことできたんですかね？　あと、なんとかペールワンとか。やっぱり時代なんですかね。ネットがないから情報もわかんないし、わかんないからやれちゃうしおもしろいっていう。

――そういうのをおもしろいって思える川尻さんが、僕らからするとイイなって思うんですよね。川尻vs魔裟斗戦っていうのも、ネット情報を超えたロマンがあると思いますよ。

川尻　……でも、実際にやって足蹴られるの僕ですからね（苦笑）。

――確かに（笑）。

川尻　だから、いまはカルバン戦しか考えられないんですけど、そこで勝ったらわかんないっすね。「いまの俺ならいける！」って思うかもしれない。

――無敵モードというか。

川尻　選手って、そういう時期があるんですよ。僕も修斗の新人王トーナメントやってた頃がそうでしたし。去年の青木くんもそうだったじゃないですか。青木くんが凄いのは、世界レベルで無敵モードになったことなんですけど。

――川尻さんが世界レベルの無敵モードになれるかどうかの重要なポイントが、カルバン戦だ、と。

川尻　それだけの相手ですしね。カルバンにいい勝ち方ができたら、どんなことでもできそうっていうか。

――それこそ魔裟斗戦でも、っていう。

川尻　カルバンに勝ったらマイクで言っちゃうかもしれないっすねぇ。

――いいですねぇ。

川尻　でも実際、K―1ルールで魔裟斗選手と闘うのって究極じゃないですか。僕からしたら、それを乗り越えたら自分の可能性も広がるんじゃないかって気持ちもあるんですよ。1年間で魔裟斗選手とやって、DREAMのベルトも獲ってって、そんな1年なくないっすか？

――完全にないですね。偉業ですよ。

川尻　そういうのもかっこいいのかなって。あとは本当にね、ファンの声なんで。それがファンの望むことで、格闘技界が盛り上がるんだったら、僕はいっちゃう人間ですから。

【09年4月10日／都内・JBスポーツにて収録】

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。05年からはPRIDEで活躍。08年のDREAMライト級GPでは準決勝でエディ・アルバレスと格闘技史上に残る壮絶な殴り合いを展開。同年の『Dynamite!!』では、初のK-1ルールで武田幸三から見事KO勝利を収めた。171cm、69.9kg。

川尻達也が選ぶ 心に残る引退エピソード

辰吉さんを見て「なんでここまで？」って思いました

引退でパッと思い浮かんだのは辰吉丈一郎さんです。辰吉さんがタイで復帰戦に臨むドキュメンタリー番組を観たんですけど、「なんでここまでやるんだろう？」って思いましたね。リングから離れられない気持ちを理解できつつも、僕が思い描く引退とは違う気がしました。僕は「これはかなわない」って思う選手が同じ階級に出てきたときと、「俺はこれ以上強くなれない」って自分のことを疑ったときにスパっと辞めようって考えてるんです。辰吉さんを見ていて、自分は選手生活をどうやって終えるんだろうって考えさせられましたね。

丈一郎

「人間は
遅かれ早かれ
死ぬんや
僕は
飯食って
糞して
死を
待つんや
なしに
一生懸命
やりたいことを
やって死にたい」

辰吉丈一郎、38歳。
19歳でデビュー後、8戦目でWBC世界

辰吉

「男が闘い続ける理由」

プロスポーツ選手の散り際には、おおまかに分けて二つの例がある。
一つは魔裟斗のようにトップクラスのまま引退する例。そしてもう一つはボロボロになっても闘い続ける例。
その後者の代表といえばボクシング界のスーパースター、辰吉丈一郎だろう。38歳になりライセンスを剥奪されても、
世界チャンピオン返り咲きを信じ、海外で現役を続行する辰吉。男がここまでして闘い続ける理由はなんなのか。

聞き手／立嶋篤史　撮影　菊池茂夫　構成　堀江ガンツ

辰吉丈一郎、38歳。

19歳でデビュー後、8戦目でWBC世界バンタム級王者となった天才ボクサー。この日本ボクシング界が生んだスーパースターは、いま日本での試合を禁じられたボクサーでもある。

日本ボクシングコミッション（JBC）の規定により、38歳の誕生日を迎えた昨年5月、辰吉はライセンスを失効した。

93年に網膜剥離が判明して以降も現役続行を熱望し、JBCの特例により「世界戦もしくはそれに準ずる試合」を行なうことは認められていた辰吉だが、年齢制限により強制的に「引退選手」扱いとなった。

しかし、辰吉はそれでも現役続行を宣言。所属ジムも離れ、一人のボクサーとして海外に活路を求め、08年10月、タイ・バンコクのラジャダムナンスタジアムで5年ぶり復帰戦を行ない、パランチャイ・チュワタナに2ラウンドTKO勝ちを収める。

JBCはこれに不快感を表わすが、辰吉はさらに今年3月8日、同じくラジャダムナンスタジアムで復帰第2戦を敢行。

しかし、辰吉は減量に苦しんだことと、タイの猛暑もあってか、動きにキレがなく、19歳のサーカイ・ジョッキージムにダウンを奪われ、7ラウンドにタオル投入でTKO負けを喫した。

ラジャダムナンのリング上で見たのは、かつての天才ボクサーの姿ではなかった。報道陣は辰吉の口から「引退」の二文字を引き出そうとした。しかし、辰吉の答えは「もう一回やりたい」。

38歳の肉体はすでにボロボロだ。それでも辰吉は22年間続けているロードワークを敗戦翌日も変わらず行なったという。

男はなぜそこまでして現役にこだわるのか。なぜそこまでして世界チャンピオン

「引退しろ」とかクソ文句垂れるヒマあったらええから試合組んでくれって!

返り咲きにこだわるのか。

その辰吉の本心を知るために、本誌は辰吉と15年来の親交があり、自身も現役にこだわり続けるキックボクサー立嶋篤史に、インタビュアーをお願いした。

インタビュー場所は大阪府守口市にある辰吉の妻、るみさんの実家が経営する喫茶店『白千館』。辰吉はいつものようにロードワークを終えたあと、約束の時間に少し遅れてやってきた——。

——今日は「復活」というテーマでお話をうかがいに来たんですけども。

辰吉 テーマが復活? で、立嶋くんは何役なの?

——僕は聞き手です。

辰吉 へえ、こんなことちょいちょいやってるの?

——いや、初めてです。

辰吉 今後もやってくの?

——わからないです。僕は一応まだ試合がしたいんで。

辰吉 まだ現役やろ?

——はい、丈さんの話だからOKして。

辰吉 そうなんか。

——で、テーマは復活なんですけど、辰吉丈一郎っていう選手の考えは、みんなテレビとか雑誌とかで見て、ある程度は知ってると思うんですよ。

辰吉 そうかな? 自分で自分の番組は観んから、わからんのよ。

——どうせ僕が聞くんだったら、ありきたりではなく、話しづらいことも聞こうと思います。載せたくないことでしたら、あとでカットもできることなので。

辰吉 いや、全然ええよ。嘘並べるのも嫌やし。じゃ、やろか。

——はい。では今回(3月8日)タイで復帰第2戦を行なって、前回の復帰第1戦もタイでしたけど、今回と前回の違いってなんでした?

辰吉 日本の気候が違いすぎた。前のとき(昨年10月26日)は、まだ日本が夏からちょっと涼しくなったぐらいのときにタイに行ったから、向こうが暑くても全然微調整できたんよ。でも、今回は日本が一番寒い時期やん、それで向こうに行ったら炎天下やん。だから日本で調整してきたもんやから、向こうに着いて試合の二日前にコンディションができあがってしまって、試合当日はもう身体が動かん状態やった。こんなに早くできあがってまうんやと思ってな。夏場と冬場、コンディションの作り方が違うやん。ブランクがあるとね、そんなコンディション作りの違い、うっかり忘れとったわ。

——試合後の疲れはどうですか?

辰吉 そんなの関係ない。次の日からもう練習してるから。

——試合後「もう一度、今回の相手と対戦したい」って言ってましたよね。

辰吉 そら、やりたいよ。

——これは僕の個人的な考えなんですけど、いまはそこにこだわらなくても……。

辰吉 いつこだわんねん?

——でも目標が「世界」じゃないですか。

辰吉 それは当面やん。俺、この前負けたやん。借りは返さな。

——ブランクがあると、自分を客観的に見るじゃないですか。いまの自分を客観的に見てどうですか?

辰吉 弱い。弱いから負けた。練習しても、試合をせんかったら結果的に強くならないからね。だからブランクは怖いんよ。試合があるからそれに向けてペースを上げて、試合のレベルによって自分を上げていって、そういうふうに強くなっていくもんやんか。僕はそうやってきたから。

——昨年10月に試合するまで5年のブランクは大きいですか?

辰吉 そら大きい。だから試合をしたい。負けたからって、(期間を)開けたくないんや。リズムを崩したくない。もう僕は終わりよければすべてよしなんで。いまはもう周りが「引退や」とか「歳だから」どうのこうのってクソ文句垂れるヒマあるんやったら、ええから試合組んでくれ、と。文句はあとで言うてくれ。そう言うと、「また網膜剥離になったらどうすんねん」とか、もっと言うたら「死んだらどうすんねん」とか言うやんか。

——そうですね。

辰吉 でも人間、遅かれ早かれ死ぬって。どうせ遅かれ早かれ死ぬんやからね、生きてるときに、本当にやりたいことをやるっていうのは重要じゃないかなと思う。そのほうが生まれてきた価値があるやん。ダラダラダラダラ飯食ってクソ垂れて死んでいくことを待つよりも、一生懸命生きるほうがおもしろくないですか?

——人生の充実度は違いますよね。

辰吉 危険やいうてやりたいことをやらずに、明日、交通事故に遭って死んだらどないすんねってこと。人間ってどこで死ぬかわからんわけでしょ? したいことをして、やりたいことをして、結果そうなるほうがまだ納得するやん。そらある程度は縛りがあるでしょう。でも自分の人生は自分のために生きるわけやないですか。周りがいろいろ言うてくれるのはありがたいけど、親切ぶって、さも専門家のように、そこまで言うんやったらあんたがやればいいやんって感じ。言うてくれてることの理屈はわかる。でも、俺には俺のリズムがあるし、ペースがあるし、考えもある。だから、気持ちはありがたく思うけど、俺は俺のためにやってるんよ。

——僕は日本の報道って、ちょっと偏ってる記事が多いと思うんですよ。さもプロボクサーは37歳定年が絶対のように報道してるけど、実際は37歳すぎても試合をやってる日本人選手はいるじゃないですか。

辰吉 うん。

——でもそれはOKで、辰吉丈一郎はダメはJBCがいろいろ言うてるから、試合が中止になること心配しとるんかなと思っ

インタビュー場所は、るみ夫人の実家が営む喫茶店『白千館』。ここは辰吉がいつも取材を受ける場所であり、毎日のように顔を出す拠点でもある。

©シンラパ・ムエタイ　早田寛

今年3月8日、タイのラジャダムナンスタジアムで復帰第2戦を行なった辰吉。しかし、1ラウンドから身体が思うように動かず、3回にはダウンを奪われ7回TKO負け。辰吉は再戦を希望しているが……。

辰吉丈一郎

辰吉　うん。

——でもそれはOKで、辰吉丈一郎はダメだっていうのは、なんか納得いかないんですよ。

辰吉　僕の場合は、目の問題であったりとか、ブランクであったりとか、そういうデメリット的なものが多すぎるからね。そら言われてもしょうがない。まあ、いろんな人が注目するから、よけい言われるんやろうけどな。

——世界的に見ても、WBC（世界ボクシング評議会）が健康問題について、全選手にここまで厳しくやっているとは思えないんです。

辰吉　健康面で言ったら、人を殴ってる時点でもうおかしいからね。

——ホントに辰吉丈一郎が、身体が無理なのにやってるんだったら、そう言われても仕方がないと思うとは思うんですよ。でも実際は、前回タイで試合をするにあたっても健康診断書を提出して、認められたうえで試合をしている。そこは報道されないんですよね。

辰吉　俺は何一つうしろ指をさされるようなことはしてないよ。

——でも、タイで試合をすることも、ルール違反みたいな感じで言われますよね。

辰吉　凄い邪魔されるの。なんやろうな？

——そのへんはみんな知らない部分が多いと思うんですよ。大衆はJBC側の発表をたぶん鵜呑みにしてて。

辰吉　そうなん？

——だからさっきの健康診断のことでも、それを一切言わなくて、ホントに体調的にはできないのに、無理矢理やってるってイメージなんですよね。

辰吉　もの凄い周りから言われるのよ、「大丈夫なん？　大丈夫なん？」って。俺はJBCがいろいろ言うてるから、試合が中止になること心配しとるんかなと思ったら、違うんや。みんな身体のことを「大丈夫？」って言ってるんか。

——そうですよ。

辰吉　そっちかい！　いい迷惑やわ。あんまり「大丈夫か、大丈夫か」って聞かれるから、そういうことなんか。こっちは大丈夫やからボクシングやってるんであって、大丈夫だから毎日走って毎日練習してんねん。それにしても立嶋くん、よう細かいこと読んでんねんな。

——はい。新聞で読んだり、あとはいろいろインターネットで情報集めたり。

辰吉　あ、インターネット？　パソコンできんの？

——はい。

辰吉　うわっ、こまっしゃくれてんなあ。なんに使ってるの？

——メールしたり、いろんな情報を見たり。

辰吉　でも、インターネットって回線通すのにけっこうお金取るやんか。

——そうでもないですよ。

辰吉　ウチ、電話配線するのにも10万円ぐらいかかったで。

——電話線通ってたら、月3000円ぐらいですよ。

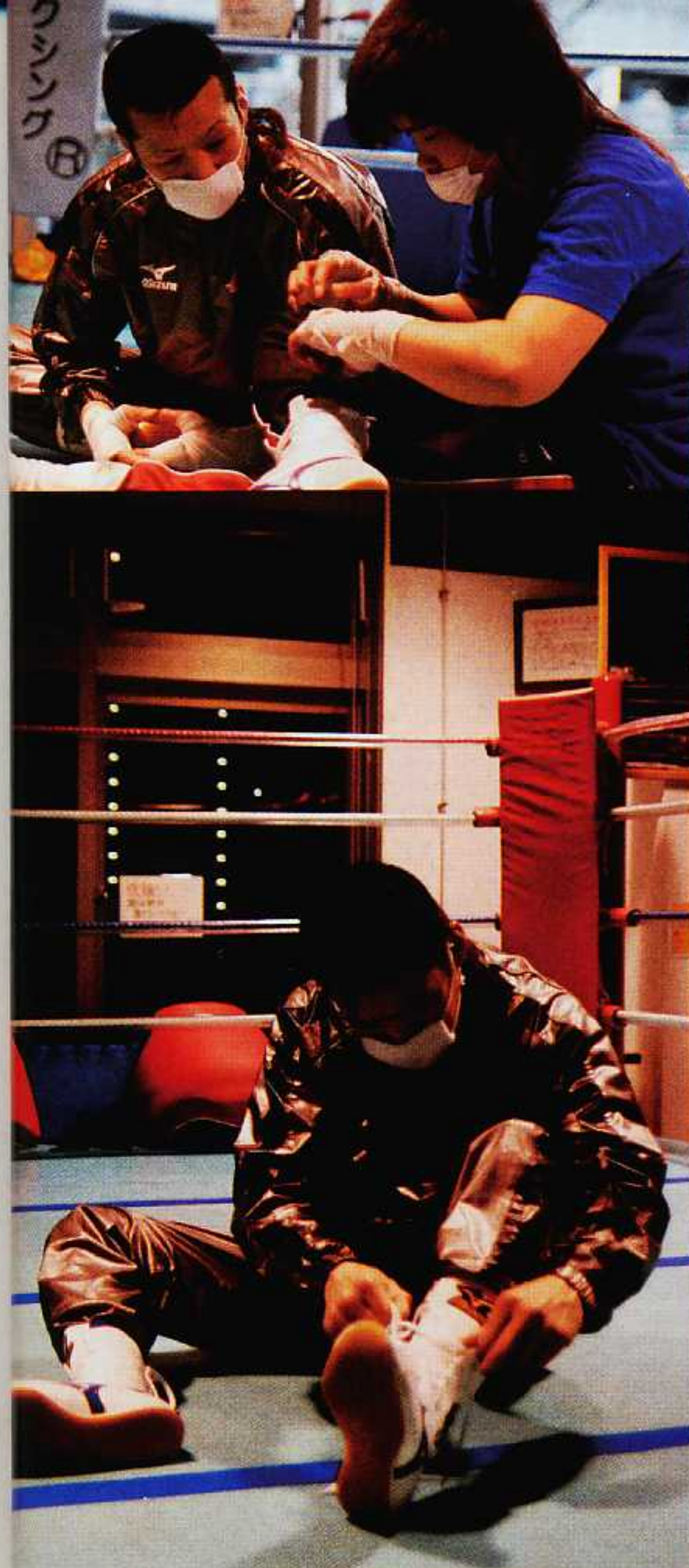
辰吉　そんな安いの！

——それでメールし放題だし、インターネットで電話もできるんですよ。しかも無料で。

辰吉　え、パソコンから携帯つなぐの？

——いえ、パソコンにイヤホンつないだりしてテレビ電話みたいにしてしゃべるのはお金かからないんですよ。

辰吉　ほう、すげえ！　知らんかった。ほんならパソコンって凄い得なん？

ライセンス失効により所属ジムを離れた辰吉は、現在、大阪市内のフィットネスジム「TSDカリ」で練習中。ここはリズミックボクシングというダイエットプログラムを主に行なっているジムで、辰吉はダイエット目的の一般会員の中、たった一人のプロボクサーとして、長男・寿希也、次男・寿以輝とともにトレーニングを行なっている。

毎朝起きたら顔洗って歯を磨くでしょ?
僕が22年間、毎朝走ってるのもそれと同じ

辰吉丈一郎

――得ですよ、持ってれば得です。

辰吉　どういうのが得なの？　意味がわからん。

――買い物もできるし。

辰吉　そんなん家にいて買い物できたら、いらんもん買うわ。かえってたこうなるやん。

――安いものも探せるわけですよ。お店に売ってないものとか。

辰吉　いらんわ。買うもんは自分の目で見るわ。写真で見たら違うやん。

――いまパソコンだけじゃなく、携帯で漫画が読めるらしいですよ。

辰吉　らしいけど、俺興味ないもん。何が楽しくて携帯で読まなあかんの、アホな。どんどん横着になるやろ。

――でも、そういう人から見ると、「わざわざ殴り合って痛い思いして」ってたぶん思うんですよ（笑）。

辰吉　たぶんそうやろうな。興味のない人間からすると、一生懸命やってる人を見とったら、「なんで?」と思うよ。ウチがインターネットとかそういうことに興味がないから、昔の漫画読みたかったら古本屋行ったらええやんとか言う。それは向こうにすると、時間がもったいないとか、電車賃かけて買いに行くなんて損やんけって思うんやろ?

――そうでしょうね。

辰吉　でも、こっちは買いに行く道中もおもしろいわけやんか。そういう時間も大事ちゃうんかな。何かをするっちゅうことは外に出て行動せんと。

――いまトレーニングってどんな感じなんですか?

辰吉　朝走って、練習して。もう22年間同じことばっかり。22年間やで！　22年、飽きもせんとようやるわって自分で思うわ。

――22年間、毎朝走ってるんですか?

辰吉　そう、毎日。人間やから寝すごすこともあるけど、寝すごしても走る。今日なんか前の日寝れんかって、明け方寝たの。目が覚めたら昼前やって。それで2時から取材あるから思って、ダッシュで走りに行ったよ。なんで、そこまでして走んねん言われるけど、これは俺のリズムやから。起きたら走らんと。朝起きたら顔洗って歯磨くでしょ、毎朝、歯をきれいにしようと思いながら歯磨かんでしょ。それと一緒。生活のリズム。

――いま何時から何時ぐらいまで練習するんですか?

辰吉　夕方5時ぐらいから8時ぐらい、買い物して帰って9時。

――一日何時間ぐらいやるんですか?

辰吉　3～4時間。昨日は4時間やった。

――疲れてます?

辰吉　疲れたら、今日みたいに寝すごすんちゃう？　起きたら昼前とかな（笑）。

――丈さん的には、無理して現役続けてるわけでも、トレーニングしているわけでもないわけですよね。

辰吉　質問内容自体がもうおかしい。俺はなんにも無理してないの。やりたいからやってるの。たとえばお腹空いたらごはん食べたくなるでしょ、無理してごはん食べてますか？　食べたいから食べてるわけでしょ。僕もそれに近いものがある、試合がしたいんですよ。ボクシングしたいんです。朝走りたいんです、だからやってるんですよ。それだけのこと。生活の一部のことを、じゃあなんでそんなのするんですかって言われても、答えようがない。人生の半分以上こういう生活してるんで、どう表現していいかわからんようになってる。俺、まだ38歳やから。まだか？　も

うか？　世間で言うたら「まだ」なのよ。ボクシングの年齢でいうたらもう還暦入ってんねん。

――いまは海外には40歳すぎて現役続けてる選手もたくさんいますから。

辰吉　まあまあ、それはよしとして。38年間生きてきて、大阪に来てもう22年間やってる。で、5歳の頃から父ちゃんと毎日ボクシングの真似事をしとってん。ということは、33年間こんなことしてんねん。それをああだこうだって言われても、どうしたらいいのかわかんない。

――でも、今後はタイでの試合もいろんな圧力で難しくなるとも言われてますよ。

辰吉　JBCの管轄外で手続きして試合してるんやから、ほっといてくれればええのに。ほんでもう一丁言うたら、一般の人も不景気なせいもあるのかもわからんけど、暇なんよ。「なんでやらすねん？」「なんで引退にならへん？」とか、そういう反響がJCBに入ったりするんよ。もう、ほっといてくれって思うよ。俺、あんたらになんかしたわけやないやん。だからあんたらも俺になんもせんといてって。噂もせんといてって。勝手に自由に生きてんねん、一生懸命頑張ってんねん。

――善意が道を塞いでるんですね。

辰吉　だから暇なんよ。70年代、80年代はそんな暇なかったと思うよ。高度成長期まっしぐらやったからね。それだけ暇なんよ、日本は。だから他人がやることに突っ込むの。べつに変わったことしとるわけやないやん。世間が見たら「そんな歳いったら、もうボクシングやらんでもええやん」って思うても「でも、あいつやっとんねん。もうやらせとったらええやん、ええかげんやっとったら懲りるやろ」って言われるのがオチやん、普通ならば。「辰吉まだやってんの？　もう38やろ？　アホやなあ。まあ、やりたいならやったら？」で済む話やん。それをなんとかやらせないようにするっていうのは、みんな暇なんよ。

――でもボクシング界はそれが凄く気になってるんですよ。

辰吉　だから周りも、ボクシングファンも、マイナス思考から入ってるからそうなんねん。おもしろくないねん。どこでもやろう思うたらできるわけやん。俺はチャンピオンベルトがほしい。父ちゃんに言うたんよ、「ベルト獲るからな。誰もしとらんことをする」と。それぐらいのことなんよ。約束したからやらなあかんとか、そういうあれではないけど、したいねん。自信があるからやってるわけであって。できるかな、どうかなとかちょっとわからんっていう揺れてる状態やったら、もうしてないよ。したいことやって何が悪いんやって。周りがおもしろおかしく言うてるだけで。だから暇なんやな。だって忙しかったら人がどうこうしてるって話題にならへんやん。ならないでしょ？「JBC追われてあいつどないなるんやろう？」って思う時点で暇やん。忙しい人間は「あ、そうなん？　もうほっとったら？」ってなんねんって。みんな暇やねん。

――「事故があったらどうするんだ！」とか、勝手にお節介で言ってるだけで。

辰吉　事故なんてみんなつきまとうもんなんや。ボクシングせんでも事故はあんねんから。まず己の心配せいってこと。今夜「おやすみなさい」言うて心筋梗塞で亡くなったらどうすんねん。交通事故がないとも限らん。みんな「なぜ身体をイジメるねん？」とかいろいろ言いよるけど、イジメてないよ、あんたらのほうがイジメてるやん。朝もはようから仕事して、夜遅うまで上司に付き合って酒飲まされて媚売って、そっちのほうが身体に悪いよ。で、家族のためや言うて頑張っとるんやろ。それと一緒やん。

たつよし・じょういちろう■1970年5月15日、岡山県出身。父より幼少の頃からボクシングを仕込まれ、中学卒業後、プロボクサーになるべく大阪帝拳ジムに入門。89年にプロデビュー後、91年に国内最短タイ記録である8戦目でWBC世界バンタム級王座を獲得。その後、二度の返り咲きをはたす。昨年、38歳となりライセンスを剥奪されるが、国外で現役続行中。身長164.1cm。右ボクサーファイター。

編集　最後に一つ僕のほうからうかがいたいんですが、辰吉さんは、もう一回世界のベルトを巻けたら、納得して辞めるわけですか？

辰吉　チャンピオンになったらな。

編集　逆に言うと、そこまでたどり着けなかったら、ずっといまの状況が続いてしまうことになりますが……。

辰吉　たどり着くもん。信じる者は救われる。だからその質問内容の時点でマイナス思考なんよ。僕、ないんですよ、マイナス思考が。まあ、多少はありますけど。でもそれがあったうえでプラス思考で考えていかんと、人生おもろないでしょ。僕、人生はおもしろいか、おもしろくないかで考えるのは必要だと思う。「もしこうなったらどうします？　ああなったらどうします？」それはわかるよ。でもなったうえで考えたらええやろ、と。「遊びに行こうよ」「雨降ったらどうします？　つまずいたらどうします？」、なったときに考えればいいやん。それに向かうことを考えようよ、と。

――話変わるんですけど、JBCになんか言いたいことってあります？

辰吉　頑張ってって。

――ボクシングファンには？

辰吉　頑張って。

――自分自身には？

辰吉　頑張りや。それだけ。

――丈さんは自分の中で世界チャンピオンという最終目標があるじゃないですか。そこから逆算すると、最終目標が「10」として、いまは数字でどのくらいまでいってますか？

辰吉　3～4ちゃう？　1～2と言いたいところやけど、そうなってくるとあまりにも開きがあるやろ？　だからって6～7に上げてしまうと、もうちょっとやんか。だから3～4、もしくは5ぐらいでえんちゃう？　ここからやな。

――丈さんは、ボクシングを辞めようと思ったことはないんですか？

辰吉　思ったら辞めてる。悩むこと嫌いやから。「どうしようかな？　こうしようかな？」とか。自分がこうしよう、ああしようって悩むことはない。悩んでる時点でもう辞めてる。悩む時点でおかしいことやん。「俺、ごはん食べたいんかなあ」って悩まんでしょ？　食べたくなかったら、食べない。「あの女好きになった、どうしよう？」。好きになったらええやん。そういうもんやって。答えは簡単やろ？べつにそこに言葉を足す必要ないもん。したいことすればええやん。僕はそうやって生きてきたから。

【09年3月31日／大阪府守口市『白千館』にて収録】

【立嶋篤史 特別寄稿】

辰吉狩り

辰吉丈一郎のインタビューのあと、立嶋篤史にインタビュー後記をお願いした。ただのインタビュー後記ではない。立嶋は昨年10月、辰吉の復帰戦の応援をするため、タイに渡っている。タイのラジャダムナンスタジアムといえば、キックボクサーである立嶋が命を削って闘った場所でもある。また立嶋は今回の辰吉の復帰に対する報道についても疑問を持っていた。それらを含め、立嶋から見た辰吉復帰を原稿にしてもらった。

文／立嶋篤史　撮影／菊池茂夫　試合写真／シンラバ・ムエタイ　早田寛

たてしま・あつし■71年12月28日、東京都出身。中学卒業後、単身タイに渡り、帰国後16歳でキックボクサーとしてプロデビュー。高校在学中に全日本フェザー級王者となり「地上最強の高校生」と呼ばれる。長く試合から遠ざかっているが現役選手であり、田村潔司との親交でも知られる。

昨年10月26日、僕はタイで辰吉丈一郎の再起戦を観た。数年前、練習で渡タイするという報道を目にしたその時から、近いうちに試合もするのではないかという気がしていた。彼とタイはボクシングという部分で繋がっている。僕もキックボクシングでタイとは繋がりがある。彼と僕の共通点はないようで、あった。

試合当日、セコンドのうしろについて僕は花道のリング下から声を出した。声で、その歴史に尻込みしたリングサイドを埋め尽くした400人余りの日本人の咽の導火線に火をつけた。ラジャダムナンを大阪に変えるのが僕の仕事だった。ラジャダムナンに大辰吉コールが響いた。

そして試合開始のゴングが鳴った。試合は、2ラウンドKOで勝った。試合感覚を取り戻す前に終わってしまった。次戦の3月8日、その日、彼が敗れたことを僕は国際電話で知った。

3月31日、流れる見慣れない景色を新幹線の車内から眺めながら僕は大阪に向かった。その数日前、辰吉丈一郎のインタビューをしてみないかという依頼がきた。少々戸惑った。でも、了承した。いつもとは違う角度で辰吉丈一郎を覗いてみたい好奇心があった。

昼過ぎに新幹線は新大阪に到着した。幾度か電車を乗り換えて守口市駅に辿り着いた。

「寺方本通りの白千館まで」

編集者とカメラマンと一緒にタクシーに乗って場所を説明すると、

「辰吉さんとこね」

呆気なく理解してみせた運転手は愛想良く返して車を走らせた。到着して店内に入る。辰吉丈一郎の姿はない。僕らは雑談をしながら待った。

今回、すでにどこかで見たことのあるようなことは訊きたくなかった。だから、おもしろいかどうかよりも個人的に知りたいことを訊くことにした。少しして、辰吉丈一郎はやってきた。そして、僕の聞き手として初めてのインタビューが始まった。まず、肉体的な疲労について訊ねた。

今回、試合翌日から練習は再開していると彼から聞いていた。試合後の疲れが気になっていた。試合後、緊張感がなくなるから急に疲れが出て体調を崩しやすい。でも、彼は緊張感を継続させているようだった。

「寝坊したからロードワークしてから来た」

する必要のない言い訳を僕らにする。彼は緊張感だけでなくその意志も継続させていた。若干、逸れた彼の話に耳を傾けながら僕は時折口を挟む。話しながら、いまの世間の彼に対する見方について考えていた。

いつだって大衆は結果からでしかものを言わない。結果が出ても素直にそれを認めようとしない者が数多くいる。今回の一件で、普段無関心な癖にその言動やその意思に物中したいだけの大衆が彼を揶揄している。これまで幾度も困難な状況になった時もそうだった。僕は今回の敗因がJBCのいう健康状態の問題だと思っていない。調整の失敗だけだとも思っていない。

「寒いから減量が大変だった」

試合前のスポーツ新聞に掲載されていた。でも、いまのタイはとても暑い。前回、試合をした10月は涼しいくらいだった。試合後、次戦の時期が気になった。間を空けないでキャリアを積み重ねられるならそれがいい。しかし、そうなると夏にあたる。3～5月のタイは暑い。タイ人が暑いというほど暑い。寒い場所でコンディションを作った日本人が暑い場所に行っていきなり試合をする、調整は難しい。今回の渡タイから試合までの間隔も短かった。

3月8日、現地で観戦した後輩から国際電話が入った。試合内容を聞きながら僕は調整面の失敗を想像する。前回、もう少しラウンドを重ねていたらもっと動けたかもしれない。試合を観てもいないのに僕はそんなことを考えていた。

数日後、テレビの放送でその模様を観た。3ラウンドにロープを背負った際に正面から大きな左フックをもらって腰を落とした。タイ人特有のパンチだった。7ラウンド、セコンドからタオルが投入されて試合は終了した。僕には次を考えて早めにタオルを投入したように見えた。

ほぼすべてムエタイ出身者であるタイ人ボクサーのパンチは、被せて打ち落とす。僕はそれを「山なりパンチ」と呼んでいる。ストレートの軌道

辰吉丈一郎を覗いてみたい好奇心が

癖にその言動やその意思に物中した

チ」と呼んでいる。ストレートの軌道

も若干違う。真っすぐ向かってくるのだけど、一度上げてから落とす。タイミングが若干遅くつかみづらい。

昔、タイ人と対戦した日本人ボクサーの「よけたあとに来る」というような試合後のコメントを雑誌で読んだことを思い出す。勘が鋭い選手、目がいい選手ほどタイ人の縦揺れのリズムや山なりパンチが鬱陶しいに違いない。

左フックもそう、日本のボクシングは身体の軸をぶらさずに左半身をねじって打つ。この打ち方が一番早く強い。でも、タイ人は違った打ち方をする。ムエタイには蹴りがある。半身をねじって打つとその後に蹴れない。左フックを打つ際、タイ人は体を正面に開いて肩を軸に遠心力を使って、拳を寝かせてやはり軌道を上げてから落とす。早いタイミングでよけ慣れている日本のボクサーにはこのタイミングは鬱陶しい。

しかし、辰吉丈一郎だってタイ人と試合して勝っている。97年11月、20歳の天才シリモンコンを倒して3度目のタイトル奪取に成功した。シリモンコンはスマートなボクサーだった。シリモンコンへのタイトル挑戦が決まった時、世間の予想では辰吉不利だった。でも、僕は勝つことを疑わなかった。天才といわれるシリモンコンの方が噛み合う気がしていた。

けれど、実際のところ相手が暑い国のタイ人で、癖のあるパンチを打とうがそれは大した問題ではない。言い訳にもならない。試合前に少し余裕を持って渡タイし、暑い現地でスパーリングをすれば気温にもリズムにも慣れていい状態で試合もできるだろう。

いまの日本の報道はずいぶん偏っている。そのことに気づいている人はどれだけいるだろう。大衆は記事を鵜呑みにして辰吉がルールを侵してまで現役を続けているかのような印象を抱いている。報道に流されて、見苦しいと揶揄する輩もいる。でも、実際は違う。JBCは彼が行動すると新たな規則で道を塞ぐ。それに気づいている人はどれだけいるだろうか。報道は鵜呑みにするためのものではなく、一つの意見としてだけ割り切ればいい。いつだって真実がそこにあるとは限らない。流されてしまう人は、頭の中の意見と相談して本当を見てほしい。

JBCルールで「引退選手」扱いになって国内では試合ができないからタイに行く、それの何がいけないのだろうか。管轄外で試合するのは選手の自由だろう。西澤ヨシノリは41歳で、オーストラリアでライセンスを取得しWBF（JBC非公認）の世界戦を行っている。そして43歳のいまも海外で試合を行なっている。西島洋介は98年にJBCから無期限ライセンス停止処分を受けてからもアメリカで試合を続けた。年齢でいうのなら、37歳定年のルール改訂後に世界挑戦経験のある横田広明は04年に国内で、それも43歳でカムバックした（08年引退）。

西澤ヨシノリや西島洋介が試合を行なった国では現地のライセンス取得という手段があった。けれど、タイではそのような規則はない。現地のライセンスがないタイだから揚げ足を取られるのだろうか。

今後、WBCのスレイマン会長が辰吉丈一郎の健康状態を懸念して試合を組まないように動いているという。もし、それが本当ならば、世界の30半ば過ぎで試合している全選手にも同じように勧告してほしい。イベンダー・ホリフィールドは46歳なのに現役を続けている。ウィラポンも40歳で先日カムバックした。ほかにもまだたくさんいるだろう。今回、何が本当かわからない報道を多く目にした。JBCの権限が届かない場所に行ってしまったからWBCに頼んだというのが本当のところかもしれない。しかしなぜ、辰吉丈一郎にだけそのような仕打ちをするのかが釈然としない。

JBCが建前にしている健康状態の懸念、この曖昧な憶測に大衆は疑問を抱かない。何を根拠にそのような憶測で彼からボクサーとしての存在を奪おうとするのかわからない。健康状態の懸念といっても、昨年10月、試合前に辰吉サイドはタイのプローモーターに事前に診断書を提出したという。でも、そこは報道しない。ここまでくると目の敵にしているとしか思えない。今回の一件は辰吉狩りといってもいいだろう。

これまで、分裂の多いキックボクシング界から見てボクシング界が羨ましかった。僕はキックボクシング界がボクシング界のようになれば、そう思いながら頑張ってきた。だから、今回の辰吉狩りは残念極まりない。報道によれば今後、WBAにも働き掛けるという。94年に彼が網膜剥離になった際、ルールを変えて特例にしてまでその存在に〝頼った〟JBCは手の平を返して、目の敵にして自国が生んだ一人のスーパースターの存在を消そうとしている。

インタビューでの彼は相変わらず饒舌だった。会話の脱線も忘れない。僕は聞きながら彼の目の奥を見る。危機感の中に、だけど余裕のようなものが感じられた。インタビューを終えて、一緒に彼の練習するジムで練習をした。

辰吉丈一郎だけでなく、ボクサーなら誰しも身体に多からず少なからずダメージを負って、それをごまかして続けている。どのボクサーにも問題がない以上続ける権利はあるのと同様に、辰吉丈一郎にも続ける権利がある。彼の職業を奪う権利は誰にもない。曖昧な憶測を理由に道を閉ざしても本人はもちろん、ファンだって納得がいかない。

いかなる圧力をかけようと、辰吉丈一郎にとどめを刺せるのは辰吉丈一郎しかいない。

インタビュー後、現在の辰吉の練習場である「TSDカリ」でともに練習した立嶋。彼もまた辰吉と同じく現役にこだわり続けている。

甦った野性

死と再生
引退と復活

「ライト級2位に負けてたらウェルター級自体が必要なくなってたよ」

なめくさりやがって！ DREAMウェルター級GP1回戦。
マッハは青木真也が発した「普通にやれば僕が普通に優勝できる」というコメントに激怒。
異常な情念を持って試合に向かい、試合で怒りを爆発させ、見事に27秒で青木をKOした。
ついに目覚めた眠れる野生児が、試合翌日、興奮冷めやらぬまま青木戦を語ってくれた。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

――青木戦勝利から一夜明けて、興奮と怒りっていうのは収まりました？

マッハ　いや、怒りっていうのはもう全然です。興奮はしてます。試合は最高に楽しかったです。

――試合前に怒りも伴なって、最高のものができた感じはありますか？

マッハ　そうですね、「最高です！」って感じですね。

――試合後にこういう気持ちになるってひさしぶりですか？

マッハ　いつもKOで勝ったりとかもしてるんですけど、今回は〝マッハ〟の由来である「秒殺」ってことで。しかも相手が青木真也ですからね。野生のカリスマらしい試合ができて、やっぱり「最高です！」って感じです。

――野生のカリスマの〝野性〟がひさしぶりに解放されたような。

マッハ　そうですね。その導火線に火をつけたのも彼だったんですけどね。

――ここしばらく、野性味が薄れていたなっていう感じはありました？

マッハ　試合が始まっちゃうと本能だから熱くなるけど、調整してる中ではそう思ってたときもあったかな。

――で、今回は試合前から野性まる出しというか（笑）。

マッハ　今回もね、試合の15日前ぐらいに決まったんで、最初はちょっとしかなかったんですけどね。彼があぁだこうだ言いだしてきたんでね。火がついちゃいましたよ。一番頭にきたのは記者会見のとき。彼がしゃべってるの聞きながら、天井見ちゃいましたもん。「はぁ？」って感じで。

――そこでスイッチ入りましたか。

マッハ　だって「普通にやれば普通に優勝できるんじゃないですか」とか言ってるん

”マッハ”速人

4.5 DREAMウェルター級GP
1回戦で青木真也を秒殺KO！
“野性のカリスマ”が怒りの完全復活!!

桜井“マッ

できるんじゃないですか」とか言ってるん

マハ”速人

こっちは向こうを認めてて向こうはナメてるんだから、よけい腹が立った

で、「じゃあ、いまやる?」って感じになりましたね。だけど、それやっちゃうと格闘技じゃなくなっちゃうんで。やっぱり試合で証明するしかないって思って。

——それは格闘家としてはもちろん、男として後輩、年下の人間にナメられたと思ったことが一番ですか?

マッハ　実際、ナメてるでしょ。彼「ナメてますもん」って言いましたから。完全にナメてますよ。おまえライト級だろって。ライト級で優勝できなかったヤツが普通に優勝できるなら、チャンピオンはもっと上ってことですからね。そしたら俺らはなんなんだって! 下の下でしょ。だったらこんな階級ないほうがいいでしょ。

——ライト級2位に優勝される階級なら。

マッハ　下の階級でも(オスカー・)デ・ラ・ホーヤが6階級制覇とか、そういう人間が言うならまだわかるんですよ。それがライト級で優勝できなかったヤツに「普通に勝てる」って言われたら、そりゃ誰だって頭にくるじゃん。俺、彼が負けたヨアキム・ハンセンに勝ってるからね。

——それでなぜ「普通に勝てる」と言えるのか、という。

マッハ　それで意味わかんなくて、上向いて考えちゃったんですよ。もう終わったことだからいいですけど。

——やる前は、青木選手がいままでやってきたこと、彼の実力っていうのは認めてたわけですよね。

マッハ　もちろん。青木選手は頑張ってるな、凄いなって思うんですよ。でも、こっちは向こうを認めてて、向こうはこっちをナメてるわけだから、よけい頭にくるよね。いまは何もないけどね。

——自分がこれまでやってきたことを否定されたというか。

マッハ　俺的には76キロ、ウェルター級で格闘技界を引っぱってきたというか、トップで闘い続けてきた自負があるんですよ。世界のトップといわれてる人間にKOで勝ってるんで。それで彼は「ここ2年間、世界のトップと闘ってる」って言ってましたけど、それは下の階級の話ですから。ウエルター級のトップに勝ったことあるのかって思うからね。

——青木選手が闘った76キロ級の世界のトップクラスというと、数年前に修斗でやった桜井"マッハ"速人ぐらいですかね。

マッハ　でしょ? あれだって、俺がずっと『武士道』でやってる中で、修斗のルールに合わせて闘ってるんだから。PRIDEと修斗は全然ルールが違うんですよ。修斗は踏みつけもサッカーボールキックも、グラウンドのヒザもダメ。結局、グラップリングルールに近いんですよ。だから、前回彼とやったときも踏みつけありだったら、KOしてますよ。「普通に」KOしてますね。

——「普通に」にこだわりますね(笑)。

マッハ　どうしてもあの言葉に引っかかっちゃうんだよね(笑)。でもさ、昨日の展開だってね、修斗のルールだったら、あそこでヒザは出せないから。修斗だったら負けてたかもしれない。まぁ、昨日の俺だったらグラウンドでも勝ってたかもしれないけどさ(笑)。でも、総合なんだからホントはなんでもありにしたらいいんですよ、ヒジも踏みつけも。それがホントのMMAだと思うんですよね。

——今回の試合って、マッハさんにとってリスクが高かったと思うんですよ。後輩でしかも一階級下の選手にもし負けたときを考えたら……。

マッハ　ホントですよ。だから青木より俺のほうが緊張してたと思いますよ。プレッシャーかかってたし。向こうはライト級っていう帰る場所があるけど、こっちは負けたらシャレになんないから。ライト級で2位か3位のヤツに負けたら、俺だけじゃなく、ウェルター級って必要ねえだろってなりますからね。彼もね「ライト級で失敗しちゃったんで、自分を追い込むために、血の汗を流す気持ちでウェルター級のチャンピオン目指して頑張ります」って言うんならね、「そうか」って思いますよ。それを「普通に勝てますよ」みたいなこと言ってるから「じゃあ、おまえ俺とやるか?」ってことですよ。

——やっぱりそこに戻りますか(笑)。

マッハ　あの「普通に勝てます」って言葉を思い出すだけで頭にきちゃうんだよね(笑)。

——でも「もうなんとも思ってない」って言ってたじゃないですか(笑)。

マッハ　いや、試合前のこと聞くから、そんときの気持ち思い出しちゃってさ(笑)。

——では、マッハさんにとって、ある種、覚悟を決めた一戦でしたか?

[4.5 DREAM.8]
名古屋・日本ガイシホール
○桜井"マッハ"速人 vs 青木真也×
(1R 0分27秒、KO)

試合前の舌戦からケンカムードが漂う一戦は、ゴングと同時にマッハが殴りかかると、青木はそれに合わせてテイクダウン。しかし、マッハはポジションを取り返すと、青木の顔面にヒザ蹴りを連発。さらにパウンドの連打で衝撃の27秒KO勝ちを奪った。

マッハ　言うなれば覚悟ですね。彼が強
いのは認めてるんですよ。だけど、「青木
すよ。
——PRIDEに来てから、なかなか結果
いところは取っておいて、悪いところは改
善してるんだから。
手権になりますからね。
マッハ　ね、ホントだよ。世界選手権にで

桜井“マッハ

ナメてるんだから、よけい腹が立った

マッハ　下の階級でも（オスカー・）デ・ラ・

マッハ　言うなれば覚悟ですね。彼が強いのは認めてるんですよ。だけど、「青木真也とやってくれ」って言われれば、首を横に振る理由はないですね。

——逃げるわけにいかない。

マッハ　逃げるわけねえじゃん！　自分が歩んできた道や、自分を信じてますから。絶対に負けないって。お客さんも俺の気持ちがわかってくれたと思うよ。だって、泣いてるお客さんいっぱいいたよ。格闘技でお客さんを泣かせるっていうのは、なかなかないよね。

——そうですね。

マッハ　そうでしょ？　お客さんを喜ばせるヤツはいますよ。でも、泣かせるっていうのは、感情の上がり方が数段上だから。歌でも話でも、人を泣かせるっていうのは大変なんですよ。それをね格闘技で殴り合いやってね、人を泣かせるっていうのは俺だけじゃねえかなって。俺が長いことやってたからっていうのもあるだろうけどね。だから、もし俺が負けててもお客さんは泣いてただろうな（笑）。

——その観客に感動を与えることも含めて、今回は「マッハ完全復活」という印象が強いんですけど、マッハさんご自身はどう感じてますか？

マッハ　自分の中ではずっと復活してるつもりなんですけどね。

——確かに戦績が落ちていたわけじゃないんですけど、マッハさんらしい爆発力というか、マッハさんの言うところの人間力が、これだけ客席に伝わったのはひさしぶりだなって思うんですよ。

マッハ　感じました？　俺の人間力はまだまだ終わってないですよ。これからですよ。

っちは向こうを認めてて、向こうはこっち

——PRIDEに来てから、なかなか結果が出ないときって、「これ以上は無理なんじゃないか」思ったことってありました？

マッハ　ありますよ。ライト級のトーナメントで（五味隆典に）負けちゃったときとか。やっぱりメディアは若くて新しい人間をポンポン取りあげるんで、自分はどこまでできるのか、その中で自分をどう表現するかっていうのは考えましたよ。

——図らずも表現する機会がきた、と。

マッハ　はい、最高ですね。昨日はホント最高でした。最高です！　火をつけてもらえて感謝してますよ。

——「普通に勝てる」って言ってくれてありがとう（笑）。

マッハ　だから思い出しちゃうから！（笑）。でも、そう考えるとありがたかったのかな。

——マッハさんは数年前の自分より、いまの自分のほうが強いって思ってますか？

マッハ　いつも思ってますよ。じゃないと、やってらんないですよ。進化しなきゃしょうがないでしょ。まあ、古いスタイルだって言われましたけど、それを磨き続ければ常に新しいスタイルなんですよ。いいところは取っておいて、悪いところは改善してるんだから。

——先ほど、一夜明け会見では「大黒柱になる」と宣言してましたよね？

マッハ　いや大黒柱になるじゃなくて、「真の」大黒柱ですよ。

——「真の」が必要ですか。

マッハ　はい。そのためにはベルトが必要でしょ。プロボクシングでもなんでもそうでしょ。世界チャンピオンとランキング1位じゃ、天と地ほど違うんだから。

——トップに立たなきゃ大黒柱とは言えない、と。

マッハ　でもね、青木選手も含めてライト級で優勝できなかったヤツらも、みんな強いし頑張ってるんだよ。だからさ、さっきの会見では「真の大黒柱」とか言ったけど、大黒柱って表現はやめたほうがいいね。なんか違う言い方がいい。

——原動力とかエンジンとか。

マッハ　そうそうそう、それがいいですね。俺もいろいろ言ったけどさ、青木選手のことはみんなが認めてるんだから。DREAMも大黒柱一本に頼るんじゃなしに、日本人みんなが頑張んなきゃしょうがないんだから。

——マッハさんと同じ階級の日本人というと、郷野（聡寛）選手や長南（亮）選手がいますけど、将来的には彼らもこの闘いに加わる可能性もありますよね。

マッハ　郷野さんは友だちだし、長南とも友だちだから、やりたくはないけど、もし彼らが来たらまた「全日本選手権」やりますよ。俺、全日本選手権ばっかりじゃん（笑）。もういいかげん、卒業させてくれよって感じもありますけどね。

——でも、マッハさんがDREAMのチャンピオンになれば、全日本選手権が世界選手権になりますからね。

マッハ　ね、ホントだよ。世界選手権にできるように、俺がやるしかねえな。だいたい俺ほど〝全日本選手権〟に出てるヤツいる？　毎回リスク背負ってるよ。10回に1回ぐらいはさ、なんかの間違いで負けちゃうこともあるからね。

——しかも、マッハさん、この階級では身体が小さいほうですからね。

マッハ　もう駆け引きだけだよ。肉を斬らせて骨を断ってね。つらいけど日本人で残ってるの俺だけだからな。やるしかないな。また「最高でーす！」って言えるように頑張るよ。

——では、ウェルター級GP、「普通に」優勝することを期待してますよ（笑）。

マッハ　だから、また思い出しちゃうじゃん！（笑）。

【09年4月6日／名古屋市『公武堂』にて収録】

さくらい・まっは・はやと■1975年8月24日、茨城県出身。96年修斗でプロデビュー。98年に中尾受太郎を破り第4代修斗世界ミドル級王者となる。03年からPRIDE参戦し、05年のPRIDEライト級GPでは準優勝。昨年3月からはDREAMウェルター級のエースとして活躍中。171cm、76kg。

桜井〝マッハ〟速人が選ぶ 心に残る引退エピソード

90年代に世界の強豪と闘った吉鷹弘選手を思い出しますね

俺はシュートボクシング出身だから、引退で思い浮かぶのは、やっぱり吉鷹弘ですかね。あと引退した選手って誰います？　K―1 MAXがない時代に一人で世界の強豪と闘って勝ってますからね。で、最後はラモン・デッカーでしょ。やっぱりパッと思い浮かべると吉鷹さんかな。中井（祐樹）さんも印象深いけど、中井さんは柔術で現役続けてますからね。まあ、引退するって宣言して辞められる人は幸せですよ。人知れずカードが組まれなくなって辞める人がほとんどでしょう。俺はどうなるんだろうな（笑）。

『魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男』
著者・田中太陽が描く青木真也の死と再生──!!

青木真也異端論

「ここ一年、僕は最先端を歩いてきたけど、マッハさんはそうじゃない。やってきた相手に差がありますから。その差は出ると思いますね」

「普通に考えて、一歩先のMMAを見せたらすぐに終わると思います。ハッキリ言って、(マッハは)一昔前だと思うんだよなぁ……」

長年にわたって日本のMMA界を支え続けてきた存在であり、最も尊敬される現役選手であるところの桜井〝マッハ〟速人に対し、青木真也はまるで遠慮のない挑発をぶつけてみせた。ポッと出の若造が、業界の大先達に向かって唾を吐きかけたのだ。

これが試合に何をもたらしたか?

言うまでもなくスリリングな盛り上がりと、勝敗にまつわるリスクである。階級を越えて実現した青木とマッハの闘いは、それだけでも日本MMA界のドリームマッチと呼ばれるべきものであったが、青木の言動はそこからスポーツライクな意義をごっそり消し去ってしまった。この試合は、たとえばヨアキム・ハンセンとエディ・アルバレスが行なったような「勝者も敗者もたたえられるべき名勝負」にはなりえない。ただお互いにとって負けられないというだけの、ハイリスク・ローリターンな〝決戦〟と化したのだ。

しかし観る側にしてみれば、このような緊迫感は大歓迎である。4月5日。多くのファンが固唾を飲んで見守る中、二人の試合は『DREAM・8ウェルター級グランプリ2009開幕戦』のメインイベントとして行なわれた。が、そこに現われた光景は、誰もが想像だにしないものだった。1ラウンドわずか27秒、マッハの強烈なグラウンド打撃をまともに受けた青木は、秒殺KO負けを喫してしまったのである。

もちろん青木にとって〝軽い敗北〟など存在しないが、それにしても今回はとくに傷が深かったように思われる。自ら上げたハードルであるがゆえに、このような結果になった場合の「青木ざまあみろ」的なバッシングは本人も覚悟の上であったかもしれない(実際、ウェブ上ではそのような声もあがっている)。だが青木がこうむったダメージの本質は、そうしたシンプルな因果応報論とは別にある。

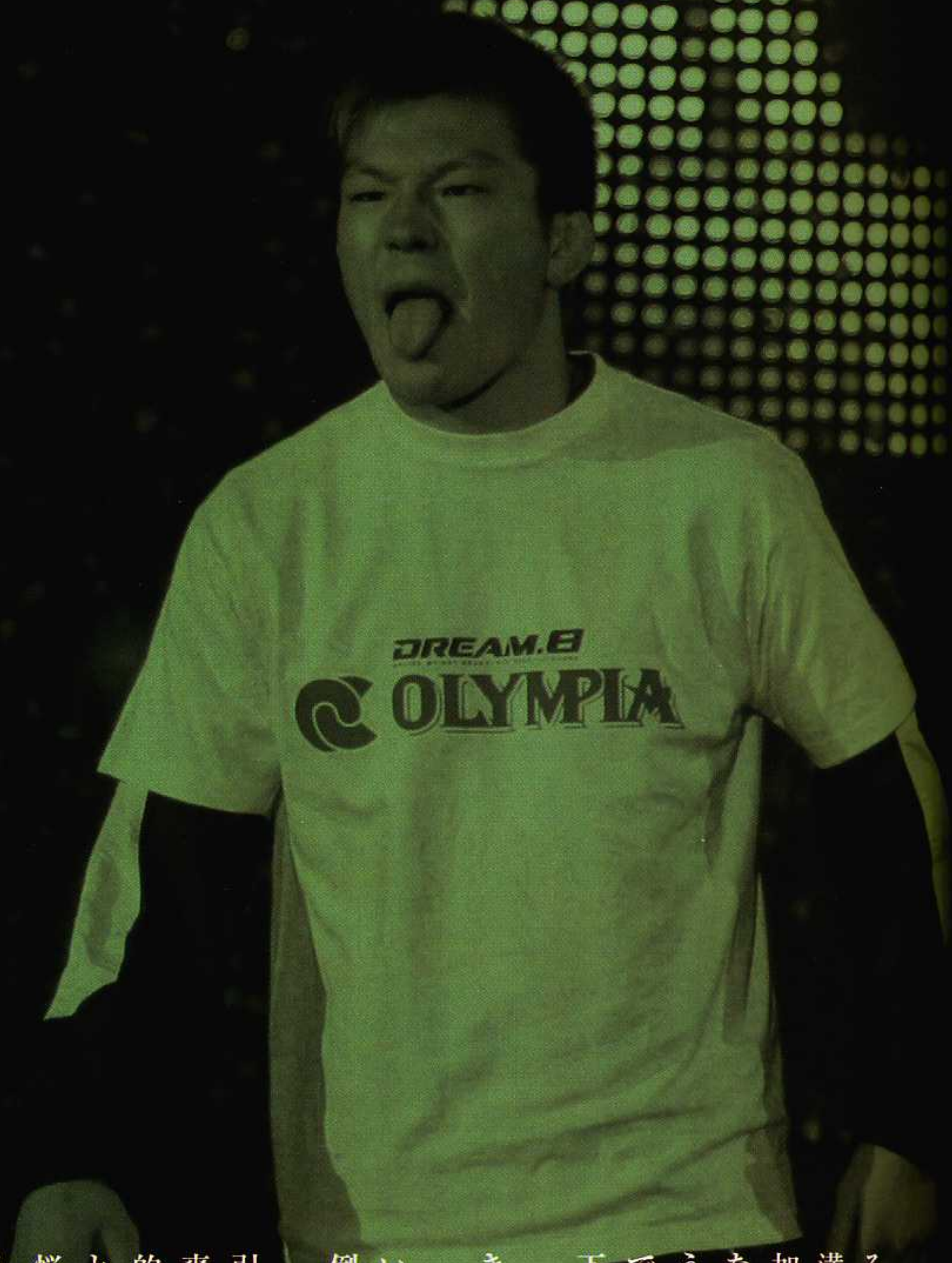
青木が今回、あえての〝憎まれ役〟を買って出たことは明白である。

ドリームマッチをより熱いものにするため、また自らの特異なキャラクターをアピールするため、多くの人間に尊敬されているマッハを「一昔前の人」扱いするという暴挙に出た。マッハも剛の者であり実直な格闘技者であるがゆえに、若造の舐めきった言動に対して本気で怒りをあらわにした。

ここまでは青木の思惑どおりであっただろう。しかしながら試合結果がついてこなかったため、一連の流れはすべて〝マッハを主役としたドラマ〟として、ものの見事に成立してしまった。そしてこのドラマの完成度は、いままで全力でDREAMに貢献してきた〝大黒柱〟青木真也の功績を、すっかり吹き飛ばしてしまいかねないほどに高かったのである。

出色の煽り映像から入場、試合にいた

るまで、マッハの面構えは怒りと気迫に

い〝スター選手〟が青木真也なのだ。

イベントとして行なわれた。が、そこに出色の煽り映像から入場、試合にいたるまで、マッハの面構えは怒りと気迫に満ちた魅力あふれるものだった。それに加えてあの豪快な勝ちっぷりと、生意気な若造を叩きのめすベテランの構図。こうしたマッハの雄姿はどうやら、これまで青木を評価してきたファンの溜飲すら下げてしまったようなのだ。

「気持ちが晴れ晴れしてくるのが否定できない」

「よし、俺も明日から、ションベンくさい若手なんか、首根っこ押さえつけて圧倒してやろう」

上記はとある個人MMAブログからの引用だが、青木の敗北（マッハの勝利）に爽快感を覚えてしまった人々の心理を端的に表わしているといえるだろう。青木とマッハの対立図式に、生意気な若者に悩まされる日常を重ねてしまったファンも多かったのだ。このことを青木は想定できていただろうか。

そもそも出場する義務のないウェルター級グランプリに「DREAMを盛り上げたい」という一心で名乗りを挙げ、その結果としてこのような傷を負ってしまうのだから、青木というのはつくづく損な男である。〝大黒柱〟などともてはやされていはいるが、本質的には〝人柱〟に近いものがあるだろう。

しかしながら青木の言動と、それによってもたらされた結果とのあいだには、少なからず因果応報的な部分があることも事実である。それゆえ単純に「悲劇の人」「報われない男」として感情移入することすら難しいという、最大公約数的なMMAファンにとっては非常に扱いづらい〝スター選手〟が青木真也なのだ。

言うまでもなく青木の言動や性格は並のファイターの常識を超えており、はっきりと〝異端〟に属するタイプの人物である。それはそれで傑物であることもまた確かなのだが、そうした青木自身の特異なキャラクターと、自団体、ひいては日本のMMA界をしょって立つヒーローとしての立ち位置はもともと噛み合わぬものであった。

だからこそ団体の看板選手が秒殺KOされたとき、ファンが爽快感を覚えるというような異常事態が発生しているのである。この一敗は正統派MMAスター、DREAM軽量級のエース青木真也にとっては確実に致命傷であったが、観る側はこれを機に青木を希代のトリックスター、すなわちMMA界の〝異端児〟としてあらためて捉え直すこともできる。彼一流の奇抜なファイトスタイルと言動もまた、そうした王道的活躍の方向へは向かっていないようだ。

青木のスター性を否定したいわけでは決してない。ただ彼の本質は〝異端〟にこそあり、そこに着目することで新たな青木真也像が見えてくるのではないかという身勝手な期待なのだ。悲運と献身にまみれた〝大黒柱〟あらため〝人柱〟として、感傷的に青木を支持する意味ももはや薄まりつつある。

今回の敗北を転機とし、青木自身が〝異端〟の方向へと振りきれてくれること、またそのような支持のされ方をこそ、筆者個人としては望みたい。

（田中太陽）

たんだ。
「これでお客さんを引きつけたわけだから、結

んだよ？　桜庭さんには「俺になりたければ、
俺の部屋に来い！」って連れてかれそうになっ

中井先生は昨日も「青木の負けが悔しい！」っ
て言ってたっけ。

独白　青木真也

「オープニングでも泣いちゃったな。中井先生の映像を観て、叫ばずにいられなかった」

試合のこと

今日はどんな感じでいきます？　落ち込んだ姿のほうがいいですか？　ええと、今回は『格闘技通信』も『ゴング格闘技』の取材も受けますよ。え、普通はこんな負け方をしたら取材は受けないって？　そういうもんスか。とりあえずコーヒーいただきますね。うん、うまいね、このコーヒー。

全然関係ないですけど、さっきまでニコニコ動画で髙田（延彦）さんが『すぽると！』に出演してる動画と、長渕剛さんがドラマの『しゃぼん玉』の中で説教してるシーンを観てたんです。どっちもおもしろかったですねぇ。「この意味わかります？」（髙田延彦調）。長渕さんはね、最後に「メシ食い行くか？」って言うんです。あの感じがボクの理想なんですよ。

……え？　意味がわからないうえに、そんな話はいいからマッハ戦の話をしろって。うん、じゃあ、ニコニコ動画で試合を一緒に振り返りましょうよ。凄いんですよ、ボクのことをバカにするコメントが！　ほらほら、悪口で画面が埋めつくされてるっ！　クククククク、ああ、ムカつく！　けど、おもしろい。俺のことでこんなに騒いでくれるなんて。

（マッハにKOされるシーンになって）あ～ぁ、やられた、やられた！　ぶっ殺された!!　俺も「マッハの野郎、ぶっ殺してやる！」と思ったんだけどねぇ。逆にや～られちゃった。

う～ん………。やっぱり負けたことは死ぬほど悔しいねぇ。やっぱスゲエ悔しいよ。なんかさ、いろんな人から「盛り上げたね！」とかフォローされるんだけど、〝負けた〟っていう事実は受け入れがたい………。でも、この負けは必ず良い負けにしてみせるけどね。

（川尻達也が喜ぶシーンが映ると）ああ、この人もいつか倒しますから。押忍！　マッハさんを挑発しすぎたって？　でも、それくらいのリスクは背負わないと盛り上がらないし、商品にはならなくない？　ただスポーツライクに試合をしたって、誰も目を向けてはくれなくないですか。男はリスクを背負ってナンボだし、これで終わりだとも思ってないですよ。

これはすべての人に対して言えることなんだけど、俺はなれ合いで格闘技をやってないから。確かに、この業界の先輩に対して「こんちは！」っていう挨拶は必要だけれど、それ以上にヘコヘコする必要はないでしょ。媚を売る必要ない。なれ合いじゃないし。北岡（悟）さんにしても、仲いいし面倒見てくれる仲間だけど、世間でよくありがちなトモダチじゃない。だから「北岡さんに勝ってほしい!!」っていう気持ちと同じぐらい「北岡さん、負ければいいのに！」って思ってるもん。

だからねぇ、KIDさんの発言も、青木真也のことを気にしてるんだなって感じですね。「キモくて強いよりも、カッコよくて強いほうがいい」んでしょ。あ、なんだ、強いことを認めてくれるんだ。嬉しいなあ。つーか、俺ってキモいの？　俺は自分のことカッコイイと思ってるんだけどなあ。あれ、なんで返事してくれないんですか？

桜庭さんのこと

正直言うと、試合の翌日、さすがにまいってたんだよねぇ……。もう名古屋にいたくなくて、朝6時にホテルの部屋を出て東京に帰ろうとしたら、ロビーにへんな酔っぱらいが騒いでるんだわ。朝っぱらから迷惑なヤツだなあと思ったら桜庭（和志）さん（笑）。アンドリュース・ナカハラを引きずり回してるんだよね。で、俺に気づいて「俺の部屋に来い！」ってタックルしてくるの。そして、俺にこんなことを言ってくれ

あ、ムカつく！　けど、おもしろい。俺のこと

たんだ。

「これでお客さんを引きつけたわけだから、結果は凄い悔しいけど、いい仕事はできたし。この次が大事だよ。ここでクシャッとなっちゃダメ。この次、もう一歩踏み出さないとダメだ。絶対にみんな見てるから」

ワオ木的に解釈すると「ここであえて勃起してろっ!!」ってことだよね。え？　違う？　いいんだよ、それで。

断っておくけど、いつも「DREAMのために」とは言ってるけど、厳密に言えばDREAMのためだけに勃起したことは一度もないよ。もっと言えば、他人のために勃起したことも一回もないね。要するにさ、すべて自分のためなんですよ。100パーセント青木真也のため。

DREAMが好きで、その大好きなDREAMのファンに喜んでほしくて、大好きな主催者やスタッフに喜んでほしいからやるわけであって。無理してるとか、かわいそうな目で見てほしくないよね。哀れんだ目で見んじゃねぇよ、ふざけんなよコノヤローって。

青木真也は青木真也の好きなようにやってるんだ！

今回、ウェルター級に挑戦したことだって、青木真也の生き方をしてるだけ。だって、これでメシを食ってるプロだし、こっちがDREAMをうまく使ってる部分もあるんだから。もっと言えば、DREAMがいまの10倍くらいになって、ファイトマネーも10倍ぐらいになったらいいなと思ってるもん。だから全部自分のため。俺は格闘技で食っていきたいの。きれいごとを言いながら食えないのはイヤだもん。そういう時代はもう終わりだよ。

最近、思うんだけど、青木真也は青木真也の生き方しかできないって。何を言われようが、ほかの誰にもなれないし、なりたくない。だって桜庭さんは桜庭和志で生きてるわけでしょ。早朝のロビーで酔っぱらって受け身を取ってる

なれ合いじゃないし。北岡（悟）さんにしても、

んだよ？　桜庭さんには「俺になりたければ、俺の部屋に来い！」って連れてかれそうになったんだけど、青木真也は青木真也の生き方しかできないから逃げたよね。……酔っぱらいが面倒だったこともあるんだけど（笑）。

それは小林聡選手なんかもそうだよね。小林聡の生き方しかできない。KIDさんの発言も、あれが彼のプロとしての生き方なんでしょ。だから俺も堂々と「関係ねえよ！」って言ってやります。KIDさんはイマナー（今成正和）がやっつけてくれると思うしね。

だから、俺も青木真也の生き方がしたい。試合後、かあちゃんに怒られたけど、「泣くんじゃない！　アンタが泣いたら、周りの人も悲しくなるでしょ」って。でもさ、「泣くんじゃない」って言ってもしょうがないじゃん、泣いちゃうんだもん。それが俺の生き方なんだよ。いいじゃん、べつに泣いたって。俺は泣いて強くなりますよ。

中井先生のこと

そうそう、オープニングでも泣いちゃったな……。叫ばすにいられなかった。だって、オープニングで中井（祐樹）先生が試合で失明したときの話が出てたでしょ。なんか、失明の件がここまで大きく扱われたのって、初めてだったでしょ。

中井先生が失明したのは24歳のとき。いまの俺より若い歳で引退したんだから、それを考えたら俺が負けたことなんてたいしたことじゃない。もっと言えば、あのとき中井先生が格闘技界のためにその件を隠して、指導者として格闘技を続けたから俺らが食えてる。

俺はあの煽りVをそういうメッセージだと受け取った。

先人たちが作ってきたもので俺らが食えてるんだから、感謝して頑張ろうって。そういえば

くるの。そして、俺にこんなことを言ってくれ

中井先生は昨日も「青木の負けが悔しい！」って言ってたっけ。

中井先生はさ、PRIDEとかDREAMの会場に来るたびに「俺もやりてえなあ！」とか興奮して言ってるんだよね。アンタ無理でしょ！　でも、その気持ちは痛いほどよくわかるよね。うん。そういう中井先生の姿を見るたびに、俺は闘えるだけで幸せだなって思う。

俺、試合ができるだけでいい。お金とかもそうなんだけど、財布を握られていていい人なの。嫁さんがいたなら嫁さんが全部握って「じゃあアンタ、今月のお小遣い1万5000円ね！」っていう感じで全然オッケーなんです。イマナとの練習以外はなんもいらない。

実際、月に4～5万で生活してるからね。ほぼ自炊だから朝晩の食費も2～3万で済んでる。服も興味はないし、ほしいものはないなあ。たとえば食事するにしてもDEEPジム近くの大久保界隈で済ませるし、家とジムと大久保さえあればいいかなあ。

いまはとにかく試合がしたい。試合がしたい。だって寂しいんだもん。最近やっとそれがわかった。寂しいから練習したい。寂しいから、試合したいの。これまた青木の人生論なんだけど、人生って基本的にずっと闘ってるわけだよね。で、一日は24時間しかない。そのなかで練習する時間と試合する時間をしっかり取ってるから、それがあるから生きてる。

俺って変わってるかな？　変わってないと思うんだけどな。試合があればいい。今度は負けたくないなあ。勝ちたい。試合ができれば、ほかは何もいらない。5月も出たいなあ。そして勝ちたい。それしか考えていない。

あ、もう帰ります？　そういえば、こないだの『kamipro』に出てたKGってかわいくない？　KG、かわいいよね！　うん。会いたいなあ。気になるなあ、KG……。

【09年4月8日／DEEPジムにて収録】

P1回戦を"決闘"に昇華させた青木は、完敗だったけど「あっぱれ」だよ。

斉藤　その世代からすると腹が立ちやすいキャラというか。年下で生意

してくれるから」って感じで。

ガンツ　予想じゃなくて、大きくな

斉藤　周囲の目を気にしないくらいだから「青木を嫌い」な人の気持ちもわかるんですよ。

総合格闘技版"世代闘争"勃発か?

青木真也"エイリアン世代"座談会

青木の挑発でヒリヒリした一戦となった青木vsマッハ戦。KIDの「キモくて強いよりも、カッコよくて強いほうがいい」発言で逆説的に浮き彫りになった青木の異様な存在感。いまこそ青木というエイリアンの正体を考える緊急座談会!!

大会撮影／乾晋也　青木&北岡撮影／梅木麗子

——さて、今日は『DREAM・8』に関する青木真也座談会です。会場で取材した堀江ガンツと、青木真也の担当なのに現場に行ってないジャン斉藤に語っていただきます。

斉藤　PPVで観たんですが、メチャクチャおもしろかったですね……髙阪剛と須藤元気とKIDの解説がとくに。

ガンツ　あ、そうなの⁉　俺は客席で観てたからわからんけど。

——会場では地味に思える試合でも、3人のおかげでおもしろく観れて(笑)。

斉藤　以前も書いたんですけど、髙田(延彦)統括本部長や谷川(貞治)さんのように観たままの驚きをそのまま伝える"ビックリ解説"は絶対に必要で、DREAMでは須藤元気がその"ビックリ解説"の担当なんですね。TKが冷静に説明して元気が大騒ぎするという。そして何を言い出すかわからないKIDが緊張感を生み出している、と。

ガンツ　へえ、KIDは謹慎処分にならない北野誠的な立場なんだ(笑)。

斉藤　元気の"ビックリ解説"に一つだけ欠けているとすれば、本部長の「鳥肌立った!」や谷川さんの「んあ～!」的なキメゼリフなんですよ。そう考えると『戦極』解説陣も"ビックリ解説者"を投入したほうが郷野聡寛がより際立つはずなんです。そこで推薦したいのは菊田早苗のネガティブ解説なんですよ。「殴られると痛いんですよね～」とか「疲れるんですよね～」とか、菊田は"ビックリ解説者"の変異系というか……。

——(さえぎって)あの～、解説論はともかく『DREAM・8』を(笑)。

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌編集長。"雀鬼"こと桜井章一の内弟子を経て、『kamipro』入り。アントンの怪しげな事業の調査をライフワークとする一方、本誌初登場時からの青木真也番としても知られる。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファンでありUWF研究家を自称。最近はUFCにハマり、一部で「北米」呼ばわりされるほどアメリカかぶれ気味。変態座談会の主宰者でもある。

[司会]真下義之
本誌編集部。某世界的有名アーティストの内弟子を経て、『kamipro』入り。新日本プロレスや『マッスル』などプロレス系や菊地成孔氏など知識人系の取材などをおもに担当。

ガンツ　会場でも「今回はけっこういいんじゃない?」と思ってたけど、PPV組はさらに評判いいみたいね。あまり期待してなかったのも大きいと思うけど(笑)。だいたいウェルター級GPなんか直前まで出場選手から決まらなかったじゃない?

——もう「青木とマッハの王座決定戦でいいよ!」って感じで。ウェルター級GP自体も青木が参戦してやっと企画になった感じでしたし。

ガンツ　「いい大会だった」って感想が多いのは、終わりよければすべてよしじゃないけど、やっぱり青木vsマッハにつきるよね。事前の舌戦が最高の効果を発揮して、GKふうに言うと「感情のガチ」が見えたし。

斉藤　やっぱり格闘技も「感情的を揺さぶる試合が一番おもしろい」と再認識させられましたね。

ガンツ　青木がマッハを煽ったことで、競技とはまったく違う"決闘"になったよね。結局、俺たちは男と男のプライドを懸けた闘いが観たいってことでしょ。だから、ウェルター級Gの侵略者的に感じてしまうというか。

——その異様な存在感は、KIDが解説で言った「キモくて強いより、強

P1回戦を〝決闘〟に昇華させた青木は、完敗だったけど「あっぱれ」だよ。

斉藤 これまでDREAMでは〝好勝負〟や〝名勝負〟はあったけど、ここまで〝決闘感〟のある試合はなかったですね。宇野(薫)vs石田(光洋)も〝決闘〟でしたけど、宇野vs川尻(達也)の導線にならなかったからいまだにモヤモヤしていますし。

ガンツ 互いの主張がブツかって、自分という存在を賭場に賭けてズバッと勝負する……そりゃあおもしろいよ! だって、今回負けてたらマッハは終わってた可能性あるよ。リスペクトはされ続けるだろうけど、少なくとも「過去の人」扱いにはなってた。だからこそ燃えたんだろうし、翌日インタビューしたときも、まだ燃えてたからね(笑)。「青木選手にはもう何もないです」とか言いながら、話しているうちに「あのヤロー」となってきたり(笑)。

斉藤 しかし、あれだけビックマウスだったこともあって青木真也の負けっぷりは、ホントに痛快ですねぇ。

ガンツ これはねぇ。30代後半から40代前半の〝変態世代〟の気持ちを勝手に代弁すると、いままでみんな青木の強さや実績に文句はないけど、心の底で「どこか釈然としない」部分があったんだろうね。だから、ネットの掲示板やブログなんか見ると、多くの変態世代はあきらかに青木がボコられて喜んじゃってるでしょ? これは当人たちも気づいてないというか、理性で押しとどめてた感情が、33歳というある種、同世代のマッハが圧勝したことでマグマのように吹き出してきたんだろうね。

斉藤 その世代からすると腹が立ちやすいキャラというか。年下で生意気で、でも仕事はできて、主張が止まらない感じがイヤなんでしょう。

ガンツ 青木ってPRIDE末期に突然現われた新種でしょ? だから、PRIDE消滅からDREAMに変わるドタバタの中で「俺たちの青木」になる前に本人が〝大黒柱〟を名乗りだしたんで「キミに託したつもりはないよ」というか。もっと言えば、大好きなPRIDEを知らないヤツに乗っ取られた感すらあったんだろうね。簡単に言うと「俺たちに対して〝挨拶がない〟」というか(笑)。

斉藤 前にも書いたんですけど、青木は〝エイリアン〟なんですよね。『やれんのか!』のドラマは背負ってるけどPRIDEじゃない。PRIDEの未来ではあったんですけど。当然『HERO'S』基準では測れないし、修斗だけでは語れない。従来の格闘技文脈で測れないところもあるから、得体が知れない。そのうえ彼の本質は愉快犯だし、だって記者の批判ブログに反撃して楽しんでるんですよ。普通は大物ぶって相手にしないじゃないですか。こんな選手、見たことがない(笑)。だから去年の宇野vs青木戦前の試合予想アンケートをとったとき、多くのファンは青木を支持したけど、業界人や関係者は宇野を推したんです。その理由は「宇野くんは昔から挨拶してくれるから」って感じで。

ガンツ 予想じゃなくて、大きなくくりで〝俺たちの仲間〟の宇野に勝ってほしいという希望的観測だよね。

斉藤 あと『DREAM・1』で青木vsJZカルバン戦がノーコンテストになった瞬間に〇〇〇〇〇にいたら、DREAMの〇〇〇〇〇〇〇〇が青木に罵詈雑言をブツけてて(笑)。「なんでやれねぇんだよ!?」とか。

――そんなことがありましたか(笑)。

斉藤 よく知らないけど、旧『HERO'S』サイドの人間なのかな。

ガンツ 青木がメインを張るのを不本意に思ってる証拠だろうね。「大黒柱になるっていうからやらせたのに、何やってんだよ」っていう非常に冷たく腹立たしい態度で(笑)。

そっけない態度でキラー解説を連発したKIDに、サダハルンバばりの"感情"解説を爆発させた須藤元気、ここにクールなTKが加わるのだからまさに鉄壁の解説布陣といえる。

斉藤 周囲の目を気にしないくらいだから「青木を嫌い」な人の気持ちもわかるんですよ。

――青木番でありながら(笑)

斉藤 いやいや、あんだけ目立てばアンチは絶対いるし、アンチがいない選手なんていないですよ。ただ、青木の場合は「嫌い!」と騒ぎやすい選手ではありますよね。いまの青木真也なら、ターザン山本!でさえも文句がつけられる(笑)。

――「泣くな!」とか「天狗になってる!!」とか。

斉藤 だって、こんな大敗を喫した選手は普通はインタビューに出ないでしょ。しかもニコニコ動画でマッハにやられてる試合を観て笑ってるんですよ。んで「燃えるなあ!」と。

――ホント得体が知れないですね。

ガンツ 俺も正直言って、マッハが勝ったあと「マッハは強くてカッコいい!」ってKIDみたいな感想を抱いたんだよね(笑)。俺はべつにマッハと親しいわけじゃないし、『やれんのか!』やDREAMを通じて青木を応援してきたつもりだったけど、その俺が「マッハ、サイコー!」となるんだから、青木にちょっとでも違和感がある人はそうなるよね。

斉藤 だいたい今回は「青木がウェルターに挑戦する」ってテーマなのに、そんなムードはかけらもなく、逆に青木がマッハやほかの選手の壁になってたじゃないですか。

ガンツ それは青木がこれまでの価値観を壊しかねない存在って証だよね。青木自身はPRIDEに思い入れがあるけど、全盛期のPRIDEの美しい記憶を守りたい人たちには、侵略者的に感じてしまうというか。

――その異様な存在感は、KIDが解説で言った「キモくて強いより、強くてカッコいいほうがいい」っていう言葉に象徴されてましたし。

ガンツ だから、青木はこれまでのスターの基準からはみ出しまくってるんだよね。〝強さ〟は申し分ないけど、それ以外が一般的なスター像とかけ離れてるじゃない?

斉藤 ですね。一般的なスター像というのがこの細分化された時代に何を指すのかは、とても幻想的な話になりますけど、逆に言うと、魔裟斗はいろんな時代のスターの集大成なんですね。スターの理想型が魔裟斗に集約されてしまって、そこで何が起きたかというと「魔裟斗以外はスターとして認めない」っていう基準ができてしまった。だからここ5、6年の日本人スターは魔裟斗の呪いに苦しめられましたよね。

――KIDはうまく絡みましたけど。

斉藤 そんな魔裟斗の引退とともに出てきたのが青木、北岡(悟)、長島☆自演乙☆雄一郎らのエイリアンですから。

――キモ強ウィルス蔓延中というか。

斉藤 でも、溜めに溜めてマッハが叩いたからこそカタルシスも凄かった。いやあ、魔王(秋山成勲)じゃなくてホントによかったよかった(笑)。逆を言うと、青木はマッハだから救われたところもあるんですよ。

――あと、煽りVでのKIDのキャラの立ちっぷりも凄かったですけど。

ガンツ あの姿もまた昔からあるスターのかたちでもあるんだよ。不良マンガの主人公というか(笑)。番長

青木真也 〝エイリアン世代〟座談会

やボスって悪いことしてるけど、ある種、憧れさえ喚起させるものじゃん。KIDはべつに悪いことしてるわけじゃないけど（笑）。

——でも、文系っぽい所（英男）くんをヤンキー系のKIDが恫喝する場面は、中学のイジメの現場をフラッシュバックさせるような恐ろしさに満ちてましたし、トラウマみたいなものさえ喚起させる佐藤（大輔）Vのポテンシャルには感服しましたね。

ガンツ あれこそリアル『THE OUTSIDER』でしょう。でも、ヤンキーマンガみたいな「不良に憧れる」文化はあるからKIDは成り立つし、所くんは「のび太を応援する」みたいに自分を投影できるけど、青木や北岡は投影しづらい対象なのかもしれないな。「オタクがもっとオタクになること」ってあまり応援したくないじゃない？

——ま、好きなことを勝手にやってるわけですから（笑）。

ガンツ 好きなことを突き詰めて、凄いことをやってるんだけど、周りに還元されづらいというか、距離をとって眺めちゃうところがあるんだろうな。とくに変態世代なんかは。

斉藤 青木のファン、とくに若い世代のファンにじっくりと話を聞いてみたいところですね。いまのファンからすれば、たとえば前田日明や田村潔司のほうが投影しづらい存在とか言いそうじゃないですか。UWF史観で格闘技は観れないから、いったい何が前田日明の魅力かわからないでしょう。そこで「これだからプロレスを通ってないヤツは……」とか否定はできないですよね。たとえば「家賃4万円、テレビもないアパートに住んで練習だけに没頭する」青木真也のドラマにプロレスを見てるかもしれないし。

——もはや好きになる基準や時代背景が違うのかもしれないですね。

斉藤 そこなんですよ。あたりまえの話ですけど。「いまの青木真也」でいいと思うファンもいるし、「敵役の青木真也」を望んでる人もいるし、ただ青木が嫌いな人もいるだろうし。さまざまな捉え方はあるけど、青木がエイリアンなのは、そこがほかの選手より多面的というかいびつに浮き上がっていることなんです。それが今回クローズアップされたという。

——それこそターザンですら評論できそうな特異な存在ですしね。

斉藤 だから00年代以降の修斗系にしては珍しいですよ。誰もが口を挟まずにはいられないのは。

ガンツ （突然に）青木ってマリナーズにいるイチローに近いような気がするんだよね。

斉藤 イチロー⁉

ガンツ イチローって俺も大好きだし、日本ではスーパーヒーローでしょ？ でも、マリナーズのイチローって個人成績は飛び抜けてるけど、マリナーズの昔からのファンや元からマリナーズにいるチームメイトからはあまり好かれてないとか報道されてるじゃん。あれ、これってDREAMの青木みたいだなって。

——ああ、なるほど。

ガンツ 青木がJZや宇野、エディ・アルバレスに勝つってのは青木なりの美学と技術の結果であって、イチローの連続200本安打の偉業みたいなもんだと思うんだよね。凄いことなのにチームにそこまで還元されてないというかさ。それでイチローはチームに対する意識も高いから、チーム自体のふがいなさを口にしたら反発が起こるじゃん。とくに青木が〝大黒柱〟を自称するところとか、近いものを感じるんだよね。

斉藤 青木の個人記録を観たいというのはわかりますねぇ。だってこの一年間で9試合も出てるんですよ。そこからボンヤリとわかるのは、DREAMのタレント不足と、青木のギャラが安いことかなあ（笑）。

——青木はDREAMを背負いすぎてるがゆえに家族の前で泣くような〝若さ〟が見えると「情けない」とか言われるのは気の毒ですけど。

斉藤 あの姿は見せちゃダメですね。主催者なりセコンドが控室に連れて帰るべきだった。これまでの時代は、選手の〝弱さ〟を徹底してカバーしてきた。けど、泣いちゃう情けなさも含めて青木真也なのかなあ。

ガンツ 青木に文句を言うのは「自分の理想とするヒーロー像に近づいてほしい」ってエゴなんだよね。でも青木に「泣くのはヤメなさい」「泣くのはヤメなさい」「そしたら大黒柱として認めます」って言って、実際にそうなったら、いままでの強い選手と変わらなくなっちゃうのよ。

——青木である必要がなくなる、と。

ガンツ 青木ってじつはまだ日本のファン全体の期待を背負うタイミングが来てないんだと思うよ。イチローもWBCの日本代表として、日本を背負う立場になってファンもアンチも含めて一番頼れる男として、それこそ大黒柱になったわけじゃん。たとえば青木もUFCにうって出てBJペンやGSPからベルトを奪ったなんてことになったら、価値観がすべてひっくり返ると思うけどね。

斉藤 最強の煽りはナショナリズムですから。

ガンツ 要は「俺たちの青木」になる機会がまだ来てないだけなんだよ。だから青木批判の根本は、現時点での〝大黒柱〟と〝青木真也〟っていう噛み合わせの悪さにあるんじゃないかな？ パンクラスでも似たことは起こってて、実積では北岡がズバ抜けてるのにパンクラスファンが完全に

今成とのコスプレ公開練習を平然と披露し、無類の動画サイト好きを公言する格ヲタであり、かつ〝強さ〟を兼ね備える青木は30、40代ファンの常識を超えた破格のエイリアンだ。

ファンが観た&語った 青木vsマッハ戦

「kami-pro Move」のアンケート回答より抜粋。

●青木真也がブッ飛ばされて、気分爽快です。
●マッハは優勝は絶対しなければならない。青木は残念でした。
●青木選手はあれだけのことを言ったのだから勝たなければダメだと思う。
●KIDの青木嫌いが気になります。
●青木が出ただけで青木の勝ちだと思います。
●昔ながらの職人がハイテクコンピュータに勝ったという感じ。
●キモ強いのはいらない。
●カードに唐突感は否めなかったが、盛り上げるために舌戦をしかけてマッハを覚醒させた青木のプロ根性に敬服。
●今回のDREAM全体を煽った青木は偉い。マッハには、まだジャンルを背負う覚悟が見えない。
●ウェルターで試合をするなら、青木はきちんとウェートを上げて身体を作ってきてほしかった。
●あえて毒を吐いて盛り上げた青木、その怒りを力にして爆発したマッハ、二人が勝者だと思います。試合時間は短かったけど濃い試合だった。
●青木選手はヒールに徹したほうがおもしろいかと。秋山選手以上に世間にわかりやすい存在になると思います。
●昔のプロレスだとジュニアヘビーの王者がヘビーの王者にケンカ売るアングルがありましたが、MMAだとそれが5キロ差で成立するというか……。
●日本にはまだ世界最高峰がある！ あの熱狂は会場でしか味わえない‼
●怒りに満ちた男のスイープからのヒザ連打。男に生まれてよかった‼
●青木にガッカリした。打撃、寝技ともに強化して戻ってきてもらいたい。
●いままでマッハの思いは見えづらかったが、前哨戦から気持ちが入っていて気持ちよく感情移入できる最高の試合でした。
●総合は〝ストーリー〟と再認識した試合でした。舌戦はプロの証！ ただワオ木さんの打たれ弱さを見て「あんだけ打たれてもタップしない柴田って、もしかして凄いの⁉」とも思った。
●青木選手は、頑張ったと思います☆マッハは男だと思うし！ 大人だった！ イイ大会でしたね……DREAMガンバレ☆

「北岡に乗ろう！」って流れにはなってないじゃない？ いつまでも経っ

青木は必要以上に『やれんのか！』を背負ってたから「桜庭さんは『HER

代も階級も考え方も違う選手と当たったことで初めて鮮明にエイリアン

ガンツ マッハにしたら「え～ぇ？ これから俺までダラダラできなくな

斉藤 『サマーナイトフィーバー in 国技館』ですよ。ニューリーダー側は青

〝エイリアン世代〟座談会

「北岡に乗ろう！」って流れにはなってないじゃない？　いつまでも経っても近藤（有己）には期待してるけど。

斉藤　期待というかあきらめられないんでしょうね。

ガンツ　それを北岡本人も自覚してるから「ファンはまだ現実がわかってない」って発言をしてるんだよね。結果を残してる選手にしたら、そういったファンの妙な思い入れで自分が過小評価されるって、たまらないものがあると思うよ。

斉藤　極端なことを言うと、青木真也の存在意義を計るには、DREAMから撤退すればいいだけなんですよね。あくまで極端な例ですよ（笑）。もしくは今年の大晦日まで出ないとか。いるはずの人間がしばらくいなければ、いろんなものが見えてくるから、もっとスッキリした話ができると思うんだけどなあ。

――いまのDREAMで青木のいない風景は考えられないですけども。

斉藤　だから観てみたいんですね。毎回出ているから、大黒柱としてのありがたみが薄いんだろうし。青木は修斗の封建社会すらハミ出すはぐれ者みたいな立ち位置だし、マッハとか宇野薫とか五味とかKIDって、なんだかんだいって修斗系でまとまりがあるじゃないですか。で、これは自分の勝手な推測なんですけど、DREAM発足当初、青木は桜庭（和志）にさえ挨拶しなかったような気がするんですよ。

――またもや挨拶問題ですか（笑）。

斉藤　挨拶といっても会釈ぐらいはするんだろうけど、積極的にスキンシップを図らないって感じですかね。青木は必要以上に『やれんのか！』を背負ってたから「桜庭さんは『HERO'S』の選手、簡単に握手はできない」みたいな自意識があったんじゃないかな。KIDがあそこまで辛辣に言うのも、たぶん青木が後輩面を見せないからだと思う。「俺はイマナー（正和）側の人間だから、簡単に仲良くできない」みたいなプロ意識があるのかなって。

ガンツ　でも、青木が倒されて泣いて一件落着と思っても、あっという間に復活してるように見えるから。ホントに叩きがいがないというか、エイリアンというか……。

斉藤　末恐ろしいですね。いまでも恐ろしいんですけど。

ガンツ　でも今回、マッハという世代も階級も考え方も違う選手と当たったことで初めて鮮明にエイリアンぶりが浮き上がったわけだよね。そのエイリアンが現われたことで、マッハという〝眠れる獅子〟を呼び起こしたのは素晴らしいと思う。そして、マッハのマッハたるゆえんは、あの場面であんな勝ち方ができることだよね。普段はどぶろく片手にクダまいてる食い詰め浪人みたいなイメージなのに（笑）。

斉藤　今回は、凄く生意気な新入社員が先輩が働かないから会社の仕事を一人で片づけて、天下りの役員・秋山成勲の不正を追及して、で、現場の改革にも手をつけようとしたら、叩き上げの現場監督マッハが立ち塞がったというか。

ガンツ　マッハにしたら「えーぇ？　これから俺までダラダラできなくなるの？　それはマズイ!?」となって禁酒して試合に臨んだ、と（笑）。

斉藤　そんな感じですよ（笑）。PRIDE vs『HERO'S』も薄れてきたし、毎回GPも厳しいから、世代闘争に移行するのもいいかもしれないですね。いままでのマット界は、力道山vsアメリカから始まって、猪木さんと馬場さんの対立、90年代初頭はプロレスと格闘技の対立、リングスとパンクラス、K―1 vs PRIDEのように対立構造やイデオロギー闘争があって盛り上がってきた。マット界には対立概念が必要なんですね。でもK―1もPRIDEがなくなってから元気がなくなってきて、『戦極』とDREAMの対立も全然ピンとこないし、UFCは海の向こうすぎるし、いまは全部フラットでいまぜになってるからイマイチ盛り上がらないんですよ。そこで対立して燃えるものがあるとすれば世代闘争なのかなあ。青木は、暴言三昧の大塚隆史（22歳）とタッグを組んで、また上の世代に噛みついてほしいですね。

――大塚隆史は、先輩全員を呼び捨てにしてるそうですし（笑）。

ガンツ　新日本でやったナウリーダーvsニューリーダー闘争だ！

斉藤　『サマーナイトフィーバーin国技館』ですよ。ニューリーダー側は青木真也、川尻達也、北岡悟、中村大介、MMAもできる長島☆自演乙☆雄一郎？　もしくは歳は食ってるけど参謀的存在で今成正和。

ガンツ　ナウリーダーは桜井〝マッハ〟速人、宇野薫、五味隆典、山本〝KID〟徳郁……、あと星野勘太郎的な存在として朝日昇を推薦します（笑）。

斉藤　やっぱりナウリーダーのほうが存在感があるなあ。朝日昇はなんとか青木真也を場外心中に持ち込んでほしい（苦笑）。

――新しいファンにはなんのこっちゃわからないでしょうけど（笑）。

斉藤　マジメな話、青木個人はどうやってこの負けをカバーするか見ものですね。

ガンツ　「もう一回、ウェルター級に挑戦する」のも微妙だしね。

斉藤　存在感的にはライト級には収まらないし。今後は難しいなあ。

――まだ26歳なんですけどね（笑）。

ガンツ　ま、いずれ次のケンカの機会が来るでしょう！　いま、もう一人どぶろく片手に放浪してるのがいるじゃない？　青木は〝あの男〟からもどぶろくを捨てさせてほしいよ！

斉藤　青木はぜんぜん懲りずに、間違いなくよけいなこと言いそうだし。

ガンツ　「やっぱり懲りてない！」って言われるだろうけど。それも青木らしくていいじゃないの（笑）。

――というわけで、結論は青木真也はますます得体が知れないということで（笑）。

【09年4月7日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

「キモ強」なエイリアン新世代の代表格といえば、青木と北岡。彼らが意識的に〝世代闘争〟を仕掛ければ、日本MMA界はまったく新しい対立抗争の扉を開けることになる。

「4月5日の大会で右眼窩底周囲を殴られ
負傷。翌日、CTスキャンを施行したとこ

になった恩のある団体なんですよね。だ
から、『HERO'S』がなくなるって聞い

の気持ちは。佐藤大輔さんに映像をやっ
てもらえるのは楽しみでしたけど。

ああいうものは観る人が感じることなん
で口出ししてもしょうがないですし。

「やっぱり『HERO'S』が好きでした」

逆境の告白

所英男

フェザー級GP1回戦で闘ったDJ.taiki戦を含め、DREAM登場後3連敗を喫した所英男。
そしてなおDJのケガによる欠場により2回戦進出が決定した。この厳しすぎる試練を所はどう受け止めているのか。
その心境を滔々と語ってもらった。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

「4月5日の大会で右眼窩底周囲を殴られ負傷。翌日、CTスキャンを施行したところ、右眼窩底および眼窩壁の骨折を認めた。今後、眼科、耳鼻科、形成外科の専門医による精密検査を予定しているが、少なくとも5月の大会で試合をすることはきわめて厳しいものと考える」（ドクターの見解）

所英男vs DJ・taiki。両者の負傷により『DREAM・8』にてスライド開催されたDREAMフェザー級GP1回戦。DJ・taikiが3―0の判定で所英男を下してベスト8の切符を手にしたが、ドクターストップによりGP2回戦の欠場が決定。GP特別ルールに則って、対戦相手だった所英男が〝復活〟することに。5月26日の『DREAM・9』、所英男はエイブル・カラム戦という、本人いわくの〝ラストチャンス〟を迎えることになる。

それにしても、負けてしまった人間が、3連敗中のファイターが勝ち上がらなければならないシチュエーションには、幸運と残酷さを感じてしまう。つまり〝DREAMの所英男〟はドラマチックにもがいているというわけだ。

新しい主戦場となったDREAMがスタートしてから早一年――、所英男は現在の自分の置かれたドラマチックな逆境をどう捉えているのか。

DREAMが始まるときのことは、もうずいぶん前のことなので、正直覚えてないですね。いきなりだったじゃないですか？　その流れについていくのに必死だったんじゃないかと思います。

とまどいがあったというか、やっぱり『HERO'S』が好きだったというか、『HERO'S』はボクが世に出た舞台でもありますし。格闘技でごはんが食べれるようになった恩のある団体なんですよね。だから、『HERO'S』がなくなるって聞いたときは、なんかショックでしたけど。

だって、みんなPRIDE、PRIDEって騒いでたじゃないですか。けど、ボクは『HERO'S』の選手だったんで、マスコミも『HERO'S』に対してはそんなに積極的じゃなかったですよね。だから「なんでだろうな？」って思ってましたよ。言葉にはしてませんけど、そういう気持ちはあったんですよ。

だから、とまどうというか、DREAMになって「どうなるのかな？」って不安みたいなものはあったというか。試合も1ラウンド10分、2ラウンド5分になるし、いや……もう忘れましたよねぇ、あの当時の気持ちは。佐藤大輔さんに映像をやってもらえるのは楽しみでしたけど。

DREAMは、まあ、PRIDEだなって感じじゃないですか。だって全部そうじゃないですか。ルールもそうだし、レフェリーだって。だから、違うイベントが始まるんだなという感じですよ。だからといって、べつにアウェーだと意識したことはなかったですけど。とりあえず必死に頑張っていくしかないだろうなって。

必死すぎるから谷川さんに「表情が0点！」とか言われたんだろうし、いま考えたらわかる気がしますけど。当時は必死だったんで。……いまも必死ですけど。だって秋山（成勲）さんとか宇野（薫）さんみたいに海外に行くわけにもいかないですし、K―1に出るわけにもいかないですし。DREAMで生き残るしかなかったんですよ、ボクには。だから、DREAMで闘う意味を見つけるためにKIDさんを目標にしてたんですけど、まあ、それもかなわず。……難しいですよね。うまくいかないですよね。

ああ、べつにKIDさんにはなんも言われてないですけどね。煽りV？　いや、べつになんにも言われてないです。いじってもらうのは全然いいし、いじられるのは全然イヤじゃないし、べつになんでもいいです。べつに何も思わないですね。ああいうものは観る人が感じることなんで口出ししてもしょうがないですし。……いや、懐が広いとかじゃないですよ。なんも考えてないだけっていうか。

今回の試合後は……何を思ったかは覚えてないですね。金原（正徳）さんがセコンドにいたんですけど、なんか顔を見れなかったです。恥ずかしくて。申し訳なくって。とりあえず前田（日明）さんも毎日のように電話くれて、励ますのとダメ出しをしてくれるんですけど。

前田さんには週に一回練習見てもらってるんですよ。なので、セコンドついてくれるって言ってくださって。まあ、リングスがきっかけで格闘技を始めたのに、まさか前田さんにセコンドについてもらうことになるなんて。ハンマープライスだとなかなかの金額なんじゃないですか？

でも、前田さんのセコンドはちょっと緊張はしますよね。前田さんの声は凄く届くんですけど、逆に「どうしよう」って思ったりして。………ボクが負けることによって前田さんが恥をかくじゃないですか。いろいろ言われるじゃないですか。それがボクはたまらないですね。申し訳ないです。ホント、恥かかせたくないんですよ。

この1年間、一本勝ちがないんですよね。4試合全部判定で。ボク、DREAMで1時間試合してますからね。1時間やって一本も取れないというのはちょっと……。そのうち取れるのかなとは思ってるんですけど、結果がついてこないという

[09.4.5 DREAM.8]
愛知・日本ガイシホール
○DJ.taiki vs 所英男×
（2R終了 判定3-0）
フェザー級GP1回戦のこの一戦。DJ.taikiは"絶対スタンド勝負"の姿勢で所のタックルを警戒し前傾姿勢の構えに。所は打撃戦に応じつつもタックルを狙い、アームロックを仕掛ける場面も。スタンドでもDJの右目下をカットさせる打撃を見せたが、パウンドなどDJの打撃が勝り判定負けとなった。

海外のリングでもK―1でもなく DREAMで生き残るしかなかった

逆境の告白

今回のオファーは悩む時間がなかった　それがボクにはありがたかった

か、スランプ……。いや、もうスランプなのかどうかもわからないですね。とりあえずまだ強くなる要素が、まだ強くなる気がするので頑張ろうかなって。

気がするっていうか、「強くなる」ってトレーナーの方に言っていただいたんで。まあ、もうちょっと頑張ろうと思います。挫折？　そんなの、もうとっくに挫折してますよ。3連敗したら笑うしかない。開き直ってやるしか、もうやっていけないですからね。3連敗したら4連敗も5連敗も一緒ですからね。だから、開き直ってやるしかない。だから今回、2回戦に上がれるということも、前向きにやるしかないと思ってます。DJさんと昇侍選手のぶんまで練習して頑張ります。

『HERO'S』のときもファン投票で2回戦に出たんですけど、あのときはけっこう批判を受けたりとかいろいろ言われたんで、ちょっと今回もキツいなあと思ったんですけど……。試合に負けたばっかで、ほかにも強い人いっぱいいるのになって。でも、トーナメントのルールっていうのと、あとは……もうこんな運なんてないですからね。だから最後のチャンスだと思って頑張るだけです。

ファン投票のときですか。もうやるって決まったら、やるだけですけど……。正直？　まあ、……嫌ですよね。でも、あんまり覚えてないです。まあ、自分の中でも嫌でしたし、周りの目も嫌だったって感じじゃないですか。でも、それよりも今回は教えてもらってる人とかお世話になってる方たちに恩返ししたい気持ちのほうが強いんで、納得できる試合ができればなって思います。

今回のオファーも、悩む時間もあんまりなかったですから。それがボクにはありがたかったんですけどね。すぐに決断するしかなかった。もし時間があったら、迷って嫌な気持ちになってたかもしれないですし。

開き直るしかないですよ。自分でも「よくやるなあ」とも思います。でも、これしか方法がないんです。ここで一回引いたらもう立ち直れないです。

だからボクは助かったんです。

3連敗して先が見えてなくて、どうしたらいいかわからないときに、こんなチャンスをもらって。こんなに早く試合が決まってなかったら、もう練習できなかったと思います。試合もいつやれたのかわからない。助かったんです。

いまだけじゃないですよ。なんか、ずっとうまくいってないんですね。『HERO'S』のときに一回うまくいったぐらいじゃないですか。どうなんですかね。山あり谷ありというか。『HERO'S』で悩んでますし、ZSTのときはZSTでけっこう悩んでますし、ずっとこんな感じですね。いまはいまで悩んでますし。まあ就職したら就職したで悩むでしょうし。でも、わかりやすい悩みでよかったです。だって、1時間やって一本も取れないっていう悩みじゃないですか。そんなの2時間やれば取れるかもしれないし……。

だから、次の試合はドロドロになってもいいから勝ちにいきますよ。そのくらい本当に懸けてやります。最後のチャンスですから。あ、次はゴールデンタイムの放送なんですか。まあ、ボクにはあまり関係ないですけどね。

でも、横浜アリーナが会場なのはいいですね。埼玉はあんまりよくないですねえ。嫌というか、2試合連続で試合後に病院へ行ってるんですよ。中村さんと、あの山本篤戦で。「このあいだも来たなあ……」って思ったり。

3連敗か。あと3回勝てばいいだけですよね。あと3回。頑張りますよ、今成さんと決勝でできるように。

【09年4月10日／都内・某所にて収録】

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県。本拠地である『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、7.6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。DREAMには『DREAM.4』から出場しすでに5戦を闘っているが、現在、山本篤、中村大介、DJ.taikiと3連敗中。しかし、DJ.taikiのケガでの欠場によりフェザー級GP2回戦進出が決定するという、いま最も重要な勝負どころに立たされている格闘家。170cm、63kg。

選手・関係者が選ぶ

心に残る引退エピソード

世に引退のかたちは数多けれど、人それぞれにその理想があるはず。
ここでは『kamipro』とゆかりの深い選手・関係者の方々の心に残った、
「深イイ話」どころじゃない、引退にまつわるエピソードを一挙公開!
“引退”の二文字が持つ深い味わいを、心ゆくまで噛みしめてください!

構成／鈴木 佑

石井史彦

アメリカ在住本誌海外特派員。今年3月末にカリフォルニア州で開催された柔術のパンアメリカン大会に初参戦、第1試合をアームバーにて勝ち上がり、ついに青帯オヤジクラスのチャンピオンになった。

▼太田 章

太田氏はロス五輪でアジア出身の選手として初めて重量級で銀メダルを獲得。その後、引退するが東欧圏諸国が不参加だったことから、現役復帰を決意。ソウル五輪でも見事に銀メダルを獲得し、その実力を世界に証明した。その後も再度現役を引退するが、再び復帰してバルセロナ五輪で4度目のオリンピック代表の座をつかんだ。太田氏はロス五輪では残り数秒でアメリカ代表から大逆転のピン勝ちを収めたこともあり、アメリカ・レスリング業界での知名度は偉大。ちなみに、アジア圏出身の重量級でのメダル獲得者はいまだに太田氏以外にはいない。シニアになってからであるが、再々度現役に復帰し、世界選手権に挑戦。念願であった金メダルを見事に獲得し「引退」した名レスラーだ。

井上崇宏

ペールワンズ総帥。本誌人気企画「変態座談会」のレギュラーメンバー。山本小鉄のモノマネは絶品であり、あまりにも似すぎていることから一部では「井上小鉄」と呼ばれることもある。

▼千代の富士

「体力の限界!!」。貴花田に敗れて引退を決意したなんてカッコ良すぎ。「両者盤石の状態でやらせたい」という理由から初日に取り組みが組まれたという段取りも、スポーツ競技っぽくないエピソードで素晴らしい。そんなピュアハートな僕が、類似エピソードである「島田紳介がダウンタウンの漫才を見て紳竜の解散を決めた」という一件にはフカシっぽくてげんなりしてしまうのは、やっぱり格闘技が好きだからなのか、それとも単に紳介が好きじゃないからなのか。プロレスでも格闘技でもよく耳にする「引退したら、現役時代よりもコンディションが良くなった」って話が肉体酷使しすぎ&ちょっぴり間抜けで好きです。

掟ポルシェ

ロマンポルシェ。のVo.とかそういうのをいろいろ担当。今春からCSのスペースシャワーTV『SPACE SHOWER MUSIC UPDATE』水曜日レギュラーに。ただし、マペットの声だけ。

▼長嶋美智子

アコムや武富士からお金をいっぱい借りてアホほど女子プロレスを観まくっていた90年代。利用限度額が常にパンパンな状態で長嶋美智子の試合をよく観に行った。紅夜叉との敗者特効服脱ぎマッチを観るためだけに草加市スポーツ健康記念体育館などという恐ろしく辺鄙なところまでも行き、半田美希との造反タッグ結成に燃え、机にダイブし叩き割るたび「シー・イズ・ハードコア!」と飛び交う野太い男どもの声援を遠くで聞いていた。98年、引退試合には行けなかった。その頃、女子プロレスの見すぎで借金総額がとんでもない金額に膨れあがり、月の返済金額がバイト月給の5分の4に達していたため、チケットを購入する余力がなかった。最期まで見届けられなくて、長嶋美智子には悪いことをしてしまったと思っている。

小佐野景浩

『週刊ゴング』編集長を経て、現在はフリーとして『Gスピリッツ』やサムライTV『S−ARENA』などで活躍する熱血プロレスティーチャー。

▼阿修羅・原

引退試合は94年10月に大分、長崎、東京の3ヵ所で行なわれたが、最も印象に残っているのは10月3日、故郷の長崎での天龍との一騎打ち。リングに上がってきた段階で目に涙を浮かべていた阿修羅に天龍は水平チョップ29発、ラリアット11発、バックドロップ6発、延髄斬り2発、そしてパワーボム3連発! 見事な介錯だった。私が阿修羅から「最後は源ちゃんと闘って完全燃焼……真っ白な灰になって退きたい」という言葉を聞いてから7年の歳月が流れていた。試合後、殺到するファンを天龍がリングに招き入れ、『ドリームス』が流れる中でファンに囲まれる阿修羅の姿はまるで映画のワンシーンのようでもあった。浪花節だよ、人生は!

菊池 孝

昭和7年9月13日、神奈川県出身。立教大学卒業後の31年春から新聞社社会部に所属。その後、野球雑誌を経て35年春から夕刊紙でプロレスを担当。44年にフリーとなる。

▼吉村道明

日本プロレス末期の昭和48年3月3日、吉村の母校近畿大学記念講堂のプロレス初使用大会で行なわれた引退試合で、ルーベン・ファーレスに得意の回転エビ固めで快勝した吉村は、約1万人のファンと大木金太郎、小沢正志(キラー・カーン)らの涙に送られてリングを去ったが、本人は爽やかな表情だった。そしてその後、プロレス界とはきっぱり絶縁した。潔い引退だった。

菊地成孔

音楽家、文筆家。ジャズミュージシャン活動の一方、音楽、料理、ファッションなどの著作多数。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』(白夜ライブラリー)。

▼前田日明

前田日明は2回引退試合をしましたよね。アレキサンダー・カレリンとやったあとに山本(宜久)とやって。ワタシは山本戦に行ったんですが、これはほめ言葉ですが、これまでいろいろな引退試合を観てきましたけど、これほど盛り上がらない、重い試合はなかったです。前田は「桜じゃなくひっそり咲く寒梅のように生きたい」とあの身体で言っていたわけですが重い膠着、という美学を生んだリングスを象徴するような引退試合でした。試合後もそうで、ゲストをリングに上げて握手したり、マイクで思い出話をさせるみたいなセレモニー的なことはまったくなく、「感動的なマイクのあとに『キャプチュード』が流れ、ファンが『前田』コールで手拍子する」みたいな、ファンのチャラい欲望にはまったく応えない、あの静かな感じは忘れられないですね。

選手・関係者が選ぶ

心に残る引退エピソード

北岡 悟

1980年2月4日、奈良県出身。09年1月に五

佐藤 譲

放送作家、ライター、企画屋。音楽番組から携帯ゲ

▼ジャイアント馬場

それは絶対にジャイアント馬場さんですよ

高崎計三

(有)ソリタリオ代表。去年から子どもと一緒に後

か。プロレスでも格闘技でもよく耳にする「引退したら、現役時代よりもコンディシ

う言葉を聞いてから7年の歳月が流れてい

い、あの静かな感じは忘れられないですね。

北岡 悟

1980年2月4日、奈良県出身。09年1月に五味隆典を下して『戦極』ライト級王者に君臨。現在、『kamipro Move』で日刊ブログ「北岡悟のどうかと思う日常」を連載中。

▼船木誠勝

自分が入門して1ヵ月足らずあとに引退されたってことで、とても印象に残ってます。理由はなかったけど勝ってくれるような気がしていて。でも負けたら引退しちゃうんじゃないかなって思ってたら、それは案の定でした。パンクラスの人間としてあの試合を生で観れたことは、いまでも自分にとって大きな意味があります、間に合ってよかったです。入門して数週間の練習生だったのに頼んで客席で観せてもらって。観戦後ぼろぼろ涙が出て、近くにいた菊田早苗さんに「負けちゃいましたね」って言ったのを覚えています。当時の自分には引退は潔く見えて、まさかパンクラスを退団されてから復帰されるとは。先のことはわからないですよね。

郷野聡寛

1974年10月7日、東京都出身。修斗、パンクラス、PRIDEを経て、08年はUFCに参戦。現在は次なる戦場を求め就職活動中。『kamipro Move』では週刊コラム『郷野聡寛のMONDAY NIGHT FEVER』を連載中。

▼清原和博
▼野茂英雄
▼桑田真澄

昨年引退した俺の少年時代のヒーローたち。だけど、本当に自分の限界を追及し続け、それでも力つきて身を引いたというのは桑田選手だけだったのではないでしょうか。清原、野茂両選手は、最後はかなり重そうな身体つきで、ともに全盛期の姿に比べたらあきらかなオーバーウェート。きちんと節制し、身体を絞っていればもっとイケたんじゃないかと思え、少年時代に両選手のファンであった俺は非常に残念でした。そしてベテランの域に入ったイチ選手としては、桑田選手や現役最年長の横浜の工藤公康投手をお手本に、できるだけ長く現役生活を続けられるよう頑張っていきたいですね。

佐藤 譲

放送作家、ライター、企画屋。音楽番組から携帯ゲーム、アーティストのディレクションまでさまざまな仕事をこなし、メディアのMMAファイターを目指す。本誌での連載「入場曲五十三次」が今号で終了。次は何しようかと考え中。

▼橋本真也

一番に思い浮かぶのは引退商売としても尋常なきダイナミズムがあったおちまさとさんによる企画「橋本真也34歳、負けたら即引退！スペシャル」。引退がきわめてチャラいかがわしいタイトルとなって表現されたことへの違和感と、その言葉の持つ強烈なインパクトに衝撃を受けました。のちの引退撤回はじつにプロレスらしいと言えるのですが、最近は瞬間最高視聴率24パーセントを裏切った行為でもあったんだなあと思い、引退撤回がなかったら場合、プロレスはどうなってたかなあと頭の中で妄想を繰り広げたりしております。

椎名基樹

本誌にてコラム『サムライ三昧』を連載。柔術白帯（要するに柔術着を買っただけ）。今月に『バカはサイレンで泣く』のひさびさの単行本が出ます。

▼山本小鉄

引退試合のボディプレス（元祖ハイフライフロー）。たぶん初めて触れた引退試合。学校でゲラゲラ笑いながらマネした覚えがある。猪木、髙田、前田はやはり「幸福な引退興行」として記憶に残っている。やはり全部観に行ったし。イベントの成功で猪木（一生残るであろう、詩・『道』のインパクトもスゲエ）。試合内容で髙田。らしさとカードの豪華さで前田って感じかな。あと、一時期武藤がやたら引退のことを気にしてて、サムライTVで猪木と二人でアメリカをドライブ中、引退について猪木に質問したとき、猪木がそっけなく「オレは引退しそこねたからよ」と言っていたのが印象に残ってるなあ。一番と言われたのにとりとめなくてごめんなさい。しかし、幸福な引退でできたビッグネームとしそこねたビッグネームの違いを考えてしまう。ドラゴンは生涯現役!!

ジミー鈴木

本名・鈴木清隆。1959年、東京都出身。ダラスをベースにプロレス専門紙誌の米国通信員として活躍。現在はプロレス関連の仕事のほか航空会社でも働いている。

▼アントニオ猪木

テリー・ファンクや大仁田厚などプロレスの業界では引退してから復活するというパターンがあたりまえのように存在する。「引退したら食えなくなる」というのが、その大きな理由であるわけだが、そういった例は多い。逆に言えばストーンコールドやロックのように事実上現役引退しながら明確にせず、天文学的な大金が入ってくるのがわかっていながら引退試合をやっていない超大物も存在する。そんな中で一番ストレートな人はアントニオ猪木。素直に引退興行をやり、何度も噂されながら、実際には現役復帰をしない。大金になるのがわかっていながらしない。猪木さんを「嘘つき」という人は多いが、こと引退に関しては、彼が一番ビシッとしている。

ターザン山本！

自称〝葛飾貧乏芸人〟。〝他称〟おじいちゃん。金なし。仕事なし。彼女なしのいまや三重苦人生まっしぐら。今年63歳。オレの人生はなんだったんだと言いたいよおおおおお。

▼ジャイアント馬場

それは絶対にジャイアント馬場さんですよおおおお。馬場さんは引退する前に亡くなられた。ほかのレスラーの引退なんて、みんなどうでもいいのだ。なんの思い入れもないよ。オレにとってレスラーとは馬場さんのことだから。とにかく馬場さんにもう一度、復活してほしいよおおお。そしてもう一度、オリガミでアップルパンケーキを食べたいなぁ。元子さんと一緒にね。もうそのトラウマがいまでも消えないよおおおおおお。馬場さんバンザーイ！

高崎計三

（有）ソリタリオ代表。去年から子どもと一緒に後楽園のスーパー戦隊ショーに出かけているが、こないだ観た「さよならスカイシアター特別公演」（歴代レッドが多数出場）は理想的な引退興行でしたよ。

▼大仁田厚

日本マット界で、「引退」の二文字であれだけ稼ぎ出した人はいない（はず）。なんたって、1年間たっぷりかけて日本全国を「引退ツアー」で回って、どでかいスケー

選手・関係者が選ぶ

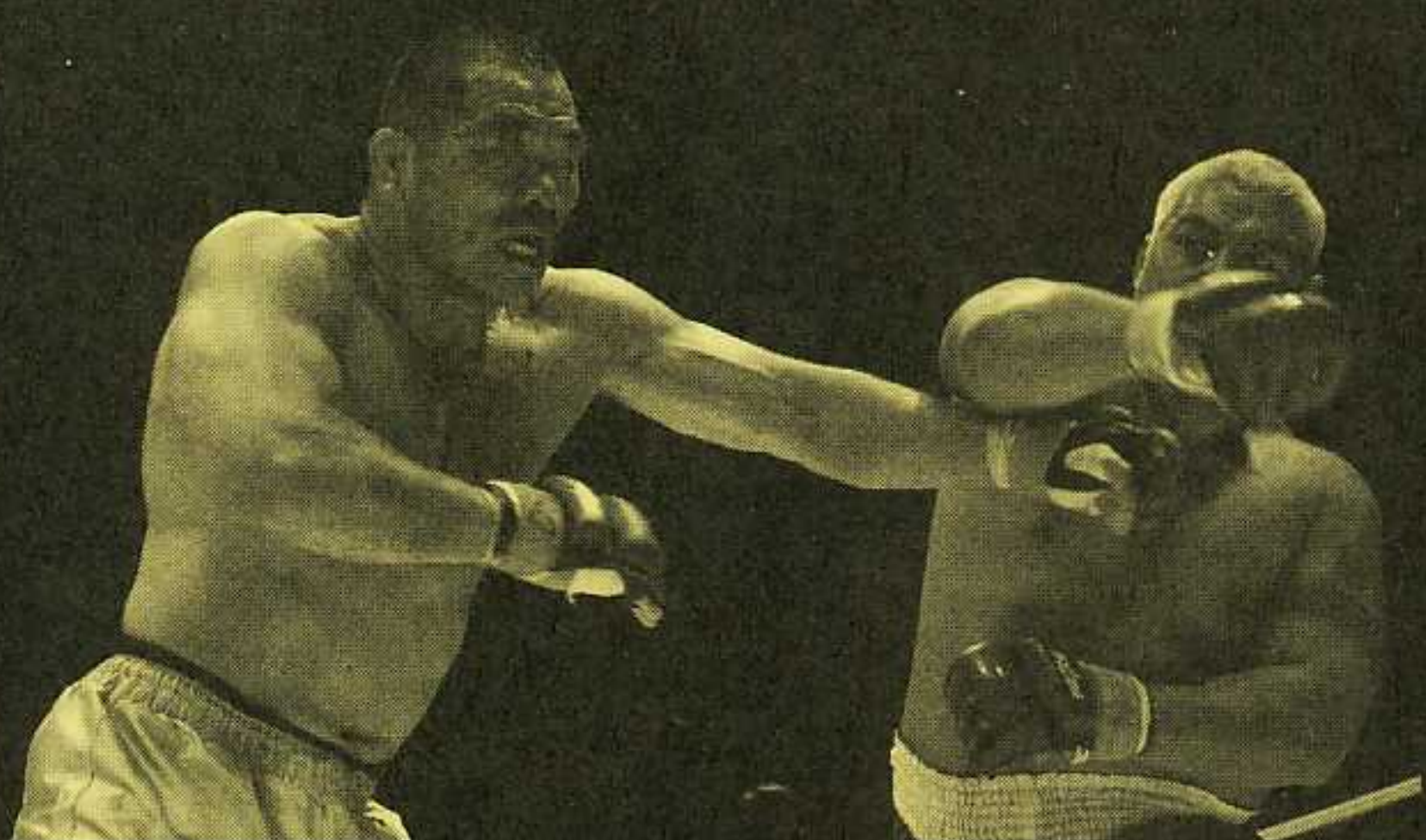
心に残る引退エピソード

ルで引退試合をやって後進に道を譲って、2年も経たないうちに戻ってきちゃうんだぜ⁉　それだって全日本時代に続く二度目の引退だし。そういや大仁田の「引退試合」は一回も観たことないが、「復帰戦」は何度か観た（笑）。

田中太陽

フリーライター。本業は日本プロ麻雀協会所属の麻雀プロと言い張るが定かではない。著書『魔王秋山成勲 二つの祖国を持つ男』が発売中。

▼橋本真也

やはりゴールデンタイムにテレビ放映された『橋本真也34歳、小川直也に負けたら即引退！スペシャル』のインパクトは絶大であり、忘れがたい。敗れた橋本はけっきょく引退しなかったものの、試合に漂っていた緊迫感はまさしく本物だった。重みを失ってひさしい〝プロレスラーの引退宣言〟というものに、再び火をともした重要なイベントであったといえるだろう。このわずか数年後、引退どころか橋本がこの世からいなくなってしまうとは想像だにしなかったが……。

長南 亮

1976年10月8日、山形県出身。01年DEEPにてプロデビュー。『PRIDE武士道』での活躍を経て、07年11月からはUFCに参戦。現在、『kami-pro.com』にて「ピラニアUSA日記」を連載中。

▼髙阪 剛
▼小野寺力

御二方とも俺の恩師でありますが、現役への未練を断ち切るかのごとく強豪相手に真っ向勝負を仕掛けて、華やかに散っていきました。髙阪さんはハント相手に殴り合い、小野寺会長は長期欠場の復帰戦が引退試合で、相手は強豪アヌワットでした。負けてもいいからとか格好つけようとかじゃなくケジメみたいに見えて、「いつかは自分もこうなるのかな？」とか考えさせられました。そんな二方もいまは揃ってサムライTVのコメンテーターをやってます。

橋本宗洋

フリーライター。『Number Web』で連載コラム始めました。タイトルは『濃度・オブ・ザ・リング』。ダジャレかよ……。『kami-pro Move』のコラムも続行中。どうやら一冊にまとまるっぽいです。どちらもよろしく。

▼小林 聡

現役ムエタイ王者との対戦という最高の舞台に、小林は引退の決意を誰にも告げないまま上がっていた。事前に引退を表明することで、試合を感傷的なものにしたくなかったのだ。〝引退試合〟であっても、重要なのは〝引退〟より〝試合〟。そういう姿勢を、小林は明確に打ち出した。どんなかたちの引退があってもいいと思うが、そこには確実に選手の〝了見〟が出ると思う。

花くまゆうさく

あんまし漫画描いてないけど漫画家&イラストレーター。最近は「チェイサー」という凄いパワーのある映画に刺激受けました。

▼テリー・ファンク
▼船木誠勝

引退と聞いても実際あんまし浮かばないんだけど、無理やり答えると、子どもの頃はテリー。1年間入場時に配ってたのコインだっけ？　あのコインほしかった。インパクトは船木。船木はいつだってあらゆることが唐突。今後も、何かびっくりさせてくれるかしら？

原タコヤキ君

『kami-pro.com』の人気ポッドキャスト『mi-mi-pro』のカリスマ司会者。ギターと自転車と加圧トレーニングをこよなく愛する38歳。

▼髙田延彦

プロレスラー&格闘家の引退といえば髙田延彦以上の幕引きは考えられないです。プロレスラーとして、ボクらにファンタジーを与え続けた男が最後には因縁深き愛弟子、田村潔司に介錯される——！　うわ、もういっぺん映像観たくなってきた。これは猪木さんや前田の引退をはるかに上回るドラマチックな最期だったと思います。現役でいうと、魔裟斗選手の引退表明も立派ですが、そうなると、ますますサクの引退ロードが気になったりして……。うーん、悩ましいです。

布施鋼治

『吉田沙保里 119連勝の方程式』（新潮社刊）でミズノスポーツライター賞優秀賞を受賞。浮かれまくる45歳。

▼辰吉丈一郎

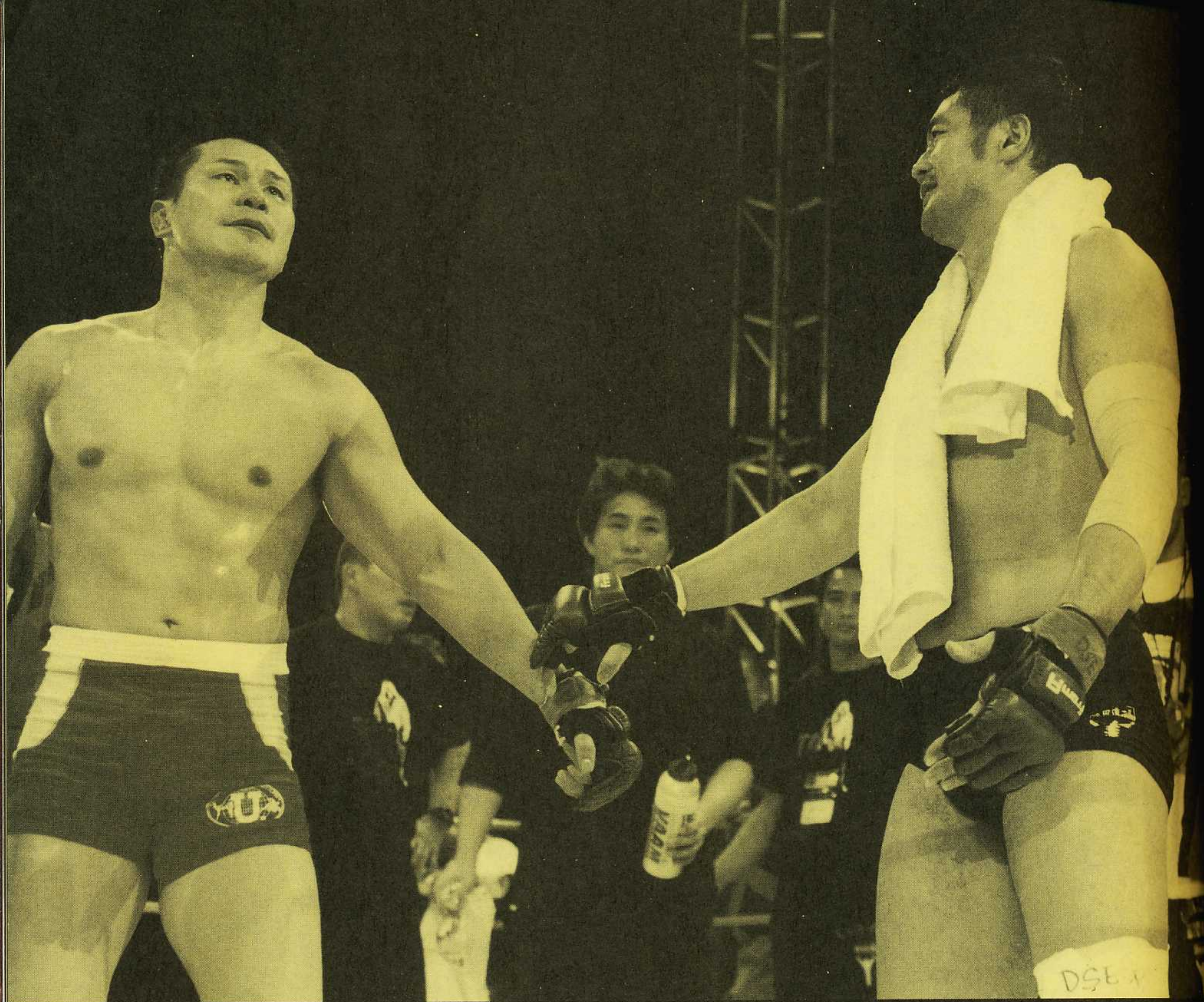
引退と聞いてまず思い浮かぶのは、その時期を逸してしまった選手たちのことである。たとえば、辰吉丈一郎。あれだけ90年代のボクシングシーンを賑わした男の現在を目の当たりにしたら複雑な気持ちになってしまう。昨年秋、タイでの一戦を現場で目撃して、あらためてそう思った。

堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。鋭い分析力、ユーモアあふれる解説で格闘技の醍醐味をお届けする〝青春の発見者〟。

▼長嶋茂雄

日本人で、ある年齢以上の人に「引退」で

いなかったですもん。だから僕がDDTでやっとの思いでデビューして、試合出れるようになった直後にいきなりDDTにやっ

▼長嶋茂雄

日本人で、ある年齢以上の人に「引退」で思い浮かぶ人は誰かと聞いたら、ほとんどの人が「長嶋茂雄」と答えると思うんですよ。そして、私自身、長嶋さんの引退が一番印象深いですね。なぜ、そこまで印象深いかといえば、彼が日本一のスーパースターであるということはもちろん、やはり引退試合で彼が言った「我が巨人軍は永久に不滅です」という言葉が心に残ったと思うんですよね。彼は引退を機に、自分が育った球団、そして自分が人生を懸けた野球というスポーツの素晴らしさを訴えたんです。そして、それは現役時代に努力し、やりつくしたからこそ出た言葉だと思います。ですから、魔裟斗選手も今年で引退するということですけど、K―1というものが、魔裟斗選手が引退したあとも不滅のジャンルであってほしいと思います。

マッスル坂井

1977年11月5日、新潟県出身。04年10月に新機軸のプロレス団体『マッスル』旗揚げ。お笑いや映画監督でも活躍する異能のプロレスラー。現在、『kamiproMove』で「ゴー・フォー・ブログ！週刊マッスル坂井」を連載中。

▼前田美幸

そんなの前田美幸（元・美幸涼）さんしかいないですよ!! 強くて、デカクて、美しい、そんな三拍子揃った女子プロレスラー

いなかったですもん。だから僕がDDTでやっとの思いでデビューして、試合出れるようになった直後にいきなりDDTにやってきて、僕が高木さんと組んで出場するはずだった『KO―Dタッグリーグ』に高木さんと前田さんがエントリーしたときは、それ以上にビビりました！ 結局、持病のヘルニアが悪化しちゃって一年くらいで引退しちゃうんですけど。もし前田さんが続けていたら、プロレス界の歴史は間違いなくいまと変っていたでしょう。僕も矢面に立たされることなく、『マッスル』もやることなく、おとなしく映像作ったりして、普通に2～3年やって引退してたと思います。

MIKU

クラブバーバリアン所属。女子格闘家・第2代DEEP女子ライト級チャンピオン。現在、『kamipro Move』で日刊ブログ「MIKUの格闘ブロガール!!」を連載中。

▼渡辺久江

DEEP女子ライト級タイトルマッチで対戦し、また闘おう！ とお互いよきライバルとしてきた中、突然の引退に衝撃を受けました。ストライカーのイメージだった彼女が寝技も伸び始め、寝技の私が打撃にも力を入れ始めた頃で、まさに「逆にお互いまからじゃないか？」というときだったので。でも復帰されるみたいなので注目してます。

選手・関係者が選ぶ

心に残る引退エピソード

三田佐代子

サムライTVキャスター13年目。4月から担当が月曜火曜、金曜土曜になりました。空いた平日にはバレエのお稽古に行ってみたりする。カート・アングルがゲストにいらしたときにハグされて頬っぺたすりすりされてドキドキした39歳です。

▼中田英寿

ってそれサッカー選手じゃねえかよ！と思った皆さん、そうです。以前サッカー選手で現旅人の中田ヒデです。彼が29歳という若さで引退したのが何か格好いいみたいになってますけど、私はそれよりあくまで現役にこだわってボロボロになるまでピッチに立ち続けるゴンとかカズとかのほうが格好いいと思う。翻って魔裟斗選手ですが、一人でジャンルを背負い続けるのがどれほどプレッシャーのかかるものだったかは想像に難くないですが、若い奴らに立ち向かっていく魔裟斗というのも見てみたかった。ていうか魔裟斗選手は髪型をツーブロックにしたあたりで心が途切れてしまったというのは考えすぎでしょうか。

柳澤健

フリーライター。超多忙で、小さな版型の「紙のプロレス」を読むことだけが心の安らぎだった悲しい過去を持つ。現在、『kamiproMove』で「1993年の女子プロレス外伝」を連載中。

▼北斗 晶

93年12月に両国国技館で行なわれた神取忍との再戦に敗れた北斗が「私の、心は、変わらない（引退発言は撤回しない、の意）」と言ったとき、「北斗、辞めないでくれえ！」と絶叫したことをよく覚えている。優れたレスラーは例外なく言葉を持つものだが、北斗の言語感覚は群を抜いていた。私にとっての北斗晶とは、何よりもマイクであった。黒いマニキュアが塗られた北斗の指が、マイクを鷲づかみにする。試合直後で、北斗の息は弾んでいる。ハアハアという荒い息づかいをマイクが拾う。北斗はまだ一言も発していないのに、すでに会場の空気は一変し、ドラマチックな期待に満ちあふれる。そして北斗の言葉は、膨れ上がった観客の期待を常に超えるのだ。北斗の引退以後、プロレスから「言葉」が失なわれたような気がする。

ジャン斉藤【『kamipro』編集部】

本誌編集長。〝雀鬼〟こと桜井章一の内弟子を経て、『kamipro』編集部へ。永久電気などアントン事業の調査や破綻系興行観戦をライフワークとする33歳。

▼インリン様

引退試合直前の後楽園ホール、ファンの大歓声に思わず声を詰まらせ、それでも気丈にボノちゃん抹殺を誓った、あの姿。引退試合終了後、無言でムチを振り回して観客に別れを告げた、あのカーテンコール――。のちの金銭トラブルですべて台なしになったわけで、『ハッスル』側にもインリン・オブ・ジョイトイ側にも「プロレスをナメくさりやがって!!」とマッハばりに大激怒したんですが、結果的にプロレスの美しさと醜さがないまぜとなった引退騒動となったので、とても心に残っております です。

坂井ノブ

『kamipro.com』と『kamipro Move』をおもに担当。ポッドキャスト番組『m-i-pro』番頭さんを担当。『ハッスル』HPではペールワンズ総帥・井上崇宏さんとともに「ヒマでモテないプロレスマスコミ対談」を連載中。

▼ジャンボ鶴田

肝炎がもとで現役を退き、大学院に通って大学教員になり、引退したジャンボ鶴田。引退試合はやらなかったけど、あの晴れやかな笑顔での引退会見と「人生はチャレンジだ」という言葉は忘れがたい。最後まで最強幻想を保ち続け、「前田日明とやってみたかった」「藤波のマスコミを通じた対戦要求は大嫌いだった」など引退と同時にギラギラした部分が剥き出しになったという点でもプロレスの一線を最後まで守り続けたプロだった。あと、アーバン・ケンの引退も入門から引退まで見届けた最初のレスラーという点で強烈に記憶に残っている。

堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から、変態的プロレスファン&UWF信者を経て、『kamipro』編集部へ。『変態座談会』主催者としても活躍中。

▼仲野信市

中学卒業後、新日本プロレスに入門。同期が髙田延彦、寮長は前田日明という、新日が最も新日らしかった時代に新弟子時代をすごした仲野信市。38歳で引退を決意したときはすでに大手運送会社で働いていたが、古巣・新日本が引退試合の舞台を用意してくれたことで、仕事の合間を縫って猛練習に励み、最後のリングに上がった。仲野は無我の若手・倉島信行相手に、かつての新日の前座のようなガチガチのストロングスタイルで勝負。デビューから22年、仲野が最後にたどり着いた理想は、やはり前座戦線の妥協なき闘いだったのだろう。全力を出しきって闘ったあと仲野は「私のプロレス人生はいまここで終わりましたが、新日本のプライドを胸に、これからは日本一のセールスドライバーを目指します」と挨拶。その言葉どおり、いま仲野はトップクラスのドライバーとなっているという。

阿修羅チョロ

本誌編集部。『kamipro』入社後の初取材は98年1月の新日ドーム大会での長州引退試合だったが、長州は数年後に復帰。健介が2代目長州力を襲名するとの話もあってちょっぴり期待したが、結局実現せず。正直、残念！

ジャンボ鶴田選手
おつかれさまでした。

▼松尾永遠

今年の5月5日の後楽園大会で引退が決ま

かかるも大きな渦にならず……。血気盛んだった20代前半の自分はすくっとイスに立ち上がり「こうやるんだ」とばかり「1、

なあ〜。マット界にとどまらず、全ジャンルで検証してもやっぱり百恵ちゃんが一番です！

▼松尾永遠

今年の5月5日の後楽園大会で引退が決まっているNEOの松尾永遠は何か不思議な縁を感じます。突然の引退表明をした3・8後楽園大会当日の深夜に某中央線沿線の松屋で一人で牛丼を食す松尾さんを目撃。4月4日の深夜にも同じく某中央線沿線で友人と松尾さんの話題で盛り上がっていると、本人が目の前から登場。一度ならずと二度までも偶然会うなんて、これはきっと運命（単純）。英語で言ったらデストロイ！（それは破壊）。引退後は〝婚活〟に励むという松尾さん。阿修羅永遠、いや松尾チョロでもいいので、よろしくお願いしま～す！

真下義之

本誌編集部。某世界的アーティストの内弟子を経て『kami-pro』入り。おもにプロレス、文化人などを担当。なんと体重がライト級オーバー!?

▼大仁田厚

引退といえば、やっぱり大仁田！　95年5月5日の川崎球場でのハヤブサ戦なんだが、記憶に残ってるのは試合以上に試合前！　大仁田登場を前に熱にうかされたスタンド席で、「ファイヤ～！」のかけ声がかかるも大きな渦にならず……。血気盛んだった20代前半の自分はすくっとイスに立ち上がり「こうやるんだ」とばかり「1、2、3、ファイヤ～！」と大絶叫！　すると、このかけ声が球場中に次々と連鎖反応して大爆発！　つまり「あの熱狂を作ったのは俺様」というわけ。……もちろん勘違いだと思います。

松下ミワ

本誌編集部。元・読者ページ担当。一部ではいまも〝読者ペイジ〟ジャクソンを陰で操っているともっぱらの噂。

▼山口百恵

これぞ、本気の引退！　日本武道館でファイナル・コンサートを行なったとき、私はちょうど1歳だったので、なんの記憶もないんだけれど、それでも「引退＝山口百恵」と言いたくなるのは、その姿勢があまりにも素晴らしすぎるから。人気絶頂のときに辞めたというのと、引退後にまったく表舞台に姿を現わさないということが、さらに百恵ちゃんの存在を伝説化させている。最近は、『You Tube』で百恵ちゃんの映像を見まくっているが、こんなに素敵なアイドルが引退を宣言するなんて、リアルタイムで見てた人はたまらなかっただろうなあ～。マット界にとどまらず、全ジャンルで検証してもやっぱり百恵ちゃんが一番です！

大川義之

08年に『Kami-pro』編集部に入社。おもにウェブサイトや携帯サイト向けの会見取材や大会速報などを担当。7年間住んでいた韓国の格闘技情報を集めるのが趣味。

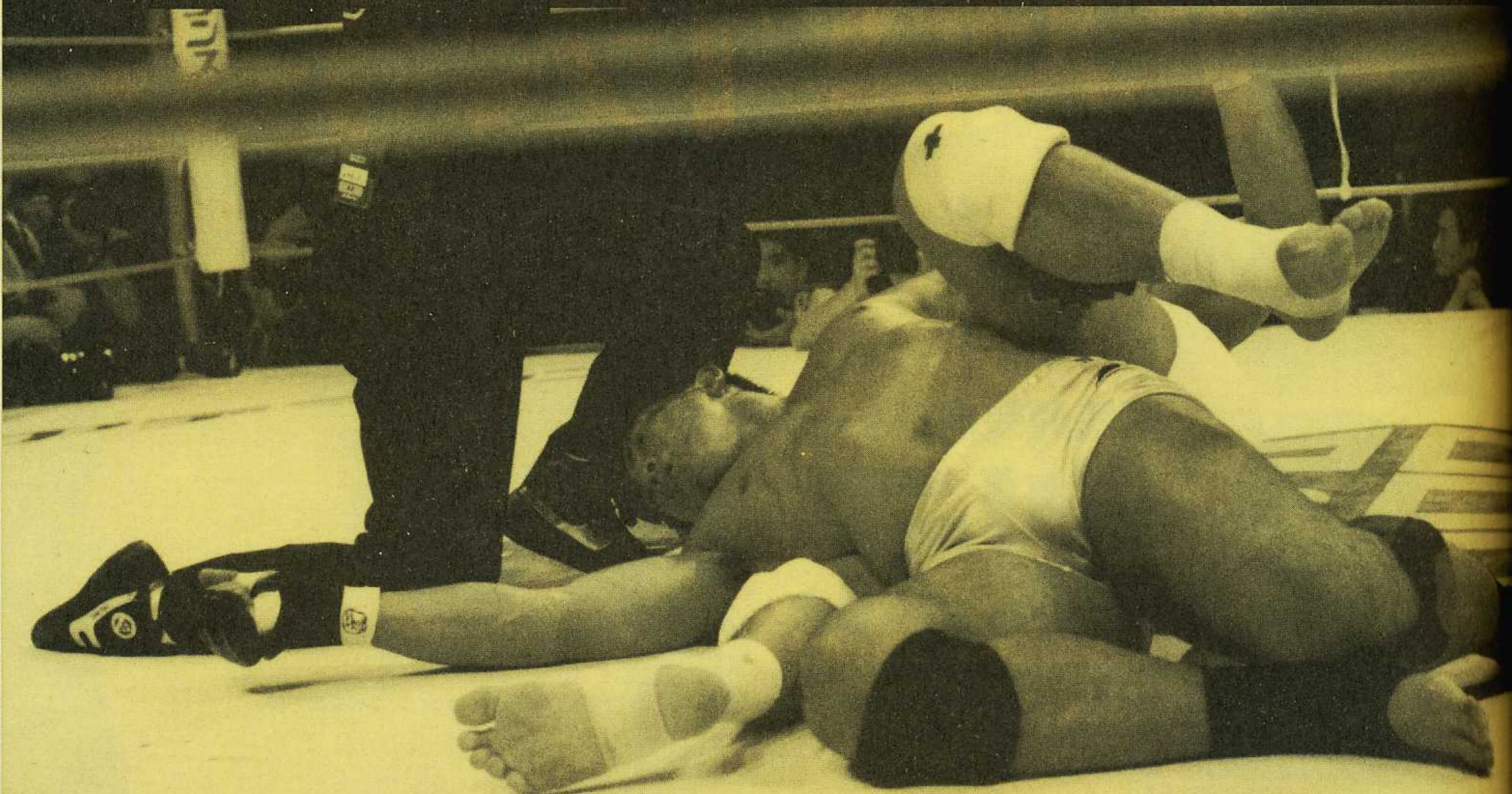
▼前田日明

前田の格闘技人生の後半部は致命的なケガをヒザに負い、満足に走れなくなって体重が増え、ファンや本人が思い描く〝前田日明〟像と乖離しながらも、団体のために闘い続けなければならないものだった。引退試合でも、最初に希望していたヒクソン・グレイシーとは闘えず、交渉が難航した末にアレキサンダー・カレリンと対戦した。本意でない状況にありながら、それらをすべて抱え込んで引退式を迎えた前田日明からは男のケジメのつけ方を学んだ。自らの引退とともに、リングスにKoKルールを導入し、ヒョードルやノゲイラ、ヘンダーソンといった優れたMMAファイターを参戦させて、自分のいた時代に一区切りつけたという意味でも鮮やかな男の引き際だった。

鈴木 佑

本誌編集部。この業界に入って最初にかかわった紙媒体が、黄昏の雑誌『KAKUTOUGI GRAPHIC UPPER』ということはかたくなに否定。

▼船木誠勝

『コロシアム2000』でヒクソン・グレイシーとの果たし合いに臨み、目を見開いたまま〝絶命〟した船木。花道で「15年間、ありがとうございました！」と、周りに相談することなく唐突に引退宣言した姿を含め、格闘技の残酷さと散り際の美しさ、そして船木特有のマッドネスな魅力を存分に見せてくれた。その日はリングサイドで、当時引退問題で揺れていた故・橋本真也も観戦。あそこまで船木にスパッと引退を切り出す姿を見せつけられたら、なんとも復帰しづらい思いがしたのではないだろうか？

なぜ引退するのか、そして
なぜ復帰してしまうのか!?

芸能界引退模様

国民的芸能ジャーナリスト

梨元 勝

国民的芸能ジャーナリスト・梨元勝が芸能界の引退を語る!
芸能界といえばマット界以上に引退&復帰が目まぐるしい世界だが、それはいったいなぜなのか!?
恐縮ながら、その人間模様に迫ってきた!

聞き手/松下ミワ

――今日は「引退」ということをテーマに、芸能界での引退、引き際などについていろいろとお話をおうかがいしようと思います！

梨元　はいはい。あのねえ、この引き際というのは本当に難しいんですよ。たとえば、そういうテーマになると必ず出てくるのが山口百恵だったりするわけですけど、やっぱり百恵はピークの手前で引退したというのがよかったんだよね。

――山口百恵さんの引退はいまだに伝説ですもんねえ。

梨元　それに対して、同じ中三トリオでも、森昌子なんかは森進一と結婚して引退したあと、また復帰して、あらためて所属事務所のホリプロがあれだけ応援して盛り上げたのに、結果的にはマネージャーと独立して中途半端な再復帰をしたりとかね。それから桜田淳子も統一教会の問題でいろいろあったでしょ。統一教会の霊感商法というのは最高裁でちゃんと違法の判決も出てますからね。そこの広告塔と騒がれるようになってから桜田淳子も目立った活動がなくなったわけだけど。

――三者三様ですね（笑）。

梨元　逆に、「やめます」って言ってやめない人もいるわけですよ。たとえば「普通の女の子に戻りたい」って言ったキャンディーズなんかはシッカリ復帰してますからね。ぜんぜん普通じゃないじゃん！　って。それは藤圭子だってそうで、「私、引退して歌は宝の箱にしまいました」って言ったけれども、宝の箱からすぐ出ちゃった、と。そんなもんおかしいでしょ？　そうすると、さっそく総論で言っちゃうけれども、やっぱり引き際って難しいんだろうなと思うんですよ。

――だからこそスパッと引退した人はカッコいいんでしょうね。

引退というのは正念場なんです みんな頑張ってきたわけだからね

梨元　それで言うと、たとえばみの（もんた）さん。みのさんはじつはもう長いお付き合いなんだけど、2年ぐらい前に「この波がもう10年早かったらよかったのに」って言ってたんですよ。そして「俺はあと3年だなあ」って。だから、たぶんみのさんはこの1年ぐらいで何かしらの結論を出すかもしれないと思ってるんですよね。

――『午後は○○おもいッきりテレビ』（日本テレビ系）も終わりましたし、もう引退を覚悟してるということですか？

梨元　そのあと政界に出るのかどうかはわからないけど。対抗して、久米（宏）さんの引き際の悪さね！　あれはヒドいですよ!!

今春、長年司会を務めた『午後は○○おもいッきりテレビ』（日本テレビ系）も終わり、一部では芸能界引退がささやかれているみのもんた。大橋巨泉や久米宏など司会者タイプの芸能人は傾向として復帰するイメージがあるが、みのははたして!?

――アハハハハ！　また経済番組の司会など、いろんな番組に出演されてます。

梨元　もう、い～じゃない！　『ニュースステーション』（テレビ朝日系）でお金を稼いだわけだし、なんだかグズグズやってるでしょ。みっともないからおやめなさい！　って。昔、安藤昇という安藤組のヤクザの親分だけど役者をやってた人がいるんだけど、この人がね、「おしんこは三切れ、賭けごとは見切り」って言ったんですよ。これはもう素晴らしいなと思ったんですけど、やっぱり見切りというのはけっこう器量がいるんですよね。これは一国の総理しかりでね。

――あ、確かにそうですね。

梨元　「麻生さん、あなたどうするの？」と思ってたら、見切りできなかったのが逆にいまいい状況になっちゃったりして（笑）。だから、どこで見切るかも重要なわけで、そうなると引退というのは本当に正念場なんですよ。みんなそれぞれ頑張ってきたわけだからね。だから、やっぱり百恵に戻るけども、百恵さんなんて本当に見事なんだよねえ。「もうやらない」って言ったことはずーっとやらないんだから。

――それこそ週刊誌ではたまに「山口百恵のいま」とかいって激写してたりしますけど。

梨元　確かにね、山口百恵の自叙伝の『蒼い時』（集英社文庫）なんていう本は文庫本になってますし、ときどき『赤いシリーズ』の再放送があったりしてますけど、彼女にしてみればそれは結果論の話であって、新たに『いい日旅立ち』を歌ったりすることなんてのはないわけだから。

――逆にそうなったらドン引きします（笑）。

梨元　でしょ？　それはやっぱり人は見てるわけだからね。

――でも、一度引退した人が復帰したりするのはどういう理由からなんですか？　もっと稼ぎたいということなんでしょうか？

梨元　いやいや、要するに人間は結局スポットライトなんですよ。久米宏もそうだし、それは大橋巨泉だってしかりですよ。『巨泉・前武のゲバゲバ90分!!』（日本テレビ系）や『クイズダービー』（TBS系）で一生の財産を築いたと思うじゃない。にもかかわらず、一時期は復帰して英会話の番組とかやってたでしょ？　だから、いいときを見ちゃうと人間はダメで、完璧にいい時期まで戻るということは僕はないと思うんだよね。

――確かに、引退前より成功してる人ってなかなか聞かないですね。

梨元　その人の飽和状態って絶対にあるわけで、主役の人は旬が短くて脇役だったら息が長いという話もあるけど、たとえば笠智衆さんなんかは名脇役で亡くなるまでやってたでしょ。だから一人の持ち分を早く使っちゃうかどうかなんですよ。だから久米さんなんて使いきってるんですよ！

――そうですか（笑）。

梨元　だから、久米さんなんかもかつての栄光を忘れられないんですよね。でも、もうそこにはいけないわけ。そこに戻ろうというのがそもそも間違いなんですよ。

――〝麻薬〟的なものがあるんでしょうかねえ。

梨元　だからおもしろいのが、NHKのニュース読んでるアナウンサーなんかがさ、テレビに出てるとみんなに顔を知られてくるわけじゃない。そうなるとサラリーマンだから困るわけですよ。近所の店かなんかに行っても、「わー、NHKのナントカさん」って言われるわけで、初めは困っちゃって「いやいや、やめてくださいよ」なんて言うんだけど、面倒だからって別の店に行ってみると、今度は何も反応がない、と。そしたらやっぱり寂しくなって声をかけてくれる店に戻ったっていう話もあるくらいだからね。

――はー！　NHKのアナウンサーでさえ。

梨元　だから人間の深層心理ってわからないよねえ。そういう意味では僕なんかでも危険なのは、このあい

だ京都に行ってビジネスホテルに泊まったんだけど、そこで「えーっと、すみません、どちらさまですか？」とか言われるもんだから、恐縮して「梨元勝です」って小声で言ったりしたんですけど、内心「ああ、俺も前田忠明よりもダメになったかなあ」とか思ったりね。

――梨元さんも中毒に（笑）。

梨元　シティホテルなんかだと、ちゃんと訓練されたボーイさんが立ってるから「あ、梨元さん、いつもありがとうございます」とか言ってくれるんだけど、やっぱそっちに行っちゃうんだよね。そうすると、帰りの新幹線の中で「みんなわかってるかな～」と思ってわざとキョロキョロして試してみたりしてね（笑）。

――嫌がりながらもまんざらでもない、と。

梨元　煩わしさと快感とは裏腹なんですよね。だからこそ引き際というのはちゃんとしないといけないんだなと思うわけですよ。で、また芸能界って定年退職とか、スポーツ選手でいう体力の限界がないじゃない。

――そうなってくると、プロレスや格闘技よりよっぽど難しいですよね。

梨元　でしょ？　オリンピックで400メートルリレーのアンカーを走った、あの朝原宣治選手なんかもそうですよ。限界を感じながらの引退というのはいいですよね。ただし、芸能界は熟練になっても充分できますからね。だって、いまやベテランの人が少ないから宇津井健さんなんて引く手あまたになるわけでしょ。津川雅彦なんかもいっぱいやってるしね。それはある意味では60歳を超えても堂々とできる世界だし、女優さんにしたって、いまは亡くなりましたけど藤間紫さんなんて85歳でも見事な色香だったよね。そういう人がまだやってるのは励みになるじゃないですか。

――女優はまたその引き際は難しいですよね。若くて美しい自分だけを見せるのか、年を重ねていく姿まで見せるのか。

梨元　昔、原節子さんという方がいたんだけど、あの人は「自分の老いた顔は見せられない」ということで42歳で引退したんですけど、マスコミって引退すると必ず探すじゃない。逃げれば追いかける、隠せば暴こうとするのがマスコミだからね。で、その原節子さんを『週刊文春』が垣根越しに撮ったんですよ。その後、TBSテレビがスチールと同時に映像も撮っちゃったわけ。そしたらテレビ局に「絶対に出さないでくれ」ということを永遠と言い続けたんですよ。それは彼女の美学だから、と。一方でさ、オードリー・ヘプバーンなんて自分が老いていく姿も全部見せてたじゃない。あそこがまたお国柄の違いかもしれないけど、凄いよね。

――両方かっこいいですね。

梨元　だから、全部見せるか、隠すかどっちかですよ。

――たとえば、芸能界でもしがみついてるように見える場合って、あれはどうしてなんですか？

梨元　いやいや、ギリギリな人はそうは見えないんですよ。たとえば藤田まことさんなんて60歳にして30億を超える借金を背負うわけですよ。それから『必殺シリーズ』を新たにやるわけですけど、それが凄くいい演技になるのは、自分で言ってたもん、「これがなくなったら俺は生活が大変なんだ。だから必死なんだ」って。たとえば昔は仕事がきても、売れてる頃は「ああ、またきたか」と思って流してやってたけど、借金を背負ってからは「もしこれで仕事を落としたらこの30億をどうするか」ということで、人間は必死になるんでしょうね。

――つまり、目標があるかどうかだ、と。

梨元　絶えずたいへんな状態であることがいいんですよ。

――逆に、たとえば加護亜依さんなんかはスキャンダルによって引退危機に追い込まれたじゃないですか。そこから這い上がろうとする姿は凄かったですよね。

梨元　加護ちゃんは俺もビックリしてね。たまたま知ってるプロダクションが彼女を引き受けるということになって、話を聞いてくれってことで会ったんだけど、聞いたらけっこうかわいそうなんだよね。タバコの問題は確かにいけないし、繰り返すこともいけないんだけど、彼女はお父さんが違う異父兄弟が何人かいるんだよね。その中で頑張ってて、やっと仲良くなったお父さんがいたんだけど、仲良くなったときにお母さんとの事情で離婚しちゃうわけ。だから、結局子どもたちを加護ちゃんが養ってる時期があったんですよね。

――複雑な家庭環境なんですねえ。

梨元　それでさ、やっぱり私は芸能界に戻りたい、と。で、インタビューしたんだけど、これが見事だったね！　要するに、いいかげんな気持ちじゃないんですよ。梨元を乗せておもしろおかしく復帰しようというんじゃなくて、しっかり僕と対峙して微動

芸能界でもギリギリの人は しがみついてるようには見えない

06年2月、まだ未成年だった加護亜依の喫煙シーンが週刊誌に激写され、あわや加護は引退に追い込まれたが、それから2年後、紆余曲折あってようやく芸能界に復帰。多額の借金を背負った藤田まこと同様、加護も必死な這い上がりを見せた。

芸能界引退の手引き

【山口百恵】
72年、オーディション番組『スター誕生！』で準優勝を飾りデビュー。『プレイバックPart2』『いい日旅立ち』など数々の名曲を、そして夫となる三浦友和と共演した人気ドラマ『赤いシリーズ』をヒットさせ国民的アイドルにのし上がる。しかし7年半の芸能生活を送り、なんと21歳の若さで引退。その後は見事なまでに表舞台から退いている。

【キャンディーズ】
77年、人気絶頂時に突如解散。「普通の女の子に戻りたい」という名言はあまりにも有名で、ラストコンサートを行なった後楽園球場には当時としては異例の5万5000人を集めた。しかしその後、伊藤蘭と田中好子は女優として、藤村美樹はソロ歌手として復帰。結果的には3人とも芸能界に戻ってきたのだった。

【藤圭子】
69年、『新宿の女』で歌手デビュー。ドスの効いた声が人気を博し、その後もランキング1位を独占するほどヒット曲を生み出した。79年、突然の引退を表明し世間を驚かせるが2年後に再デビュー。のちに娘・宇多田ヒカルが大ブレイクするが、06年、42万ドルの現金没収＆麻薬探知犬反応騒動が勃発、再婚した宇多田照實と離婚するなど、壮絶な人生を送っている。

【上岡龍太郎】
過激かつ流暢なしゃべり口で人気を博した男性タレント。00年、「僕の芸は21世紀には通用しない」という言葉を残し引退したが、過去に「ゴルフはやらない」といってゴルフに興じたり「マラソンはしない」といって走ったりと、言動が一致しない部分があったため、いつかは復帰するのではと思われたが、いまもなお表舞台には姿を現わしていない。

【大橋巨泉】
『11PM』『クイズダービー』など数々の人気番組に登場した名司会者。50歳前後で「セミリタイア」という言葉を使って第一線から退くことを宣言し、その後はカナダやオーストラリアなど海外で生活。近年では、日本に戻ってきた際に「○○、今度おまえの番組に出てやる」という上から目線のフレーズがセミ定着しているが、以前ほどの露出は見られない。

【都はるみ】
64年に歌手デビューし、同年『アンコ椿は恋の花』でいきなりレコード大賞新人賞を受賞。その後も『北の宿から』など名曲を生み出すが、84年に「普通のおばさんになりたい」と言って引退。しかし89年『紅白歌合戦』で復帰し、引退前と変わらぬ美声を披露。現在もなお精力的に活動している。

だから華原朋美なんかは芸能界に向く子じゃなかったんだよねえ

だにしないんですから。リストカットの話も全部さらけ出したんだけど、やっぱり私がいけなかったと言うんですよ。自分と向き合わないといけない、と。だから僕は「おいおい、これ20歳かよ」と思ったんだけど、このインタビューをインターネットやケータイで発信したのがまた同世代に響いてよかったみたいだよね。

――共感した人が多かったんでしょうね。

梨元 でもさ、それを和田アキ子が「あんなのおかしい。売名行為だ」って言ったんで、俺、カチンときてさ、和田アキ子批判を大展開したんだよ！

――そうでしたか（笑）。

梨元 そりゃないですよ、同じ事務所のあびる優の万引きはカバーしておいて。じゃあ、あなた芸能界で仕事してるのは売名じゃないのか、と。そういうのをガンガン書いたね。おかげで『アッコにおまかせ！』（TBS系）の仕事はなくなったけど、それでもいいと。それから、1年ぐらい和田アキ子の発言はずっとチェックしてたからね!!

――いったい何をやってるんですか（笑）。

梨元 加護ちゃんはいまもなかなかたいへんだから、どっかでインタビューできればと思ってるんだけど、一番ガックリしたのはさ、終わったあとに「梨元さんいくつですか？」って聞かれたんで「僕は64歳だよ」って答えたら、「うちのおばあちゃんと一緒だ！」だって。俺は孫にインタビューしてたのか……って思ったね（笑）。

――そういう意味では、芸能界って自分の身を削って商売しないといけないじゃないですか。そうなると精神的に追い込まれていく人もたくさんいると思うんですよ。

梨元 だから華原朋美なんかは向いてなかったと思うんだよねえ。やっぱり芸能界に向く子じゃなかったんですよ。にもかかわらず、小室哲哉によって成功するわけじゃない。そうなると彼女は翻弄されちゃうわけだからさ。

――『I BELIEVE』に始まって、怒濤のミリオンセラーを生みました。

梨元 小室と別れてプロダクション尾木という事務所に移るんだけど、華原朋美はその事務所から解雇されたんですよね。その事務所の社長である尾木さんという方はなかなかの人格者でね、「本当にあれは断腸の思いだった」って言うんですよ。要するに、彼女はもう芸能界じゃなくていいから、とにかく普通の女の子に戻ってほしい、と。芸能界は普通じゃないわけだからね。だから薬とかなんかを繰り返しちゃうわけだから。

――近くにいたら見てられないでしょうね。

梨元 だから芸能界というのはギリギリハングリーでね、逃げ場があるところじゃないんですよ。逃げ場がある人はラッキーで、今回の明石家さんまと大竹しのぶの子どもは初めからいいところからデビューするわけじゃない。ビートたけしの娘しかりね。でも、加護ちゃんなんかはオーディションの激戦区から這い上がってきたわけですよ。モー娘。のオーディションに必死に受かるわけじゃない。その中で失敗するんだから、それは重みが違いますよ。

――そう考えると、加護さんはドラマチックすぎますね。

梨元 たとえば山田まりやなんかも見事なんですよ。自分はこれでダメだったら風俗に行こうって決めてたらしいですから。ウチの娘（タレントの眞里奈）はそんなこと思ってませんからね！　最初は「お父さんみたいな仕事はイヤだ」って言ってましたけど、いまは「なんでもやる」って言ってますから。そんなのもう遅いですよ！

――娘まで厳しく批評するなんて、さすがです！（笑）。

梨元 それで言うと百恵はね、中学校で陸上をやってたんだけどケガしてあきらめて、で、新聞配達しながら家族を支えるわけだけど、それから芸能界に入るわけじゃない。その位置関係というのは、何かに恵まれて入ってきましたというのとは違うんだよね。で、もういまそこのパイは少ないんですよ。だって中流階級以上だということを意識している日本なわけだから、そんなことを背負って芸能界に入るということはないし、相撲なんかでも背負ってる人というのはモンゴルから絶対に一旗揚げるぞという人だったりするじゃないですか。

――確かにそうですねえ。

梨元 やっぱり豊かになってくると、人間は苦労しないようにしようとするわけだから。そうなると、中途半端な引退になるわけですよね。

――引退に重みがあるかないかは、業界への入り方も重要なんですね。

梨元 さっき言った藤間紫さんなんかも僕は30年、40年ずっと見てきたわけですけど、それと比べるとね、「そんなの関係ねえ」でパンツ一枚でやってるようなタレントが「最近は売れない……」とか言ってるけど、そんなのは1年もてばいいんですよ！（キッパリ）。

――ワハハハハ！　最近は一発屋であるということさえもネタになりがちです。

梨元 もう最初っからムリがあるんです！　『「そんなの関係ネエ」』が『グー』に押されてるんですよ」ってそんなのに付き合ってるヒマはないんだよ。だからテレビの質が落ちる、スポンサーがつかないみたいになるわけだから、悪循環なんだよね。

――引退という言葉も軽くなってしまいますよねえ。

梨元 どこまでいっても見せる仕事なわけだからね。入り方もそうだけど、そこの引き際というのもちゃんとしないとダメですよ。……そうなると、梨元、おまえはどうするんだという話になりますけど、僕に関しては引退はありません！　と。

――ワハハハハハ！　これだけ言っておいて自分は引退ナシ（笑）。

梨元 僕なんかはホントに歯が抜けようが、耳が遠かろうが、ヨレヨレになっても「え〜っと、恐縮です」って言いながらやろうと思ってるからね。

――なるほど。梨元さんはオードリー・ヘプバーン型でいきますか！

梨元 ただ、そう言っておいて前田忠明が「俺は消え去るのみだ」とか言うと、ちょっと「一緒に頑張ろうよお」なんて思っちゃうんだけどね（笑）。

【09年4月2日／都内・オフィス梨元にて収録】

なしもと・まさる■1944年12月1日、東京都出身。67年、講談社に入社し、『ヤングレディ』を制作。その後、テレビ朝日の『アフタヌーンショー』でテレビデビューすると、局を問わず幅広い番組で活躍。最近は、ケータイサイト『梨元・芸能！裏チャンネル』やHP『梨元勝の恐縮です！』へと主軸を移し、貴重な情報を提供している。合い言葉は「恐縮です!!」。

確実に"オードリー・ヘプバーン型"の松田聖子。いまだにアイドル路線を貫いている聖子だが、あまり芸能界にしがみついているように見えないのは、彼女の居場所が誰にも踏み込めない聖域だからということか。

――じつは、今回の本誌の特集テーマは「復活」なんです。ということで、

GK　おい、遠い目をするな！

――間近で接してみてどうでした？

ということを聞きつけて乗り込んだんですよね？

る男だからね。ただ、ファッションにうるさい私から見ても、服を着て

小松　お言葉ですが、上井駅は探検直後に消滅してしまいましたが？

GK　シャーラップ！　しかし、取

GK隊長
金沢克彦
かなざわ・かつひこ■通称GK。元『週刊ゴング』編集長。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』やサムライTVなどで解説も務める。ウェブサイト『kamipro.com』ではコラム「こちらプロレス村役場ドットコム」を連載中!

小松隊員
小松伸太郎
こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。井上崇宏総帥率いるペールワンズ所属。元相撲部という異色の経歴を持つ肉体派。GK隊長とは以前から親交があり、隊長との掛け合いでプロレス界の謎を数々解き明かしてきた。

引退!!

死と再生
引退と復活

かえってきた暴走企画
プロレス探検隊
GKスペシャル
プロレス探検隊
最終回スペシャル

彼らは探検の旅がここで終わることをまだ知らない……。

じつはこの企画を収録する前は本誌の特集テーマは「復活」となる予定だった。
しかし、魔裟斗の引退発表などの影響でテーマが急きょ「男の散り際」になってしまった!
そんなこともつゆ知らず、GK隊長と小松隊員はひさしぶりの探検隊コスチュームで
意気揚々と編集部にやってきたのだった。これが最後の探検となることも知らずに……。

聞き手／坂井ノブ　構成／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　探検撮影／山口比佐夫、平工幸雄

ぶっちゃけインリン様の探検が一番幸せでしたけどね（ニヤニヤ）［小松］

――じつは、今回の本誌の特集テーマは「復活」なんです。ということで、そろそろプロレス探検隊も復活させようじゃないかという気運が編集部内で高まっておりまして。

GK フフフ、私の勇姿をまた拝みたいという声が多数殺到したというわけだな。まあ、「私、アイドル」と言いながら、かわいくないアイドルは最悪で、探検隊が探検をしなかったらカッコがつかないからな。

小松 お、隊長！ なぜか今日はイチロー調ですね！

GK 黙って話を聞け！ で、今日は何を探検すればいいのかな？

――いえ、今日は初心に返るということで、お二方にこれまでの探検を振り返ってもらいたいんですよ。

GK なるほど！ では、我が栄光の足跡を振り返ってやろうじゃないか、なあ小松隊員よ！

小松 ラジャーです！

――記念すべき1回目はインリン様とインリン・オブ・ジョイトイさんを取材したんですよね。

小松 ぶっちゃけこの探検が一番幸せでしたけどね（ニヤニヤ）。

GK おい、いきなり結論を言うな！ まあ、フルコスチュームのインリン様にあれだけヒールで踏んでもらって、ムチで叩いてもらったんだから無理もないが。

小松 いやぁ、良かった……（遠い目）。

GK おい、遠い目をするな！

――間近で接してみてどうでした？

GK しゃべってみたらまったくもっていい子って感じだった。ただ、キャラのインリン様と素のインリンの境界線が崩れかかっていた時代だったから、ちょっとしゃべり方に苦労していたよね。また、そこで困っているのがかわいらしかったなぁ。

――小松隊員はいかがでしたか？

小松 まあ、なんといっても、あの適度に柔らかそうなウエストは本当にねぇ、ムフフ。

GK だから、遠い目をしながら思い出すな！

――まあ、しばらくほっときましょう。で、2回目はG・B・Hですね。

GK この時点でちゃんとヒールだったのは真壁（刀義）だけだったよね。越中（詩郎）さんはキャラを変えようがないし、天山（広吉）もヒールっていうくくりじゃないからね。

――じゃあ、のちに分裂することは……。

GK うん、読めてた！ それに写真を見ると、この時点で天山はすでに影が薄いもんね（笑）。

小松 もう、不幸の予兆が見えていましたか（笑）。

GK 見えてた！

――そうですか（笑）。で、その次が武富士ダンサーズですね。

小松 これは全日本プロレスの横浜文体大会に武富士ダンサーズが出るということを聞きつけて乗り込んだんですよね？

GK そうそう。じつはこの日は隊長の体調が悪かったんだよな。

小松 隊長の体調……、ダジャレですね？

GK そこは拾わんでよろしい。『Gリング』の創刊前でね、営業やったりとかその準備で……。

――しかし、そんなことおくびにも出さずにダンスに挑戦しましたね。

GK 本当は自律神経がおかしくて、動悸がひどかったんだけど、なんといってもお気に入りのマミさんがいたしね！

小松 僕は僕で、カカトに裂傷を負っていたんですよ。

――はぁ、何があったんですか？

小松 この探検の2～3日前に家のドアの角でカカトを削ってしまって、大流血していたんです。

GK 自分の不注意を自慢するな！ しかし、二人ともボロボロになりながらもやっていたんだよな。

――探検の裏には人知れず意外なドラマがあったんですね。

GK そういうことです！ まあ、踊ったことで逆に血行が良くなったのは不幸中の幸いだったね。おかげで隊長の体調も回復した！

小松 またダジャレですか……。

GK シャラップ！

――武富士ダンスにはそんな効果もありましたか（笑）。で、次は蝶野（正洋）さんのアリストトリストに行きましたね。二人とも蝶野さんのコーディネートで本当にカッコよくなりましたよ。

GK まあ、私はなんでも着こなせる男だからね。ただ、ファッションにうるさい私から見ても、服を着てもカッコいいプロレスラーって蝶野正洋ぐらいじゃないかな？

小松 おっしゃるとおりです、隊長。

GK でも、話はまじめだったよ。蝶野も興行のプロデュースとかをし始めた時期だったからなのか、自分を素直に出してくれていたよね。

――なるほど。で、続いては『UWAI STATION』のラッキィ池田のプチシルマ体操と長州小力のパラパラの対決になぜか介入してしまいました。

小松 そういえば、レダの加畑雅之社長が隊長のツナギを見て、「おい！ テレビ朝日が来ているぞ！」って興奮していたらしいですね。

――ハハハ！ じつはなんの関係もない人たちだったという（笑）。

GK コラ！ 私はこのツナギを着る前に、ちゃんとテレ朝のプロデューサーに許可をもらっているんだから、あながちハズレではないんだよ！

――失礼しました（笑）。ところで、小力さんとは初対面だったんですか？

GK 初めて。泉州力とはDDTの煽りVTRで共演したことがあったんだけどね。

――いつの間にそんなお仕事を（笑）。で、続いてはシュートボクシングのシーザージムに行きましたね。じつはこの探検の翌日に『K―1 WORLD MAX』でアンディ・サワーが優勝したんですよ。

GK まさに我が探検隊の御利益！ 私が探検した団体や選手は成功を収めるというジンクスがあるんだよなぁ（得意げ）。

小松 お言葉ですが、上井駅は探検直後に消滅してしまいましたが？

GK シャーラップ！ しかし、取材場所にいたラウンドガールがまたね……フフフ。

小松 皆さん、エロい格好をしていましたよねぇ（ニヤニヤ）。

GK ところが！ アンディの野郎が来たら、「キャー、アンディー！」ってみんな向こうに行っちまいやがんの！ ガックリしちまったよ！

小松 隊長、落ち着いて！ 僕なんか宍戸（大樹）選手に投げられて、首を痛めたんですから。

GK それは知らん。で、次は？

――その次は小松隊員に単独で茨城県つくば市にオープンしたタイガー・ジェット・シンのカレー屋に行ってもらいました。

ライオンは我が子を千尋の谷に落とすというが、GK隊長は非情にも虎のいるレストランに小松隊員を送り込んだ。だが、泣きわめく小松隊員を見送る隊長のうしろ姿には、なぜか安堵感が漂っている。

プレイバック プロレス探検隊はこんな大物と数々の激闘を繰り広げてきた!!

本誌115号

vs 長州小力

長州小力の「なあ、金沢!」が炸裂した伝説の取材。小松隊員はサソリ固めも食らったが、撮影中のGK隊長は「これを御大が見たらなんて言うかなぁ」と気をもみながらパラパラを踊っていた。

本誌115号

vs ラッキィ池田

「プチシルマ体操とパラパラはどっちがプロレスだ?」というテーマだったような気がします(うろ覚え)。もはや謎解きよりも楽しけりゃいいやというテーマへと企画が変貌していった頃。

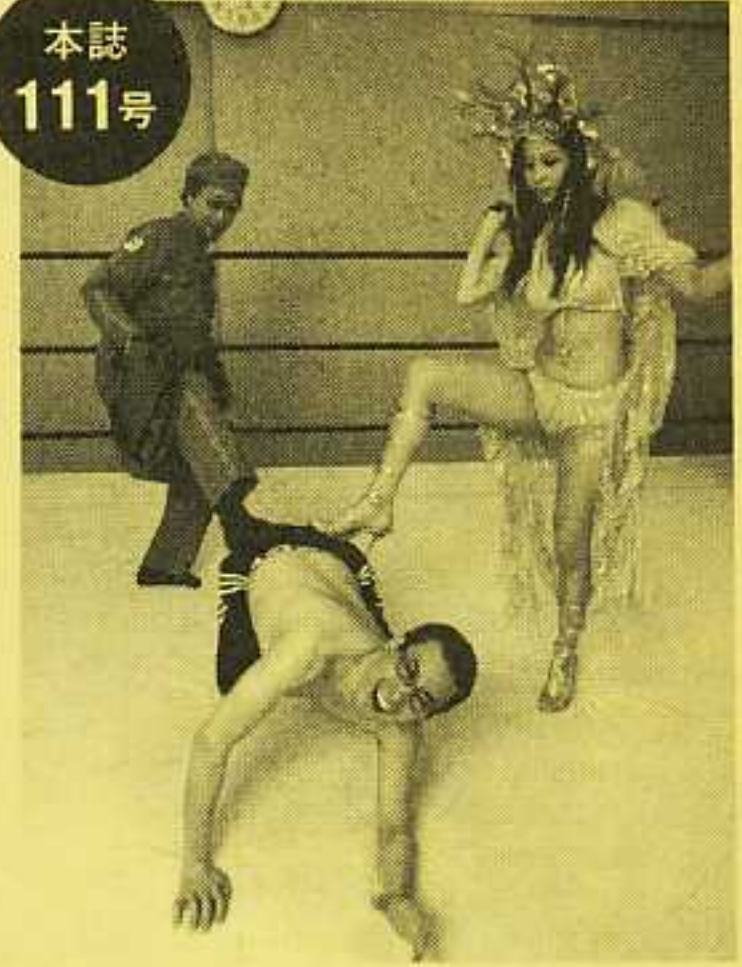
本誌114号

vs 蝶野正洋

「ファッションとプロレスの関係を探る」というボンヤリした謎を探求しにアリストトリストへ。蝶野本人のコーディネートにより、探検隊が意外なほどカッコよくなってしまった!

本誌112号

vs G・B・H

「ヒールってじつはいい人なんじゃない?」というテーマをヒール本人に聞きにいくという命知らずな探検隊。案の定、返り討ちに。だが、思えば天山の運命はこのへんからおかしくなっていた?

本誌111号

vs インリン様

初の探検はインリン様による伝説のムチ投げロープエスケープを再現しようと挑戦するも失敗。小松隊員は裸にされてお仕置きのムチを受けたが嬉しそうだぞ!? 隊長の動きも見逃せない。

本誌124号

vs"モンスターK"川田利明

ハッスルがローソンとコラボして弁当とカレーパンを出すという噂を聞きつけた探検隊が試食会に潜入! 美食家・モンスターKのウンチクを聞きながら食べるカレーパンの味は最高だった。

本誌121号

vs 永田裕志

脳という一歩間違えば生命に関わる重大な箇所の負傷で欠場していた永田さんを励ますためにやってきた探検隊。永田さんも最高の笑顔で迎えてくれました。一番平和な探検でした。

本誌117号

vs タイガー・ジェット・シン

茨城県つくば市にオープンしたシンのカレー屋に小松隊員が一人で乗り込んだ探検隊史上最も命が危険にさらされた取材。インタビューで猪木酒場の話をしたら激高して二度殺されそうになった。

本誌116号

vs アンディ・サワー

K-1 WORLD MAX前日にシーザージムを探検していたら、なんとアンディ・サワーが登場! 探検隊の御利益もあり(?) サワーは見事に優勝。探検隊ってやっぱ凄い!

本誌116号

vs シーザー武志

意外にも過去に接点があったGK隊長とシーザー会長。昔話に花を咲かせつつ、プロレス業界で最もSB通を自認する隊長はSBが誇るラウンドガールに熱烈取材を敢行した。

思い出の探検ナンバーワン!

本誌119号

vs 太鼓奏者・茂戸藤浩司先生

最初は変な音しか鳴らなかったが、GK隊長も小松隊員も汗だくになりながら、先生の熱血指導を受けて、いい音が鳴るまでに成長した感動巨編。「太鼓は闘いである」という真理が見つかりました。

本誌115号

vs 上井駅長&ともちゃん

プチシルマ体操のCMでもおなじみのともちゃん&上井駅長ともガッチリ握手。いつもの上井節で「私も探検隊に入りたい!」と語った駅長の熱さが、いまではとても懐かしい気がする。

本誌113号

vs 武富士ダンサーズ

当時、全日本プロレスの休憩時間を華麗に彩っていた武富士ダンサーズに体験入門! あの高度なダンスを習うという無謀とも思える挑戦だったが、最後には美しく決まった!

Special 2008 SPRING

vs ジャイアント白田

大食いでハッスル出場をはたしたジャイアント白田に探検隊がホットドッグの早食いで挑戦! しかし早食いのはずが、なぜかGK隊長はゆっくりと味わって食べていた。ダメじゃん!

Special 2008 WINTER

vs 横山くん&山田くん

当時、ZSTでスーパー高校生コンビとして話題だった横山大輔くんと山田哲也くんに挑んだ探検隊。ちなみにGK隊長が「長州って知ってる?」と聞いたら「小力ですか」。年齢差を実感しました。

食も女性もいいけど、やっぱり

小松　いや、もう本物ですよ!
GK　うん、本物に触れた! いまで
小松　もちろんですよぉ!
GK　お、小松隊員、珍しく意見が

"GK隊長"と"小松隊員"が選ぶ

食も女性もいいけど、やっぱり本物に触れたことが一番［GK］

小松　そうだ！　なぜか、六本木で無理やり車に押し込められたんだ！

GK　だって、シンはガチで嫌だったんだもん。何度か襲われてるから。

——そんな経験がありましたか。

GK　じつはあの日、全日本に参戦していたアブドーラ・ザ・ブッチャーも六本木の同じホテルに泊まっていて、シンと一緒に食事をしていたところをタイガー木原リングアナが発見しているんだよね。ちなみにお金を払ったのはブッチャーらしいけど。

——貴重な情報ありがとうございました（笑）。それから高校生ファイターとも絡んだんですけど、この中の一人の山田哲也くんは大出世して『戦極』のフェザー級GPに出ました。

GK　あ、この写真のキャプション、ダブルアキレス腱固めって書いてあるけど、私がやっているのはヒールホールドだから！

——ええ？　そうだったんですか？

GK　うん。普段は封印しているけど、私のヒールホールドは危険だよ（ニヤリ）。

小松　封印を解く場面なんてあるんですか？

GK　（無視して）あとはジャイアント白田のところにも行ったでしょ？

——ホットドッグの早食い対決をやりましたね。

小松　僕はあの日、ホットドッグを5本ぐらい食べたんですけど、まあ次の日の胸焼けのひどいこと！　つくづく、フードファイターの胃の丈夫さに感心しましたね。

GK　卑しくなんでもがっつくからだ！　さあ、次は？

小松　太鼓ですよ、太鼓ぉ！　なんたって、この太鼓が一番感動しましたよぉ！

GK　太鼓は良かったね！　一番やり遂げたという感覚があったからね。

——あ、そうなんですか？　二人とも大絶賛ですけど、太鼓は何が良かったんですか？

お色気たっぷりな感じの探検を選ぶかと思っていたら、意外にも探検隊は二人とも髙田延彦のふんどし暴れ太鼓の師匠・茂戸藤浩司先生の探検をベストにチョイス。ちょっと意外だった!

GK隊長と小松隊員の探検隊はこれで引退!! 復活はあるのか!?

小松　いや、もう本物ですよ！　いままでも覚えているよ、茂戸藤（浩司）先生から教わったあのリズム。「レイザーラモンと五反田行った！」、「ハッスル、ハッスル、ハッスル、ビターン！」。

GK　うん、本物に触れた！

小松　またね、先生の太鼓の音が本当に感動的なんですよ。

GK　そう！　心技体がちゃんとしてないかぎりはこの音は出ないっていうのを教えてくれたよね。

——なるほど。で、その次はちょっと期間をおいて……。

小松　永田裕志選手のお見舞いですね！

GK　ちょうど桜が咲いていてね。あの頃は脳の病気で欠場していたのに、1年経ったらチェーンデスマッチやってるんだからね。それからまた間隔が空いて、ハッスルの弁当を食わなかった？

——あ、ローソンの試食会だ！

小松　思い出した、ハッスル軍とモンスター軍がそれぞれローソンからお弁当を出して、対決したんだ！

GK　あの弁当もうまかったよ。やっぱり、食はいいね。あと、女性！　でも、すべてを超越して、本物に触れたことが一番かな？

小松　太鼓はすべてを凌駕していましたね。

——じゃあ、ベストは太鼓ですか？

小松　もちろんですよぉ！

GK　お、小松隊員、珍しく意見が合うじゃないか！

——じゃあ、2位は？

小松　僕はもうインリン様！

GK　私は武富士ダンサーズにしよう。意外にみんな年齢不詳だなっていう感じだったけど、マミちゃんは掛け値なしにビューティフルだった。

——何気なく失礼なことを言っているような気がしますけど、第3位は？

GK　まあ、そうなるとインリン様だね。

小松　僕はシンのカレーですね！　本当にあのカレーはおいしかった！

GK　結論は出たな！　よ～し、小松隊員よ、気持ちも新たにまたプロレス界の謎を求めて、探検に出るとするかぁ!?　向かう港は一つだッ！

小松　ラジャーです、隊長！

——あのう、盛り上がっているところ申し訳ないんですが、いまさっき編集部のほうから特集のテーマを「復活」から「男の散り際」に変更するという通達がありまして……。

GK　へ、散り際……？

——ええ。つまり引退です。プロレス界の謎も当面見当たりませんし、プロレス探検隊も今回で引退ということにしたいんですが……。

GK　おい、聞いてないぞ、そんなこと！

小松　なんと理不尽な！

GK　謎だったら、安田忠夫が働いている養豚場とかあるじゃないか！

——男は散り際が肝心ですよ！　では、アディオス！

【09年4月2日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

“GK隊長”と“小松隊員”が選ぶ 心に残る引退エピソード

金沢克彦

自分が長州番だったことを実感した引退試合

98年の1・4東京ドーム大会において、46歳で引退試合&引退セレモニーを行った。そのとき初めて自分が“長州番”であったことを実感した。もちろん、引退試合のリポートを担当し、「これ以上はない、男の引き際、男のケジメ。さらば、長州力。あなたに会えてよかった」と締めた。だけど、その2年7カ月後に、大仁田戦で電撃復帰。引退発表直後のインタビューでは、「もし俺が復帰したら、金沢の周りを三べんまわって股の下を潜ってやるよ！」と言っていたのに。かといって、そんな恐ろしいことはやってほしくない。あの長州をして……これは屁理屈ではなくて、プロレスラーは死ぬまでプロレスラーなのだと思う。

小松伸太郎

森喜朗前首相を巻き込んだ馳浩の引退試合

引退と聞いて思い浮かぶというわけではないが、全日本プロレスの06年8・27『プロレスLOVE in 両国』で行なった引退試合があまりにもおもしろすぎて印象深かった。森喜朗前首相をリングサイドに招待するだけでなく、試合にまで巻き込んだのはさすが。TARUに襲撃された森前首相のSPが、本当に謹慎処分を食らったという後日談も最高だった。

やるしかねえ!!

五味隆典よいまこそ魔裟斗と

撮影／平工幸雄

死と再生
引退と復活

いまこそタオルを剥いで、フルチンになれ!!

“俺たちの”五味隆典座談会!!

死と再生
引退と復活

「判定？ ダメだよKOじゃなきゃ！」と連勝街道を突っ走り、
PRIDE絶対王者として君臨した五味隆典の不完全燃焼が続いている。
僕たちの好きだった五味はどこへ行ってしまったのか？
いまこそ再起を祈願する緊急座談会開催!!

構成／真下義之　大会撮影／乾晋也

―皆さん、ついに〝あの男〟が復活しますよ！

橋本　……ん？　誰が？

―あの男といったら、あの男しかいないでしょ。

橋本　もしかしてミッキー・ローク？　試写会で観た映画『レスラー』はホントに泣いたよ！　とくにラストシーンが……。

ガンツ　（さえぎって）俺はまだ観てないんでその話はよしてくれる？（真剣な表情で）。

―はいはい、つかみのネタはそこまで。五味隆典のことです。

橋本　5月10日の修斗JCBホール大会で復帰戦を行なう五味ね。修斗に復活するのと、リングに復活するのと両方で。

―修斗のリングで現役王者の中蔵隆志と闘うっていうのは、五味のニュースでひさびさに心が躍るインパクトでしたね。

ガンツ　北岡悟戦以降の本格的な出直し戦が決まったということだよね。

―というわけで、この機会にあらためて五味隆典を考えてみてもいいかな、と。そこで五味隆典となんとなくゆかりの深いお二人の登場なんですよ。

橋本　なんだよ、なんとなくゆかりが深いって（笑）。俺は携帯サイト『ｋａｍｉｐｒｏ Ｍｏｖｅ』のコラムでも書いたけど二つの思いがあるんだよね。まず五味に思ったのは、「こりゃ、おもしろいぞ！」と。復活の舞台に古巣の修斗を選ぶのがおもしろいし、修斗の世界チャンピオンっていうシンドい相手を選択したのも凄いなって。

―そこはホントに興味深いですよねぇ。どっちが勝つのかまったくわかんない。

橋本　ただ、一方で「これが消去法で決まったことならイヤだな」とも思ったんだよね。ＵＦＣとかＤＲＥＡＭに移るのもおもしろい選択なんだけど、それにはエネルギーを使うわけでしょ。で、『戦極』で出直すと北岡の下からの再出発になる。そういう面倒くさいことを避けた結果として、温かく迎えてくれるであろう古巣を選んだってことならちょっとな、と。ただ、いずれにしてもリスキーだよ。あたりまえだけど中蔵って弱い選手じゃないから。

ガンツ　俺も中蔵戦は凄く興味あるんだけど、復帰の舞台としてはちょっとまとまりがよすぎる気もするんだよな。ＰＲＩＤＥでライト級の頂点に立った五味隆典がここまで堕ちたわけじゃん。じゃあ、せっかく堕ちたんだったら、復活したときによりドラマチックになるように、もっと苦しんでほしかったんだよね。この前、本誌で玉ちゃん（玉袋筋太郎）とも話したけど、もうドヤ街を徘徊するようなコクのある展開になるとかさ（笑）。

橋本　『あしたのジョー』ばりに五味が地方の草バーリ・トゥード大会に出てたら凄いけど（笑）。

ガンツ　だから中蔵戦はいいけど、変態

座談会出席者

橋本宗洋
フリーライター。本誌執筆のほか携帯サイト『ｋａｍｉｐｒｏ Ｍｏｖｅ』でも連載コラム執筆中。業界最重量ライターとして知られていたが、昨年ダイエットに成功。現在、若干リバウンド中？

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファン、ＵＷＦ信者としてならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去も持つ。人気企画・変態座談会主宰者としても活躍中。

［司会］ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟こと伝説の麻雀師・桜井章一の内弟子を経て、『ｋａｍｉｐｒｏ』編集部へ。永久電機などアントニオ猪木の怪しげな事業の調査や破綻系興行の観戦をライフワークとする。

的にはいい意味でもっとヒドい展開を期待していたというか（笑）。「もっと苦し

勝った石田（光洋）がクローズアップされてったんだよね。で、五味は不本意ながら

―で、最近の『ｋａｍｉｐｒｏ』には、五味は出ていないんですよ。

の条件は飲めないだろうなぁ。待てよ！
……ということはほかの格闘技雑誌はそ

的にはいい意味でもっとヒドい展開を期待していたというか（笑）。「もっと苦しませてくれ！」「もっと溜めさせてくれ！」っていう部分はあるね。

橋本 アメリカの小さなMMA大会にポツンと出たり、タイの新聞で「このムエタイの試合に出てる日本人、五味じゃない？」みたいな（笑）。

ガンツ いいねぇ。そういう風の便りが聞こえてくるような。

——この時代に風の便りって（笑）。変態の妄想ですよ、それ！

ガンツ （無視して）ヒゲ面になって、安田忠夫ばりに山奥でブタの世話をしていたりさ（笑）。

——そうかあ。じゃあ、二人が望む五味隆典の復活像とは溝があるってこと？

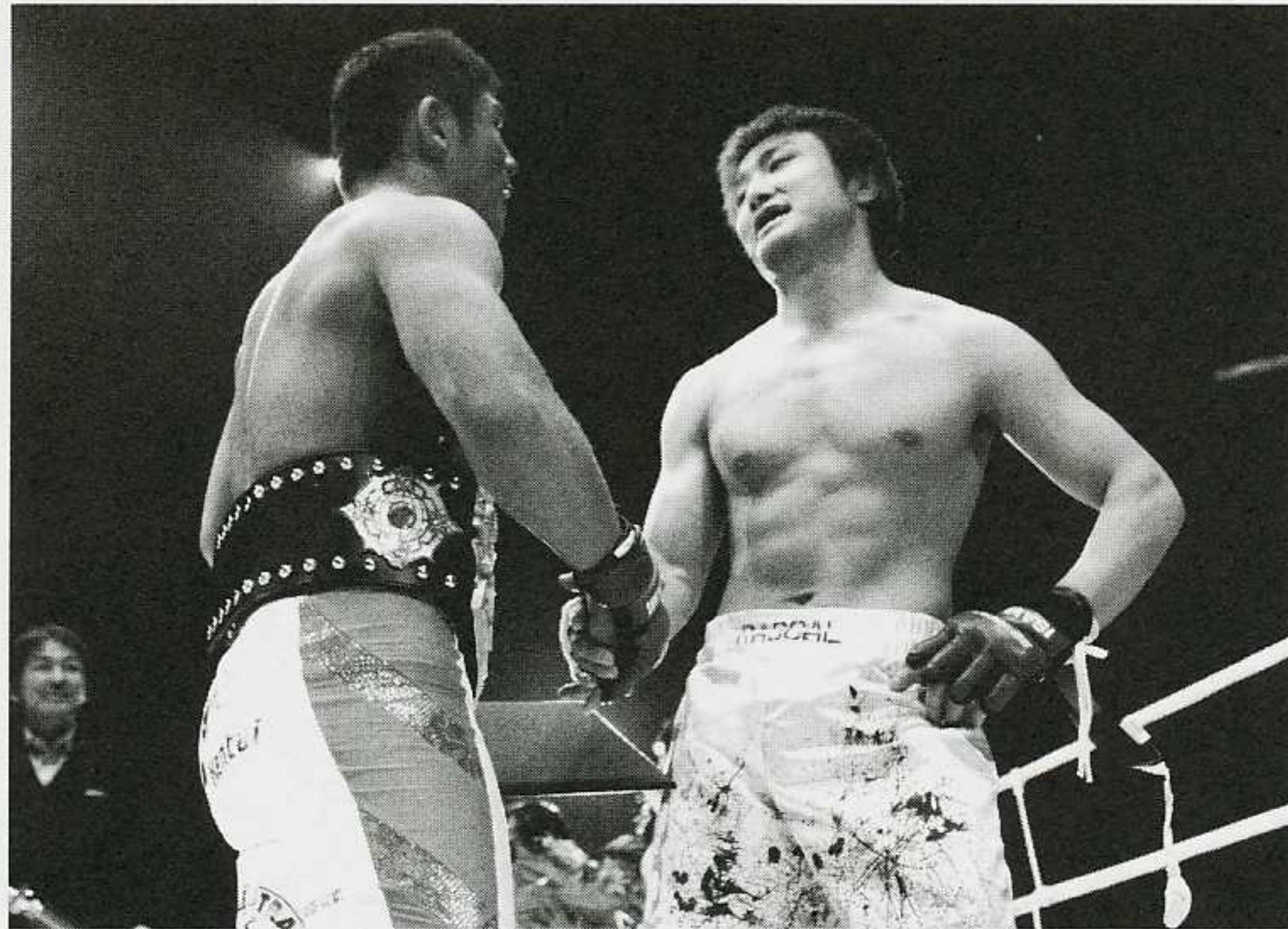
橋本 100点ではないって感じかな。溝ってことでいうなら、俺は五味の『戦極』での立ち振る舞いに感じてんだよね。五味が先頭に立って『戦極』の未来を切り開く！ という姿勢があればロマンはあったんだけど。主催者の本意ではないかもしれないけど、ライト級トーナメントが〝ロード・トゥ・五味〟になって、「五味は別ワクで出ない」ってことになると「俺の好きな五味はそうじゃない」って思っちゃうんだよ。『PRIDE武士道』時代は、「あんなヤツと一緒にすんな！」と嫌悪感を丸出しにしながら、常に目の前の敵と闘い続けてたわけだから。

ガンツ ただ、五味の〝上がっちゃった感〟はPRIDEの時点でもすでにあったよね。桜井〝マッハ〟速人戦で王者になって、本人の中で上がりきっちゃった部分があって。

橋本 そのあとマーカス・アウレリオに負けて、再戦の流れの中でアウレリオに勝った石田（光洋）がクローズアップされてったんだよね。で、五味は不本意ながらも石田と闘ってブチのめした。あの番長バージョンの五味は美しかったよねぇ。

ガンツ 〝ワル五味〟誕生まではホントに凄かったですよ！

橋本 周りから焚きつけられて、そのイラ立ちをおもいっきり出してね。それが魅力的だった。でも最近の五味は、焚きつけられること自体を嫌がってるように見えたんだよ。五味をイラ立たせる状況を『戦極』が作ってこなかったとも言えるけど。

ガンツ 上昇志向が五味の魅力だったから、ここ2年ぐらいは正直、五味本来の魅力からほど遠かったよ。

1.4『戦極の乱』での敗戦後、「初防衛戦は五味とやりたい!」と勝ってなおかつ五味を挑発する北岡に、「負けちまったな」と苦笑いする五味。だが、我々が観たいのは悔しさを爆発させる"剥き出しの五味"なのだ。

五味本人の意向かわからないけれど 五味サイドから注文が多くなって（斉藤）

——で、最近の『kamipro』には、五味は出ていないんですよ。

橋本 確かにインタビューではしばらく出てないね。

ガンツ 一年前、俺が『戦極』旗揚げ戦が終わった晩に五味が打ち上げをしている吉祥寺の焼肉屋に繰り出して、和やかな雰囲気でインタビューしたんだけど、それっきりかな。

橋本 でも、取材のオファーはしてるんだよね？

——そうですね。ただ、五味本人の意向かわからないですけど、五味サイドからいろいろと注文が多いんですよ。「表紙かどうか」「五味と同じ階級の選手より、記事は必ず前の位置にしてください」「ほかの選手に五味のことをしゃべらせるのか」とか。

橋本 ほほう。

——確かに五味はスターだけど、旬の選手やカードによって、その時々の扱い方は変わってくるじゃないですか。それは決して五味を軽んじてるわけじゃなくて。

橋本 雑誌だから当然だよね。

——で、要求は飲めないから見送っていたら、五味サイドからすれば「DREAMばっかり取り上げて！」となっていったんじゃないかなあ。

橋本 疎遠になる典型パターンだなぁ（笑）。

——五味本人がどう思ってるかは知らないですよ。ただ、五味サイドからとても飲めない要求があったことは事実です。

橋本 まぁ、『kamipro』的にはその条件は飲めないだろうなぁ。待てよ！ ……ということはほかの格闘技雑誌はその条件を飲んでるの？

——飲んでるんじゃないですか？

橋本 ええ〜。そうなんだ？

——その要請を受けてから、他誌の順番をチェックしてたんだけど、たとえば五味が青木真也よりもうしろにきたことはなかったですから。

橋本 そういえば……俺が覚えてる限りで青木のあとのページに五味を持ってきたのは『Number』（文藝春秋）くらい？

——そう。業界外の『Number』だからできたんでしょうね。でも青木の台頭が著しかったのか、そのうち五味より前に載せる媒体が増えていきましたけどね。でも、そっちのほうが五味にも青木にも失礼でしょう。

ガンツ 政治的な判断でやってるってことだもんね。でも、軽量級なんて常に勢力分布図が変わっていくから「ここだけは勢力分布図は変わりません」なんて要望は受けられないよね。

橋本 スポーツで絶対不動の地位なんてありえないことなのに「闘い以外で序列をあらかじめつけてくれ」と言われたら困るなあ。

——もうね、お願いだから現役ファイターは『kamipro』を読まないでほしい（笑）。

ガンツ そうだそうだ！（笑）。

——勝手な妄想しか書いてないんだから（笑）。で、今回、五味サイドとの裏側を出

RIDEの地上波放送がなくなっちゃったんだよね。

ウバとやりたい」って言ってたじゃない？あれも格闘技を知らない人から何度も「シ

ガンツ　ただ、1年前にUFCのロジャー・フェルタにインタビューしたときには

20代最後の
のハン・ス
勝負でKO狙
。

ここ2年ほど、自分を追い込むような練習はできてなかったんでしょう（堀江）

すことで決定的に関係が悪化するとは思いますけど。ただ、こういう問題もひっくるめないと、いまの五味隆典は考えられないと思うんですよ。

橋本　五味自身だけじゃなく、五味をめぐる状況を考えなきゃいけないよね。

――実際、「最近の五味はどうしちゃったんだ！」と思ってるファンは多いと思いますし。

橋本　昨年は内容のよくない試合が続いていたし、それでも北岡戦では「あそこまでボロクソに言われたら爆発するのが五味だよな」と思ってたら完敗して。

ガンツ　北岡戦の結果は調子が悪いとかじゃなく、あれがここ2年間の五味の結果でしょう。逆に活躍している選手はこの2年間の積み重ねが出てるわけじゃない？

橋本　スポーツとしてはあたりまえだけど。スポーツ選手の2年間って長いからね。

ガンツ　BJペンは「いまの五味は格闘技に対してシリアスだと思えない」って言ってたけど、この2年、ホントの意味で自分を追い込むような練習はできてなかったんだろうなって。そこが北岡戦で透けて見えちゃったというか。北岡戦前はさすがに尻に火がついて、グラバカに出稽古に行ったり、かなり追い込んだ練習してたらしいけど、やっぱり格闘家は直前に猛練習しても強くならないよね。

橋本　プロレスラーなら直前でこそ意味があるんだけどね（笑）。

ガンツ　ただ、そこからの復活を見るのが格闘技の醍醐味じゃない？　そこで「落ちてませんよ」と言われたら、乗れないよね。

――本来、五味ってコンプレックスを持っている姿が凄くいいんですよ。「あんなヤッと一緒に扱ってくれるな！」って部分もポジティブに発散されるならいいと思うんです。たとえばPRIDE時代にDSE事務所で五味の取材をしたとき、ウチの人間が「『HERO'S』系の選手はどう思いますか？」と聞いてたら、「DSE事務所でそんな質問すんじゃねぇ！」みたいにキレ気味になったことがあって。

橋本　ハハハハ！　いいねぇ。

――実際、『HERO'S』には、いい意味でコンプレックスがあったと思うんですよ。

ガンツ　そういう五味って凄く魅力的で、「あいつらより絶対俺のほうが凄いんだ」「それを認めさせてやる」っていうモチベーションがハンパなかったし、その情念が惹きつけていた。ただ残念だったのは05年の大晦日にマッハを倒して、いよいよ五味の時代が来るっていうときに、P

05年のPRIDEライト級GPでは、川尻、アゼレード、マッハを続々と破り、破竹のPRIDE10連勝で王者へ。天下無敵の五味劇場は、問答無用の実力を示し続けることで、ファンを熱狂させていった。

“俺たちの”五味隆典 座談会!!

2007～2008年の五味隆典物語

08年3月の『戦極』旗揚げ戦。1年2カ月ぶりの復帰戦の五味はドゥエイン・ラドウィッグと対戦。1Rにダウンを奪取。出血のドクターストップで貫禄のTKO勝利。涙ながらのマイクも披露!

最終的に五味がチョイスしたのは『戦極』！　08年1月に『戦極』参戦を表明。『戦極』もエースとして大歓迎で迎え入れ、「やるからにはいままで以上のインパクトで」と新団体に意気込みを表明。

07年末の『やれんのか!』開催、高田本部長からのラブコールを受けるも国内に背を向けた五味は12月29日の『UFC 79』に来場。オクタゴン登場は近いと思われたが、UFC参戦は実現せず。

07年3月のPRIDE六本木会見。ロレンゾ・フェティータ新オーナーのもと、UFCとの全面対抗戦がブチ上げられた会見にも五味は登場（写真右端）。だがPRIDEに上がる機会は二度と訪れなかった。

RIDEの地上波放送がなくなっちゃったんだよね。
橋本　「今年から『武士道』をゴールデンで」っていうタイミングでフジテレビが離れちゃったわけだから。五味はそういう付加価値がもっとほしかったんだろうから、ツラかったろうね。
――それは、当時から「視聴率」とか「知名度」でしか選手を測れないバカなマスコミが多すぎたと思いますよ。大爆発した五味vs川尻を観て『HERO'S』と比べたら……」とか言ってたマスコミもいたでしょ。
橋本　そこは比較するもんじゃないでしょ（苦笑）。
――もちろん、それはそれで考えなきゃいけないんだけど、「視聴率」や「知名度」があったから、PRIDEがおもしろかったのか？　って話じゃないですか。視聴率が低かろうがなんだろうが、おもしろいものはおもしろいのに。
ガンツ　これも五味に聞いた話だけど、飲みに行ったときに女の子が『このあいだK-1の○○くんと飲んだんです』と五味に自慢してきたんだって。で、五味はそのとき「バカヤロー！　そんなヤツ、K-1ルールでも俺が一発で倒してやるよ」って思ったって（笑）。
橋本　ハハハハハ！　最高！　それでこそ五味だよ。
ガンツ　しかも魔裟斗クラスならともかく、日本トーナメントに出てるくらいの選手みたいだから「バカヤロー！　こっちはPRIDEの世界チャンピオンだ！」と。だから凄いことをやり遂げたのに、それはそこらのお姉ちゃんまで届いてなかったことへのイラ立ちはあったよね。
橋本　一時期、五味が「ヴァンダレイ・シウバとやりたい」って言ってたじゃない？　あれも格闘技を知らない人から何度も「シウバといつやるの？」みたいなことを言われたから、「だったらやってやるよ、コノヤロー！」と思ったらしくて。
――そういう五味はホントに魅力的なんですよねぇ。
橋本　俺らは五味をしっかり評価してたつもりなんだけど、五味は格闘メディアの評価なんてほしくなかったのかねぇ。それだと修斗時代からの延長線上だから、違う部分でほめられたかったのかな。

武士道のゴールデン放送も消滅して五味にはツラかったろうね（橋本）

06年2月、ライト級王者・五味に高田総括本部長は「彼は“もう少し”でスーパースター」と武士道のゴールデン放送をプッシュ！　実現性は高かったが数カ月後にフジテレビが撤退。そのショックは計り知れない。

ガンツ　ただ、1年前にUFCのロジャー・フェルタにインタビューしたときにはすでに「五味が最強っていつの時代の話をしているんだ？」とか言ってたし、やっぱりそこは闘い続けなきゃ俺たちの五味じゃないんですよ！
橋本　こらこら、そういう発言を載せるから、五味サイドは硬くなるんだよ！（笑）。
ガンツ　でも、みんな薄々思ってたことをフエルタとか、BJがズバリ言ったってことだし、そこで奮起して「なにくそ！」って燃える五味が観たいわけじゃない？　フエルタは「アンデウソン・シウバだって、BJペンだって、ヒョードルだって、そのときに一番強いヤツと闘ってる。それが真のチャンピオンなんだ」って言ってたけど、それはそうだよね。
――でも、それを載っけて怒られるんなら本望ですよね。
ガンツ　ただ、五味がPRIDE武士道の絶対エースの位置を苦労して築いたけど、いろんなゴタゴタがあって闘わずしてそのポジションにいつの間にか青木がきちゃってるわけだし。それはおもしろくないだろうなっていうのは凄くわかるけど、ポジティブな方向性に向かってほしかったな、と。
――なんかことあることに「BJペンとやりたい」と口にしてたのも格下の青木なんか相手にしてないという意思表示が込められてたんじゃないかな、と。
橋本　むしろ積極的にそういう発言をしてもよかったような気がするね。誌面で

さまよえる五味隆典。GSPvsBJペンが行なわれた『UFC94』には、KID、宇野、石井慧の来場は大々的に報じられたが、じつは五味も一般客で観戦していた。写真のどこかに映っているので探してみよう。

そして迎えた09年1月『戦極の乱』。ライト級GPで勝ち上がった“キモ強”北岡悟と対戦も五味の持ち味は出せず。わずか101秒、アキレス健固めで秒殺決着！　五味陥落劇に場内は騒然となった。

08年11月の『戦極 ～第六陣～』では、ライト級GPの“ロード・トゥ・五味”が進む中、自称「ヒョードルよりも強い」セルゲイ・ゴリアエフと対戦も2Rにダウンも奪われる大苦戦で、判定負け。

08年3月の『戦極 ～第四陣～』では、20代最後の試合としてDEEPライト級王者（当時）のハン・スーファンと激突！　徹底したスタンド勝負でKO狙いも、もう一つ不完全燃焼の判定勝利。

「青木? あんなヤツと一緒にしてくれるな!」とか。

ガンツ KIDが昔、「所(英男)ちゃんと今成(正和)くんが俺とやりたい? そんな時間ねぇよ」って言ってたけど、KIDはそれくらいのことをやってきたし、発言権はあるんですよ。そういう意味で五味と青木も1年前は「やってきたこと」が違ってた。でも去年1年間に関しては、逆に青木のほうが「やってきたことが違う」ことになっちゃった。

橋本 過去の実績はリスペクトするけど、それをオンタイムに持ち込むのはよくないよね。それに試合の結果と内容で扱いが変わるって、凄くフェアなことだと思うけどね。下がりもするけど、頑張ればどんどん扱いがよくなるんだからさ。だいたい浅草キッドにあれだけほめられたら充分じゃない?

——いや、井上和香にもほめられたいんじゃないですか。

橋本 俺はへんなアイドルにほめられるより、浅草キッドにほめられるほうが全然いいけどなぁ。

ガンツ 五味はそういった一般的な地位を確立したかったと思うんだよね。

——でも、五味ってテレビに出ると、帽子を深く被って無口を装うじゃないですか。

橋本 「べつに嬉しくないぞ!」みたいに(笑)。

——あの姿もいじらしいんですよねぇ……(しみじみと)。

ガンツ でも、そうじゃなくなったときに行くのは修斗なわけですよ。「俺は修斗を忘れていない」って感じで。

橋本 超メジャーがダメなら、マニアックに振るわけか。

ガンツ あとは五味が若い頃、修斗で尖った客に評価された人が格好よかったんでしょう。(佐藤)ルミナとかマッハとか。ゴールデンタイムがないなら、こっちの評価にしておこうみたいな。

——ともかく僕はいい意味で五味にコンプレックスを感じてほしいんだけどなぁ。

橋本 まぁ、敵としてはチンケだけどさ、いっそ『kamipro』を仮想敵にしてもらっていいですよ!

ガンツ 「『kamipro』、コノヤロー!」

05年9月の『PRIDE武士道-其の九-』で五味がリングに呼び込んだのは当時、『HERO'S』が主戦場の須藤元気。この年末に元気はKIDと五味はマッハと闘うが、知名度で劣る五味は並々ならぬ思いを抱いていた。

“俺たちの”五味隆典座談会!!

ギラギラした目で這い上がる五味がもう一度観たいのは確かですよ(堀江)

と。でも世界の五味がそんな仮想的じゃダメでしょ(笑)。

橋本 かつて前田日明が解説席の谷川さんを睨んだように、中蔵にスカ勝ちしてJCBホールの記者席のガンツを睨みつけるっていう(笑)。

——サダハルンバ調で「んあ~! 五味くんがボクだけに怒ってる~」って(笑)。

ガンツ でもね、やっぱり裸の王様でいる五味じゃなくて、もう一度ギラギラとした目で這い上がる五味が観たいのは確かですよ。どっか保険がきかないリングで、出直す姿が観たいね。たとえばUFC。五味って07年の年末と今年の1月にUFC観戦に来てたけど、「UFCに出場するかも」っていうポーズでやってるなら、非常に残念だな。しかも、ちゃんとリングサイド最前列を用意してもらったんじゃなくて、一般のファンが座るような席に座ってさ。ああいうところはマネージメントサイドがちゃんとしなきゃダメだと思うよ。ダナが「KID、宇野、石井はウェルカム」とか言って、五味の名前が出ないとかさ、それは元PRIDE王者のプライドを傷つけるだけだし。

——あとはやっぱり魔裟斗戦ですよ! 中蔵をブッ倒してアピールしてほしい。「川尻? 俺しかいないだろ!」って。

ガンツ いいねぇ。

——だって、妄想の中の五味隆典は、DREAMではカルバンや宇野薫を破って、片やK-1ルールでは武田幸三をKOしているわけじゃないですか?

ガンツ 凄かったよねえ、『Dynamite!!』の武田戦は(しみじみと)。あれこそホントの五味隆典だった!

橋本 マイクアピールもよかった! 「大晦日、KOじゃきゃダメだよ!」って。

——妄想では魔裟斗戦が決定してるんですよ! でもまだ遅くはない。川尻達也と魔裟斗挑戦者決定戦をやってほしい!!

ガンツ 挑戦者っていうか、「MAXの王者にはPRIDE王者の俺がやってやるよ」って感じで出てきてほしいな。

——場所は後楽園ホールでいいですよね。ワンマッチ興行で。

ガンツ (イスから立ち上がって)ちょっくら会場を押さえてきます。

橋本 こらこら妄想しすぎだよ!(笑)。

——しかし、こういう妄想をしてて思うのは、〝俺たちの五味隆典〟を返してくれ!ってことですよねぇ。

橋本 それは五味本人次第でしょう。マジメな話、今後は評価が下がってしまってる現状をどう消化できるかだろうから。そこを認めたうえでヤル気があれば魅力はあるけど。「俺は堕ちてねぇ!」と言い張るなら悪くなる一方じゃない?

ガンツ でも、まだ格好つけてる部分はあるんだよな。北岡に負けても苦笑いしてたのはガッカリ。あれはテレ隠しで、完敗した事実にちゃんと向き合ってないじゃん。あれならアウレリオに負けて本気で悔しがってたときのほうが全然魅力的ですよ!

橋本 会場のビジョンで自分が極められ

る瞬間に見入っている五味の顔は素晴らしかったもんね。
ガンツ　猪木さんのポエムじゃないけど、「かいて、かいて、恥かいて、裸になったら見えてきた、ホントの自分が見えてきた」と。我々は素っ裸の五味が見たいわけです！
橋本　浅草キッドの玉ちゃん理論でいうとフルチンになってほしいんだよね。「前を隠すな！」と。
ガンツ　「そのタオルをとれ！」と。
——そういう意味で、五味と近い立場の人がいるんですよ。『ハッスル』の坂田亘なんですけど。

まだ遅くない！ 川尻達也と闘って魔裟斗挑戦者決定戦をやるべし！（斉藤）

ガンツ　ナットーマン問題ね（笑）。
橋本　え〜と、いきなり話が見えないんだけど（笑）。
——坂田って「俺こそ、ハッスルだよ！」って吠えまくる天下路線で売っていたんですけど、ほら、プロレス界ってグレート草津の昔から自己申告エースをファンは支持しないじゃないですか。でも、昨年のハッスルGPの決勝で川田に負けてから迷走したあと、汚れキャラのナットーマンで復活したんです。
ガンツ　間が悪くて、弱くて、格好悪いナットーマンを無理矢理やらされてたんだけど、恥をかき続けることで徐々にナットーマン人気が出てきた。でもせっかくファンが好きになってきたのに、坂田はナットーマンを辞めて元の路線に戻ろうとしてるんだよね。
橋本　ナットーマンを辞めるのは、坂田本人の意向なの？
ガンツ　そうみたいですね。でも坂田はドン底に堕ちてもがくことで再生のチャンスを与えられたんですよ！　ドジなナットーマンで自分をさらけ出したほうがファンは愛せるわけです。キメ言葉は「負けて腐るな！　発酵しろ！」なんだけど（笑）。
橋本　ワハハハハハ！
ガンツ　だから五味に言いたいのは「負けて腐るな！　発酵しろ！」と。
橋本　五味もナットーマン化したほうがいいのか（笑）。
ガンツ　復活するなら、ナットーマン時代は必要なんですよ。負けて復活するなんて一番おいしい展開じゃない？　映画ならそこを徹底的に描くでしょ。中途半端にしか堕ちずに最後にハッピーエンドになる映画なんておもしろくもない。だって、五味の何が好きだったって、剥き出しの五味が好きだったわけでしょ。
橋本　問題は俺らが思ってる五味の格好よさと、五味の思っている格好よさが違うってことだよね。
ガンツ　ただ、今回の試合は中蔵に視点をズラして見ると凄くおもしろいと思う。自分の価値観と違う選手が突然、上からきたわけだし、五味にとってはステップだけど中蔵には人生が変わる試合かもしれないし。会場の空気もいままでと違うだろうから凄い名勝負になるかもしれない。
橋本　中蔵ってもともと強いうえに、こういうポジションに置かれた選手って、実力以上の力を出すから期待できるよね。
ガンツ　そこでも五味はまだ前を隠して出てくるか？　この試合で負けてフルチンにならざるをえなくなるんなら、それもいいし。
橋本　五味がまだフルチンじゃないんなら、中蔵にタオルを剥ぎ取ってほしいね。
ガンツ　「見てみぃ、コレ！」と（笑）。
——ダハハハハ！　何を見せるんですか（笑）。
ガンツ　でも「うわ！　海パン穿いてる！」とかなら最悪じゃない？
橋本　五味のことが好きならこの試合は見逃せないよね。「勝ったら復活」で簡単に終わる試合じゃないし。
ガンツ　試合の注目度としては、ここ2年くらいで一番だと思うよ。
橋本　北岡戦もホントはそのはずだったんだけど。あのときの五味はまだタオルで隠してたから。
——北岡は完全にHG化してますからね。「下半身中心に見てくださ〜い!!　この腰の振りを〜！」って（笑）。
橋本　五味が隠しているのさえ気になってないもん（笑）。
ガンツ　こないだもさ、北岡は高山善廣とジムで偶然会ったらしいんだけど、自分が『kami-pro』の表紙になったことを高山にも自慢してたらしいから（笑）。
橋本　ダハハハハ！　無差別フルチン攻撃（笑）。
——ま、北岡は単なる露出狂だから参考にはならないけど（笑）。
橋本　ただの変態はともかく、やっぱり結論としては「格闘家はフルチンになれるかどうか」ですよ！

【09年4月3日／都内・『kami-pro』編集部にて収録】

「あと2試合」で引退を表明した魔裟斗。7月には総合格闘家との対戦を匂わせているが、誰よりも魔裟斗を意識してきた五味隆典が立候補すれば、この上なくスリリングだ。

——今回、取材をお願いする際、初めて電話で中蔵選手とお話しさせてもらったとき、いまどきの選手ら

ではまだそこまで戦闘モードに入ってなかったな、と。

中蔵　そうなんですよ。ほんま2～

“の は 王 志

死と再生
引退と復活

5・10 修斗 JCBホール大会で 五味隆典と激突!!

修斗のリングでひさびさにゾクゾクする大ゲンカが実現する。修斗20周年を記念したビッグイベント、5.10 JCBホール大会。そこで現・修斗世界ウェルター級王者の中蔵隆志と、元修斗同級王者にして、元PRIDEライト級王者の五味隆典の対戦が決定！　五味が約6年ぶりに修斗のリングに上がるだけでなく、現王者と対決。しかも、そのカード発表の際、五味が中蔵に対し「おまえのことよく知らないけど、俺が勝つ！」と王者を完全に“無名”扱い！　これに対して、中蔵も「あんた、いまそれ言える立場ちゃうやろ！」とキレ、決戦ムードが一気に高まった。はたして見下された王者、中蔵はどんな思いを胸にこの大一番に向かうのか。大阪で中蔵を直撃した。

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

―今回、取材をお願いする際、初めて電話で中蔵選手とお話しさせてもらったとき、いまどきの選手らしからぬ、凄く丁寧な受け答えをする人だな、と思ったんですよ。

中蔵　ホンマですか？　まあ、商売人の息子なんで。そのへんはウチの親父とオカンはうるさかったですから（笑）。

―で、こんなに丁寧な対応をする選手がキレるんだから、この前、（3・20後楽園ホールの）リング上であった五味選手とのやり取りは、相当頭にきてたんだろうなって思ったんですけど（笑）。

中蔵　でも基本、大阪人は沸点低いんで。挨拶みたいなもんですよ。

―ナメられたらキレるのが礼儀、みたいな（笑）。

中蔵　やっぱり男の子ですからね。目の前で「コラ！」言われたら、「なんやコラ！」って言うしかないでしょ。

―中蔵選手としては、当初は五味選手に対して敬意を表わしていたわけですよね？

中蔵　そうですね。相手はやっぱり偉大なチャンピオンで一時代を築いた方ですし、それは敬意っていうのはありますよね。

―ところが向こうは修斗の現役王者に対して敬意がなかった。

中蔵　いや、そんなことないんちゃいます？　あれは相手の仕掛けやったと思いますよ。逆に気ぃ使ってくれたんちゃいますか？　盛り上げなあかん、と。そこはね、「やられた」と思ってますね。

―先手を取られたというか、自分ではまだそこまで戦闘モードに入ってなかったな、と。

中蔵　そうなんですよ。ほんま2～3日前に決まったカードだったんで、気持ちがフワフワしてたんですよね。それが、あれでスイッチがバチーンと入ったんで、逆に「ありがとうございます」と（笑）。

―中蔵選手は最初、五味戦の話が来たとき「なんで自分なのかな？」って思ったらしいですね。

中蔵　そうですね。ちょっと複雑なんですけど、カード自体は俺が現役チャンピオンで向こうは元チャンピオン、しかもPRIDEでもチャンピオンになった選手ですから、相手に不足はないし、（修斗の）20周年にふさわしいカードではあると思うんですよ。ただ、向こうは俺のこと「再起にはちょうどええ」ぐらいに思ってるのか、もう一度燃えたいから闘いたいのか、わからないじゃないですか。それはリング上で確かめるしかないですよね。

―普通、2連敗している選手が修斗の世界王者と対戦っていうことはありえないですよね。

中蔵　う～ん……でも、世間的認知でいったら、俺はそのレベルってことなんでしょう、結局は。そこはムカッとはきますけど、しゃあないことなんじゃないですか。そこをどうこう言う気はないです。

―逆に中蔵選手にとってチャンスという感じですか？

中蔵　確かにチャンスではありますよね。あれだけのビッグネームですから。だって『戦極』でロード・ト

競技の世界に生きた男が五味のケンカを買った!!

修斗やってて初めて“ぶっ殺してやる”って気持ちになってますよ

第4代 修斗 世界ウェルター級王者

中蔵隆

プロレスラーに憧れて、ライガー同様メキシコに行こうと思ってた

ゥ・五味ってやってたのに、トーナメント出てない俺がいきなりやるんだから「すいませんね、ありがとうございます」って気はしますよ。

――五味選手は6年近く修斗から離れて、PRIDEや『戦極』で闘ってきたわけですけど、いつか自分と交わるときがくるって想像してました？

中蔵　それをね、ずっと試合が決まってから考えてたんですよ。へんな縁やな、と。だって五味さんが修斗のチャンピオンのとき、僕は大阪大会の裏方やってましたからね。その点と点が交わるっていうのは、漠然とはあったかもしれないですよ、やっぱり一つの目標じゃないですか。この階級のトップ選手ですから。自分もいつかやりたい、やって超えなければいけないっていう目標はあったんですけども。このタイミングでポンと現実になると、不思議な気分というか、思えば遠くへ来たもんだ、みたいな感じですね。

――中蔵選手はもともと格闘技は、ここシューティングジム大阪で始めたんですか？

中蔵　いや、高校で柔道やってて、そのあと正道会館で空手をやって。99年にこのシューティングジム大阪に。ちょうど10年なんですよ。

――当時、憧れてた選手とかいますか？

中蔵　僕、もともとプロレス好きなんですよ。

――あ、そうなんですか！

中蔵　だから闘魂三銃士とか（獣神サンダー・）ライガー、そのへんにはもう憧れましたね。

――修斗王者が破壊王とかに憧れてたんですか（笑）。

中蔵　ホント、憧れてましたよ。でも自分は身体が小さくてプロレスラーにはなれへんと思ってたんですけど、ライガーがプロレスラーになるためにメキシコに行ったっていうエピソードを聞いて。俺も中3のとき「俺、高校行かんとメキシコに行きます」って本気で言うてたぐらいで。

――ライガーと同じ道を歩こう、と（笑）。

中蔵　でも、バイト先のうどん屋の大将に「やめとけ」って諭されて、「じゃあやめます」ってなったんですけど（笑）。

――そこでプロレスラーはあきらめて。

中蔵　あと時系列はちょっとズレるんですけど、自分はリングスも観てたんですよね。で、あれ観て「ヤバい、これは本物や」と。

――あきらかに、これまで観てきたプロレスとは違うぞ、と（笑）。

中蔵　ディック・フライとか観て「これはヤバい、えらいのが来てもうたぞ」と思ってましたからね。フライだけやなく、リングス・オランダとか「こいつ一人や二人殺してるぞ」みたいなのがよう来てたじゃないですか。

――実際そんな感じの人たちでしたね。

中蔵　はい、実際そうだと思いますよ（笑）。あれ観て、ここに行かな男ちゃうやろって漠然と思ってて。それが格闘技の目覚めですね。

――じゃあ、修斗っていうのは……。

中蔵　全然知らなかったです。でも、リングス入るにも身体が小さいじゃないですか。で、正道会館にいた頃、『格通』とか見るようになって「佐藤ルミナさんってカッコええな」とか思ってたんですよ。で、よく読んでみたら身長160何センチ、体重70キロって書いてあって。「えっ、俺よりちっちゃいやん！」って。そのあと階級制があるって知ったんですよ。

――そこでようやくですか。

中蔵　はい。で、修斗始めようと思って『格通』見たら、エンセン井上さんのピュアブレッド大宮の連絡先が載ってたんですよね。でも、大宮まで通うのは無理やし。「関西でどこかないですか？」って問い合わせたら、クラブJっていうところがあったんですけど、淡路島にあるって言うんですよ。

――海を隔てた向こうですか（笑）。

中蔵　これも無理やなってなって。でも、99年にようやく大阪にできるって聞いて、やるならプロになろうと思って入会したんですよ。

――じゃあ総合格闘技を知ったのはけっこう遅いんですね。

中蔵　はい、恥ずかしながら。その前もアルティメットの第1回とかは観てたんですけど、あれは俺が求めてるものとは違うと思って。やっぱり俺がやりたかったのは格闘競技なんでしょうね。

――それもプロの格闘競技。

中蔵　はい。ただ、空手をやってるときは、素手でどうやってヤッパ持ってるヤツに勝つかとか、囲まれたらどうするとか、車でひいてこられたらどないするとかばっかり考えてたんですけどね。

――競技を超えた強さを求めていましたか（笑）。

中蔵　ウチの空手の師匠は、戦車にどう対応するかとか本気で考えてましたよ。

――戦車vs人間！（笑）。

中蔵　はい。すっごいおもしろい人なんですよ。焼肉屋とか行くでしょ、ずっと爪楊枝を拳に隠して持ってるんですよ。「何してるんですか？」って聞いたら「これでいつでも突けるやろ」。「いやいや、誰を突くんですか、それ」って。必ず出口の近くに座ったりとか。そういう人の影響もあって、そんなことを毎日考えてたんですけど。

――修斗の競技者ではあるけど、原

3.20後楽園ホール大会のリング上で5.10 JCBホールでの中蔵vs五味隆典戦が発表された際のショット。ギラギラした目で握手を求める中蔵と、目を合わせずに受け流す五味。いやがおうにも"決闘"ムードは高まった。

昨年、戦極ライト級GPで活躍した"S4"の一員、廣田瑞人を07年2月に判定で破り、修斗環太平洋ウェルター級王者にも輝いている中蔵。いわゆるメジャーな舞台には上がっていないが、その実力はもちろんトップクラスだ。

五味さんと同じ階級の人間が目の前にいると殺しそうになりますね

点にはそういう部分もあるんですね。で、中蔵選手がプロになった頃、五味選手はまだ修斗にいたんですか？

中蔵　ちょうど離れるぐらいのときですね。

——じゃあ、PRIDEでの印象のほうが強いぐらいですか？

中蔵　そうですね。個人的な付き合いもないんで。

——PRIDE時代の五味選手っていうのは、どう見ていました？

中蔵　純粋に「すげえな」と思いましたよ。入ってこんなにバッタバッタ倒れるのかなって。グローブん中になんか入ってんじゃねえかなってぐらい強かったですもんね。

——入ってる（笑）。

中蔵　もちろん入ってないでしょうけど（笑）。なんか入れてんちゃうかなってぐらいガンガン倒してましたよ。俺はそんなパンチ持ってないし、向こうがメジャーリーガーのホームランバッターなら、僕はスモールベースボールタイプなんで。そこはうらやましいし、すげえなって思って見てましたね。

——ここ最近の五味選手っていうのはどういうふうに評価してますか？

中蔵　あいかわらずクレバーで、地雷みたいなパンチ持ってるじゃないですか。一発でもそれ踏んだら終わるっていう。そこは変わってないと思うんですよね。それに2連敗してて、もう3連敗は絶対にできないんで、次はモチベーションもカチーン！　入ってると思いますよ。

——正直、『戦極』のときとは気持ちの入り方が違う。

中蔵　違うと思いますよ。だから正直、過去2戦、3戦はあてにならないかもしれないですね。

——いま、中蔵選手は修斗の世界の名のつくベルトを巻いてるわけですけど、やっぱり五味選手に感じることは、チャンピオンになってもチャレンジにするって気持ちはありますか？

中蔵　やっぱり、チャレンジャーですよ。修斗を応援してくれる人には悪いと思うけど、やっぱり世間的に見て、あきらかに俺が挑戦するほうだとは思いますよ。それでいいんじゃないですかね。

——いわゆるビッグネームとの対戦は初めてじゃないですか。

中蔵　そうですね。

——そこも含めて、いままでの試合とは気持ち的に違いますか？

中蔵　全然違いますね。俺、下から叩き上げの選手や名前はないけど実力的には全然トップクラスと遜色ない選手とかもやってきましたけど、今回は名前があって強い選手じゃないですか。もうモチベーションの入り具合がまったくちゃいますね。いままで自分の中のスイッチがいっぱいあったんですけど、一番デカいスイッチをポチーンと押した感じで。

——初めて巨大なスイッチが入りましたか（笑）。

中蔵　もう、これ終わったらどないなんねやろうなって、それが心配なんですよ。こんなに電力使って大丈夫かなって思うぐらいのモチベーションですわ。自分でもビックリするぐらい。

——では、練習での気合いの入る具合も相当違いますか。

中蔵　違いますね。ほんまにスパーリングやると、練習なのに2〜3人ぶっ殺してしまいそうな勢いでやってしまって、「うわっ、あかんあかん！」って思いますからね。あとは五味さんと背丈が一緒のヤツとか、階級が同じヤツが前にいると、殺しそうになります。もう、いま思い出しただけで顔が熱くなってきましたわ。でもモチベーションはいままでで一番高いですね、ハッキリ言うてタイトルマッチのときよりも高いです。

——その反面、プレッシャーもあるんじゃないですか？

中蔵　それはもう、ありますよ。修斗の看板背負うわけですからね。格闘家に負けてもいい試合なんかもちろんないけど、その中にも絶対勝たなあかん試合とかがあると思うんですよ。それがこれなんじゃないですか？

——では、いまは巨大なプレッシャーをモチベーションが上回ってるって感じですよね。

中蔵　そうです。経験したことのないような気持ちですね。だからさっきの話に戻るんですけど、自分は格闘技で「ぶっ殺してやる」とか「ケンカの延長」みたいに言う人のことをイマイチ信じられなかったんですよ。何を言うてんのやろうとか。殺し合いちゃうしっていうふうに思ってたんですけど、いま「ケンカや」って言うてた人の気持ちがちょっとわかりますね。

——自分の内面でスポーツでやってきたものとは違うものが燃えていますか。

中蔵　そうですね。でもちょっと抑えていかないとダメですね。いままでとちゃうことやったら違うような気もするし。

——燃えながら、自分の闘い方ができるように。

中蔵　そうです。それがたぶん一番強いと思うんですよ。燃えてるときって周りが見えてないじゃないですか。それだと勝てないと思うんですよ。燃えるのを通り越して、さらに上の燃える段階って、いろんなものが見えて、燃えながら冷静に闘うことができると思うんで、あと1カ月でその状態まで持っていきたいですね。

——わかりました。では、五味隆典戦期待してます！

［09年4月1日／シューティングジム大阪にて収録］

なかくら・たかし■1977年3月23日、大阪府出身。柔道、空手の経験を経て、02年9月に修斗プロデビュー。07年2月、廣田瑞人を破り驟雨と環太平洋ウェルター級王座奪取。08年5月には天突頑丈を破り、第9代修斗世界ウェルター級王者となる。シューティングジム大阪所属。171cm、70kg。

中蔵隆志 過去5戦 戦績

[2008.11.29 修斗]
後楽園ホール
○vs ベンディ・カシミール
（1R 4分58秒 チョークスリーパー）

[2008.5.3 修斗]
JCBホール
【修斗世界ウェルター級王座決定戦】
○vs 天突頑丈
（3R終了 判定3-0）

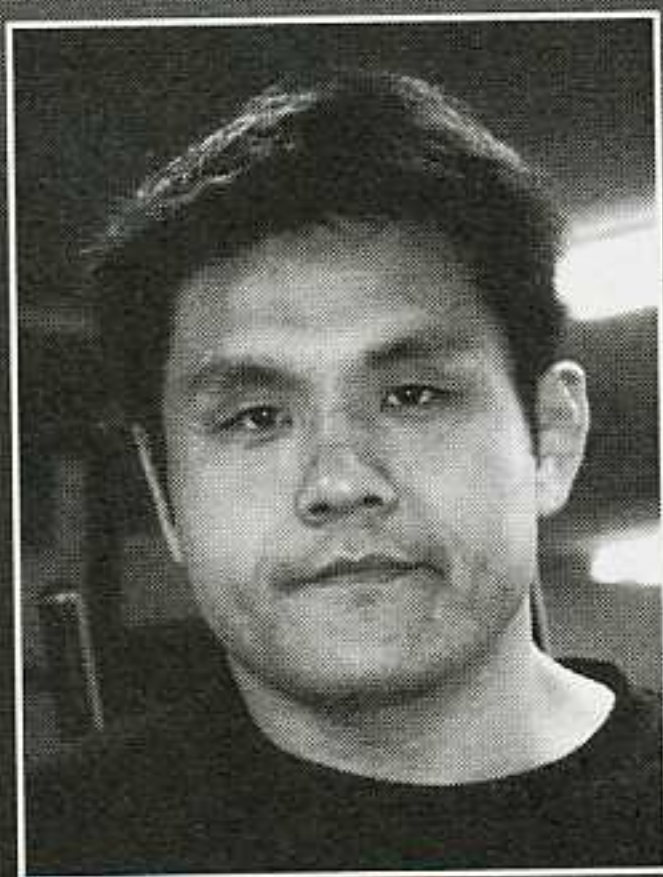
[2007.11.8 修斗]
代々木第二体育館
【修斗環太平洋ウェルター級タイトルマッチ】
○vs 遠藤雄介
（3R終了 判定3-0）

[2007.7.15 修斗]
後楽園ホール
○vs ヤニ・ラックス
（1R 2分54秒 アキレス腱固め）

[2007.2.17]
後楽園ホール
【修斗環太平洋ウェルター級王座決定戦】
○vs 廣田瑞人
（3R終了 判定3-0）

出稽古を受け入れたGRABAKAのボスが太鼓判!!

「五味くんなら必ず復活できる」

菊田早苗

五味隆典と同じくジムを主宰しながらプロ格闘家として活躍しているのがグラバカの菊田早苗だ。今年1月の北岡悟とのタイトルマッチ前には旧知の仲である菊田との接点からグラバカに出稽古に訪れた五味。その際、何度かスパーリングも行なったという菊田の五味評とは? ファイター、そしてジム主宰者の先輩が語る2009年の五味隆典、いざ!

聞き手/阿修羅チョロ　試合写真/丸山剛史

――前もって言っておきますが、今回はモノクロページになります!

菊田　そうですか……って、そういうこと言うと僕が気にしてるみたいに思われるじゃないですか!(笑)。

――実際、気にするじゃないですか。

菊田　まあまあ、どうせ出させていただくんならね。……でも、今回は自分の話じゃないんですよね?

――はい。5月にひさびさの修斗参戦が発表された五味選手について話を聞かせていただければと思ってます。今年1月の北岡悟戦前にはグラバカに出稽古に来てたみたいですし。

菊田　そうですね。僕は対戦相手の中蔵(隆志)選手って修斗の現役チャンピオンだってことぐらいしか知らないんですけど、五味くんに比べると名前もそんなにないし、いろんな意味で厳しい相手だとは思いますね。

――菊田さんも同じファイターとして五味選手の気持ちもわかる部分もあると思うんですが、最近の五味選手に関してはどう思います?

菊田　またグラバカにも来るって言ってたんですけど、北岡戦後はまだ来てないんで、また来てもらいたいですね。ウチの選手にとっても、いい刺激になるんで。

――北岡戦前には五味選手本人も言ってたんですけど、しばらくグラップリングの練習は満足な練習ができていなかった、と。実際のところ、PRIDEがなくなり、ジム設立とかもあって、『戦極』に参戦を決めるまでの2年近くは満足な練習ができていない状況だったと思うんですよ。

菊田　そうでしょうね。僕も同じ立場もあるし、凄く気持ちはわかるんですよ。ある意味、丸裸になったというか。逆に丸裸にされちゃったからこそ、一からやろうって思ったんだろうし、そういう意思は伝わってきたんで、そこは凄いなって。実際、ウチに練習に来るっていうのも、かなり決断があったと思うんですよ。

――まあ、そうでしょうね。

菊田　で、一緒に練習をしてみて、なんでウチに来ようと思ったのかわかったような気もしたんですよ。やっぱりこの2年間の練習の刺激が少なかったんでしょうね。試合もそうだったと思うんですけど。

――菊田さんもそうだと思うんですけど、五味選手はモチベーションがモロに試合に出るタイプですよね?

菊田　ですよね。自分でもいろいろとわかってたんだと思うんですよ。現状ではいろんな意味で足りてないっていうか。ただ、昔の五味くんも練習して知ってるから、思ってた以上に動きが違うなっていうのは感じたし、本人もそこまで落ちてるとは思ってなかったかもしれないですね。

――やっぱりレベルの高いところで競い合った練習を続けていかないと、力は落ちちゃうもんなんですか。

菊田　2年っていうのは想像以上に大きいと思いますよ。ウチでも横田(一則)だったり、階級が上の自分とか三崎(和雄)もスパーリングしましたけど、テクニックうんぬんよりも一番感じたのは反応なんですよ。技に対する反応とか、パワーっていう部分が昔のほうがあったなぁっていうのは感じましたね。もちろん練習はやってたと思うんですけど、僕らでも練習していてパスガードされた

GRABAKAジム情報2連発!
★GRABAKAジムでは「春の入会キャンペーン」を実施中。09年5月30日(土)まで一般の方は入会金半額! 子ども&学生の方はなんと無料! 見学自由&無料体験もOK! この機会にゼヒ!!
★GRABAKA初の「ファン感謝イベント」開催! 5月16日(土)19:00～21:30(予定)で都内・中野駅近くのブリティッシュパブでGRABAKA選手とファンの食事会を開催。
参加費は6,000円、限定50名様まで。お問い合わせ&お申し込みは→TEL.090-9815-0164 GRABAKAオフィシャルサイト→http://www.grabaka.com/

とか、一本取られたら、一週間後に取
り返さなきゃ差が開いちゃうとかっ

すからね。ああいうことをやってい
かないと体力は維持していけない。

たいどれぐらいにいるか。
――五味選手はいまのレベルがいま

菊田　やっぱ、あれだけの結果を残
して、あれだけの経験をしてきた人

鉄人』的なプロ格闘家が控えている
っていうかたちもおもしろいんじゃ

あれだけの経験をしてきた選手はいないんで、僕は問題ないと思う

とか、一本取られたら、一週間後に取り返さなきゃ差が開いちゃうとかって焦りますからね。

――年間とか月間ではなく、一週間レベルで差がついていくわけですか。

菊田　練習だから取ったり取られたりとかありますけど、やられたことを次の週あたりには、早ければその週ぐらいには克服しておきたいんですよ。そう考えると2年っていったら、わけがわかんない世界というか。もう、そういうレベルですよね。あとは、五味くんの場合は年齢的なものも大きいんじゃないかな。

――去年で30歳になってますね。

菊田　本当は30歳ぐらいからは格闘家にとって一番いいときだと思うんですよ。モチベーションとか基礎体力とか。でも、そのぐらいの年齢になるとナチュラルではできなくなるんですよ。計算してちゃんと練習していかないと、いまのMMAでは置いていかれちゃうというか。僕の考えとしては格闘家は体力が落ちてくるとダメだなって思ってるんで。

――体力が落ちないために、年齢に合った練習が必要になってくる、と。

菊田　そう思いますね。スパーリングもそうなんですけど、ウェートとかフィジカルトレーニングなんかもびっちりやっていかないと落ちてきちゃいますからね。ランディ（・クートゥアー）がいい例で、いまでも凄いトレーニングをやってるって言いますからね。ああいうことをやっていかないと体力は維持していけない。五味くんの階級でいえば、北岡（悟）の身体なんか見てもわかると思うんですけど、凄いじゃないですか？

――凄い身体をしてますよね。

菊田　技術的な面ももちろんあると思うんですけど、そういった部分の差が意外と大きいと思うんですよ。（桜井）マッハなんかもナチュラルではありますけど、自宅にもウェートの器具とか揃っていて、やることはしっかりやってますからね。五味くんはウェートとかはガンガンやるほうではないと思うんですけど、人とぶつかるという意味では、ホントの力が落ちてるんじゃないかな。

――現状を打破するためには何が一番必要なんですかね？

菊田　いや～、それは難しい問題ですねぇ（苦笑）。自分の周りにはプロの選手がいっぱいいるじゃないですか。で、僕は1年とか試合をしてない時期もありましたけど、周りは誰かしら試合があるわけですよ。そうなると自分は試合をしなくても常に試合前の追い込みみたいな感じなんで。そういう意味では、試合はしてなくてもレベルはわかるんですよ。自分がだいたいどれぐらいにいるか。

――五味選手はいまのレベルがいまいちつかめないまま『戦極』に上がっていたかもしれない、と。

菊田　それはあるでしょうね。五味くんの場合、よくも悪くも自分に並ぶ人が周りにいなかったと思うんですよ。競い合っていく仲間がいなかったっていうのがつらかったんでしょうね。あそこまでいっちゃうと相談する人もなかなか難しいだろうし。

――天才ゆえの孤独とでもいうか。

菊田　そうそう。まあでも五味くんに限らず、ちょっとしたスランプは誰でもあると思うし、まだ30歳なんで、これから格闘家としての第2章の幕を開けるには充分な時間はあると思いますよ。いまから35歳ぐらいまで、また新たな伝説を作ってくれるんじゃないですか。

――菊田さんから見て、五味選手なら、もう一度伝説を作れると？

06年7月からは自らが代表を務める久我山ラスカルジムを中心にトレーニングと指導を行なっている五味。1月の北岡戦前にはグラバカへ出稽古に訪れ、菊田、三崎らと激しいスパーリングをしたという五味。もう一丁はいつになる?

菊田　やっぱ、あれだけの結果を残して、あれだけの経験をしてきた人っていないじゃないですか。同じ経験をしたいと思っても勝ち続けないとできないことだし、凄いプレッシャーもいろいろあったと思うんですけど、それを乗り越えてPRIDEで頂点を経験した選手ですからね。そういったものが身体の中に入ってると思うんで問題はないと思います。

――で、菊田さんのほうはいつ頃、復活しようと考えてますか？

菊田　復活って、1月に吉田（秀彦）さんに勝ったばっかりですよ（笑）。

――でも、ある意味、五味選手以上に試合へ向けてのモチベーションに左右される菊田さんですから、吉田さん以上の相手というのも、なかなか難しいとは思うんですけど。

菊田　まあ、どうせやるんだったら盛り上がる試合をやりたいですけど。

――いまの流れで言えば、次の試合も『戦極』になりますかね？

菊田　まあ、基本的には一試合契約なんでどこっていうのはないんですけど、吉田さんに勝ったわけだから、それに続くようなものを『戦極』に用意してもらいたいなとは思ってますけどね。……誰かおもしろそうな相手とかいないですかね？

――それこそ、観戦して刺激を受けたというアウトサイダーに出場してみるっていうのはどうですか？

菊田　あ、そこでアウトサイダーですか（笑）。でも実際、凄くおもしろかったですよ。試合もそうですけど、煽りVとか演出もしっかりしてたし。

――大会を観た感想として、ああいう不良たちの闘いの最後に『料理の鉄人』的なプロ格闘家が控えているっていうかたちもおもしろいんじゃないかと言ってましたよね。

菊田　そうですね。そういうかたちになれば大会も締まると思うし、選手にとっても、いい目標になると思うんですよね。

――それはいいアイデアですね。では、アウトサイダーの鉄人として菊田さんの登場を期待してます！

菊田　いやいや、やめましょうよ。本気で前田（日明）さんからオファー来たらどうするんですか（苦笑）。

【09年4月1日／都内・グラバカジムにて収録】

きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都出身。中学から柔道を始め、高校時代は国体86キロ級で優勝。その後、新日本やUインターでプロレスラーを目指すも挫折。格闘家へとシフトチェンジしてからは修斗、リングス、PRIDE、パンクラス、アブダビコンバット、『戦極』などさまざまな舞台で活躍するグラバカのボス。176センチ、89キロ。

菊田早苗が選ぶ 心に残る引退エピソード

子どもながらにタイガーマスクの引退は驚いた

引退といえば、初代タイガーマスクの引退はインパクトありましたね。当時は「まだ全然できるのに、なんで引退するんだろう？」って子どもながらに凄く驚いた記憶があります。あと、僕は若い頃にスタン・ザ・マンのジムに行ってたことがあるんで、01年に彼が沖縄でやった日本での最後の試合はよく覚えてますね。その試合は判定負けだったんですけど、抗議したら真樹先生が「おう、わかった！」とか言って判定が覆ったんですよ。「さすが、真樹先生！」って思いましたね（笑）。

辞めないで！　僕らのズッコケヒーロー!!

俺がナットーマンに別れを告げる理由

坂田亘

「俺が天下を獲ってやる!」路線から一転、
ことごとく間の悪いタイミングで登場するヒーロー、
ナットーマンに変身した坂田。
しかし、この大胆な吹っ切れ具合に会場の反応も上々、
新境地を開いたかに見えた。だがそんな矢先、
坂田は突如マスクを脱ぐことを宣言!
はたして負けて腐ったのか、発酵できなくなったのか?
気になるその真相を直撃!　なっとーぉ!!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／山口比佐夫

死と再生
引退と復活

――坂田さん、次の大会（4月23日・後楽園ホール）でナットーマンを辞めるって本気なんですか⁉

坂田　なんだよ、おまえまで。なんでみんなそんな過剰にリアクションするんだよ?

――いやいや、最初こそナットーマンはズッコケヒーローでしたけど、このあいだの後楽園では会場人気も大爆発したみたいだし、単純にもったいないなって思うんですよ。

坂田　そりゃ、俺も歓声もらえるのが嬉しくないといったら嘘になるよ。でもな、俺にとってはあんなのは大爆発でもなんでもないんだよ。しいて言うなら小爆発ってとこだ。

――大爆発は言いすぎでした（笑）。

坂田　まあ、お客さんには感謝の気持ちもあるけど、先々のことを考えたら坂田亘としてそこで満足するわけにはいかないんだ。ナットーマンを辞めることに関してはそれにつきる!（キッパリ）。

――先々のことといいますと?

坂田　たとえばナットーマンがこのまま『ハッスル』を象徴するようなキャラになったとする。はたしてそれでそのまま突っ走れるのかどうか?　もともと「プロレスを変える」ことを旗印に誕生した『ハッスル』が、プロレスを観たことがない世間一般層に対して、ナットーマンを売り込めるのかっていうことだな。やっぱり俺には坂田亘としてまだまだやるべきこと、やらなきゃいけないことが多いんだよ。まあ、思いもよらないところでナットーマンがプチブレイクしちゃったから、そこは俺の葛藤もあるんだけど。

――納豆で葛藤、と（笑）。リング上で「ナットーマンは俺の現実逃避の姿」って言ってましたけど、その姿をお客さんに見せることに抵抗はなかったですか?

坂田　それは難しいところで、自分自身のことしか考えられなかったっていうのもあるし、観客に対して失礼だと思うところもあったよ。

――たまたま、それが観客にはウケてしまった、と。

坂田　でも、ナットーマンのままプロレス界を変えられるのか、『ハッスル』をもっと世に打ち出していけるのかっていったら俺は無理だと思う。あの人気にしろ、芸人でいえば一発屋みたいなもんじゃないかって。

――でも、それこそ納豆だけに粘り強く続けていけばきっと……。

坂田　（さえぎるように）ナットーマンが生まれたのは、俺の現実逃避と同時に、ある部分で『ハッスル』自体の現実逃避の姿なんだよ。いまの『ハッスル』の葛藤や混迷の象徴がナットーマンなんだと思う。

――それはなんとなくわかる気がします。ぶっちゃけ、坂田さんはナットーマンはやりたくなかった?

坂田　やりたくなかったんじゃなくて、やったはいいものの、何をやったらいいのかわからなかった。ネーミング的にもはたしてヒーローなのか……。おまえさ、いきなりナットーマンって言われてヒーローって想像できるか?

――ちょっと難しいですね（笑）。ちなみにナットーマンは何かモチーフはあったんですか?　発声方法もヒーローチックではありますけども。

坂田　そこまでは言えない。おまえ、
聞けばなんでも答えてくれるインタ

――意外とノリノリじゃないですか
（笑）。あと「ナットーマンになっても

『ハッスル』にとって追い風になれば
いいけど、いまはそういう時代じゃ

――は～、スケールの大きな引き際
なんですね。そういえば、坂田さん

坂田亘が選ぶ

坂田　そこまでは言えない。おまえ、聞けばなんでも答えてくれるインタビューなんておもしろくないだろ？　……まぁ、仮面ライダーシリーズは全部見直したけどな（ボソっと）。

——研究熱心じゃないですか。

坂田　まあな。いままでの歴代ライダーの中に、ひょっとしたら子どもの頃にはわからなかったズッコケ的要素があって、何か参考になるかなと思って見たんだけど、そんなライダーいないんだよ（笑）。

——仮面ライダーは基本的にみんなカッコいいですからね。

坂田　そう。みんなカッコいいヒーローだった。そこでますます俺はナットーマンがわからなくなってしまったんだ……（しみじみと）。

——そこでもまた葛藤した、と（笑）。髙田総統に「カミさんに『恥ずかしいから辞めて！』って言われたんだろ？」ってからかわれてましたけど、やっぱり奥様には不評だったんですか？

坂田　いや、会場で観てたこともあるけど、意外におもしろがってたな。

——え～、じゃあなおさら続けたほうがいいですよ！

坂田　俺的には微妙なんだよ！　……カミさんに「ナットーマン、辞めるよ」って伝えたときは、「え～、1年くらいやればいいのに」って言ってたな。でも、俺が「ホントにそれでいいと思うか？」って聞いたら、一瞬考えてから「あ～、まあね」みたいな感じだったけど。

——ナットーマンレディの登場とか期待してたんですけどね。

坂田　おかめナットーマンとかな……何言わせせんだよ！

——意外とノリノリじゃないですか（笑）。あと「ナットーマンになっても俺は何も変わらなかった」とも言ってましたけど、それは本心ですか？

坂田　そりゃ、坂田亘がマスク被ってるんだから表面的には変わったって思われるかもしれない。でも『ハッスル』を髙田総統が牛耳っているという現状は変わってないだろ。だから俺自身のジレンマが消えることはなかった。それと極端な話、ナットーマンで東京ドームを埋められるかって言ったら埋まらないだろ？

——いくら粘り強くプロモーションしても無理でしょうね（笑）。でも、このまま続ければプロレス大賞の話題賞ぐらいは獲れるかもしれませんよ。

坂田　そういう賞を獲って、それが『ハッスル』にとって追い風になればいいけど、いまはそういう時代じゃないだろ？　そんなことよりもチケットを一枚でも多く売ったほうがいいし、俺はそっちを目指す。確かにいまは不況かもしれないけど、俺はそういう現状が我慢ならんし、これはもうどうにかしなきゃいけないし、絶対にどうにかする！（キッパリ）。

——そのために、とりあえずナットーマンのマスクを置く、と。

坂田　それこそ俺たちやる側とスタッフ含めてケンカしてでもやってかなきゃいけないって思ってるから。このままだと、マスコミだって食いっぱぐれちゃうだろ？　俺がナットーマンを辞めるっていうのはそのくらいのことまでを考えてるんだよ。

——は～、スケールの大きな引き際なんですね。そういえば、坂田さんと親交のある魔裟斗さんが余力を残したままで引退を発表しましたね。

坂田　単純に谷川さんたちは凄く大変になるなって思うよ。魔裟斗っていうキャラもアスリートとしての素質も兼ね揃えた選手がいなくなるんだからな。でも、魔裟斗が今後裏方としてK−1に携わっていけば、競技的な部分と華やかな部分のバランスがとれていくんじゃないかな。

——今回はナットーマンもある種の〝引退〟なわけですが？

坂田　まぁ、魔裟斗の言葉を借りれば、俺もナットーマンを絶頂のときに辞めるってことだよ。見る人によってはもったいないって思うかもしれない。でも、ナットーマンみたいなある部分でバカらしいキャラをやることに、俺にちょっとの苦しみもないかって言ったらそんなわけはないんだよ。弱音は言いたくないからこれ以上は言わない。ただ、おもしろいって言われるだけで俺が喜んでるようなバカだと思ったら大間違いだっていうのは言っておきたい！

——う～ん、ナットーマンのことをそこまで真剣に考えているのは坂田さんだけでしょうね。では、最後に今後のナットーマンとしての活動に関してお聞きしたいんですが……。

坂田　（さえぎって）だから、辞めるって言ってんだろ！

——し、失礼しました。じゃあ今後どんな状況だったり、条件がクリアされれば、またナットーマンが見られるんですかね？

坂田　そんなもん知るか！

——たとえば署名をいくつ集めたりとか、折り鶴を折ったりとかいろいろあるじゃないですか。

坂田　まあ、いままで以上に大豆な場面が来たら現われるのかもしれないし。……まぁ、ナットーマンは気まぐれなヒーローだからな。上から目線になるけど、俺にナットーマンをやらなければいけないっていう、駆り立てる何かがあればやるかもしれないが、ナットーマンが誕生したときのような感覚ではもうやらない。

——なるほど……わかりました！　ではこれからもナットーマンとしてのご活躍を期待しております！（笑）。

坂田　だから、辞めるって言ってるだろ！

【09年4月8日／都内・ハッスル道場にて収録】

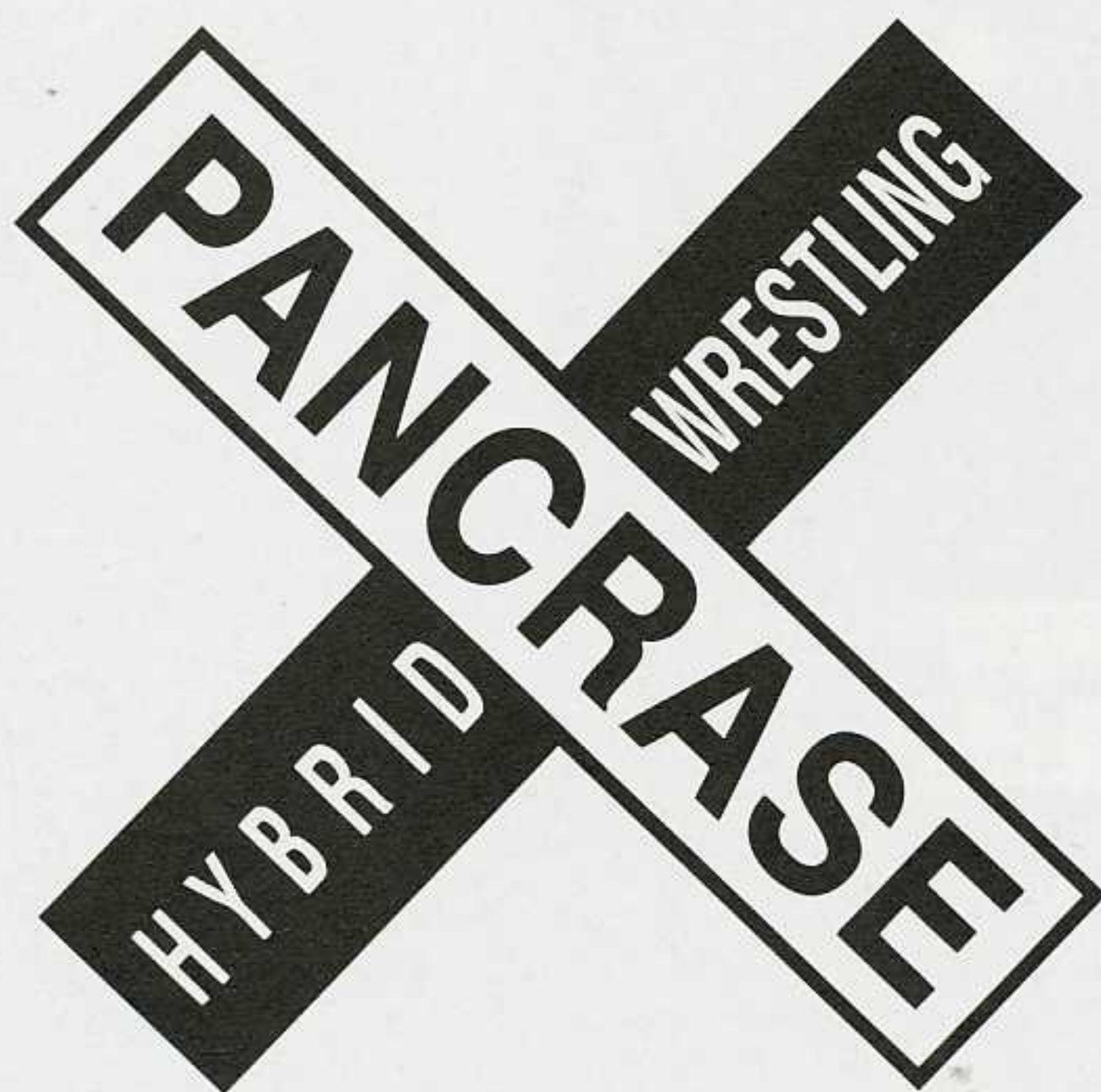
ナットーマンは『ハッスル』の葛藤や混迷の象徴なんだと思う

ナットーマンはデビュー時から、どこか大物感を漂わせる登場とは裏腹に、試合で相手に簡単に一蹴されるなど底抜けのズッコケぶりを発揮。いつしかそれがなんとも言えない"味"となり、ファンの共感を呼んでいたのだが……。

さかた・わたる■1973年3月11日、愛知県出身。94年にリングスでデビュー。その後、DEEPやZERO-ONEを経て、04年から『ハッスル』に参戦。08年、『ハッスル』GP決勝で川田利明に敗北した傷心から、突如ナットーマンに変身。しかし09年2月、マスクを脱ぐことを宣言した。175cm、93kg。

坂田亘が選ぶ 心に残る引退エピソード

前田さんと髙田さんの引き際は見事だったよ

選手として見た場合に、前田（日明）さんは見事な引き際だったなぁって思うね。とくにイベント的に味つけするわけでもなかったのが前田さんらしかった。髙田（延彦）さんの引退試合も好きだよ。あの頃のPRIDEってオバケイベントだったから、必要以上に引退って煽りが凄くあったけど、それにたえうるくらいの見事な試合だったと思うし。ほかのジャンルでいうと野球の清原和博だね。あの番長キャラがとくに好きってわけじゃないんだけど、最後までもったいないなぁ、惜しいなぁってこっちに思わせてくれたから。

死と再生
引退と復活

『DREAM.8』での青木&KID劇場に身悶え歓喜!

7月の相手は五味か、川尻か……!?

魔裟斗くんの引退劇はいま一番ワクワクするなあ～

“引退間近”のFEG代表

谷川貞治

“ミスターK-1MAX”魔裟斗が今年をもって引退。
ここまで手塩にかけて育ててきたサダハルンバは胸を痛めてるとかと思いきや、
なんと「いま一番ワクワクするお題だなあ」と上機嫌。その真意とは?
そして青木&KIDの“底力”で大爆発した『DREAM.8』についても直撃した!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也、平工幸雄

――谷川MEN！　今日は、「引退と復活」をテーマにしながらここ最近のマット界についておうかがいしようと思います。

谷川　引退はいいけど復活？　誰が復活したの？

――いやいや、まず谷川さんがCMスターとして復活して、視聴者をヒーヒー言わせてるじゃないですか。

谷川　ああ、ボクのこと？　そもそも引退してないよ！　これまでにもCMは5回ぐらい出てるんだから。

――え？　そんなに出てましたっけ？

谷川　失礼だなあ～。だって、今回の『とんがらしMEN』にはじまり、ニンテンドーDSのK－1ゲームのCMでしょ、それから……。

――パチスロCMの「これは驚きだ！」はよく存じております。

谷川　そうそう、あとターザン山本！さんと一緒に出たこともあるんですよ。

――え⁉　おじいちゃん（2ちゃんねるにおけるターザンのあだ名）と？　それは勝利宣言なのだ。ガ、ハ、ハ、ハ。

谷川　うん。ウッチャンナンチャンがカップやきそばの新商品を記者会見ふうに発表するんだけど、そのときの記者が山本さんとボクだったんだよね。

――それはそれは復活だなんて失礼しました。でもたいへんですよね、谷川さんも。立場上、そういったオファーは絶対に断れないでしょうし。

谷川　断れませんよ！　CMもマラソンも、K－1やDREAMのためならボクはすべて受けて立ちます！

――よっ、自称・大黒柱！　魔裟斗選手の引退が発表されて、いよいよK－1MAXも崖っぷちですし、ここで谷川さんが踏ん張らないと！

谷川　な、な、な、何を言ってんだよぉぉぉぉぉぉ⁉

――あれ？　ピンチじゃないんですか？

谷川　違うね。K－1MAXはこれからだって！

――でも、正直「魔裟斗抜きで大丈夫かな？」という不安はあるんじゃないですか？

谷川　とくにないよ。今回の引退に関していえば、ボクは単純に魔裟斗くんは「かっこいいなあ～」という感想しかないけどね。

©FEG Inc

CMスターの谷川FEG代表がまたまた出没！　日清食品『とんがらしMEN』のCMキャラクターとして大抜擢されたサダハルンバだが、このCMを見た人は「ヒーヒー」させられるかもしれないので要注意だ。

――確かにこんなに美しい引退はそうそうないですね。

谷川　ねえ。去年、魔裟斗くんが優勝した時点で「翌日に引退会見するかな？」とも思ってたんだけどね。1週間後に奥さんの（矢沢）心ちゃんと3人でメシを食ったんだけど、そのときはなんとなく引退を決めてるなという感じもしましたし。

――すると、ここまで発表を引っぱったのは何か理由があったんですかね？

谷川　いや、そこはボクもうまいこと間合いをとってたから。ヘタに突っつくと決断しかねないし、ファイターってすぐ気が変わるじゃない。

――だから間合いをとっていた。

谷川　それはボクも経験があるんだけど、東京マラソンが終わったときも「もう絶対に走るもんかぁ～！」と思ったけど、いま凄く走りたいもん。

――付け焼き刃の谷川さんでさえそう思うもんなんですねぇ。

谷川　（無視して）でも現実の問題として時間がないし、トーナメントも始まっちゃうんでね。それに、魔裟斗くん自身もタレントとしての契約とかいろいろあっただろうから、いろいろな考えが頭にあったんだと思うよ。だからまあボクとしてはぜんぜん引退は止めてないですね。

「魔裟斗基準」で唯一もの足りないといえば……

――谷川さんはそこで何がなんでも説得するイメージが強いんですけどね。

谷川　んなことないよ。だって、魔裟斗くんはかっこよく引退したほうがいいでしょ？　「40歳なっても、負けても負けても魔裟斗にいてほしい～」とは思わないから。それにKIDくんの五輪挑戦のときもそうだったんだけど、本人がそう決めたのならしょうがないよね。彼らの性格もよくわかってるから。第二の人生も魔裟斗くんは絶対にK－1に関わるタイプだと思うから、そこも安心してるんですよ。

――たとえば〝K－1本部長〟として鳥肌が全部立つぐらいの活躍するんじゃないか、と？

谷川　うん！　そうなったらそのときは僕が引退するときだなあ……（遠くを見つめて）。

――長いあいだ、お疲れさまでした（笑）。しかし、魔裟斗さんがやってきたことってハンパじゃないから、その十字架を誰かが背負うとなるとたいへんですよね。

谷川　でもMAXの選手って魔裟斗選手までいけるかわからないけど、気持ち的にはやってくれると思うよ。そのへんは総合の選手よりはラクだなあ。

――総合の選手のほうが面倒なんですか？

谷川　だって、自分が頑張って総合格闘技を背負っていこうとか、そう思ってる人が少ないもん。背負い方がわからないのもあるのかもしれないけど、何かを天秤にかけたりすることが選手の価値を上げることだと思ってるんですよ。魔裟斗くんが凄かったのってMAXという舞台を作ったことじゃない。総合の選手にはその気概がないんだよね。青木くんとかは確かにその芽があってこれからの選手だと思うし、KIDくんもそういう気持ちに戻ってきたからよかったけど、総じて総合の選手は少ない。

――MAXには魔裟斗という先駆者がいたから、ほかの選手がそういうモチベーションを持てたということもありますか？

谷川　そうかもしれない。PRIDEでも髙田（延彦）さんやサクちゃんがいたし、K－1でもアンディ・フグとか佐竹（雅昭）選手も少しはあったと思うし、ピーター・アーツだって（アーネスト・）ホーストだってそういう気持ちを持っていたからね。

――そう考えると、ここ数年は魔裟斗選手の存在の大きさから「魔裟斗基準」というのができたんじゃないかと思うんですよ。強いだけじゃダメ、カッコよくないとダメ、お茶の間向けじゃないとダメとか。

谷川　そうだね。そういう意味で魔裟斗くんは本当に正統派ですよ。まあ、ただ「魔裟斗基準」で唯一もの足りないといえば、〝プロレス心〟がないということぐらいかな。

――ああ、変態的なファンがついていな

結論から先に言うと、KIDくんと青木くんはメチャクチャおもしろい！

かった原因はそこかもしれないですね。

谷川　それでいうと、魔裟斗くんって『Dynamite!!』でKIDくんと闘ったときに観客が盛り上がっていたことに凄く驚いてたんだよね。

――そんなの盛り上がるに決まってるじゃないですか（笑）。

谷川　でも、最初は「こんな立ち技の素人同然の総合格闘家とやってもお客さんは楽しめないですよ」って渋ってたんだけど、それがもの凄く盛り上がってしまった。しかもKIDくんにいいところを持っていかれたじゃない。それが魔裟斗くんは初めて体験した驚きだったと思うんだよ。だって、そもそもあのとき年末は闘うんだったらアンディ・サワーだって言われたし。

――サワー戦……。正直、『Dynamite!!』というイベントのカラーには合わないカードですねぇ。

谷川　でしょ？　でも本人は「サワーとやらずに誰とやるの？」って感じだったと思うよ。しかも「メインイベントで」とも言うんだけど、ボク的にもイベント的にもサワー戦じゃメインにはならないんだよね。

――MAXでやるべきカードですね。

谷川　だから「魔裟斗が出ることが格闘技界に意味があるんだ」という口説き方でやっと出てくれたんですよ。

――魔裟斗選手の残された試合は、7月と大晦日の2戦しかないじゃないですか。そのうち一つの席に総合格闘家が座る流れになってますが、その選択は魔裟斗選手からすれば、どういう腹づもりなんですか？

谷川　単純に去年の大晦日が引っかかったからじゃない？　「総合格闘家にK-1ルールで負けた」という結果に対しての怒りが一番強いと思う。魔裟斗くんは武田選手が川尻くんに負けたことに怒ってたからね。「信じられない」って。そういう意味では、魔裟斗くんにはジャンルに対するプライドがもの凄くあるんですよ。

――実際にこの一戦は実現するんでしょうか？

谷川　それは川尻くん次第じゃない？　もしくはDREAMの考え方次第。川尻くんが5月にJZカルバンとライト級王者決定戦をやるんだったら難しいかもしれないし、そこでケガしたり負けたりするかもしれないし。でも、川尻くんは絶対に魔裟斗くんとやったほうがいいと思う。だって、ボクだったら絶対にやるもん！

――谷川さんがヒーヒー言わせてやりますか！（笑）。

谷川　そりゃそうでしょ。名前は売れるし、同世代の格闘家として生まれたらやっぱり魔裟斗くんとやりたいじゃん。

――川尻選手がダメだった場合は？

谷川　いるなあ、一人。

――え？　誰なんですか⁉

谷川　……ボクは、五味（隆典）くんもいいなと思ってるんだよね（小声で）。

――なるほど！

谷川　川尻くんか五味くん。この二人だったらどっちもいいと思う。二人に一言添えるとすれば、いい格闘家っていい選び方をしないとダメなんで、本当にちゃんと見極めてほしいなって思いますよ。

――選手の成功は「実力2割、マネージメント8割」って言われますもんね。

谷川　ホントそうだよ。だから五味くんに関して言うと、放っておいて好き勝手やらせたら、かつての輝きはなくなったわけじゃない。五味くんを救える唯一の方法が魔裟斗戦だと思ってるからね。

――五味隆典が復活するのは魔裟斗戦しかない！　と。ホントだったらカルバンをぶっ倒して、武田幸三をぶっ倒して、五味隆典が「魔裟斗とやりたい！」って言ってる姿もあったわけじゃないですか。

谷川　あった、あった。

なんとサダハルンバが魔裟斗の7月の相手に考えているのは、因縁のある川尻と、そして五味だった！「五味くんを救えるのはこの方法しかない」と話すサダハルンバだが、これ以上の表現、そして実現すればこれ以上の抜擢はない見事なプロデュース劇である。

――ただ、いまその位置に川尻達也がいる現状に違和感がないんですよね。

谷川　そうそう。それは川尻くんが実績を積んだ結果だし、絶対に何か見せてくれるという予感だし、相当強いしね！　武田戦を見るかぎり立ち技でもぜんぜんやっていけるよ～。

――ああ、このささやきで、いろんな選手をダマしてきたのか（笑）。

谷川　（無視して）ちょっと前のMAXのレベルだったら、コヒ（小比類巻太信）とか気持ちで負けてブッ飛ばされてるよ～。そういうことを妄想できるという点でも、本当に魔裟斗の引退のことはいま一番ワクワクする話題なんだよねえ。ウフフフフ。

――ところで先日の『DREAM.8』はどうでした？

谷川　結論から先に言うとさ、青木くんとKIDくんはメチャクチャおもしろかったよねぇ！

――ダハハハハ！　どっちも最高でしたよね（笑）。

谷川　全体的に好勝負が多かったけど、それでも青木くんとKIDくんの人間性に見応えがあったなあ。

――青木真也は抜群のマッチポンプで大騒ぎさせて最終的に泣きじゃくるし、KID選手は解説席で「キモくて強いより、カッコよくて強いほうがいい」とか「2キロ差でアピるのもキモい」とかストレートに言い放ったり（笑）。

谷川　KIDくんの解説はおもしろかったなあ～。あとでKIDくんに「テレビの解説がめちゃくちゃ物議を醸してるみたいだよ」って言ったら、「いやあ、家でテレビを観てるつもりで興奮しちゃって」って言ってたから（笑）。

――ダハハハハ！　で、今回思ったのが、

以前、谷川さんが魔王（秋山成勲）とKID選手を評して「発光体」という言い方をしてたじゃないですか。それを聞いたときになんとなくいう理解しつつも、それはスターとしての発光体かなあと解釈してたんですよね。でも今回の青木真也を見て、「発光体」というのは勝手に他人をも光らせていく存在なんだなって妙に納得しました。

谷川　だから青木くんは今回、見事に化けましたよ。最近ってさ、「物議を醸すということが悪である」と捉えられることが多いじゃない。でも、それは絶対に間違ってるんだよね。物議を醸してナンボでしょ。

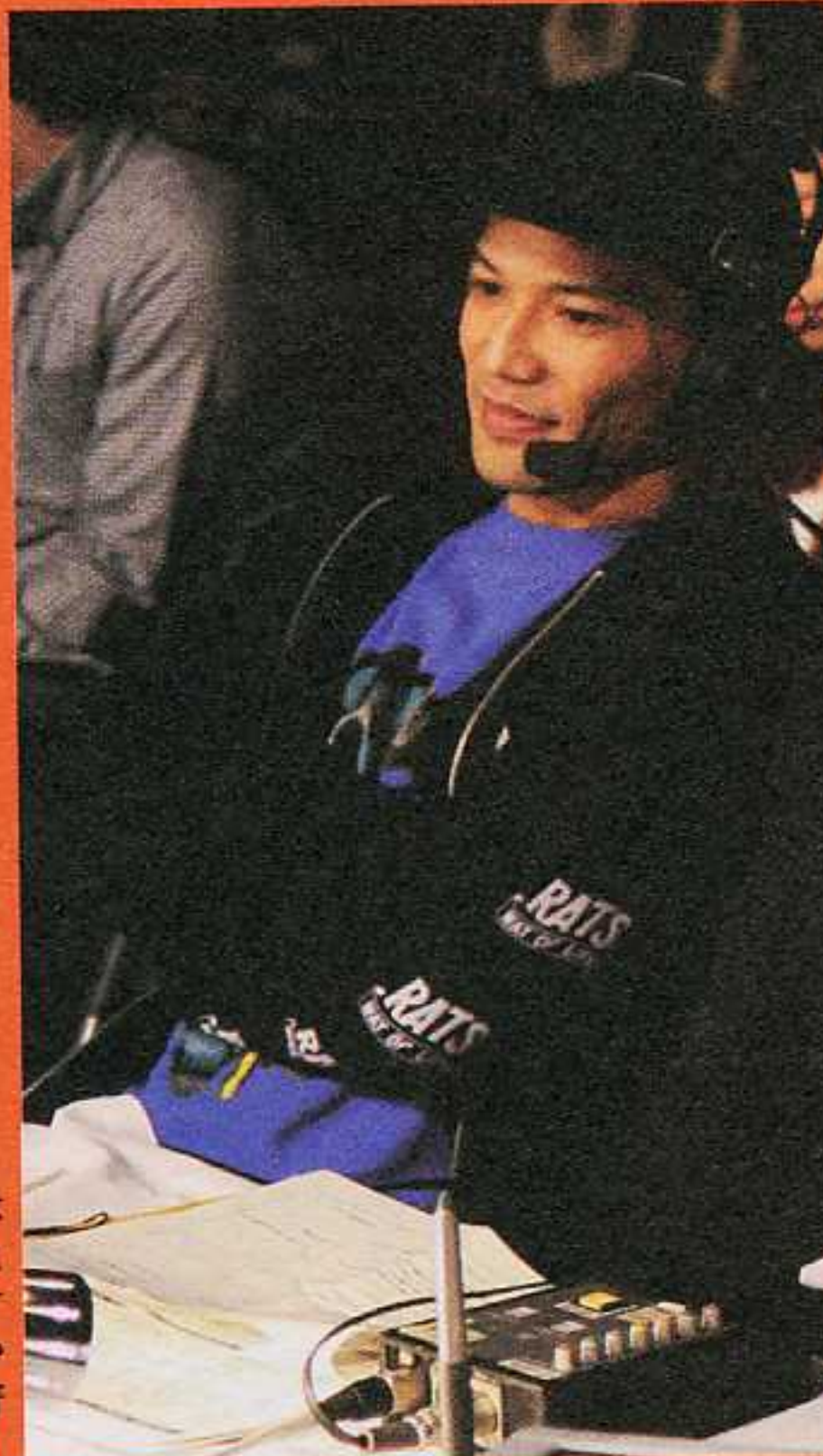
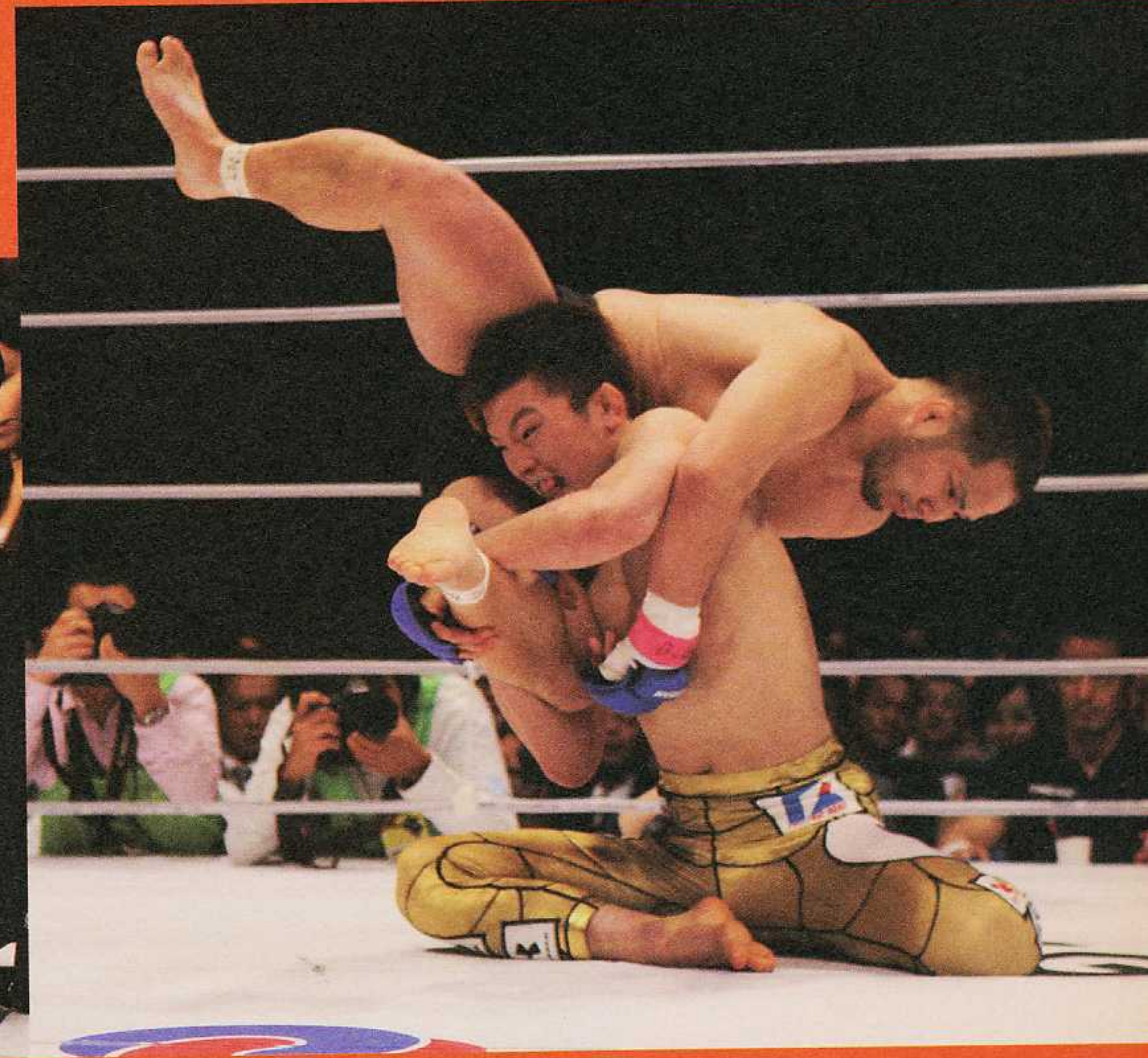
——本当にそうですね。

谷川　青木くんもKIDくんもプロとして物議を醸しているよね。

——そこで一つ思ったのが、要はDREAMって、相手が誰であろうといじれる人や、どんないじられ方をしても耐えられる人間だけが活躍できる場なのかなって。青木真也は相手もいじるし、あそこまでヒールとしていじられてもそれをまっとうしてるし、KID選手も同じじゃないですか。

谷川　うん。スターはいじられないとダメでしょ。いじられることに迎合してもダメだと思うけど、それを受け止める力がないとそれはやっぱりダメだよね。迎合しちゃうとターザンみたいになっちゃうけど、でもそれを受け止められない人ってやっぱりムリだもん。

——しかも、今回のあの二人はいじられつつも、我々の予想を超えるじゃないですか。

谷川　超えたなあ～！　あの「やっぱりキモくて強いより……」というのは、じつはみんな思ってることだったりするじゃない？　それをズバッと言っちゃうからこそ素晴らしいよね。あと、たまたまセミ前にトイレに行ったんだけど、そこで青木くんとバッタリ会ったんですよ。そしたら「いいもん見せますからね！」って言われてさ。それが、ここまでのものだったとは思わなかったなあって（うっとり）。

27秒KOで決着がついたマッハvs青木戦に、KIDは「やっぱキモくて強いより、カッコよくて強いほうがいいっすね!」と大はしゃぎ。このKIDの素直かついい意味での迂闊さが、マッハvs青木戦を100倍おもしろくしてくれた!

こうなると、本当に秋山くんはツイてないなあって思わない？

——ダハハハハハ!!　確かにいいもん観られましたよね（笑）。

谷川　戦前はマッハが圧敗すると思ってたんですよ。青木くんって相当凄いんだろうなと思ってたし、70キロと76キロって響きがあんまり変わらないじゃない。

——言葉にすると（笑）。

谷川　だからそんな体重差があるように思えないし、70キロでやってる選手も普段は75～76キロぐらいあるからさ。

——いやいや、でもマッハ選手は90キロぐらいから落としてきてるんですよ。

谷川　ねえ！

——「ねえ！」じゃない！（笑）。

谷川　それを考えると、いままでKIDくんに申し訳ないことしてたなってつくづく思うんだよね。KIDの体重って増やしても63キロぐらいなんだけど、『HERO'S』で70キロのトーナメントに出してたからさ。宇野（薫）くんにしても（須藤）元気にしてもみんなやっぱり75キロぐらいから落としてくるわけだからね。「大丈夫だよ、KIDだったら勝てるよ」って軽く言っちゃったんだけど。

——いまさら反省しないでください（笑）。

谷川　しかしさ、こうなると、本当に秋山くんはツイてないなあって思わない？（笑みを噛み殺しながら）。

——ダハハハハハ！

谷川　いやー、秋山くんはツイてないなあ！　だって青木くんとやってれば、劇的にキャラチェンジできたかもしれないでしょ？

——発光体同士のぶつかり合いですもんね。しかも聞くところによると、いまだに魔王は青木に対してマッハばりに激怒してるみたいですね。

谷川　「ナメくさりやがって」って？

——ええ、結果的に営業妨害になったから。要は青木の挑発によって、日本や韓国でのプロモーションに大ダメージを与えたっぽいですね。

谷川　ふーん、そうなんだ。だったら青木くんと試合すればよかったのに。メチャクチャ盛り上がったよ、きっと。まあ、青木くんは負けたけど、これでまた一皮二皮も剥けるでしょ。

——あと、負けたけど所（英男）選手もいいなあと思ったんですね。

谷川　やっぱり所くんはねぇ、もうちょっと精神的なたくましさがあったほうがいいなあ。あの試合はたくましさがなかったから、負けたんだと思うよ。相手の得意なところで攻めたらやられる。だから不得意なところで勝負しようって作戦だったと思うんだけど、じつは得意なところで勝負したら勝てたかもしれないなって。実際問題、パンチでDJ・taikiの顔面とかボコボコにしてるわけだからね。

——そのDJ・taikiが眼窩底をケガして、新選手が代打出場するんじゃな

いろ文句を言わせてしまったんですけど」って言ったらしいんですよね。

谷川　ん？　そんなことあったっけ？

——またぁ⁉（笑）。

谷川　うん。青木ファンのボクとしてはこのまま引き下がれないもん！

とも知りたいね。青木くんがどんなタイプなのか、これを機に徹底的に知りたい。

——じゃあ、迷信深い谷川さんのために

青木ファンのボクとしてはもう一度ウェルター級でやってほしいなあ

面とかボコボコにしてるわけだからね。

——そのDJ．taiki が眼窩底をケガしてて、所選手が代打出場するんじゃないかと言われてますけど（4月10日、所の出場が正式決定）、そうなったら残酷なドラマになりますね。3連敗してるのに出なきゃならないわけですから。

谷川　でも、所くんはそこに勢いよく乗らないとダメですよ！　そこに迷わず出る図々しさ、たくましさがないと。

——それはさっき言った「いじられる」というのと共通してるかもしれないですね。だって、期待してない選手なんかいじらないですもんね。

谷川　そうだよお。たとえば秋山くんなんかはいじられ慣れてないというのもあるのかもしれないけど、それに対して怖がる必要ないと思うけどなあ。

——谷川さんはもうちょっと警戒したほうがいいと思いますけどね（笑）。

谷川　（無視して）「飛び込めばいいのに！」って思うんだよね。センスのないいじられ方なら無視すればいいし、センスのあるいじられ方なら飛び込んじゃって、それを上回ることを言ったりすればいいんですけどね。そっちのほうがおもしろいじゃない。

——そこで谷川さんの凄くいいエピソードを聞いたんですよ。

谷川　え？　ボクの？

——大晦日のキン肉万太郎vsボブ・サップをやる直前に、（佐藤）大輔さんが谷川さんに「煽りVでDJ OZMAさんにいろいろ文句を言わせてしまったんですけど」って言ったらしいんですよね。

谷川　ん？　そんなことあったっけ？

——そこで谷川さんは「なんだよ、試合直前に！　誰の悪口を言わせたの⁉」ってあわてたらしいんですけど、大輔さんが「谷川さんの悪口です」って答えたら、「なーんだ、驚かせないでよ」って胸をなで下ろしたという（笑）。

谷川　ああ、ボクのことなんかはぜんぜんいいんですよ。自分のことはどう言われようがぜんぜん問題ない（キッパリ）。

——やっぱりタフだなあ、谷川さんは（笑）。最後に青木真也はどういうふうに復活するのが理想ですか？

谷川　もう一度、ウェルター級でやってほしいなあ。

昨年の『Dynamite!!』ではDREAMの大黒柱・青木真也の挑発により、対戦実現寸前だった青木vs秋山。体重差が勝敗を分けたマッハ戦を見るかぎり秋山有利の感がするのだが、そこを取りのがしてしまうのは、秋山の嗅覚の鈍りからか!?

——またぁ⁉（笑）。

谷川　うん。青木ファンのボクとしてはこのまま引き下がれないもん！

——ちょっとちょっと、いつから青木ファンなんですか。まったく聞いたことないですよ（笑）。

谷川　なんかこのまま「ライト級に戻りました！」って言われても嫌じゃん。ボクはなんか観たいね、ウェルター級で。いや……、むしろミドル級や無差別級トーナメントに出てもらってもいいくらいだよ!!

——青木真也vsボブ・サップとか？　殺す気か⁉（笑）。

谷川　そうそう。そういうファンタジーを観たいよなあ。

——まあ、青木真也なら極めてもおかしくないですよね。もしくは秒殺負け（笑）。

谷川　ねぇ。だってライト級だったら答えがだいぶ見えてきてるじゃない。川尻くんとか五味くんとの試合なら観たいけど。

——こういう発言を聞いて、多くの読者が「ふざけんなダニ川！」と怒ってると思いますが（笑）、ライト級だと青木真也の勝つ姿も負ける姿もだいたい想像できるし、それよりも青木真也がどうなるかわからない試合が観たいってことが言いたいんですよね？。

谷川　そういうこと！　青木くんもPRIDEのときと比べると、去年1年で顔が変わったもんね。それがまた変わるのが楽しみだなあって。……ねえ、青木選手って血液型って何型なの？

——どうしたんですか、急に。

谷川　いや、単純に知りたいなって。

——谷川さん、血液型で性格を判断するのって日本人ぐらいですよ。

谷川　いやー、星座とか動物占いとかも知りたいなって。三碧木星だとかそんなことも知りたいね。青木くんがどんなタイプなのか、これを機に徹底的に知りたい。

——じゃあ、迷信深い谷川さんのためにページの最後に青木さんのプロフィールを載せときますよ。

谷川　ああ、それはいいね。ちなみにボクの動物占いは虎なんですよ!!（胸を張って）。

——はあ。虎の威を借りる狸って感じもしますけど。

谷川　がお〜〜〜〜おおおお!!（怒）。

【09年4月7日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

【青木真也のプロフィール】

生年月日◎1983年5月9日
出身地◎静岡県　星座◎おうし座
血液型◎AB型　動物占い◎猿
四柱推命◎八白土星
※注＝ちなみに、サダハルンバによると石井元館長、猪木さん、ボブ・サップも同じAB型だそうです。んあ〜。

谷川貞治が選ぶ 心に残る引退エピソード

猪木さんの引退試合はもう一回やり直したいなあ

パッと思い浮かぶのは千代の富士だねえ。ボクの中ではあれが一番よかったなあ。貴乃花（貴花田）に負けて「体力の限界です」って泣きながら言ったのは本当にカッコいいなあって。あとはまあ高田さんもよかったし。あれを見たら高田さんは本当に幸せもんだなって思うよね。ただ、猪木さんの引退試合は……正直、終わったあと本当に「やり直しさせてほしいなあ！」って思ったね。もう、マッチメイクから何から。だって、引退試合の相手なんて誰も覚えてないでしょ？　ドン・フライだよ。ボクだったら全然違うことをやるよお！　あれはやり直ししたいなあ（しみじみと）。

ここに2枚の写真がある。
2008年の大晦日に、ヒザをガチガチのサポーターで固め、シューズを履いてチエ・ホンマンを蹴り倒したあと、年が明けた1月12日。午前10時から約2時間の執刀時間を要したヒザ前十字靭帯再建手術を受け、麻酔から目覚めた数時間後のミルコ・クロコップを病室にてとらえた貴重な写真である（72ページ参照）。
06年9月にPRIDE無差別級GPに優勝、念願のチャンピオンベルトを腰に巻き、溢れる涙をぬぐおうともしなかった栄光のあの日が彼の格闘家人生の頂点だとすれば、ベッドから起き上がることもままならず、数時間おきに痛み止めを服用しながら、自らのヒザが本当に甦るのかという不安と戦うこの日は、本来であればまさにどん底であったはずである。
しかし、写真の中のミルコは、まるで憑きものが落ちたような晴れ晴れとした表情のように見える。クロアチアの新聞各紙も、母国のヒーローが術後に見せた柔和な表情に一様に驚きの記事を掲載した。
このミルコの表情が物語るのは、4年にわたるヒザのケガとの闘いからようやく解放された安堵感以外の何物でもないであろうことは想像に難くない。
08年6月の『DREAM・4』における、ハレック・グレイシーとのグラップリングマッチの直前のキャンセル。続く7月の『DREAM・5』出場断念が発表されたあたりから、ようやくミルコがケガと闘っているであろう実情が表面化し始めたが、後述するとおり敏腕代理人である今井賢一氏が、メディアに発表される情報をかく乱してまで隠し通そうとしてきたミルコのヒザのケガは、予想をはるかに上回るほど深刻なものであったようだ。

かくしてミルコのヒザのケガとの戦いについて、いままでメディアには語られな

手術した右ヒザ“妖刀”はすでにボロボロだった

復活せよミルコ・クロコップ

“どん底の2年間”は絶頂期から始まっていた

UFC参戦以降、かつての鮮烈なまでの強さを見せられぬまま、2年の月日が経ってしまったミルコ・クロコップ。今年1月には、再起を懸けて自分を苦しめてきた古傷の手術に踏み切ったが、ここに至るまでのミルコの苦闘を全権代理人の今井賢一氏が語ってくれた。

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　写真協力／ズーム・エンターテインメント

かくしてミルコのヒザのケガとの戦いについて、いままでメディアには語られなかった事実も含めて取材を敢行することになった。

まずは今井氏の開口一番の言葉が印象に残る。

「格闘家にとってウイークポイント、とくにケガをした個所は最も隠しておかねばならないことですよね。とくにK－1時代からの癖とも言えるのですが、ヒザのケガはK－1ファイターにとってみれば、ピンポイントでローキックで狙われるのは火を見るよりあきらか。いまでも、ジェロム・レ・バンナが執拗に古傷の左前腕を蹴られることからでみなさんも想像がつくでしょう。本当のケガの個所を隠し通すために、僕も一切アナウンスもせず、ときには事実と異なる情報を流して、情報をかく乱せざるを得なかった……。それが僕の仕事でもあったんです」

ミルコが隠し続けたヒザの爆弾。その導火線に火がついたのは、じつは4年以上も前のことだった。

「ミルコがヒザを一番最初に痛めてしまったのは、04年の8月。アレキサンダー（・エメリヤーエンコ）戦に向けて東京で3週間のトレーニングキャンプを張っている最中でした。試合の11日前に激しいスパーリングを行なった際、ヒザの内側靭帯をケガしたんです。すぐに連れていった病院のMRIで繊維断裂がハッキリと視認できました。それによって、その日まで、“ママチャリ”に乗ったミルコ軍団が港区内を疾風のように駆け巡って、毎日トレーニング場に向かっていたことが話題になっていたのですが、自転車を漕ぐことさえできなくなってしまった。当然、ドクターからは試合回避を勧告されましたが、ミル

コにとって、アレキサンダー戦はヒョードル戦に辿り着くためにどうしても超えなければならなかった壁ですから、当然の如くドクターの勧告は無視され強行出場。あそこからすべては始まっているんです」

04年といえば、ミルコは「打倒ヒョードル」をブチ上げ、自信満々でPRIDEヘビー級GPに出場。しかし、1回戦で伏兵ランデルマンの左フック一発に屈し、初めてのKO負け。決勝でヒョードルを倒してベルトを腰に巻く野望は、一瞬のうちにはかなくも消え去った。

その後、ミルコは再び這い上がるために、異常ともいえる連戦を行なっていく。ランデルマンに敗れたわずか1カ月後に、PRIDE武士道で金原弘光戦を無理やり組ませ、参戦。その1カ月半後にも大山峻護をKO。そして大山戦後は、そのまま東京に残り1カ月後のアレキサンダー戦に向けてトレーニングキャンプを張っていた。

そんな身体をいじめ抜いて、一番疲れがたまる試合の11日前についにケガをしてしまったのだ。この時、ミルコを強行出場に駆り立て、そして結果的にアレキサンダーをKOさせたのは、まぎれもなくランデルマン戦で味わった屈辱を払しょくしたいという〝強い気持ち〟だった。そこからミルコは、10月のジョシュ・バーネット戦、大晦日のケビン・ランデルマン戦、さらに翌年2月のマーク・コールマン戦とノンストップで駆け抜けていったのであるが、繊維断裂を抱えたヒザ内側靭帯への完全なる養生は、結局後回しにされることになった。

打倒ヒョードルへの思い一つで爆弾を抱えたまま闘い続けたミルコ。しかし、05年8月、ヒョードルに敗れ緊張の糸が切れたあと、身体を酷使し続けたツケが一気に襲いかかってきた。

「ヒョードル戦後は、もうすでにヒザに水が溜まる症状が出ていました。内側靭帯が完治しないため、ヒザのジョイントの可動軌道が、時に不規則になることを無視して闘い続けた結果、これはもう、ドクターからあらかじめ予測診断を受けていたのですが、ついにと言うかやはりと言うか、本来であれば内側靭帯と共同で可動域と負荷を受け持っているべき前十字靭帯が単独での可動軌道制御の負荷に耐えられなくなり、悲鳴を上げ始めたということです。ヒザという、精密機械のように複雑な構造で、全体重のあらゆる可動を受け止めるべきメカニズムが、一部分が故障することによって、連鎖的にほかの部分も傷んでいってしまう。これは、プロのアスリートにとってのヒザの故障の連鎖の典型的なパターンですね。これ以降、ヒザに水が溜まることは完全に慢性化してしまう。そしてヒザの水を抜いてはトレーニングという繰り返し。ヒョードル戦の前にはイブラヒム・カラム戦で左足の甲も負傷。05年の大晦日には、38度の発熱をおして、完治しない甲をかばうために初めてシューズを履いてマーク・ハントと闘うも判定負け。要するにミルコの身体のいたるところが悲鳴を上げ始めたというわけです」

手術直後、スイスの病院に入院中のミルコ。ヒザはニーブレスでガッチリと固定されているが、寝ながら握力運動をするなど、負傷箇所以外はいたって元気そう。明るい表情が印象的だ。

それでも06年には、ヴァンダレイ・シウバ、ジョシュ・バーネットを連続KOして、見事にPRIDE無差別級GP優勝。この大会には宿敵ヒョードルこそ参戦していなかったものの、そこで見せた強さは「ミルコ完全復活」を印象づけた……ようにも見受けられたが、実際は全く違っていたのである。

「06年10月にはドクターから『すでに前十字靭帯部分断裂がMRIで視認できる。さらにいつ完全に切れるかわからない。言えば、この前十字靭帯の状態では、全体重を受け止めるヒザの可動域がかなり水平方向に不安定になる。ということはいつか半月板を損傷するかもしれない』という勧告でした。だから、このへんからはもう走り込みができなくなっていて、スタミナ切れを起こしやすくなっていったんだと思います」

本来ならミルコはこのGP制覇を機に、酷使し続けてきた身体を休め、ゆっくりと身体中のメンテナンス期間に入るはずだった。しかし、このときミルコの充電計画を大きく覆すオファーがアメリカから届いた。UFCからの巨額の契約提示。それもMMA史上最大規模のものだった。

「いま思えば、しっかり身体を治して、準備を完璧にしてからUFCに行くべきでした。しかし、当時のミルコ、そして僕自身もPRIDEに比べたらUFCヘビー級のレベルは数段劣ると高をくくっていた。無差別級GPで優勝した直後でしたし、ルールやリングとオクタゴンの違いなどは、あまり考慮していなかったんです。あのヒザの状態でヴァンダレイとジョシュをKOできていたわけですから、『行けばすぐにUFC王者になれるだろう。アメリカでミルコ・クロコップという格闘家とクロアチアという国をアピールして、契約を消化したら日本に戻ろう』ぐらいの甘い考えでしたね。しかも、いつ半月板が破

損するか、前十字靭帯が切れてしまうかという時限爆弾を抱えたままのトレーニングでしたから、やはりパフォーマンスは最悪でした」

案の定、UFCにおいてミルコは自らの格闘家としての華々しいキャリアに泥を塗るかのような最低のパフォーマンスしか見せることはできず、07年の9月に契約条項のオプションを行使して、UFC参戦を中断。半年近く試合から離れて、メスを入れずにヒザを養生、調整する道を選択し、08年にDREAM参戦というかたちで日本に復帰した。

しかし、手術という抜本的な手段を選択せずに、再びハードなトレーニングを開始したミルコのヒザは、あっけなくギブアップするのである。

「『DREAM・1』での水野戦が終わったあと、5月の頭にチェコに遠征し、K-1選手たちとの打撃スパーリングを行なっていたんです。その時、ついにヒザの半月板が損傷し、欠けた破片がヒザの関節の中に入ってしまい、激痛を伴うようになってしまいました。ヒザを深く曲げると、関節内の破片によってヒザのジョイントが曲げた個所でロックしてしまう。伸ばすたびに激痛が走るという繰り返しですね。それでも、ゴールデンタイム放映の『DREAM・5』への参戦をミルコは簡単には諦めなかった。そんなヒザの状態でも、痛み止めを打ってでも出たいと言ってきかなかったですね」

ミルコは当初、『DREAM・1』での水野戦後、6月の『DREAM・4』でハレック・グレイシーとのグラップリングマッチ、7月の『DREAM・5』では、セルゲイ・ハリトーノフ、マイティ・モーのいずれかと闘う予定だったが、前出のようにいずれもキャンセルされた。その真の原因が、じつはヒザの半月板損傷にあったのだ。

しかし当時発表されたミルコの欠場理由は「右ヒジ靭帯亜脱臼」。欠場を発表した記者会見では、今井氏も出席してミルコのケガの状態について説明していたが、これは事実と異なる発表だったことになる。

「ハレック戦欠場発表の時は、ヒジもケガしていたことは事実なんですけど、これはどうしても欠場しなくてはならない程のケガではなかったんです。真の理由はヒザの半月板損傷でした。しかし、この時点では、まだミルコも7月には試合をしたいと言い張っていたので、まず軽い方のケガで発表したんです……」

ハレック戦の欠場理由とされた「右ヒジ靭帯亜脱臼」は、ヒザの半月板損傷を悟られないための〝目くらまし〟だった。しかし、プロスポーツにおいて、こういった〝偽りの発表〟は、選手とイベント両方の信頼を損ねることになりかねない。

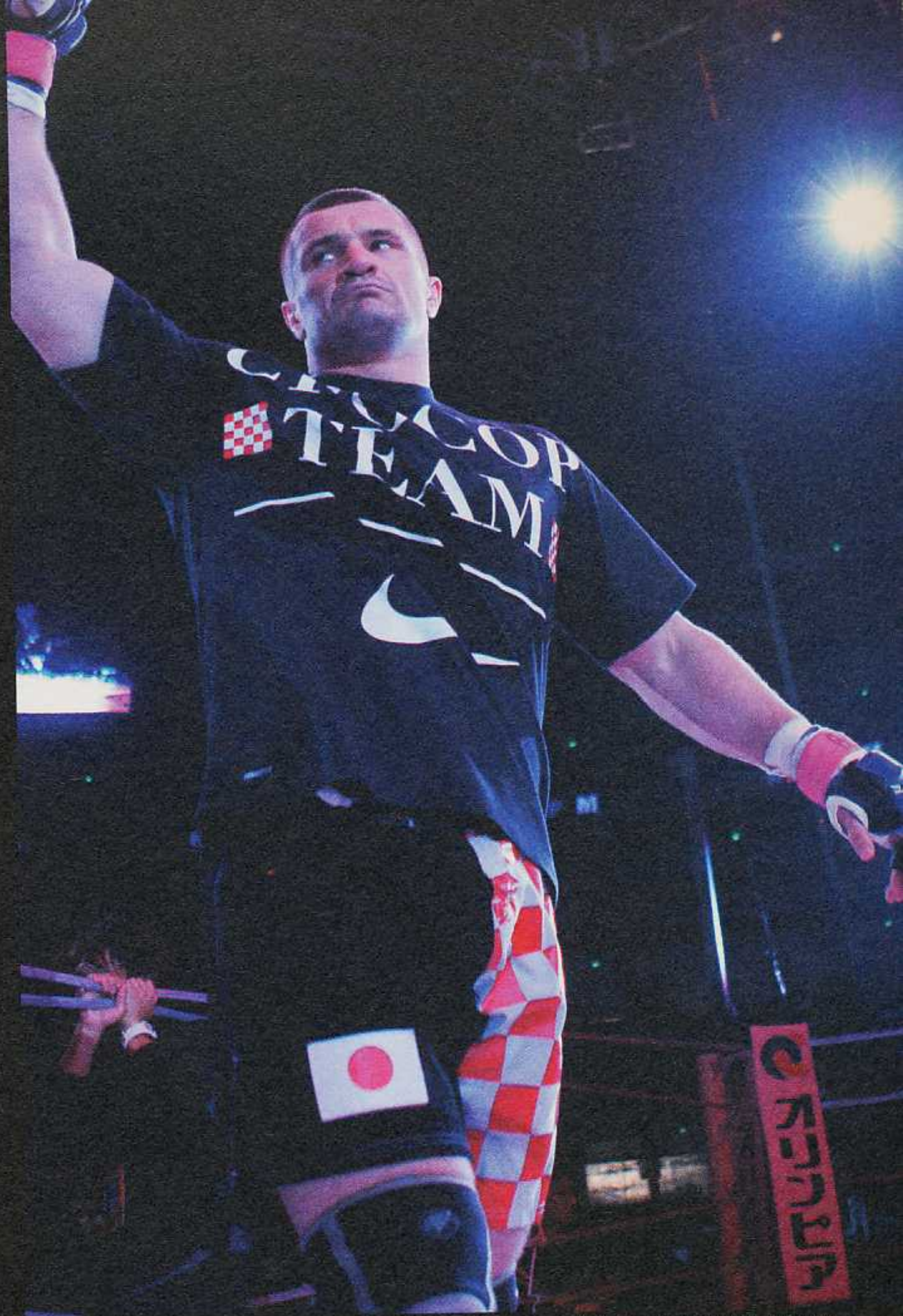
「悩みましたね。今回、この場を借りて、真実を明らかにし、関係者の皆さんに謝罪をする機会ができてほっとしています。あの時点ではミルコを守るためにはああいった発表をせざるをえなかったと自分を言い聞かせましたが、やはり記者会見までやるということになり、たじろぐ自分がいたことは確かです……」

最終的にミルコは『DREAM・5』欠場を決心し、7月10日に、まず内視鏡によって半月板の破片を除去する手術することになった。しかし、ここからまたさらにミルコのケガをめぐるドラマが加速していくのである。

「ミルコは9月23日に予定されていた『DREAM・6』には、何がなんでも出場する気でいました。それはなぜか、みなさんもご存じのことでしょう。公の場で何度となく声高に挑戦されて、プライドが踏みにじられていたアリスター・オーフレイムが対戦相手だったからです。そしてDREAMの視聴率の思わしくない中で、ゴールデンタイムで放送するTBSにとっても大事な試合であることもわかりきっていただけに……」

情報をかく乱までして強行出場した『DREAM・6』のアリスター・オーフレイム戦。しかし、ここでミルコはアリスターのパワーに押され、度重なる金的蹴りもあり弱々しい姿を見せてしまう。

しかし、この試合をあらためて観てみると、組み合った際、両足の踏ん張りがまったく利いていないことがわかる。代名詞である蹴りも、いつもに比べて力がなかった。半月板の破片を内視鏡手術で除去してから、たったの10週後の試合である。また、この試合で受けた金的へのひざ蹴りが原因で、左の睾丸が一瞬左足の付け根に埋没し、ミルコは試合後に直行した広尾病院のERで血尿を出す羽目に陥った。まさに踏んだり蹴ったりの結果であった。

「7月10日の内視鏡手術をしてから、3週間は歩くにも松葉杖が必要で、トレーニングはまったく何もできないわけですから、無謀なチャレンジですよ。本人も〝ミッション・インポシブル〟とハッキリ言いながら、寂しそうな、弱々しい作り笑いを浮かべてました。普通に歩けるようになった時点で、すでに試合当日まで5週間です。本人の名誉のためにも言っておきますが、それでも本人はやれるだけのことはやるつもりでいました。身体を動かし始めてから、スパーリングができるようになった時点ですでに試合当日まで20日間でしたからね。でも玉砕覚悟でいたわけではないし、オランダに行ってレミー・ボンヤスキーとのスパーリングができたのも一週

2004年7月～8月、蒸し暑い真夏の東京で、チーム・クロコップのメンバーたちと3週間にわたってトレーニングキャンプを張ったミルコ。このときの激しいスパーリングでヒザを痛めてしまった。

MIRKO CROCOP

間もなかったけれど、痛いヒザを引きずってレミーとは果敢に打ち合ってましたからね」
　しかし、やはりスパーリングはスパーリング、試合ではなかった。
「結局、アリスター戦があんな情けない結果に終わり、そして、あの結果をもって、『ヒザにメスを入れて根本的に治さなければダメだ』ということで、やっと前十字靭帯に自らのヒザ裏の腱を移植して補強再建する手術を受ける決断をしたわけです」
　しかし、それですんなりいかないのがミルコの性格だ。
「手術が決まったあと、またしてもミルコはとんでもないことを言い出して、最後の悪あがきをするわけです。『アリスター戦で情けない姿をさらしたまま手術に向かうことはどうしても我慢ならない。このまま手術で長期欠場になったら、俺はあの試合のことだけを思い出して、うつ病になってしまう。なんとか大晦日にもう一度だけ出させてくれ』と。僕はもう呆れて、あいた口がふさがりませんでしたね。笑うべきなのか、悲しむべきなのか、ミルコの言う事を全部聞いてやっていたら、ミルコが完全に壊れてしまうのではないか……、そうすると絶対に『今井がミルコを殺した』とでも言われかねないとか、まあいろんなことが頭をよぎりました。このヒザの状態で、手術を決断してから、その前に最後にもう一度試合をさせろと言い出すなんて、どう考えても正気の沙汰ではないでしょう！」
　結局、大晦日にミルコには試合をしてほしいDREAMとTBS側も渡りに船で、チェ・ホンマン戦が決定するのである。
　大晦日当日、巨体を誇るチェ・ホンマン相手に、ヒザに負担をかけないよう両ヒザに大きなサポーターをつけ、シューズを履いて闘ったミルコ。この試合を勝利で飾って、やっと気が済んだのか、年が明けた1月12日、スイス・バーゼル市内の病院でついにヒザ前十字靭帯再建手術を行なった。多くの有名サッカー選手の執刀も担当した名医の手によって、手術は成功。現在は順調に回復しつつあり、復帰に向けてのリハビリに励んでいるという。
「ヒザの回復はドクターがビックリするぐらい早いです。ミルコはもともと先天的に、タンパク質やカルシウムを筋肉や骨、腱を作るために効率よく取り込む、分解吸収蘇生能力が高いのでしょう。術後の経過があまりにも順調なので、ミルコはすぐにでもトレーニングを始めたいようですけど『まあ、ちょっと待て』と落ち着かせているところですから」
　じつはこの欠場期間中、ミルコには「6月の『UFC99』でランディ・クートゥアーと闘う」という噂が飛び交った。ダナ・ホワイトも「クロコップサイドとはコンタクトを取った」と認めたこの件の真相はいったいなんだったのだろうか。
「ランディ戦が〝決定した〟というのは、ネット上の完全なデマですね。確かにダナから連絡はありました。ドイツには500万人近い世界最大のクロアチア人コミュニティがありますから、マーケティングを行なった結果、ドイツで最もチケットを売れるのは、民族ロイヤリティの高いクロアチアの英雄、ミルコだという結果が出たそうです。しかし、ミルコとUFCの契約を再開するためには、06年末に結んだ契約書が元になる。ミルコはUFCで2連敗しているので、一定のパーセンテージを下げた額になるんですが、それでも、今の経済状況の中では考えられない金額になってしまうんです。それで、正式なオファーになる前に、UFC側が断念したというのが本当のところですね」
　ミルコ自身はUFCへの再挑戦というより、親戚もたくさん住んでいるドイツでランディと試合をするというアイディアには乗り気だったらしいが、結局、自分をいつでも待っていてくれるファンのいる日本で、DREAMを盛り上げるために、トレーニングをスタートしているという。
「ミルコの復帰時期は回復状況を見て慎重に決めていかねばなりませんが、いまのところ7月のDREAMにうまく組めればと思っているところです。『俺の次の試合はいつだ』と毎日、駄々っ子のように電話をしてきますが、これぱかりはミルコの意見ばかりを取り入れるわけにはいかないので、僕もドクターと直接話せるホットラインがありますから、ドクターと相談のうえで決めたいと思います。
　この執刀医の手による同じ手術でロベルト・バッジオは手術後50日くらいにはランニングを始めた記録があります。ミルコの前十字靭帯も恐るべき速さで、移植された腱と同質化しつつあります。4年間、苦しみ続けたヒザのケガからやっと解放されて、もう一度心の底から、暴れたいのでしょう。手術当日、麻酔から目覚めて数時間後に撮られたあの写真のミルコの穏やかな表情が、本当の意味での再スタートに懸けるミルコの心に期するものを表しているように見えますね。ヤツにとって、何よりも大切なのはメンタルの部分での完全復活ですからね。」
　多くのファン、そして日本の格闘技界が待ち望んでいるミルコ・クロコップの完全復活。その輪郭がおぼろげながら見えてきた。
　今夏、復讐のターミネーターがいよいよ動きだす！

MIRKO CROCOP

Mirko Crocop■1974年9月10日、クロアチア出身。96年K-1に初来日。99年にはK-1 WGP準優勝。01年8月、初のMMAで藤田和之を撃破。03年からはPRIDEに本格参戦。ヒョードル、ノゲイラと共に"3強"時代を築き、06年にはPRIDE無差別級GPに優勝。07年にはUFC参戦をはたすが屈辱の連敗の喫し、08年よりDREAM参戦。再起を期す。188cm、102kg。

祝・DREAM初勝利！
〝意地〟のミノワマン戦で何を思ったのか？

負け続けた2年間も僕のプロレスです。

脱〝狂犬ファイター〟インタビュー

柴田勝頼

不屈の男がついに2年ぶりの勝利！『HERO'S』山本宜久戦で鮮烈な勝利を飾って以降、勝ちに恵まれずにいた柴田勝頼。しかし、先日名古屋で行なわれた『DREAM.8』でついに念願の勝利を挙げた。その白星の味とは柴田にとってどれほどのものなのか。その思いを聞いた。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

――柴田選手、飲んでますかーーッ！

柴田　飲んでますよーーッ！っていうかさっきまで飲んでました（笑）。まあ、もう酒は抜けましたけど。

――あ、もう抜けたんですか。さすがプロレスラーですね。

柴田　僕は泥酔はしないタイプなんで、ちゃんと記憶もありますし、酔っぱらって、自転車に乗ったりとかしませんから。

――そういう人もいるんですか？（笑）。

柴田　……あ、違う！　それはダメだ！それはダメ！（急にあわてて）。そういう意味じゃなくて、たとえばの話です。

――「誰かみたいに」というわけじゃない、と（笑）。で、昨日のミノワマン戦は飲むに値する試合だったということですか？

柴田　まあ、結果は判定決着だったんですけどね。

――それでも総合デビュー戦である2年前の山本宜久戦以来の勝利となりました。今回の試合はどういう気持ちで臨んだんですか？

柴田　正直、第1試合でのミノワマン戦というのは、どんな試合になるか自分でも予測ができなかったですね。でも、凄くワクワクはしてました。自分のプロレス人生の中で新しい何かが生まれると思ってましたし。だって、いまこの時代に三角パンツ（ショートタイツ）の二人が総合のリングで闘うなんて珍しいじゃないですか。もうプロレスのリングでも珍しいですけど。公開計量のときから普通じゃない。

――確かにあんまり穿いてないですね。

柴田　もうお互い天然記念物ですよ。でも、前から気になってたそのミノワマンと、お互いのプロレスをぶつけ合えるんだなと思ってワクワクしてましたね。いざ試合になると、ちょっとへんに空回りして

だからこそ、ちょっとドロドロの試合になってしまいましたけど、まあそれがいまの自分の等身大なのかなとも思います。

しまったんですけど。

——お互いに慎重でしたよね。

柴田　慎重でした。とくに1ラウンドはそうだったんですけど、1ラウンド終わったあとのインターバルのときに船木さんに「試合、しょっぱいよ。どうする？」って言われたんですよね。

——あ、「勝ってるよ」とか「負けてるからヤバイ」とかじゃなくて、「しょっぱいよ」ですか（笑）。

柴田　そうなんです。だから、俺が第1試合でミノワマンと試合を組まれた意味をもう一回考え直しました。これではダメだ、と。1ラウンド目終わった時点で「俺はこんな試合を求められてるんじゃない」と思って、2ラウンド目はいったつもりです。

——1ラウンドの攻防を見てて、柴田選手はカウンターを狙ってるんだろうなと感じましたけど、会場からも「いけよ！」って声が飛んでましたよね。

柴田　そうなんですよねぇ……。難しいんですよ。僕もそうなんですけど、ミノワマンも僕の打撃にカウンターのタックル狙いだったと思うんですよね。だから考えてたことが似てたんでしょう。それで「いけよ！」って言いたくなる試合になったと思うんですけど、なかなかこう、いけないというか。

——1ラウンド目におもいっきりいけなかったというのは、もう負けられないという思いが強かったからですか？

柴田　それもそうです。とにかく負けたくなかったです。リアルプロレスラーを名乗ってるミノワマンに負けたくなかったですね。僕プロレスラーなんで。そこは意地と意地のぶつかり合いですよ。

——それは存在価値をも脅かされるんじゃないかというのもありました？　要するに、プロレスラーは二人いらないじゃんって思われるんじゃないかとか。

柴田　そこはよくわからないですけど、だからといって1ラウンド目みたいに自分がいかなければ自分の理想とする試合とはまったくかけ離れたものになってしまうなって。勝負してこそ自分らしいのかなと思う部分もありますし。今回の試合はそれが再確認できましたよね。

——もちろん玉砕じゃダメだという思いもあったんですよね？

柴田　突っ込んで倒されて終わりというのはいままで何度もありましたけど、ここでやっていく以上は過去の敗戦から学ばないとダメですよね。だからこの試合は2年間の集大成にしたかったんですよ。

死と再生
引退と復活

だからこそ、ちょっとドロドロの試合になってしまいましたけど、まあそれがいまの自分の等身大なのかなとも思います。

——ファンの中には「勝敗度外視でも柴田らしい試合が観たい」と思う人もいると思うんですよ。

柴田　いや、それだったらそれ以上進歩しないですよ。だって、それって勝つ気ないじゃないですか。僕は勝ちたいですし、負けるためにやってるわけじゃないんですよ。ただ、でもその〝らしさ〟をちゃんと使える闘い方というのをこれからもっとやっていきたいとは思ってます。

——先ほど、この試合を2年間の集大成にしたいと思われたというお話でしたけど、この2年間は具体的にどんなことに取り組んでました？

柴田　全体的にやってましたね。去年の試合が終わってから、とくに寝てからの対応ができてなかったんで、ずっとマウント取ってもらって、抑え込みからスタートする練習をやってました。そっからの対応ができないとダメだと思ったんで。

——この2年間はずっとその繰り返しだった、と。

柴田　まあ、ラッキーパンチってのはないと思うんですけど、デビュー戦はキレイに当たって倒れて未知数のまま次の試合をやることになって。それから負け続けてもそれでもずっと使ってもらってたんですけど、結果出せなくて。だけど技術ゼロから始めて2年でミノワマンに勝ったというのは自分としては凄くデカいです。結果がすべてじゃないですけど、格闘技の世界では結果を残すのも凄く大事だと思いますし。まあ、もっと爆発できればと思ったんですけど、でも結果に「○」がついたというのが自分の気持ち的には凄くプ

ラスになりました。だから、これでまたいろんな冒険ができますよね。

―負け続けてきた中で、このままもう勝ちがこないんじゃないかと思ったことはありますか？

柴田 正直、勝ち方がわからなかったですね。最初の白星はガーンって殴って倒しただけだったんで。だから、とにかく勝つためには負けないようにしないといけないんで、まず下になったときの逃げ方、十字の防ぎ方、足の防ぎ方を練習して。で、やっと見えてきたのがDEEPの滑川戦だったんですよね。

―結果的にはドローでしたけど、あの試合から“勝ち方”が見えてきた、と。

柴田 でもそのときも「これじゃダメだ」と思ってマッハさんとの試合で突っ込んだら、玉砕だったんですよねえ。

―『Dynamite!!』のマッハ戦ですね。あの試合は急なオファーだったみたいですけど。

柴田 ま、それはやると決めた以上は言い訳にはならないですけどね。パウンド打たれて「ギブアップしてない」って言っても負けは負けなんで。でも、それじゃダメで、下になったときの対応はまだまだ甘いんだというのもわかりましたし。それを踏まえての今回のミノワマン戦だったんですよ。

―じゃあ、柴田選手の中では本当に自分を試す場だったんですね。

柴田 そうですね。でも、細かく練習してたとはいっても、だからといって自分に求められてるものを変えようとは思ってなくて、そこはちゃんと空気を読んでやりたいです。だから、僕はそもそもMMAをやってるという意識ではないんですよ。プロレスラーとして総合のリングで闘うという意識なんですよね。プロレスラーとしての闘う姿勢を見せたいんですよ。

―勝敗を含めて、闘う姿で勝負したい、と。

柴田 じつは、今回ミノワマンとの試合決まってからPRIDEの試合をけっこう観てたんですよね。

―ほう。PRIDEの試合ですか。

柴田 で、PRIDEってところどころ大事なポイントでプロレスラーが出てるんですよ。桜庭さんとか高山さんとか田村さんとか。だから、やっぱりプロレスラーは貴重なんですよね。いまは僕が一番下みたいな感じで、しかも新日本プロレス出身というとまたちょっとタイプが違うと思うんですけど、そうなるとやっぱりリアルプロレスラーには負けたくないという意識は強くなりますし。だから……あのー、じつは足、ほぼ極まってたんですよね。

[09.4.5 DREAM.8] 愛知・日本ガイシホール
○柴田勝頼 vs ミノワマン×
(2R終了 判定3-0)

プロレスラーの意地の張り合いとなったこの一戦。1ラウンド目はお互いに負けられない闘いなだけに慎重になりすぎてアクションが少ない感があったが、2ラウンド終盤に柴田が根性のジャーマンを披露！ 柴田はこれで2年ぶりの勝利を挙げたのだった。

僕はプロレスラーとして総合のリングで闘う姿勢を見せたいんです

―あ、ミノワマンに取られてたアキレス腱ですか!?

柴田 バキバキって。じつはいまでもボッコリ腫れてるんですよ。病院は行ってないんですけど、アルコール消毒して。

―あ、それでよけいに腫れたんじゃないですか？(笑)。

柴田 そうなんですよ(笑)。でもバキバキ！ バキバキ！ って2回音が鳴ったんですよね。でも試合中だしアドレナリンが凄く出てたんで、「これ以上の痛みは完全に足首がポロっと取れない限り襲ってこないな」と思って、足、捨てましたね。

―極めかけられた足は捨てましたか！

柴田 片足はミノワマンにくれてやろうと思いました。だから自分もミノワマンの足を極めにいきました。あの、やり方がいまいちわからなかったんですけどね。

―アンクルの取り方が(笑)。でも、ミノワマンはあそこでスタミナを切らしちゃった部分もあるでしょうね。

柴田 たぶん「勝った」と思ったと思うんですよ。普通の人だったら完全にタップするところだったと思いますし。でもそこは僕も意地なんで、プロレスラーの意地なんで。ホントは足を取られないのが一番いいんですけど、もし取られてしまったら、最終手段で足はくれてやろうって。

―足が壊れても勝負は捨てたくなかった、と。

柴田 気持ちで負けたら絶対に勝てないと思うんで、気持ちでは絶対に負けたくないし、正直言って僕には気持ちしかないですからね。ミノワマンのほうがぜんぜんキャリアも上で、プロレスラーと言いながら総合の試合をたくさんやってるじゃないですか。だから僕には気持ちしかないですよ、勝てる要素は。あのジャーマンも僕の意地なんですよ。

―あれは非常にキレイなジャーマンでしたね。

柴田 プロレスの試合でもあそこまできれいな弧を描いたジャーマンは出したことないですね(笑)。

―そして試合後、花道ではレフェリーであるお父さんの柴田勝久さんと抱き合ってたのがまた印象的でした。

柴田 そうなんですよ。柵の中にファンの人が凄い勢いで入ってきたんで「なんだコイツは！」と思ったら親父だったんですよ。凄く興奮してて(笑)。

―お父さんって、これまでも試合はご覧になってたんですか？

柴田 大阪でやった『DREAM・5』は観に来てたんですけど、最初はあんまり観たくなかったらしいですね。やっぱり親父もプロレスのレフェリーをやってたんでプロレスと総合格闘技が違うというのはよく知ってますし、だから観るのが怖いと思った部分があったみたいなんですけど、しっかり2年間やった中で「観たい」と言ってくれたんですよ。

―息子の集大成を観に行こう、と。

柴田 そしたらはしゃいで柵の中に入ってきちゃいました(笑)。あれは嬉しかっ

たです。親父としてはよかったと思いますし。

間って違うと思うんですよ。僕はMMAをやるという意識はまったくなくて、もちろ

い、プロレスより凄い試合というのは、プロレスラーがするんですよね。僕はそう

柴田 ああ、それは昨日の試合ではなんとも言えないんで、やっぱりガッチリ結果出

柴田勝頼

たです。親父としてはよかったと思いますし。

——でも、ようやく勝ったことによって、またいろいろできる権利が生まれたという感じですか？

柴田　権利というか、もっと冒険していきたいですね。あと権利といえば、「狂犬レスラー」っていうの変えたいです。

——あ、いやなんですか、そのキャッチフレーズ。

柴田　犬、イヤですよ。だって、犬っておかしいじゃないですか。僕、犬じゃないですし。

——どうしても後藤&小原組の犬軍団のイメージがあるし（笑）。

柴田　犬で定着してしまうのが悔しかったんですよ、この2年間。だから、これを機に変えようと思ってます。

——まずはその権利を得たい、と。

柴田　いや、権利を得たいというか、ちゃんと笹原さんに言ってましたからね。勝ったら変えますからって。そしたら「あ、いいんじゃないですか？」って言ってましたし。

——な、なるほど。じゃあ、次からは何にしましょうか？

柴田　いやー、ちょっとまだ考えてないんですけどね。とりあえず、犬はやめてほしいです！

——ぜひ素敵なキャッチフレーズを用意してもらってください！（笑）。で、ちょっと話を戻しますが、先ほど「プロレスラーとして、ほかの格闘家にはできない闘いをしたい」と言われましたけど、もう少し詳しく聞かせてもらえますか？

柴田　やっぱりプロレスをやってきた人間って違うと思うんですよ。僕はMMAをやるという意識はまったくなくて、もちろん技術はいろいろ取り入れたりしてますけど、日本の総合格闘技をMMAっていうような競技にとどめたくないんですよね。

——競技じゃないし、アスリートでもないんだ、と。

柴田　僕、プロレス好きなんですよ、強いプロレスが。それに憧れてこの世界に入ってきてるんで、プロレスラーとしてリングに上がりたいし、総合のリングで闘いたい。選手みんながみんなそうじゃなくてもいいと思うんですけど、そういう考えの人間が一人ぐらいいてもいいかなって。

——それはべつにプロレス技を出すという意味での〝プロレスラー〟じゃないんですよね？

柴田　そうじゃなくて、プロレスラーのスピリッツですよね。ま、出せたらサイコーですけどね。

——たとえば、藤田和之vs高山善廣の試合とか、高山善廣vsドン・フライとか、格闘家が見ても「すげえじゃん！」っていう試合だったり。

柴田　そうなんですよ！　格闘技より凄い、プロレスより凄い試合というのは、プロレスラーがするんですよね。僕はそういう試合をやるべきだと思ってて、僕が見渡してもそこをやってるプロレスラーっていないんですよ。やっぱそこは日本人として受け継ぎたいという意識があります。べつにコスチュームがショートパンツだからとかじゃなくて、意識としてすげえなっていうのがプロレスラーなんで。

——とくに田村vs桜庭戦なんてべつに派手な展開じゃないけど、試合前のムードから凄かったというか。

柴田　だからポーンと試合して、それだけを観て終わりじゃなくて、ドラマですよね。技術ももちろんあると思うんですけど、その選手に感情移入できたりするのってプロレス的な部分だと思うんですよ。だから、『HERO'S』に出てからその後負け続けた2年間というのも一つの僕のプロレスでもありますよね。プロレス自体がもう〝プロレス〟という定義から外れてしまったんですけど、「イチローもプロレスラーだ」って佐藤大輔さんの煽りVでありましたけど、凄く納得できます。

——そうですよね。WBCでのイチロー選手は自分を追い込んで最後の最後で打つというのは、壮大なドラマでした。

柴田　重要なところではしっかり打つじゃないですか。そういうのってプロレスラーってことだと思うんですよね。

——あれだけ数字で闘ってる人が、いざというときに記憶で勝負するという。

柴田　だから、プロレスの意識を絶やさないようにしないといけないなと思います。それが僕の使命だと思います。

——なるほど。ちなみに、試合後のコメントでは「一人避けては通れない人がいる」と言ってましたね。

柴田　ああ、それは昨日の試合ではなんとも言えないんで、やっぱりガッチリ結果出してスカッと一本かKOで勝負つけてからそこにたどり着きたいですね。

——だいたい誰のことだかは想像もできるんですけど……。

柴田　そうですよね？　まあ、プロレスラーでやっていくうえでどうしても必要なんですよね、この選手と闘うというのは。僕は凄く意味があると思うんですよ。なので、しっかり勝って振り向かせたいですね。

——そのときは相手もショートパンツでくるかもしれないですね。

柴田　あ、そうですか？

——船木さんの引退のとき、その選手もショートパンツとレガースで試合してたんですよ。

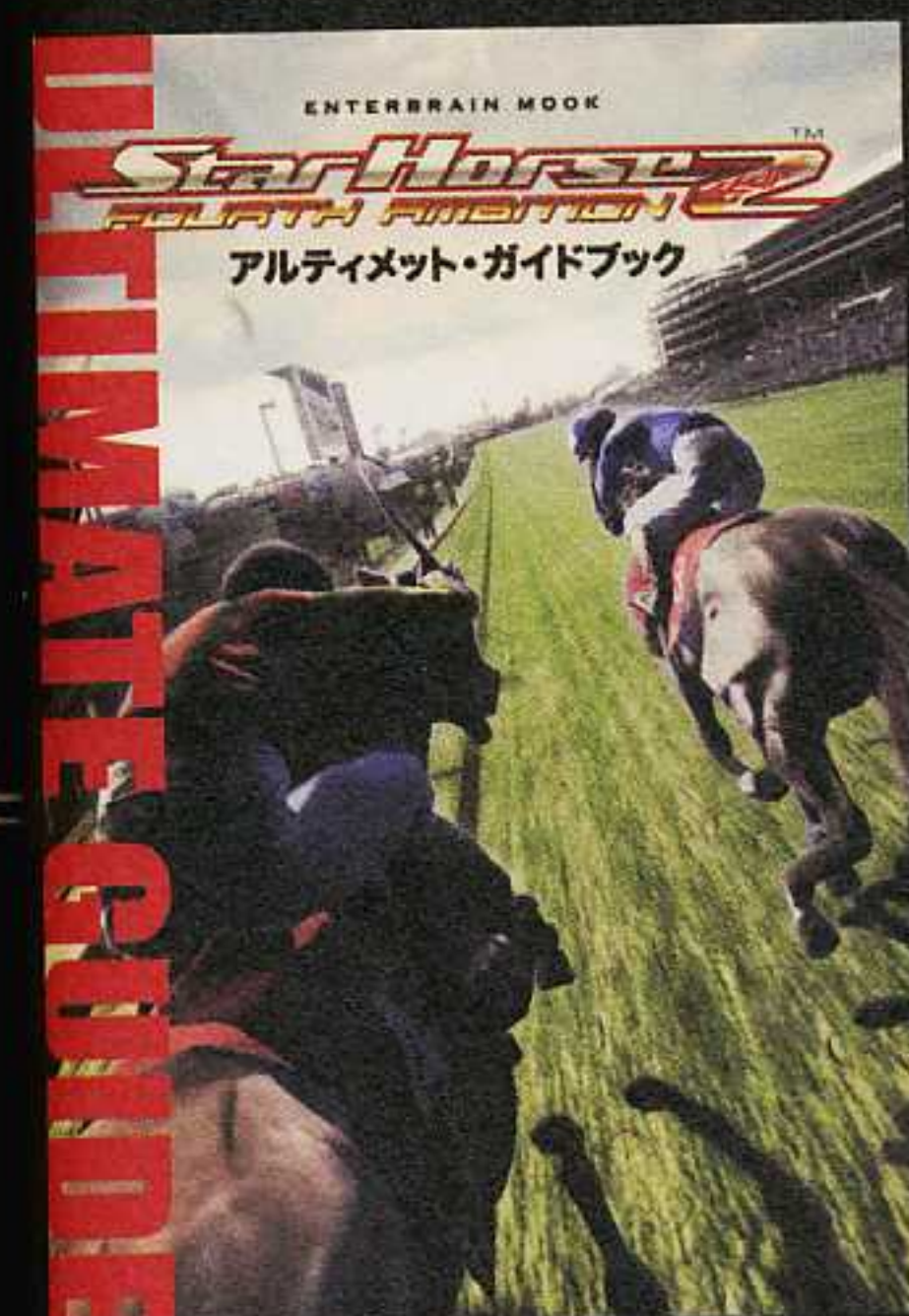
柴田　あ、そうでしたっけ？　そうなったら俺も絶対三角パンツでやりますよ！

【09年4月6日／名古屋市内・公武堂にて収録】

しばた・かつより■1979年11月17日、三重県出身。新日本プロレスで活躍したレフェリー柴田勝久の息子。新日本プロレス、ビッグマウス・ラウドを経て07年3月から『HERO'S』に参戦。元リングスの山本宜久を9秒でKOするが、以後はハレック・グレイシー、桜庭和志らと対戦し黒星が先行。しかし『DREAM.8』ミノワマン戦ではついに意地と根性で白星を奪取。ひそかに“アノ男”の首を狙う。184cm、87kg。

柴田勝頼が選ぶ 心に残る引退エピソード

橋本真也の「負けたら引退」は本当に引退すると思ってました

実際に引退したわけじゃないんですけど、橋本真也の「負けたら引退」と言って臨んだ小川直也戦、あれは強烈でした。僕はちょうど新日本プロレスに入ったときでしたし、「負けたら本当に引退するのかなあ……」と思いながら見てました。まあ引退の仕方は人それぞれ違うと思うし、復帰したりするのもいい悪いじゃなくてその人の価値観ですよね。自分はまだ考えたことがないですけど、あんまりズルズルやらないとは思ってます、いまのところは。

特集

不死身のプロレスラー

死の淵から這い上がる男たち

身体が資本のプロスポーツ選手にとって、引退はいつかは必ず訪れるもの。
とくに病気やケガによって、現役を続けられなくなる例は、数えきれないほどあるだろう。
しかし、競技自体の結果がすべてではなく、苦しみから立ち上がっていく姿を見せていくのもプロレスラー。
ここでは、大病や大ケガから不屈の精神で復活するプロレスラーの声を聞いてみた。

脳梗塞からの生還

―右半身が動かなかった男が三冠王者になるまで―

「復帰戦が最後の試合になるかもって冗談じゃなく本心で思ってた」

高山善廣

04年8月8日、新日本プロレス大阪大会での佐々木健介戦後、控室で倒れ、救急車で搬送された高山。そこで告げられた病名は脳梗塞。すぐさま手術を行ない成功したが、そこから高山にとっての闘いが始まった。右半身麻痺から三冠ヘビー級王座を奪取するまでの道のりとは、いかなるものだったのか。

聞き手&撮影／堀江ガンツ

脳梗塞を含む脳血管生涯といえば、日本人の死因でガン、心疾患についで第3位を占める大病。また運動障害、言語障害を伴なう病気のため、プロスポーツ選手で脳梗塞から復帰した前例はないとされている。そんな常識を打ち破り、現役に復帰し、それだけでなく、先日、3・14全日本プロレス両国大会でグレート・ムタを破り、三冠ヘビー級王者にも輝いた〝超人〟がいる、それが高山善廣だ。

5年前の夏、新日本での試合後に倒れてから、再びプロレス界のトップに立つまでには、〝どんなことがあったのか。〝プロレス界の帝王〟だけに、この〝偉業〟をさも〝あたりまえ〟のことのように語る高山がいた。

——完全復活おめでとうございます！

高山　これが完全復活かどうかわかんないけどね（笑）。

——でも、脳梗塞で倒れた人間が三冠ヘビー級王者となったわけですからね。というか、高山さんが脳梗塞になったってことを観客が忘れてますよね（笑）。

高山　忘れてるね、完全に。小橋建太のガンにかき消されてるよ（笑）。

——でも、その「忘れさせた」ということが、ホントに復活したってことなんでしょうね。

高山　そうだろうね。病気を引きずって、それを見せてたら復活じゃないもんね。

——観てる側もヒヤヒヤしながら観るっていうのは健康的じゃないし。

高山　違うスリルがあるよね（笑）。言われてみれば、確かに復帰戦のときなんて、俺がダウンしただけで「あ、死んだんじゃねえか？」って会場がシーンとしてたからね（笑）。

——それがいまや、グレート・ムタに流血させられても、べつに心配しませんもんね。

高山　血管詰まった人間が血流してんのにね（笑）。

——高山さんも、ここまで体調が戻ると思ってました？

高山　いや、戻らなくちゃいけないと思ってたんで。質問の答えになってるかどうかわかんないけど、「戻ってみせる」と思ってたとしか言えない。

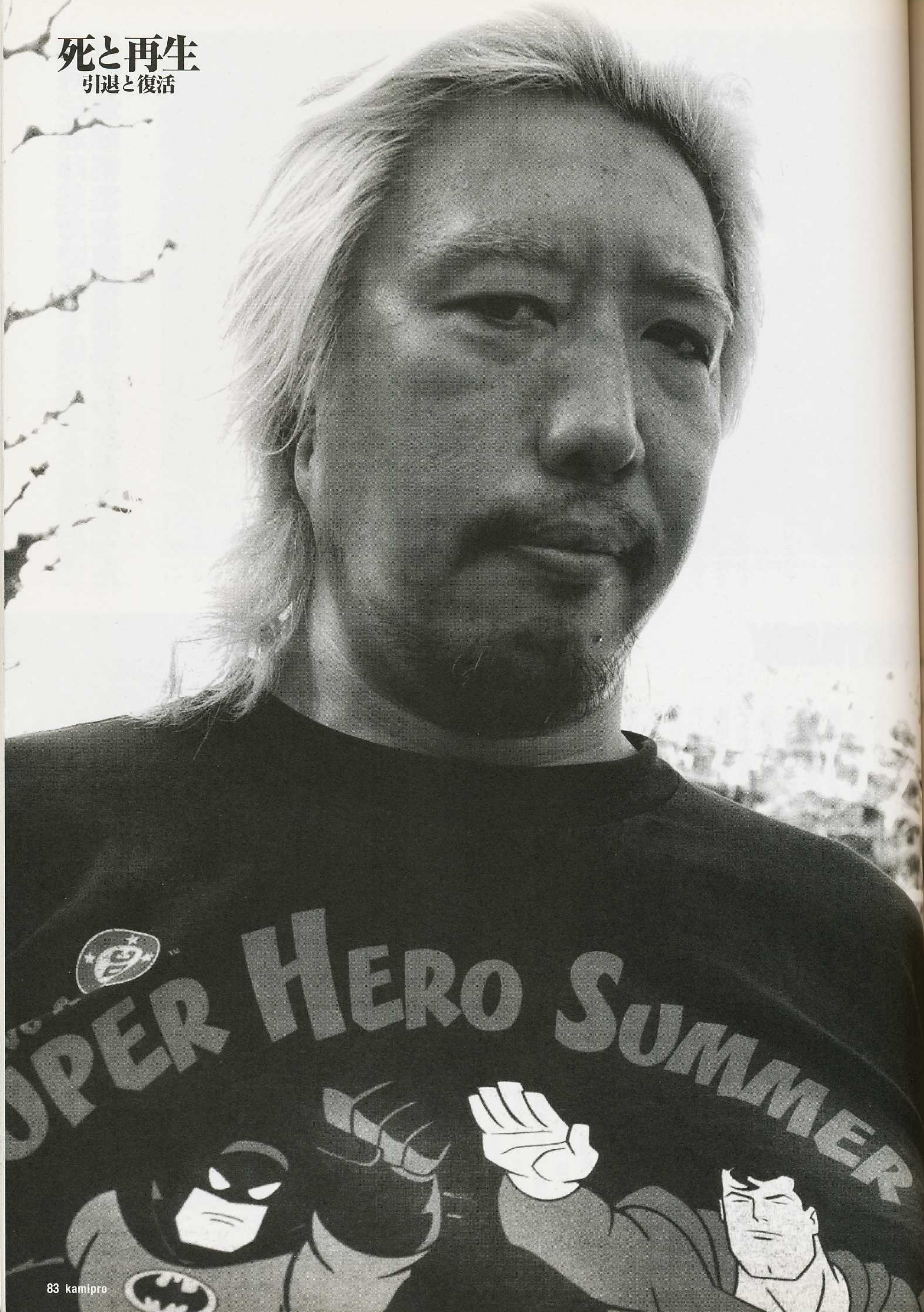
——では、倒れてから現在までの道のりをうかがっていこうと思うんですが、もともとは5年前の新日本プロレス大阪大会（04年8月8日）、佐々木健介戦の試合後に倒れたんですよね？　あのときの状態はどうだったんですか？

高山　倒れたのは試合後だったんだけど、試合中もちょっとへんだったの。もっと言うと、あの試合の1～2週間前にノアの大会があって、そのときロープに走ったら、足がうまく動かせなくてつまずきそうになったことがあったんですよ。

——そんな前から兆候はあったんですか。

高山　でも、それはその一瞬だけだったから気にしなかったんだけど。あとはそのあと、佐野（巧真）さんと試合したとき頭から落とされて、首が原因でこの先、試合ができないんじゃないかって思うぐらいひどかったんだけど。いろんな治療をして、なんとかごまかしてできるようになって、そのままG1が始まって。初日が相模原の大会で中西学とやったんだけど、そこが夏なのに冷房入れてないんだよね、プロモーターがケチッてさ（笑）。そこでちょっとフワフワしちゃって。なんかいつも以上に身体が疲れておかしいなと思いながらも大阪に行って。で、健介戦。

死と再生
引退と復活

ね（笑）。

病院に運ばれた時点では、右半身麻痺の原因が脳梗塞か頸椎損傷かわからなかった

——では、疲れやらケガやら、いろいろ重なってたんですね。

高山　健介戦では普通に試合してて、身体も動いたんだけど、一回だけビッグブーツ（十六文キック）の動きをしたときに、健介の顔を蹴った感覚がなかったの。

——足に感覚がない。

高山　「あれ？」って思って。でも、そのあとまた戻ったから気にしないでやってたんだけど、試合後に控室前の通路で囲み取材を受けてたら、なんか話しててもいつもみたいにポンポン言葉が出てこないんだよね。

——頭が回転しないというか。

高山　そのとき懸賞金もらって右手で持ってたんですけど、インタビューが終わって、立ち上がった瞬間にそれを落としちゃって。で、拾おうと思ったら拾えないの。代わりに誰かが拾ってくれたんですけど、右手で受け取れないから左手で受け取って、控室のドアを右手で開けようとしたら、ドアも開けられないんですよ。

——もう完全に右手に力が入らない状態になってたんですか。

高山　だからドアも開けてもらって。で、入ったらヒロ斉藤さんがいたんだけど、「あ、ヒロさんだ」って思った瞬間、立っていられなくなって崩れて。ヒロさんは「何、ふざけてんの？」とか言ってたんだけど（笑）。

——まったく信用されてない（笑）。

高山　ヒロさんは大先輩だけど、いつも一緒にふざけたりしてたから「またこいつ、俺のことからかいやがって」って思われたんだろうね。それで「ふざけてない」って言いたかったんだけど、それが言葉にならなくてアワワワってなっちゃって。で、これはおかしいってことでみんなが来て。

——すぐに救急車を呼ぶわけですか。

高山　うん。でも、（リングドクターの）林先生が駆けつける前は、忘れもしない天山が、この状況なのにのんきに「何ふざけてんの」とかまだ言ってて。

——一刻を争う事態なのにのんきに（笑）。

高山　「またまた〜」って思ったけど。まあ、俺がいつもそういうことやってるからいけないんだろうけどさ。

——危なく天山のおかげで処置が遅れそうになりましたか（笑）。

高山　牛のおかげで死にかけたから（笑）。

——それで病院に運ばれてすぐに手術だったんですか？

高山　いや、まずはどうして右半身が動かなくなったのか検査しなきゃならなかったの。そのときはまだ脳梗塞なのか、それとも頸椎損傷なのかわからなかったから。でも、もし脳梗塞の場合は早く血管を通さなきゃいけないから、血栓融解剤って薬を打ちながらMRIに入って頸椎の検査もしてね。

——脳梗塞の治療と同時進行でMRIですか。

高山　でも、MRIに入るの凄く嫌だったんですよ。なんだか火葬場に入れられるみたいで。

——ああ、寝たまま機械に通されるんですよね。

高山　狭くてさ、ガーガーガーッて凄くへんな音がするの。それが嫌でね。身体も動かない状況だから凄く不安で。で、MRIが終わったらすぐに先生が「これは脳梗塞だね」って。これはあとから聞いたんだけど、カテーテル手術って首からカテーテルを通せば脳まですぐなんだけど、それだと失敗する可能性があるらしいんだよね。だから、ここらへんから入れてさ。

——腰から脳まで通すんですか。

高山　でもさ、俺って身長が高いから、カテーテルの長さが足りるかどうかかって問題もあったんだって（笑）。

——ダハハハ！　脳まで届かないかもしれない（笑）。

高山　で、イチかバチかで腰から通したら、ギリギリ届いて。しかもカテーテル手術の専門の先生が当日たまたま宿直だったんで、すぐにやってもらえたんですよ。その先生がいなかったら、呼び出したり、いろいろしなきゃいけないから、もっと遅れてたかもしれない。

——では、かなりラッキーだったんですね。

高山　ラッキーだったね。脳梗塞の治療は時間との闘いだから。僕の血管が詰まった場所って、長嶋（茂雄）さんと同じ場所なんですよ。

——あ、そうなんですか。

高山　でも、長嶋さんは倒れてしばらくしたあと、運転手さんが迎えに来て気づいたわけでしょ。それで遅れちゃったんだよね。

——なるほど。じゃあ、高山さんは会場で倒れたのが不幸中の幸いだったんですね。あれがもしホテルの部屋に戻ってから倒れてたら……………。

高山　翌朝、バスの出発時刻がすぎた頃、後藤（洋央紀）あたりが「高山さーん、起きてくださーい！」とか言って起こしたときに発見されてただろうね。

——なるほど。ホントに危なかったですね

今年3月14日、全日本プロレス両国国技館大会で、グレート・ムタを破り、三冠ヘビー級王者となった高山。脳梗塞からの奇跡の大復活というだけでなく、このベルト獲得により、新日本、全日本、ノアというメジャー3団体のヘビーとタッグのベルトをすべて獲得するスーパーグランドスラムを達成した。

HIRO TAKAYAMA

えないハー

……。で、病院に運ばれて、最初に「脳梗塞だね」って言われたとき、絶望感みたい

病院の平らな床でつまずくんだもん。なんの継ぎ目もないとこでつまずいて。あ

高山家はみんな身長が高くて、脳梗塞になりやすい血管を持った家系なんだよ（笑）

06年7月16日、ノアの武道館大会で、脳梗塞で倒れて以来2年ぶりの復帰戦を行なった高山。佐々木健介と組んで、三沢光晴&秋山準組と対戦し、脳梗塞で倒れた人間とは思えないハードヒットな闘いで、復活をおおいにアピールした。

YOSHIHIRO TA

……。で、病院に運ばれて、最初に「脳梗塞だね」って言われたとき、絶望感みたいなのってありました？

高山 「脳梗塞だね」って言われたときよりも、右半身が動かない半身不随になった自分に気づいたときのほうが絶望感があったね。だから大阪府立体育会館で倒れてる時点で、ウチは3階建てで階段上がらないと生活できないから、バリアフリーのマンションに引っ越さなきゃな、とか（笑）。そういう具体的なこと考えてた。

――では、倒れた時点でこれから身体半分動かない生活も覚悟したってことですか。

高山 現実的に考えちゃったよね。

――それは恐怖ですね。

高山 恐怖だよ、ハッキリ言って。どうなっちゃうのかなと思って。

――手術後はどうだったんですか？

高山 とりあえず、右手が動いたんでホッとしたんですよ。で、カテーテル入れたところは動かしちゃいけないんだけど、翌朝、けっこう元気になったんで、歩いてトイレに行って、飯食って。上井（文彦）さんがお見舞いに来てくれたから「上井さん、俺、神戸行きますよ。もう大丈夫」とか言ったら、医者に怒られてね（笑）。

――そりゃ怒られますよ（笑）。でも、そこまで自分の中では回復した感じがあったんですか？

高山 そう感じてたけど、それはそこまで感覚が破壊されてたっていうことで、自分が壊れていることに気づいてなかったんだよね。

――壊れているという感覚すらなくなっていた、と。

高山 その翌日ぐらいに、ようやく自分がヤバいことに気づいたの。病院内ならどこでも歩いていいって言われたんだけど、病院の平らな床でつまずくんだもん。なんの継ぎ目もないとこでつまずいて。あとは字を書くと、まっすぐ書けなくて、幼稚園児よりヘタな字になっちゃったりね。あとは話してるとだんだん頭が重くなって固まってく感じがして、言葉が出なくなっちゃうし。大変でした。

――それはじわじわと恐怖が襲ってきそうですね。自分はこんなふうになってしまったのかって。

高山 でも、医者に「時が経てば戻るから」って言われたんで、気持ち的に少し楽になりましたけどね。でも、けっこう長引きましたよ。いまでも疲れてきたり、ストレスが溜まると、そういう症状が少し出ますからね。

――そもそも脳梗塞になった原因はなんだったんですか？

高山 原因はね、「水を飲まなすぎ」って医者からは言われたんですよ。

――水分を摂ってなかった。

高山 コーヒーばっか飲んでて、水って練習中に補給するぐらいで、日常ではほとんど飲んでなかったから。だから、倒れてからは一日ミネラルウォーターを6リットルぐらい飲んでた。いまでも、たぶん3～4リットルは飲んでるよ。

――水って一日2リットルでもけっこう大変ですからね。

高山 それは慣れればすむことですけどね。あと原因としては、血管が細くて曲がってて詰まりやすいかたちだったらしい。しかも、それは遺伝なんだよね。ウチの親父も、おばあちゃんも脳梗塞だったから、これは遺伝でしょ。高山家はみんな背が高くて、脳梗塞になりやすい血管なんだよ（笑）。

――そんなとこまで似てますか（笑）。

高山 でも、病気ってそんなもんらしいで

すよ。だからガンの家系はみんなガンになったりとかね。
—倒れたとき、ご家族はどうだったんですか？
高山　奥さんはね、ちょうど神宮の花火大会でうかれて飲んでましたよ（笑）。
—ガハハハ！　そういう時期ですよね。
高山　それで、金原（弘光）さんがたまたま大阪に来てて、試合を観に来てたんですよ。で、金原さんが金原さんの奥さんに「高山くんが倒れた」って言って、金原さんの奥さんからウチの奥さんに「倒れたみたいよ」って連絡がいって。そのあとウチの当時のマネージャー経由で三澤（威）トレーナーから連絡があって「脳梗塞です」って言われて、なんか呆然としたらしい。
—夫が脳梗塞って言われたら……。
高山　真っ白になっちゃうよね。
—脳梗塞って言われたら、普通のイメージだともう生死をさまようって感じですもんね。
高山　ね。
—いろいろ考えられたでしょうね。
高山　本人が言うには、脳梗塞は大変だとは思ったけど、でも大丈夫って凄い確信を持ってたらしいけど。
—で、そこからリハビリ生活が。
高山　リハビリ生活といっても、病院で「これをやってください」とか、そういうことは一切なくて。2週間入院したんだけど、なんにもしないで、ただ毎日点滴打って。あとは「勝手に歩き回ってください」とか言われて。で、病院内ばっかり歩いててもヒマだからって外歩いたら怒られたりとかして。
—またそういうことをして（笑）。
高山　そんな感じですね。
—身体があきらかにおかしいっていう状況はどのくらい続いたんですか？
高山　かなり続きましたよ。だって復帰したときもまだおかしかったから。いま復帰してたぶん3年目だけど、去年の頭ぐらいまではかなり違和感あったと思う。
—お医者さんからはプロレスに復帰するっていうのはどういうふうに言われてたんですか？
高山　「反対してもやるでしょ？」って（笑）。
—言ってもきかないだろうって（笑）。
高山　ただ、脳梗塞って殴られたり、頭から落とされたことが原因でなる病気じゃないんで、そういうことは否定はされなかった。
—ダメージを受けたからどうなるものじゃない、と。
高山　うん、直接的にはね。まあ、やっぱりどっか固めちゃったから、そこから血栓が生まれるとか。あとストレスがあるとか、間接的なことはあるけど、直接的な原因ではないんで。
—言葉はすぐに、ある程度はしゃべれるようになったんですか？
高山　ある程度はしゃべれるけど、しゃべり続けると言葉が出なかったりとか、「あれってなんていうんだっけ？」とか思ったり。うまく発声できなかったりとか、そういうことはあったね。
—でも、ノア中継のテレビ解説とかは、かなり早い段階からやってましたよね？
高山　だから、テレビ解説で復帰したのも、じつはけっこうキツかった。でも、しゃべったり動いたりしなきゃ戻らないって言われたんで、無理して出た部分が大きいんだよね。だって俺、退院してすぐ『ウチくる!?』（フジテレビ系）に出たもん。
—ガハハハハ！　脳梗塞直後にバラエティ番組出演ですか。
高山　ホントはG1が終わったらすぐに録りだったんだけど、倒れちゃったから1カ月ぐらい待ってもらってね。それは断ってもよかったんだけど、しゃべらないと言葉も戻らないって言われたから、自分に鞭打って出て。「芸能活動もどんどん入れろ」ってマネージャーに言ってね。
—あのあと大河ドラマにも出ましたよね？
高山　そう、大河ドラマも出ることによってリハビリをしてた、じつは（笑）。
—それは贅沢なリハビリですね（笑）。
高山　でも、大変だったよ。スタジオはいいけど、ロケで山の中とか河原を走らなきゃいけないシーンがあって、けっこう怖かったから。
—また転ぶ危険性があったわけですか。
高山　そうそう。だから普通、走るのなんて何も意識せずに走るじゃないですか。でも俺は転ばないように凄い意識して走って。それがまた疲れて、また頭が固まりそうになるし。そうするとセリフが言えないし、大変だったね。
—では、テレビ出演はリングに上がれないときの仕事というだけでなく、復帰のための練習でもあった、と。
高山　ホントそう。テレビに出ることによって、人から見られるからちゃんとしな

昨年6月17日、後楽園ホールで行なわれた「鈴木みのるデビュー20周年興行」で、高山は“盟友”鈴木みのるを相手に、脳梗塞で倒れて以来、4年ぶりのシングルマッチを敢行。ゴツゴツとした殴り合いで、まったく“試運転”を感じさせない闘いだった。

HIRO TAKAYAMA

きゃいけないから。言葉も意識してちゃんとしゃべろうとするし、ちゃんと歩こう

ミングで、みのるちゃんの20周年という話が来たんで、その時期がちょうど来たんだ

高山　だから鈴木みのる戦のあとだね。あれをやってホントに俺は大丈夫だって

べない民族じゃない。食生活が戦後数十年でガラッと変わっちゃってさ、それに体

時のマネージャー経由で三澤(威)トレー

高山 リハビリ生活といっても、病院で

きゃいけないから。言葉も意識してちゃんとしゃべろうとするし、ちゃんと歩こうとするしね。これが人から見られなかったら、だらだら適当にやって、回復が遅れてたかもしれない。

——では、走るだけで不安だったくらいだから、リングに上がるときは、かなり不安だったんじゃないですか?

高山 だからホントにね「復帰戦だけど、これが最後の試合になるかもしれない」と思って、試合前のコメントでもそう言ったんだけど、それは冗談じゃなくて、本心だったから。それで試合が終わったあと、控室に戻ったら記者がみんな待ってたから、「生きてるよ!」って叫んでね。まあ、ノアの会場だったんで、『kamipro』の記者は来てなかったけど(笑)。

——そのシーンはテレビで観させていただきました(笑)。そこからはタッグマッチをやりながら体調を戻して。

高山 そうだね。最初は「タッグマッチにしか出れません」って言って。だから復帰して2年間はタッグマッチしかやらなかった。一人でやれる自信がまだなかったしね。

——では、去年の6月にやった鈴木みのる選手とのシングルマッチは、ようやくシングルができる自身がついたということだったんですか?

高山 あのときはね、半信半疑だったの。そろそろやってもいい時期だなって自分でも思いながら、あと診てもらった気功の先生がいて、その先生にも「そろそろいいかもしれない」って言われてて。そのタイミングで、みのるちゃんの20周年という話が来たんで、その時期がちょうど来たんだな、と。それで受けたんだよね。

——あの試合は、殴る蹴るのハードな試合でしたけど、内心、鈴木さんも怖かったんじゃないですかね。高山さんに何かあったらいけないって。

高山 どうなんだろう。それは向こうに聞かなきゃわからないけど、たぶん俺とやるのは周りも怖さはあったと思うよ。だから復帰戦のときなんかは、俺が行かないと向こうは来ないと思って、最初にいきなり三沢社長にボコーンとやったもんね。怒らせようと思って。

——レスラーは誰でも自分の試合で相手に倒れてもらいたくないですもんね。

高山 死ぬかもしれないからね。死んでほしくないよね。

——じゃあ、ホントに自信が持てるようになったのはどのあたりですか?

たかやま・よしひろ■1966年9月19日、東京都出身。92年にUWFインターでデビュー。キングダムを経て、全日本でレスラーとして開花。01年からはPRIDEにも参戦、ド迫力の闘いぶりで大きく名を上げる。今年3月にグレート・ムタから三冠ヘビー級王座を奪取。196cm、125kg。

脳梗塞になったあとは、酒とコーヒーをやめて、牛肉と豚肉を食べなくなったね

YOSHIHIRO TAK

高山 だから鈴木みのる戦のあとだね。あれをやってホントに俺は大丈夫だって思えた。

——僕は鈴木みのる戦もそうなんですけど、去年の11月にIGFでモンターニャ・シウバとシングルでやったのを観て、これはもう大丈夫だって思いました(笑)。

高山 ああ(笑)。

——モンターニャってメチャクチャやるじゃないですか。

高山 ねえ、大変だったよ。だって蹴りなんてガードした手が痛くて、試合のあとは腕が上がらなかったもん。

——顔面蹴りとかも容赦なくて強烈でしたよね。あれを観ながら、よく脳梗塞になった人が、モンターニャとやるな、って思いましたよ。

高山 だって宮戸さんが「やって」って言うんだもん(笑)。

——でも、あれをクリアして、大抵のことは大丈夫だっていうのがあったんじゃないですか?

高山 うん、さらにね。ホントにそう。

——脳梗塞になったあとっていうのは、生活は変わりました?

高山 凄く変わったね。まず水を大量に飲むようになって、あとはコーヒーを控えるようになって。で、酒をやめて。あとは肉を食べなくなった。豚肉とか牛肉とかを。

——そういったものは、やはり身体に影響を与えるわけですか?

高山 悪いってわけじゃないんだけど、牛や豚は哺乳類じゃないですか。哺乳類って人間と体温が同じだから、脂が人間の身体に残りやすくて、血栓ができやすいんですよ。

——なるほど。

高山 それに本来、日本人って牛や豚を食べない民族じゃない。食生活が戦後数十年でガラッと変わっちゃってさ、それに体質が対応できない人って何人もいるはずなんだよ。その一人が俺だったっていうね。こんなアメリカンな男が、純日本人の身体だった(笑)。

——ダハハハ! 一時はインディアンの血が4分の1混じったクオーターだとか言ってた人なのに(笑)。

高山 そんなこともあったね。じつはインディアンはインディアンでも〝和風〟マクダニエルだったというね(笑)。

——ガハハハハ! そんなオチですか。

高山 いまはこう見えて玄米とか食べてるからね(笑)。

——では、健康的な食生活になって、ますますの活躍を期待してます!

[09年4月3日/都内・某所にて収録]

高山善廣が選ぶ 心に残る引退エピソード

雄大なハッピーエンド フリッツ・フォン・エリック

一番印象に残っている引退試合は、俺が高校生ぐらいのときに、『世界のプロレス』で観た、フリッツ・フォン・エリックの引退試合。キングコング・バンディとリング外でもフォールOKという、とても雄大なテキサスらしいデスマッチをフットボール場でやってた。試合は場外でアイアンクローをして、エリックが見事に勝利し、奥さんと子どもたち、そしてその嫁さんたちに囲まれてリングを降りるのが幸せそうで、絵に描いたようなハッピーエンドだった。のちに息子たちが次々と亡くなり、呪われた一家なんて言われたけどね。俺もハッピーエンドしたいな。

突然の網膜剥離から4ヵ月……
ズンドコ再起ロードを完全告白!!

復活してもええんちゃう?

天山劇場リターンズ!!

悲運の猛牛

天山広吉

復活してもええんちゃう？　08年の新日本プロレスで大車輪の活躍ぶりを見せた天山広吉だったが、一年間の総決算である1.4東京ドーム直前に網膜剥離となって緊急欠場！　悲運の猛牛が再起ロードを完全告白！

聞き手&撮影／真下義之　大会撮影／平工幸雄　天山夫婦撮影／乾晋也

天山　いや〜。このところ『kami
pro』さんには毎月取材してもらっ

——どんな症状だったんですか？
天山　朝、起きたあたりでヘンだな

日に入院、大晦日に手術ですから。
——一年の総決算の1・4東京ドーム

って言ったら「ウソでしょ！」って。
ホントにウソだったらよかったんで

ビの「めんどくせぇ、めんどくせぇ、
マックスめんどくせぇ！」ってギャグ

もしも近場で医者がやってなければ「ほったらかそう」と思ったかも……

天山　いや～。このところ『kamipro』さんには毎月取材してもらって、スミマセン。

――いやいや、最近は恐妻話や練習生ズンドコ話が大好評でしたけど、今回は桜の咲く多摩川沿いで〝復帰〟に関するインタビューです。

天山　そういえば前もケガからの復帰前、桜が咲いてる頃に『ワールドプロレスリング』でランニングさせられたなぁ……。「桜舞い散る～♪」ってさわやかなBGM流しちゃって。キャラと全然合わへんのに(笑)。

――ワハハハハ！　そんな天山さんは、昨日の両国大会で復帰へ向けたマイクアピールをしましたね（5月3日、福岡大会で復帰が決定）。

天山　じつは正直「反応、薄いんちゃうかな?」と心配してたんですよ。だから、お客さんの反応がワーッと聞こえてきたときは「よかったぁ～!」と安心したのと同時に、身体がガクガク震えてきちゃって。

――天山さんが身震いを?

天山　もう感極まる感じでね。マイクを持った瞬間、号泣しそうな勢いでしたから。「こんな自分でも待っててくれる人はいるんだなぁ」って（しみじみと）。

――そんな天山さんは昨年末に突然、網膜剥離という目の病気にかかってしまいましたね。

天山　ええ。予兆はなかったんですけど。ホント、いきなりでしたね。

――どんな症状だったんですか?

天山　朝、起きたあたりでヘンだなと思ってたら、右目の視界がブラインドが閉まってるみたく真っ暗になってきて。最初は上だけだったんですけど、ドンドン範囲が大きくなって。最後は下半分しか視界がなくなって、顔を上げないと上のほうが見えなくなってきて……。

――それはかなり怖いですね。

天山　で、夕方にあわてて目医者に行ったんですが、その日が12月29日だったから、その年の営業的にギリギリだったんです。もしどこも近場で医者がやってなかったら、そのまま「ほったらかそう」って思ったかもしれないですし。

――それはヤバイでしょう！

天山　自分はそういうの気にしないタイプなんで。で、状況が悪化してから嫁に怒られるんですけど(笑)。

――奥さんによると家に帰ってきたとたん「目が見えねぇんだけど!」とブチキレてたみたいで。

天山　そんな状況なのに嫁は病院に送ってもくれないからイライラして。結局、その日に大病院に行って、次の日に入院、大晦日に手術ですから。

――一年の総決算の1・4東京ドーム直前にそんなことになるとは……。

天山　自分で自分を恨みましたよ。「なんで自分だけいつもこんなにヒドイ目に遭うんだ!」って。

――我々も年間を通して天山さんを追い続けてきたのに最後の最後で欠場になって。……失礼ですけど、笑うしかないような状態でしたね。

天山　チェーンデスマッチの前にもバイク事故に遭ったりしたし、なんか自分の力じゃない何かが働いているんじゃないかって……。

――本格的に厄払いしたほうがいいかもしれないですね。

天山　一緒に出るハズだったコジ（小島聡）にもすぐに連絡をとったんですけど「申し訳ない話なんだけど……」って言ったら「ウソでしょ!」って。ホントにウソだったらよかったんですけど……。

本人も「感極まった」という4.5両国大会での復活マイク。菅林社長は「天コジがいつまでもあると思うな」とキツい発言もしていたが、5.3福岡大会では無事に天コジで復帰戦が実現!

――その小島さんも10年前に網膜剥離になったことがあるみたいで。

天山　そうなんです。ただ、そのときは「コジ、大丈夫か?」と心配した覚えはなくて「治るみたいだから」って話を聞いてたから。どっちかというと他人事みたいな感じで(笑)。

――さすがですね(笑)。でも小島さんは凄く心配してくれたみたいで。

天山　ドームにもオファーはあったんですけど「天山と一緒じゃなきゃ出ません」と言ってくれて。ドーム当日も見舞いに来てくれてね。ただ、向ける顔がないというか。「自分のせいでスマン!」と謝ったけど、「そんなこと心配しないでください!」と勇気づけられまして、家族よりよっぽど気遣ってくれたというか。

――あ、ご家族はいまいち心配してくれなかった?

天山　面会に来ることは来てくれたんですけど。時間も長くないし、子どもはわけわかんないから「だいじょーぶ?」とか言いながらベッドが電動だからリモコンでガンガン遊んじゃって(笑)。気が休まらなかったですね。ウチの嫁も身の回りのことはやってくれるんですけど、あいかわらず冷たい感じですし……。

――期待どおりの鬼嫁ぶりでしたか。

天山　ドラマのような献身的な看病を夢見てたんですけど「早く治せよ!」とか「めんどくせぇ～」とか。

――ワハハハハ!

天山　嫁は『エンタの神様』が好きなんですけど、マシンガンズってコンビの「めんどくせぇ、めんどくせぇ、マックスめんどくせぇ!」ってギャグを言ってたら（息子の）雄大もすっかり覚えちゃって。

――5歳児が病院で「マックスめんどくせぇ!」と(笑)。

天山　それでメチャクチャ盛り上がってるから「この二人、何しに来てるんだろう……」って。

――さすが天山ファミリーです。目の手術は大晦日だったみたいですが、もう一つ事件があったとか?

天山　ええ。ウチの母親が心配して手術が終わる時間に京都から新幹線で見舞いに来たんですよ。そしたら妹とオヤジも一緒に来たんですね。

――大晦日なのに病室に勢揃いで。

天山　手術が終わってから、顔を合わせて「来なくてもよかったのに。悪いなぁ～」って。そのあと自分の麻酔が切れて痛みが激しくなったから、嫁や子どもと一緒に近所のファミレスにごはんを食べに行ってもらったんです。オヤジは地中海風パエリアを頼んだらしいんですけど、スプーンをチャリーンって落としたらしいんです。しかも何度も何度も落としてるから、心配になって聞いたら、「じつは昨日の夜から腕がシビれて手が動かないんだ」って。

――うわー、危ないですね。

天山　「そんな状態でなんで来るんだよ!」って話ですけど(笑)。よく調べたら、オヤジは脳梗塞の一歩手前だったんですよ。

――ホントに危険な状況だったんですね……。

天山　そんなこと知らなかったから、メシから帰ってきたらみんなの様子

家族旅行に行ったのはよかったけど大切な日記帳を忘れて大騒動ですよ

天山広吉

がおかしいんですよ。で、来たばっかりなのに、「お父さん調子悪いから、京都に帰るわ！」と。正味2時間ぐらいしかいなかったですね。

―そのあと、お父さんは大丈夫だったんですか？

天山　ええ。京都に帰ってすぐ入院したんですよ。そのあと退院してからは調子いいし、後遺症もないので安心はしたんですけど。……まぁ、とんでもない大晦日でしたね。

―大変でしたね。一方、網膜剥離で大変だったのはどんなことですか？

天山　目にゴミや水が入ったりするとマズかったんで、10日間ぐらいシャワーも浴びれなければ、顔を洗うことすらできなかったんですよ。

―顔すら洗えませんでしたか。

天山　あれはキツかったですね。あと手術後もレーザー手術をやるんですが目を開けて網膜の剥がれてる箇所を塞ぐためにレーザーでバチバチバチって焼くんですけど、これがメチャクチャ痛いんですよ！

―聞いているだけで痛そうです。

天山　お医者さんは「レスラーですから、これぐらいの痛みは平気でしょ？」って言うんですけど、「痛みの種類が違うって！」と（笑）。麻酔しても痛みが目の奥にジンジン響くんです。しかもジッとして目を開けなきゃいけないし、アゴを固定してうしろから押さえられて……もう拷問というか、歯を食いしばって耐えましたねぇ。

―関節技を耐えるような感じで。

天山　一度の治療は15分くらいなんですけど長さが1、2時間くらいに感じるんですよ。「早く終わってくれ～！」って耐えてると、先生は「あ、もう少しで終わりますから」って言うんだけど、そこから5分くらいやるんですよ！　もう機械をひっくり返しそうになって。

―目の病気ということで大好きなパチンコも制限されてたんですか？

“恐妻伝説”を追及して大好評だった『kamipro Special 2009 APRIL』の夫婦対談。天山は4月26日（日）放送予定の『行列のできる法律相談所』“恐妻スペシャル”にも出演したというから絶対見逃せないって!!

天山　先生もさすがにパチ好きだとは思わなかったでしょうから、とくに言われなかったですけど。最近の台は音も凄いし、光の刺激も強いし、長時間座ってるのもキツいし、しかも欠場中ですから。……ま、ボチボチは行ってるんですけど（笑）。

―やはり行ってましたか（笑）。

天山　家にいても居場所がなかったりするんで、モヤモヤしたときにね。

―でも、普段はロードに出てますし、家で静養されてご家族とコミュニケーションとれたんじゃないですか？

天山　ええ。ずっと母子家庭みたいなものでしたしね。家にいるときぐらい子どもと遊んだり、勉強を教えたりしてましたし、こういう時間が持てたのはよかったです。

―どこかに行かれたりとかは？

天山　ちょうど子どもが春休みだし、身体もよくなってきたんで、ちょっとした家族旅行に行ってまいりまして。ま、場所は言えないんですけど。

―じゃあ、奥さんも満足されて。

天山　もう嫁が完全に仕切ってね。勝手に旅行の予約をしちゃって「オイ、行くからな！」みたいな。こっちも「しょうがねぇ、行くか」と。

―ワハハハハハハ！

天山　いつも旅行とか行くと、必ず旅行中に嫁とケンカするんですけど、今回はモメることなくいい感じで帰ってきたから「最高だったなぁ」って大満足だったんですよ。……ただ！

―ただ？

天山　帰って気づいたんですけど。自分はプライベートの日記をずーっと書いているんですよ。天山日記っていうのを。

―ブログとかじゃなくてですか？

天山　いえ、個人的な日記です。海外から凱旋した年から、毎日欠かさず寝る前にノートにいろんなことを書いてるんですよ。で、その旅行から帰ってきた日も、寝る前に「さぁ、書こうかな～」と思ったら、「アレ！」って。旅行先に置き忘れてきちゃったんですよ！

―ワハハハハハ！

天山　ベットはツインだったんですけど、真ん中にサイドボードみたいのがあって、毎晩日記を書いて「今日は楽しかった。たっぷり日焼けして痛いよ～」みたいなことを書いて、そのまま置きっぱなしにしちゃって。

―それはマズイですね。

天山　マズイんですよ！　あのノートには自分のすべてが……収支まで全部書いてありますから！

―凄くマズイじゃないですか！

天山　企業秘密みたいなことまで書いてましたから。しかも、ホテルに電話したら「見あたりません」って言うんですよ！

―本格的にマズいですね。

天山　「ウソだろ？　見つからないハズないよ！」と。ウチの嫁に聞いても「私に言われても知らねーよ！」ってボロッカスに言われて……。いいム

これが悲運の天山復活ロードだ!!

09年1月3日、天山の東京ドーム大会欠場会見より

2008年

▼2月17日　頸椎損傷からのケガの復帰戦も、試合後には試合中の誤爆が原因で、自らが創設したGBHをいきなり追放される。

▼4月27日　飯塚高史との“友情タッグ”が人気急上昇の天山だったが、IWGPタッグ選手権（相手は真壁&矢野）の最中、飯塚がまさかの裏切り！　GBHにボコボコにされる。

▼7月8日　因縁の飯塚とシングル決着戦（ランバージャックデスマッチ）。天山が劇的勝利も試合後、GBHにボコボコにされているところを小島聡が救出！　正真正銘の“友情タッグ”が再結成。

▼10月8日　都内の交差点をミニバイクで右折したところ路線バスと接触事故が勃発！　負傷者はなく、天山も肩打撲とスリ傷程度の軽症だったが、その天然の悲運ぶりが再注目される。

▼10月9日　前日の接触事故に関して菅林社長との謝罪会見後、飯塚がアイアンフィンガー・フロム・ヘルで急襲！　真壁には「死にゃあ、よかったのに」と罵倒される。

▼10月13日　両国国技館で飯塚とチェーンデスマッチ。最後は飯塚が天山の首をチェーンで絞めあげて壮絶なレフェリーストップ負け。

▼11月5日　不運続きの天山だったが、新日本プロレス『G1タッグリーグ』で天山&小島組が優勝！

▼12月8日　続いて、全日本プロレス『世界最強タッグリーグ戦』でも天山&小島組が優勝！　同年の2団体リーグ戦制覇は史上初の快挙!!

▼12月10日　だが、東京スポーツ『プロレス大賞』では“大本命”だった天山&小島がなぜか優秀タッグ賞を逃してしまう悲運ぶり。

▼12月29日　1・4東京ドーム大会で、チーム3D、真壁&矢野、天山&小島によるIWGPタッグ選手権が予定されていたが、大会ド直前でなんと天山の網膜剥離が発覚!!

2009年

▼1月3日　1・4東京ドーム大会の天山の欠場が菅林社長から正式アナウンス。同席した小島は「必ず天コジで復活する」と宣言。天山は無念の長期欠場へ。

▼4月5日　両国国技館大会の休憩開けに天山がひさびさに姿を現わして、「5月3日、福岡で復帰したいと思います！」と堂々の復活宣言。

ードがブチ壊しですよ！

――ワハハハハハ！

天山　納得いかないから、「もう一回、見てください」とホテルに電話して、たまたま僕らが出てからその部屋に誰もチェックインしてないから、中に入って調べてくれたけど、何もなかったんです。でも、ないわけないから「責任者呼んでください！」って言ったら、その人が責任者だったんですけど（笑）。

――ワハハハハハ！

天山　その日は夜も遅かったんで、次の日に再度電話して、それでもなかったから「どーしてくれんだ！」と。

――もともと天山さんが悪いんですけどね（笑）。

天山　（聞かずに）捨てられたならしょうがないけど、誰かに見られるのが一番イヤだったんで。いままでこういうことは……どうにかなってきたんですけど。

――前にもあったんですか！（笑）。

天山　（無視して）結局はあきらめてね。とりあえず違うノートを買ってきて書き始めたら、おとといですかね。嫁が朝から「パパー！　いいニュースだよ！」って起こすんです。こっちは眠いから「なんだよ！」って聞いたら、「日記があったって！」って言うから「マジで！」と。

――よかったですねぇ。

天山　話を聞いたら、ハウスキーパーで出入りしてる人が何人かいたみたいで、ちゃんと保管してたみたいなんですけど。連絡が行き違いになってたみたいなんです。ただ、それも不自然だから怪しいな、と。

――「まさか見てないだろうな」と（笑）。

天山　「読み終わったから、もういいや！」みたいな感じだったら、ヤバイなって。とりあえず一安心はしましたけどね。

――それ、気をつけたほうがいいですよ。基本的に持ち歩かないほうがいいんじゃないですか？

天山　ホントにねぇ。今後は気をつけたいと思います……。

「年収が700万円」ってウワサ？2ちゃんで知って頭にきましたね

――収支って部分ではネットで天山さんの年収が「700万円」ってウワサが流れてたのはご存知ですか？

天山　ええ。2ちゃんとかで書いてあったのを見てね。「何書いてんだ、コイツ！」と頭にきて。

――あ、2ちゃんを見てるんですか？

天山　見ますねぇ～。

――ワハハハハハハ！

天山　携帯でチェックするくらいですけど。天山スレッドとか、わりとスレの伸びが悪いから、「なんで伸びないんかな？」と思ったり（笑）。

てんざん・ひろよし■1971年3月23日、京都府京都市生まれ。90年に新日本プロレスに入門。IWGPヘビー級王座は4度戴冠。08年は悲運がつきまとう"天山劇場"で再ブレイクも、年末に網膜剥離で緊急入院。5月3日に小島聡とのタッグで復活を目指し、現在ハードトレーニング中！　183cm、115kg。

――ちなみに菅林社長は「700万円」説はキッパリ否定してました。

天山　生活できないことはないけど……それじゃあ家のローンをいつまで経っても返せないですし。

――でも、菅林社長は「このまま休んでたら、700万円になりますよ」とも言ってましたね。

天山　やっぱり契約更改のときも、ドームを休んじゃったから「キツいかな」と思ってたら、いい評価をいただいたんで。会社の期待に応えたいですし。それに社長の発言も半分本音じゃないかなって……。

――真顔でおっしゃってましたね。

天山　ホント、迷惑かけっぱなしですし。復帰した暁にはいい仕事せんと……（真剣な表情で）。昨日も会場で社長に会ったんですけど、あまり話しかけてもらえなかったんで。

――ワハハハハ！　まずは復帰して、IWGPのタッグベルトを獲ってください。ただ、欠場したりすると引退を意識されたりします？

天山　いや、プロレスは自分にとって生活の一部ですし、「自分からプロレス取ったら何が残るんだろう」って部分もありますから、まだ考えられないですね。今回も網膜剥離になってしまってプロボクサーならライセンスを剥奪されてしまうような病気ですから。「プロレスラーでよかったな」って……と思ってたら「プロレス界もライセンス制度導入」とか言ってるからドキーッとして（笑）。

――ワハハハハハ！

天山　ま、できるかぎり長くやりたい気持ちはあります。その反面、「お店をやらないか？」みたいな話もあるんですけど……副業をやれるほど器用じゃないし、やるなら一人じゃできないし、そもそも嫁がまったくヤル気がないんで（笑）。

――そこも奥さんがネックでしたか（笑）。とりあえず福岡の復帰戦に期待しております！

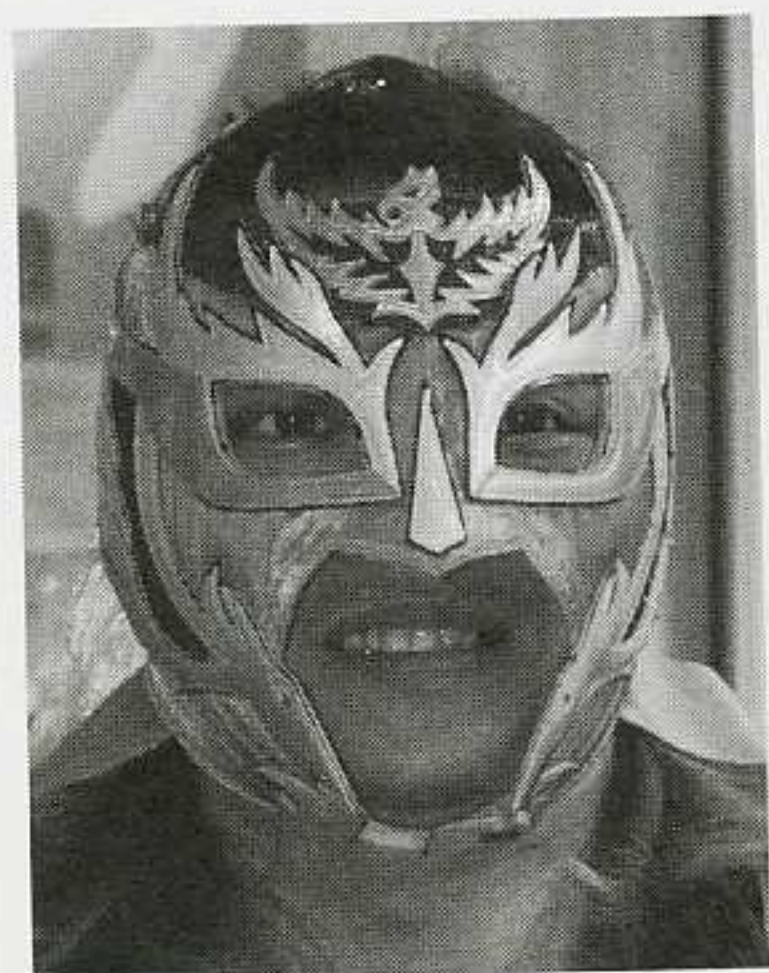
【09年4月6日／都内・新日本プロレス道場近くの多摩川沿いで収録】

天山広吉が選ぶ 心に残る引退エピソード

「引退」といえば王貞治さんを一番思い出しますよね

王さんは自分にとって特別な存在なんですよ。子どものときは野球選手に憧れてたし、巨人の大ファンだったし、とくに王さんが大好きで、756号ホームランを達成した瞬間も大感激したし、引退式も盛大でしたから。「引退」と聞くと王さんを一番思い出しますね。じつは今年の1月にテレビ朝日主催のスポーツ大賞に天コジで受賞したときに、王さんがいたんですよ。「あ、王さんだ！」って思って、ぜひ挨拶したかったんですけど……ハンパない人だかりだったんでついつい気後れして、貴重なチャンスを逃しちゃいました（笑）。

再起に懸ける不死鳥の告白

突然襲った全身不随
あの日から止まった時間——

元FMWのエース ハヤブサ

プロレス界を背負うスターとして将来を嘱望されていたハヤブサ。
しかし、試合中のハプニングにより頸椎損傷の重傷を負ってしまう。
あの日から早7年半、変わらず復帰を誓う不死鳥の胸中に迫った。

聞き手／真下義之　試合写真／平工幸雄

入院してから10日間くらいは毎日死ぬことばかり考えてました

その類いまれなる空中殺法とスター性抜群のルックスで、インディー団体FMW出身でありながらも、プロレス界で確固たる地位を築いていたハヤブサ。メジャー団体にもたびたび参戦、さらなる活躍を期待されていた逸材であった。そんな矢先、リング上で大きな悲劇がハヤブサを襲う。試合中、ムーンサルトアタックの着地に失敗。リングを華麗に舞い飛んだ大きな翼はもぎとられ、一転全身不随の状態に――。ここではそのときの状況を振り返ってもらいながら、壮絶な闘病生活、そしてプロレスに対していま何を思っているのか、その心境を吐露してもらった。

――まずは、01年10月22日の後楽園ホール大会での事故から振り返っていただきたいんですが。

ハヤブサ　まず言いたいのが、僕にとってあの事故は特別なことではないんです。皆さんが歩いていても、道ばたでつまずくことはありますよね？　それがたまたま僕はリング上で起こっちゃったってだけなんです。

――当時、FMW社長の荒井（昌一）さんは「無理なスケジュールを組んでしまったのが要因ではないか」と悔やんでましたけど。

ハヤブサ　いや、それはプロだから言い訳にはならないと思います。ただ、一つだけ言えるのは当時のFMWは選手のメンテナンス面の不備はあったとは思います。

――事故の当日もハヤブサさんは体調がよくなかったみたいで。

ハヤブサ　危険を察知できるリングドクターやトレーナーがいなかった。だから自分を教訓にしてほしいと思いますし、事故は起こるときは起こってしまいますが、回避できることもある。いま、整備されてる団体がどれだけあるか気にはなりますけど。

――状況としては、悪くなってますよね。

ハヤブサ　ただ悲しかったのは、僕の事故に関して「誰が悪いのか？」と犯人探しをするような風潮があったんです。事故直後にレフェリーが自分の首を触ったとか、相手のマンモス佐々木が首を絞めたとか……それは彼らが一生懸命やってる仕事なんですよ！「なんで人殺しみたいな言い方されなきゃいけないんだ？」って。荒井さんが責任を感じてるのもツラかった。ハッキリ言って、自分のどこかで油断があったってことなんです。誰かを恨んでるような気持ちは自分は一切ないですから。

――事故の感触は覚えてますか？

ハヤブサ　ハッキリ覚えてます。ムーンサルトに行く瞬間、ロープで踏み切るときに空足を踏んだ状態になって。僕はいつも土踏まずのあたりでロープを踏むんですが、足の先のほうで乗っちゃった。その瞬間「ヤバイ、滑った」って思ったときには落ちてました。でも、身体は飛ぶつもりで踏み切ってますから、反応できるような状態じゃなかった。

――アゴから直撃したように見えたんですが。

ハヤブサ　いや、額からです。それで

95年5月5日、"FMWの聖地"川崎球場で大仁田厚の引退試合の相手を務めたハヤブサ。初の電流爆破マッチで満身創痍になりながらも、金網のトップからムーンサルトを見せるなど、大観衆に次のエースは自分しかいないということを示した。

顔がベチャって。でも、プロレスラーでよかったですよ。プロレスラーじゃなかったら、完全に首が折れてましたね。で、意識が戻ってきたときに目が開いてるんだか、開いてないんだかわからない状態で視界が白くなって、身体がしびれてるような……母親の胎内の中の胎児みたいな感じで。で、天井のライトが見えたときは「死んで、幽体離脱してるのかな」と思ったんです。

――そうなんですか。

ハヤブサ　首を起こしたら自分の手が見えたんで「倒れてるのか」と安心して「待ってれば身体が動くかな」と思ったんですが、呼吸も満足にできないから、レフリーに「試合を止めろ！」って合図したんです。

――そんな状況でもマイクを握ってましたね。

ハヤブサ　身体も心配だったんですが、お客さんが「何が起こってるんだ？」と戸惑ってるのが伝わってきて。当時のFMWはエンタメ路線で試合前のスキットで僕が幽霊になるみたいな映像が流れたから、お客さんは事故か演出なのか、判断できなかった。だからお客さんへの使命感がありましたね。

――そのあとすぐ病院に搬送されて。

ハヤブサ　安定剤を打たれて、意識がなくなりました。目が覚めたときに担当医が状態を家族に説明してるのが聞こえたんですよ。僕が寝てることを前提で話してたんでしょうけど「半身不随、再起不能の可能性……」と聞こえてきて。

――重すぎる言葉ですね。

ハヤブサ　自分のことって気がしなくて、まったく受け入れられず、「何を言ってるんだろう、この人たちは？」と。そのとき身体は首から下はまるっきり感覚がない状態で、手足があるかどうかもわからない。岩に首が生えてる感じというか。ジワーッとした大きなしびれがある状態で。

――心理的ショックも相当大きかったと思います。

ハヤブサ　入院して10日間くらいは毎日死ぬことばかり考えてましたね……。ベッドの横に窓があったんで、「飛び降りられたら楽に死ねるのに」と思ったり、でもそこまで動いていくことすらできない。あと、映画の『ミリオンダラー・ベイビー』で全身麻痺になった女ボクサーが舌を噛み切ろうとするシーンがありましたけど、僕も舌を何度も噛もうとしたんですよ。

――自分で舌を、ですか。

ハヤブサ　でも、心拍数がわかるモニターがついてるので噛み切ろうとしたら心拍数が上がって看護婦さんがあわてて「どうしました？」って駆けつけてきてしまったんです。……その10日間はとにかく泣いてました。いろんなことを考えるんですが希望が何もないんです。最初は55キロしかなかった人間が、一度はプロレスラーになった。それが唐突にこんなことになって、いまや涙すら拭けないんですから。

――プロレスラーが何よりの誇りだったわけですね。

メジャー団体のリングにもたびたび参戦していたハヤブサ。98年5月の全日初の記念すべき東京ドーム大会では、ジャイアント馬場とタッグを結成。ハヤブサは「馬場さんにかわいがってもらったことは何よりの財産ですね」と述懐。

ハヤブサ　だから「自分に何が残ってるんだ？」って。当時32歳になる前でしたが「誰か殺してくれないかな」と。ほしいものはなかったけど、殺してくれる人がほしかったですね。

――……………。

ハヤブサ　そのあと肺炎になって、一ヵ月半くらい生死をさまよったんです。肺炎の菌が心臓に入ってしまったんですが、首を負傷すると病気の免疫力が凄く低下するらしくて。

――そのときは意識がない状態で？

ハヤブサ　ところどころ覚えてるんです。熱でうなされたときにメチャクチャな夢を見てたり。それでも幸せでしたね。意識朦朧だから「身体が動かない」って現実に直面しなくてもよかったんで。

――そのあと心臓の手術をされて。

ハヤブサ　手術が決まったときも意識朦朧としてますから。「手術が決まった」って聞かされても「誰の？」って聞き返したくらいで。そのときに「あ、俺の手術なんだ、ラッキー」って思いましたね。つまり「心臓の手術が失敗したら死ねるんじゃないか」と。

――生への執着はなかった、と。

ハヤブサ　心臓の手術が終わったときも「目が覚めちゃった」って逆に絶望する感じでしたから。しかも看護師さんや先生が声をかけてくださるんですが、全身麻酔で気道が確保されて声が出ないから、50音の書いたボードを持ってきてくれるんだけど指で指すこともできない。僕の目線を追いながら、会話を一言二言したんです。それがまた泣けて……。「なんで俺生きてんだろう？」って。

――悔しくて仕方がなかった、と。

リング上でケガしてしまったことに僕はもの凄く心残りがあるんです

ハヤブサ　ただ、その翌々日にチューブを抜かれたとき今度は自分の声で応えられたんです。そのとき初めて「まだしゃべれたんだ！」って。それまで自分が失なったものにしか意識が向かなかったんです。普通は、自分の言葉で自分の意思を自分の声で伝えられることがどれだけ幸せかなんて考えないじゃないですか？　でもそれに気づいたとき「まだやれることはあるな」と。なんかわからないけど「頑張ろう」って気持ちが急に出てきて。

――ようやく希望が見えた、と。

ハヤブサ　その一週間後くらいに、それまでピクリとも動かなかった指が少しだけ動いたような気がしたんです。たぶん動いてないんですよ（笑）。だけど動いた気がしたんです。そこで「まだゼロじゃない」ってさらに思って。そこからすべてが変わりましたよね。

――ただ、そのあとも過酷なリハビリ生活が続くわけですね。

ハヤブサ　レスラーのハードトレーニングよりもハードでしたね。手を握って開くようなレベルでしたけど。僕には超能力の訓練みたいな感じだったんですよ。気持ちを集中して「このスプーン曲がらないかな」っていうような。

――気の遠くなるような作業ですね。

ハヤブサ　先生が自分の手を曲げてくれるのに合わせて、自分が動かしてる感覚と同調させるんです。で、ちょっとずつ手が動くようになってきたときに「先生、僕、立ちたいんですけど」って言ったんです。

――かなり一足飛びというか。

ハヤブサ　通常、リハビリは現状の身体能力を多少改善してどれだけ早く日常生活を送れるようにするかってレベルの運動なんで。先生は「何を言ってるんだ？」って顔をしましたけど「無理です」とは言わずに「難しいと思いますよ」と言ってくれて。でも僕は「2ヵ月くらいで立ちたい」って本気で思ってましたから。

――リハビリの段階で「もう一度プロレスやる」と思っていたんですか。

ハヤブサ　いや、声が出たときからですね。お見舞いでもらった何万羽って千羽鶴を見たときも「寝てちゃいけねえな」と思いましたし。それに僕はプロレスに対して凄く心残りがあるんですよ。リング上でケガをしてファンに悲しい思いをさせてしまった。ハヤブサを通して「プロレスって夢があるな」と感じてほしいのに、自分の事故で「プロレスは怖いものだ」と思わせたまま、リングを去るのはとんでもない話なんです。

――そんな闘病生活の中で、FMWが倒産してしまうという衝撃的なニュースがありました。

ハヤブサ　……もう笑っちゃいましたね。僕らも会社が苦しいことは重々承知してましたし、お客を入れるた

すでにガンが進行していた冬木さんが真夜中に僕の病室を訪ねてきたんです

めに最大限の努力はしましたけど、結局、僕のケガでそういう状況に拍車をかけてしまったわけですから。

――忸怩たる思いがあった、と。

ハヤブサ　ええ。とくに荒井さんには申し訳ないことをしたなって……。

――荒井さんは自著（『倒産！　FMW』）で倒産に関して「唯一謝りたかったのがハヤブサだ」と書いてましたね。「君の一生をなんとかする」「君の帰ってくる場所は必ず作る」って。

ハヤブサ　本は読みましたけど、「なんで僕に謝ろうなんて思うんだ！」って。「謝るのは僕のほうだろう！」と……（涙ぐんで）。自分を捨てて頑張ってくれたのは知ってましたし。荒井さんとは歳もほぼ変わらないし、入門当時はリングアナで、新弟子の僕らからイタズラされてもニコニコ笑ってくれている兄貴的存在だったから。いち社長といちレスラーを越えた結びつきがあったんです。

――荒井さんも特別な気持ちがあったんでしょうね。

ハヤブサ　その荒井さんが亡くなったと聞いたときも信じられなかったし、もう涙が止まらなくなっちゃって……。じつは荒井さんの亡くなる二日前に「荒井さんの様子がおかしい」と聞いてたから電話したんですよ。「最近どうですか？　疲れてないですか？」って聞くと「大丈夫だよ。ごめんね、ありがとうね。そっちも頑張ってね」と。僕のことばかり気にして。その二日後ですから。情けなさら自分の力のなさが込み上げてきてしまって……。

――自分を責めてしまいましたか。

ハヤブサ　そればっかりですね。「ケガさえしなかったら！」「もっと人気のある選手だったら！」「もっと積極的に他団体と交流していたら」と、いろんなことを考えました。

――そのとき荒井さんは遺言代わりにカセットテープを残されたようで。

ハヤブサ　そのテープでも荒井さんは僕に謝り続けて「絶対によくなるって信じてる」と気づかってくれてるんです。しかも荒井さんのクセなんですけど、いったん話が終わってから「ああ、それから」って何度も何度もつけ足して……。

――そのあと元FMWの選手が分裂してしまいますよね。雁之助派のWMFや冬木（弘道）派のWEWが旗揚げして。

ハヤブサ　いろいろありましたね。一番先にWMFを旗揚げすると声をかけてくれたのは、大学時代から一緒だった雁之助だったんです。嬉しくてすぐに「協力するよ」と返事したんですけど、その直後に冬木さんが病院に来て「団体作るけど一緒にやらない？」って言われたんです。そこで僕が「え？　一緒にやらないんですか？」って聞いたら、冬木さんも「アンタ聞いてないの？」と。

まるで現在のプロレス界の風潮を予見していたかのように、10年前からエンタメ路線を推し進めていた“理不尽大王”冬木弘道。志半ばでガンにより帰らぬ人となったが、ハヤブサにとってはライバルを超えた存在だったことだろう。

ハヤブサ

――雁之助さんからは分裂していたことは聞いてなかったんですね。

ハヤブサ　まさか割れてるとは思ってないですから。説明を聞いたあとで、もう一度、雁之助と話をしてまとめようとしたんですけど……。

――そんな最中で、今度は冬木さんも具合が悪くなってしまって。

ハヤブサ　じつはWEW旗揚げ直前に冬木さんがもう一回、病室に来たんですよ。しかも夜中の1時頃に黙って無理矢理入ってきて、夜中に目が覚めたら暗闇に冬木さんが立ってたんです。「今日しかなかった。いましかなかったから来たんだけどさ」って。でも、その頃すでに冬木さんは大腸ガンがかなり進行してたんです。冬木さんのいた横浜から、僕の病院まで車で約2時間くらいかかるのに……。「雁之助たちに協力するの？」と聞かれて、「すいません。どうにもならないです」と謝ったんですね。「いいんだよ。アンタのせいじゃないし」って言って帰られて。

――冬木さんはハヤブサさんを必要としていたんでしょうね。

ハヤブサ　そのあと僕と冬木さんが「仲悪いんじゃないか？」って思われてたのが、悲しかったですね。冬木さんとはFMWでリングでは敵対してましたけど、どうやったらエンタメを日本に定着させられるか？　って話を二人でああでもないこうでもないと常に考えてましたから。……で、亡くなる前に知り合いから「冬木さん今夜が峠なんで」って連絡があって。自分が動けないことは知ってても、一応電話くれたんでしょうね。でも、自分はあわてて外泊許可をとっ

ハヤブサの軌跡

1991年
▼5月5日　川崎球場大会で本名の江崎英司としてデビュー。

1993年
▼10月　メキシコ遠征に出発、現地でハヤブサに変身。

1994年
▼4月16日　両国国技館で開催されたジュニアヘビー級のオールスター戦『スーパーJカップ』で獣神サンダー・ライガーと対戦。

1995年
▼5月5日　川崎球場大会で大仁田厚の引退試合の相手を務める。

1996年
▼10月10日　みちのくプロレス両国国技館大会のメインで新崎人生と対戦。
▼12月11日　駒沢オリンピック競技場大会でザ・グレート・サスケと対戦、この日、大仁田が現役復帰。のちにハヤブサを中心とした若い世代と方向性をめぐり対立。

1997年
▼9月28日　川崎球場大会で新崎人生とのタッグで小橋健太（現・建太）&マウナケア・モスマン（現・太陽ケア）と対戦、ハヤブサが小橋のラリアットに敗れる。
▼11月15日　新崎人生とのコンビで全日の世界最強タッグに参戦。戦績は2勝7敗だったものの多くの好勝負を展開した。

1998年
▼5月1日　全日本プロレス東京ドーム大会でジャイアント馬場、志賀賢太郎と組んで、新崎人生&泉田純（現・純至）&G・キマラ組と対戦。

1999年
▼2月　新崎人生とのタッグで泉田純&本田多聞組を破り、アジアタッグ王座を奪取。
▼8月25日　札幌中島体育センターにおける最後のプロレス行業にてミスター雁之助とラストマッチを行ない、ハヤブサを卒業。素顔となりH（エイチ）と名乗る。
▼11月23日　横浜アリーナでFMW旗揚げ10周年記念大会。Hとしてハヤブサ（ミスター雁之助）と対戦。

2000年
▼7月　Hから再びハヤブサに戻る。
▼7月16日　WAR8周年大会で天龍源一郎と対戦。

2001年
▼10月22日　後楽園大会でハヤブサが試合中のハブニング、頸椎損傷の大ケガを負う。

2002年
▼2月14日　FMWが不渡りを出す。翌15日にも二日連続で不渡りを出し倒産。
▼5月16日　ハヤブサの盟友である荒井社長が葛飾区の水元公園で首つり自殺（享年36）。
▼8月　WMF旗揚げにあたりコミッショナーに就任。04年に退団すると、「隼計画」を設立。

※現在は“シンガーソングレスラー”として、歌手活動をメインに活躍中。また、今年1月にはDRAGON GATE全面協力による、ハヤブサ・プロデュース興行を開催した。

まだケガしてたったの7年半 復帰をあきらめる気はないです

て、冬木さんの病院に行ったんです。

——横浜まで行ったんですか？

ハヤブサ　ええ。僕が行ったときはもう意識朦朧とされてたんですけど、とりあえず手を握って……。亡くなった日の朝まで病院にいました。エンタメ路線で日本のプロレス界を引っくり返そうと思っていた自分にとっては盟友でしたからね。ただ、いまのプロレス界を見れば、よくも悪くも当時のFMWがあったからこそって部分はあるかなって。冬木さんの「こんなんじゃねぇ。わかってねぇな」って声も聞こえてきますけど(笑)。

——盟友といえば、ライバルだったザ・グラジエーターも07年に亡くなってしまって。

ハヤブサ　ビックリしましたね……。グラジも僕の見舞いに来てくれてて、ちょうど全日本プロレスで三冠王座に挑戦する時期で「復帰したら俺と三冠戦やるぞ！」と冗談を言ってたのに。それなのに……「なに死んでんだ、おまえ！」って。あんなナリして自殺しちゃダメですよ(涙ぐんで)。

——ここまでいろんなことが起こって、口さがない人は〝FMWの呪い〟なんて言いますけど。

ハヤブサ　……呪いかどうかわからないですけど。ただ、我々はそれだけプロレスに対して真剣に向き合ってたことのゆがんだ裏返しなんじゃないかって思います。表に出てることは間違ってますけど、それだけプロレスに情熱を持ってたんだってことじゃないかなって……。

——復帰を目指して頑張ってらっしゃるわけですけど、現在の調子はいかがですか。

ハヤブサ　少しずつよくなってます。杖をついて3ケタくらいまではゆっくり歩けるようになってます。凄い奇跡が起こって見違えるように回復すれば一番いいんですけど、そんな都合のいいことは起こらないし、ここまでこれたことが奇跡だと思うし。

強がりと思われるかもしれないけど、まだケガしてたった7年半じゃないですか？

——そうですね。

ハヤブサ　ケガしたときに「もう一回リングに上がるには10年かかる」って思ったんです。そう考えたらまだ2年半ある。「そこを目標にして頑張ればいいじゃん」って。とにかく自分自身、いまも自分に凄く期待してるんです。まして僕以上に期待をしてくれるファンがいる。ハヤブサファンってみんな熱い人ばっかりですし、闘ってきた仲間のことを考えるとあきらめられないですね。あきらめなければ夢がかなうなんて思わないですけど……「あきらめなかったら、何か結果が出るんじゃないかな？」って。

——あと、プライベートでは奥さんと離婚されてますね。

ハヤブサ　これは公表してますけど。もう5年くらい前です。お互いに感覚的なズレというか溝ができてしまって。二人の娘とはたまに会ってますけどね。

——しかしハヤブサさんは凄く前向きですし、歌手活動やイベントも活発にやられてアグレッシブですね。

ハヤブサ　いやいや、僕は凄く人に恵まれていますんで。何かあったときは必ずフォローしてくれる人がいてくれますから。皆さんには感謝の気持ちしかないです。

——最初にもおっしゃられてましたけど、最近のプロレスラーの死亡事故をどうご覧になってます？

ハヤブサ　やっぱり状況としてはヒドくなってるなって。インディーを増やす原因になったFMWの人間ですし、インディーが増えればこういう状況になるのはわかってたし、選手の底辺は広がったと思いますが、キチンと統括する流れはないじゃないですか。アメリカならWWEって頂点がありますけど。

——ライセンス制度という声も出ていますね。

ハヤブサ　凄くいいことだと思いますね。ただ、技術的なものよりは自覚の問題だと思うんです。ファンの気持ちのまま、ちょっと身体を鍛えてやるんじゃなく、プロレスラーとしてある種の責任を背負ってやらなければいけないわけですから。

——ハヤブサさんもファンの期待を背負いながら、復帰を目指していきますか？

ハヤブサ　もちろん！　あきらめる気はさらっさらないです。自分のキメ言葉は「お楽しみはこれからだ！」ですけど。いまもしょっちゅうプロレスの夢を見ますし。昨日は熱があったせいもあるんですけれど、一晩中プロレスの夢見てました。復帰戦の夢をね……。

——復帰戦は誰とやりたいですか？

ハヤブサ　誰でもいいです。やりたいと言ってくれる相手がいいし。誰とやってもハヤブサはハヤブサですから。

【09年4月3日／都内・某所にて収録】

はやぶさ■1968年11月29日、熊本県出身。本名・江崎英司。91年5月にデビュー。95年5月の大仁田厚の引退以降、新生FMWのエースとして活躍。01年10月、試合中に頸椎損傷の重傷、全身麻痺の障害を負う。現在、リング復帰を目指してリハビリを続けている。オフィシャルブログ『愛と勇気とあるこーる』http://ameblo.jp/fushichou/

ハヤブサ

ハヤブサのNEWアルバムが発売！

『シンガーソングレスラー』
発売日／5月27日
価格／2,000円（税込）
発売元／DRAGON GATE RECORDS
集計画
販売元／バウンディ株式会社
収録曲／01.愛と勇気と…（居酒屋.ver）／02.自分を信じて／03.君らしく／04.Re-birth／05.YELL～君に届くように～／06.できることから始めればいいさ／07.108／08.Proof～生きた証～／09.夢の中で／10.君の笑顔さえあれば／11.イカロスのように／12.独り酒／13.いつまでも～ジャイアント馬場さんへ～／14.声を出せ／15.愛しい人へ／16.心の輪／17.生きてこそ／18.「ありがとう」／19.頑張っているあなたに／20.Trust!／21.カーテンコール

ハヤブサが選ぶ 心に残る引退エピソード

大仁田さんとの試合は直前に決定したんです

大仁田さんの引退記者会見に、僕が乱入するかたちで対戦を直訴したわけですけど、大仁田さんは本当に石川敬士さんと試合するつもりだったんです。あの会見前日に僕が必死にいろんなところに連絡して、各方面から大仁田さんを説得してもらってようやくOKが出たんですよ。「大仁田さんはどうせ復帰するんだから」って言われましたけど、大仁田さんを信じないとお客さんに納得してもらう試合ができないと思って、僕はリングに上がりました。いろんな葛藤があったという意味で、あの一戦は強く記憶に残ってます。

DVD
バカ売れ
&5.29
何度目かの
復活記念

JASON THE TERRIBLE

MITSUHIRO MATSUNAGA

MISTER POGO

最高にイカして最低にイカれた
史上最狂の暴走団体

W★INGを語れ!!

死と再生
引退と復活

©2001 WJ DESIGN!

W★INGに熱狂した男たちが集結！

今号の特集テーマ“死と再生”と聞いて思い浮かぶプロレス団体といえば、“最狂の暴走団体”W★INGと答える人も多いだろう。91年に旗揚げし、ポーゴや松永、怪奇派レスラーなどの血で血を洗うデスマッチで熱狂的なファンを生み出しながらも、金銭トラブルが原因で崩壊と復活を繰り返してきたW★ING。今年の5月29日に新木場で何度目かの復活興行を行なうクレイジー団体をW★INGに熱狂した男たちが語りまくります!

構成／阿修羅チョロ　写真協力／（株）クエスト

は間違ってますけど、それだけプロ

ハヤブサ　ケガしたときに「もう一

きですし、歌手活動やイベントも活

——今回、特集テーマが〝死と再生〟ということで、これまで未払いなどによる崩壊と復活を繰り返してきた伝説のデスマッチ団体W★INGについて検証してみようと思ってます。

植地 W★INGについて語るなら、やっぱ酒飲みながらじゃないとね（と言って大量のビールをテーブルにズラリと並べる）。

菊池 じゃあ、とりあえずビールでも飲みながらやりますか。

一同 カンパ〜イ！

——W★INGといえば、昨年の12月にクエストから発売されたDVDボックスがここ最近のプロレスものではかなり売れたみたいで、5月に第2弾の発売が決まったり、5月29日には復活興行も行なわれるということもあり、ちょっとしたリバイバルブームという感じもありますが。

上野 あのDVDは最高でしたね。今年の正月に知り合いを集めて上映会をやったんですけど、W★INGとか全然知らない女の子とかもちょっと興味を持ってくれましたからね。

イナズマ W★INGの普及活動とかしてるんだ（笑）。

——といった感じで、今回は各ジャンルを代表するW★INGフリークの皆さんに集まってもらった……。

植地 （さえぎって）いや、俺はべつにフリークじゃないな。

——植地さんは、一部で伝説となっているW★INGTシャツのデザイナーですからね。フリークというより、当事者の一人とでもいうか。

植地 そうですね。おかげで、言えないようなヤバいこととかもいろいろ目撃しちゃいましたからね（笑）。

菊池 ウインガーとか超ヤバイネタがいっぱいあるからねぇ（笑）。

上野 座談会が終わったら、こっそり教えてください。

植地 もう時効になってるネタもあると思うけど、当時の関係者に迷惑がかかる可能性もあるんで、終わったらいくらでも話しますよ（笑）。

——では、誌面に載せられそうな話でお願いします（笑）。

イナズマ でも、W★INGTシャツって、その後にnWoTシャツや修斗の大和魂Tシャツとか、プロレス&格闘技のTシャツブームがあったけど、その先駆けみたいな感じだったよね。浅草キッドなんかもテレビでよく着たりしてたし。

植地 あれは大きかったですね。W★INGTシャツは時期的には92年ぐらいで、nWoTシャツとかよりは全然前ですけど、当時のプロレスTシャツって、まだジャイアントサービスものか、新日本かの二択だったじゃないですか。

イナズマ どっちもファンシーなイラストものが主流でしたよね。

植地 そっちもいいんですけど、そういうのが8割ぐらいを占めてて、「プロレスは好きだけど日本のプロレスTシャツは着れねえな」みたいな話からW★INGでTシャツを作りたいなって思って。そのときたまたま『週プロ』を見てたら「レザーフェイス、W★INGに登場」って記事が出てて、ジェイソン・ザ・テリブルは知ってたんだけど、レザーまで来たってことは、この団体はこのまま突っ走るんじゃないか、みたいな感じで即行で電話したんですよ。

上野 直接売り込みをしたんですか。

こちらは自称・格闘技ジャーナリストのタダシ・タナカ氏も「過去のすべてのプロレス作品を凌駕する最高傑作！」と大絶賛のミスター・ポーゴ本『ある悪役レスラーの懺悔』（講談社刊）。最近はmixiもマメに更新している、ゴーストは怖いけどゴーストライターなしのポーゴ本は必読。こちらをポーゴ様本人から『kamipro』読者1名様にプレゼント！　詳細は143ページをチェックしろ！

こちらが昨年12月にクエストから発売され、現在も絶好調発売中のW★ING・DVDのジャケだ。好評につき5月20日には再び2枚組・収録時間480分という圧倒的ボリュームで第2弾の発売が決定！　今回はポーゴ、松永の離脱から邪道&外道の参戦、さらには金村の火だるまシーンなど衝撃シーンも満載！　映像特典として総勢149組にのぼるW★INGレスラー大百科も収録。これは買うしかないですよ!!
詳細はコチラでチェック！
→http://www.queststation.com/

植地 そう。当時、W★INGには大宝拓治さんってリングアナ兼広報の人がいてその人と話をして。いまは行方不明中なんだけど（笑）。

イナズマ FMWからW★INGに来た人ですよね。

植地 そうですね。その大宝さんってメタルが好きなんですよ。普段からジャージの下にガンズ&ローゼスのTシャツとか着たり、KISSとか口ずさみながら仕事してたりして。「俺もヘビメタみたいなプロレスのTシャツ作りたいんですよ」って言ったら凄い乗り気で、トントン拍子で出すことになって。実際に売り出したのが92年の春からで。そんな経緯で知り合って、あとは解散直前までずっと付き合ってましたね。

イナズマ 当時、売店とかにもいましたよね？

植地 はい、売り子やってました。それはまたあとで説明します。やらざるをえない事情があって（苦笑）。

イナズマ そうなんだ（笑）。でもポーゴTシャツとか一連のW★INGTシャツは最高だった。プロレスTシャツを変えた感じは凄くあるな。

上野 俺もそう思います。何枚か持ってるんですけど、いま見ても街で着れるプロレスTシャツっていうか。

植地 着れないよ（笑）。

上野 いや、全然イケてるヤツっぽかったですもん。

菊池 当時は茨城（清志社長）Tシャツも出そうって盛り上がってたよね。「FUCK YOU 茨城金払え」Tシャツとか（笑）。

イナズマ それはほしかった（笑）。

植地 でも、盛り上がっただけで誰も金払おうとしないからね。作るのはいいけどデザイン料払えって話で。まあ、W★INGには、そういった話が山のようにあるんですけど（笑）。

——今回のメンバーの中で最年少となる上野さんですが、ヒップホップ界では1〜2を争うW★ING好き

W★ING座談会出席者

サイプレス上野
さいぷれす・うえの■最近では三平襲名披露会のオープニングアクトも務めた異種格闘技型HIPHOPユニット“サイプレス上野とロベルト吉野”のMC担当。大好評の2ndアルバム「WONDER WHEEL」をひっさげ5.24恵比寿リキッドルームにてワンマンライブ開催。引退といえば橋本真也。「負けたら即引退」と銘打ち、世間&千羽鶴兄弟を巻き込んだところで、結局はしない破壊王に引退の二文字はない！

植地毅
うえち・たけし■ライター&デザイナー。「引退」という2文字にはいろんな意味があると思う。とくにプロレスでは額面どおりの意味以外にも使用されるのだが、要するに「オレのことを忘れないでほしい」という宣言でしかない。ところでミスター・ポーゴは腰痛悪化のために現役を引退して文筆家に転向するとのことだが、物書きの仕事はけっこう腰にくることを、ゼヒ教えてあげたい。

イナズマ★K
いなずま★けい■音楽ライター&プロレス・格闘技探求家として幅広く活躍。引退と聞いて真っ先に浮かんだのはテリー・ファンク。全日本での感動の引退からわずか1年での復帰はビックリ。その後も闘い続け、50すぎてコーナーから場外へのムーンサルトをやるなど、元気ジジイっぷり最高の真のハードコアレジェンド。名ゼリフ「フォ〜エバ〜」は永遠に続けろという逆メッセージだったのね。

菊池茂夫
きくち・しげお■パンクカメラマン。写真は重くてなんぼ。引退で思い浮かぶのは長嶋茂雄。小学2年生頃、家の外へ出ても誰もいなくて、友人の家へ行ったら引退式が生放送中で家族全員で観ていた。その後、ゴジラ目当てに劇場へ行ったら、『さらば長嶋茂雄 栄光の背番号3』というドキュメンタリー映画が同時上映されていた。そこでやっと、いかに長嶋が素晴らしいかに気づいた。長嶋万歳！

W★INGに関わったおかげで言えないこともたくさん目撃した（植地）

として知られているみたいですね。

上野　自分は28歳なんですけど、自分のアニキがプロレスがずっと好きで、子どもの頃から全日本とかをずっと見させられてたような環境で。で、小学生になって『週プロ』、『週ゴン』も読むようになって、W★INGの記事とかを見たら、血だらけの人とか、なんだか凄い写真が載ってて怪奇派とかが凄い好きになって。そこから興味を持ち始めましたね。

イナズマ　さすがに年齢的にW★INGは生観戦とかはしてないよね？

上野　当時は中学生とかだったんで会場では観たことないんですよ。だから、のちにFMWでできたW★ING同盟で全部ウサ晴らしをして。FMWの後楽園大会をバルコニーで観てW★INGタオルを垂らして「死ね！」みたいな（笑）。

イナズマ　垂らしてたんだ？（笑）。

上野　垂らしてました（笑）。雑誌とかではオンタイムでずっと見てたんですけど、あとからビデオ借りたりしてチェックしましたね。で、いまヒップホップやってるんですけど、ラッパーとかでもプロレス好きだって人とはすげえ会うんですけど、W★INGの話できるヤツがホント限られてて。大阪のウルフパックっていう（大黒坊）弁慶さんとかのテーマ曲作ってるそいつらと、やけのはらさんっていう人ぐらいで。

菊池　でもパンク系は好きな人多いよね。自分がカメラマンとして同行したミスフィッツのツアーバスの中でみんなでファイヤーデスマッチのビデオ観てたり。で、「日本のハードコアは凄い！」って絶賛してたしね。

イナズマ　俺もランシドを取材したときに同じようなこと言われました。

菊池　あ、でもランシドのラーズ（・フレデリクセン）はデスマッチも好きだけど、ノア命なんだよね（笑）。

植地　あとはANTiSEENもW★ING好きだからね。菊池さんと組んでアルバムのジャケやTシャツも作ったことあるけど。

菊池　（ミスター・）ポーゴとANTiSEENのコラボTシャツね（笑）。『ディスクユニオン』限定で。

上野　自分、当時『ディスクユニオン』でバイトしてたんで、即行買って、いまは後輩が超大事に着てます。

植地　ありがとうございます。ANTISEENはゴジラと仮面ライダーも好きで。もう、日本3大カルチャーでしょ。W★ING、ゴジラ、仮面ライダーって言ったら（笑）。

イナズマ　完璧だよね（笑）。

――イナズマさんは『kamipro』でデスマッチ系の連載をやってもらってましたが、W★INGはいつぐらいからチェックしてました？

イナズマ　初期は会場には行ってない。当時はリングスとかも好きだったけど、上野くんと一緒で『週プロ』とかで毎回のように飛んでたり燃えてたりインパクトのある写真が載ってて、もうFMWじゃなくてW★INGの時代だ、みたいには思ってて。一番最初に生で観に行ったのは、92年8月の船橋でやったポーゴ対松永（光弘）のファイヤーデスマッチで。そのときサラリーマンになって1年目で、会場に行ったはいいけど凄い雨と寒さでガタガタ震えながら観てたら、そのまま肺炎になって。なんか俺の運命が決められたような気がする（笑）。

座談会には各自が思い入れたっぷりのW★INGグッズを持ち寄り、テーブルの上にはビデオからTシャツ、キャップにパンフレットなどがズラリ。植地氏が手にする超レアなポーゴカレンダー（4月～6月の3ヵ月限定！）を1名様にプレゼント。宛先は143ページ参照！

死と再生
引退と復活

菊池　もう観続けるしかない、と。

イナズマ　そんな感じで。最後の1年は東京近郊の大会はほとんど観に行ってた。目の前で金村（キンタロー）が燃えるところも観たし。

――W★INGといえば〝未払い〟でおなじみの茨城社長が有名ですが、植地さんは仕事上での接点もあったんですよね。

植地　そうですね。茨城さんって、人のことを「そっち」って言うんですよ。「そっちはどうなの？　最近」とか「ちょっとそっちは待ってほしいな」とか。「そっちは待ってほしい」っていうのは一番多く聞いたんですけど、「待ってほしい」っていうのはTシャツの売り上げを払うのを待ってほしいってことで。で、さっきイナズマさんが言った僕が売り子で会場にいたっていうのは、売上金を回収するためだったんですよ。

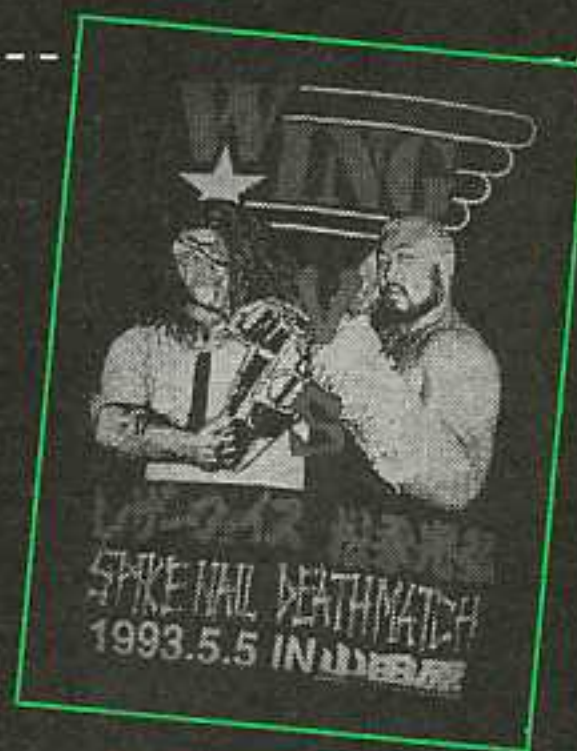
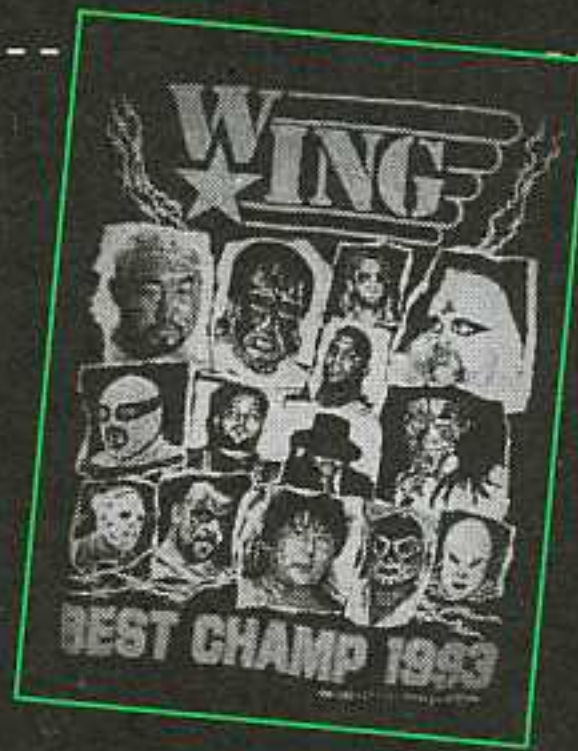
イナズマ　おーっ、なるほど！（笑）。

植地　いくら言っても振り込んでくれないんで、ウチの社長も怒っちゃって「直接、回収してこい！」って言われて。会場まで行ったら売店には金庫もあるし、売れたぶんは確実に持っていけるわけですよ。だからイナズマさんが首都圏の試合は全部観に行ったっていうなら、俺も首都圏の試合は全部回収しに行ってる（笑）。

――菊池さんは刺青カメラマンとして『kamipro』でもおなじみですけど、W★INGもリングサイドで試合撮影をしてたんですよね？

菊池　当時、プロレスの撮影っていっても1年に1本か2本ぐらいだったんだけど、プロレスの仕事をやるなら試合の写真も勉強しないとこれから先、急に仕事が来たら困るだろうと思って、植地のTシャツ用の素材っていう言い訳でリングサイドでいつも撮らせてもらってましたね。

植地　菊池さんはパンクの写真撮るのうまいから一緒ですよ。見栄切るところはレスラーもミュージシャン

カ、カッチョエ～！植地氏デザインTシャツ

93年5月の「松永vsレザーの釘板デスマッチ」Tシャツ。当時、テレビ東京の『浅草橋ヤング洋品店』で浅草キッドがよく着ていたことで有名に。見つけたら即買い！

植地氏デザインのW★INGTシャツの中では一番売れたらしい「BEST CHAMP 1993」Tシャツ。ヘビメタのイメージで作ったというコチラの一品。見つけたら即買い！

W★INGで初めて発売されたポーゴ単独Tシャツ。通称「ガンプラモデル」。現在売られてるモノはWWSのロゴ入りバージョン。W★ING時代のモノは見つけたら即買い！

現在は新日本で活躍中の邪道＆外道の「FUCK YOU」Tシャツ。邪外の二人は5月の復活興行へのオファーに「その前に金を払え」と断ったんだとか。見つけたら即買い！

W★ING全盛時代の植地氏デザインのラストがコチラのW★ING2周年記念Tシャツ。ほかにもヘッドハンターズの「喰」Tシャツなど数種類あり。見つけたら即買い！

も一緒だからね。でも、けっこうほかのカメラマンはよけてたよね（笑）。

菊池　よける。でもね、記者クラブの人たちって凄い締めつけとかあるらしくて、ほかのカメラマンに「おまえ、そこどけ」とか言うみたいだけど、俺は一度も言われたことない。むしろぶつかってくるヤツにわざとヒジを入れたりしてたんで（笑）。

植地　そこでもデスマッチが（笑）。

イナズマ　インディーの選手なんかより全然デカいし、刺青も選手よりもレスラーらしいし（笑）。でもホント、W★INGって完全にライブハウスに行く感覚で観に行ってましたよ。とりあえず前に行くっていう。

植地　レザーフェイスが出てきたらモッシュタイム、みたいな（笑）。

イナズマ　立ち見の安い券で入って、だいたいみんな場外乱闘のときに一緒についていって、メインになったらどさくさまぎれにリングサイドにいるって感じで（笑）。

植地　ファンのマナーの悪さも一番でしたからね。いろんな団体を観てきたけどレスラーにモノを投げたり、野次を飛ばしたり、一番最低の客が来るのがW★INGだったと思う。

イナズマ　悪かった！　メインとかになるとおとなしく座って観てる人なんてほとんどいなかったし。

――そんなW★INGで一番思い入れがある選手は誰になります？

植地　この座談会のためにW★INGのビデオをいろいろと見返したんですけど、やっぱW★INGといえばポーゴさんですね。このあいだの出版記念イベントも普通に客として行ってきたし。

W★INGを語るうえで外せない男たち

数々の逸話（といっても、ほとんどが金銭関係）を撒き散らし、何度か消息不明となるも昨年12月のDVD発売を前に復活したW★INGの名物代表・茨城清志氏。その独特なファッションセンスはイバラギング・ウェアとして知られている。

初期W★INGで斎藤彰俊、木村浩一郎とともに格闘三兄弟として活躍した徳田光輝。選手からの人望がなく01年4月のW★ING同窓会では会場に遺影が飾られた。一部で話題沸騰の三宅綾ブログでその素顔が垣間見ることができます。

FMWに初来日し、マネージャーとして活躍。FMW離脱後は旗揚げ時からW★INGに関わった悪徳マネージャー兼ブッカー。W★ING時代にはレスラーとして試合を行なったことも。W★ING崩壊後もマット界で活躍するも、06年4月にプエルトリコにて死去。

93年11月、試合途中にフレディとブギーマンがマスクを取り自らの正体を暴露。「ファッキン・イバラギ！　W★INGはクソ団体だ！　オレらは全日本に行く」とアピールするも実現せず。片割れのダグ・ギルバートは今年3月ガッツワールドに参戦。

イナズマ　W★ING時代のポーゴは試合はもちろん、マイクアピールとかも完璧だったし。

植地　そうそう。あの当時ってUWFとか新日とか全日とかハッキリ言ってつまんなかったんですよ。客は入ってて、いまに比べたらいい時代だったと思うんだけど、全日ではジャイアント・キマラとか呼んでビックリガイジンみたいな路線になっちゃって、実力の伴なわない選手が増えてきて。個人的にロード・ウォリアーズから始まるああいう路線はちょっと飽きてきて、ホントにゲテモノっぽいのが観たいなっていうところにボーンと来たのがポーゴと（ビクター・）キニョネスで。そのあとに松永や怪奇派とかたくさん出ましたけど、W★INGの象徴といえばポーゴ。絶対そこは譲れないですね。

イナズマ　でもキニョネスって、ルックスも含めて、あんな素晴らしいマネージャーはいないよね。

植地　あの人って、じつはゴリラ・モンスーンの隠し子なんだって。

イナズマ　え〜っ、仲がいいって聞いたことはあるけど、ホントに隠し子なんだ。

植地　ゴリラ・モンスーンのプエルトリコの現地妻との子どもらしい。だからあの人はキャピタルスポーツで、かなりいいポジションを与えられて、IWAプエルトリコの大会にアンダーテイカーを招聘することもできた。ゴリラ・モンスーンといえばフレッド・ブラッシーと並ぶWWF生涯功労賞の重役ですからね。

イナズマ　キニョネスはWWFの選手とかガンガン呼んでましたからね。

W★INGはファンのマナーの悪さも一番最低だったと思う（植地）

植地　ストーンコールドのサイン会でガードマンもやってたな（笑）。プロレス界の中では、かなり若くして、いきなりいい位置に就けたのはそういう理由が……っていう話を全部ポーゴから聞きました（笑）。

イナズマ　ポーゴ情報なんだ（笑）。いつも使ってるレコードバッグもポーゴ柄だし、もちろん俺もポーゴは好きなんだけど、やっぱりW★INGといえば松永っていうのはあるね。

――W★INGといえば、松永のバルコニーダイブというイメージも強いですからね。

イナズマ　「常識を覆すのがW★INGだ！」みたいなことを言いきっちゃう感じとか、いままでにやってないようなことをメチャクチャだけどやっちゃってたっていう、そこらへんは凄い。あとやっぱりW★INGは怪奇派とかガイジンが凄かった。

植地　そうですね。その当時の日本の団体って、UWFも新日も日本人対決に明け暮れてたでしょ。そんなときにW★INGでは怪奇派ガイジンみたいなのを呼び戻してきたんですよ。しかも、基本的にライセンスとかキャラクター使用権とか完全にぶっちぎってやってたからね（笑）。

イナズマ　フレディとかレザーフェイスとか版権の問題とかでアメリカでは絶対観れないですからね（笑）。

菊池　怪奇派以外にもディック・マードック、マスクド・スーパースター組とか（ミル・）マスカラスとか大物もなにげに呼んでたよね。

イナズマ　ジプシー・ジョーとか（エル・）カネックとかも来てたし。

上野　でも、レザーフェイスとかホント怖かったですよね。いまだにレザーに追われる夢とか見ますよ。目が覚めたら凄い汗かいてたり（笑）。

菊池　チェーンソー持った大男に追っかけられるなんてシチュエーションは日常生活ではないからね（笑）。

イナズマ　W★INGはいろんな革命を起こしてきたと思うけど、それまでプロレスで「反則勝ち」っていったら、だいたいやられて血だらけの人が勝ちになってたのに、W★INGでは火をつけて燃やしたほうが勝ちっていう。なんだ、この突き抜けた素晴らしさは、みたいな（笑）。

植地　でもW★INGは、プロレスの試合形式をメチャクチャ複雑化したところはあるよね。スクランブル・バンクハウス・エニウェアフォール・デスマッチとかね。まあ、要するにリング上に限らず、どこで倒してもいいっていうルールなんだけど、スクランブル・バンクハウスデスマッチで、カウントダウンしてリング中央に置かれた有刺鉄線バットを奪い合うっていうのは最高だったね。一緒にカウントダウンして、一緒に走りそうになっちゃうんだよね（笑）。

イナズマ　そうそう。しかも、一番最初のスクランブル・バンクハウスデスマッチで、ポーゴがフライングして走りだすんだけど、ズルをしなが

らも松永に取られちゃうっていうスピード感もまた素晴らしい（笑）。

植地　アントニオ猪木vs上田馬之助では、結局落ちなかった釘板デスマッチでホントに落ちたっていうのも当時はインパクトあったよね。

イナズマ　最後のほうは釘板の使いすぎで釘が錆びちゃって、逆にこれは落ちたらヤバいでしょって感じもしたけど（笑）。でも、そういうのを含めて、デスマッチでコアな方向に向かっていった人の終着駅みたいなところがW★INGだったんだと思う。団体名をコールするっていうのもW★ING以降だよね。それまでは「イーノーキ！」とか「ハッシモト！」だったのが「ウ〜イング！」コールが起こるようになって。

植地　ECWでも団体コールが起こったけど、あれなんか絶対W★INGの影響だよ。あとはガラの悪い観客が一致団結する瞬間が何回かあって。「落っとっせ！　落っとっせ！」とか。もちろん「スリーパーで絞め落とせ！」という意味じゃなく「釘板に落とせ！」なんだけど（笑）。

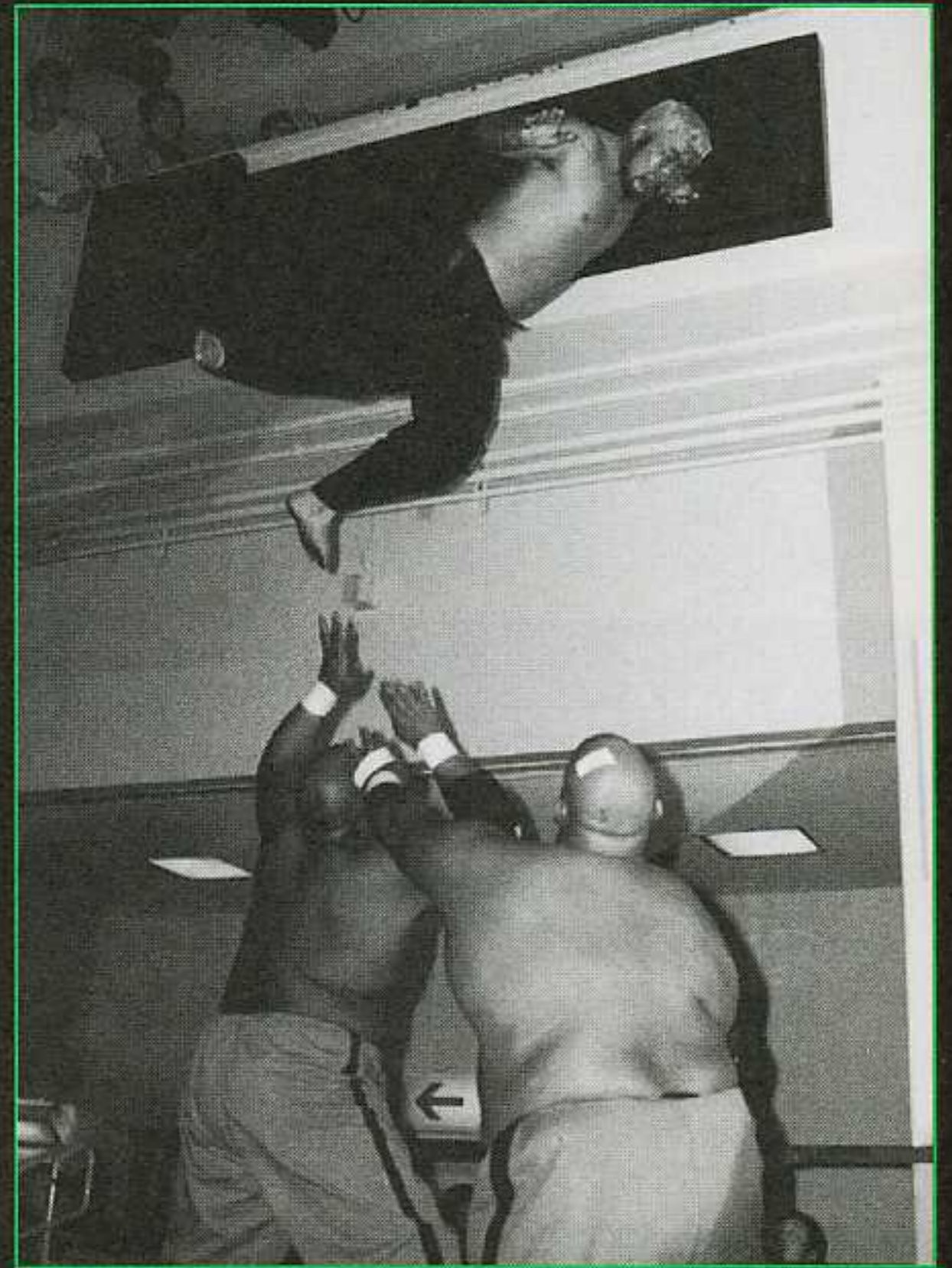
イナズマ　通常の「落とせ！」コールとはひと味違う、みたいな（笑）。

植地　下品な観客が一体になる瞬間こそがW★ING独特の美しさなんですよ。DVDを観てあらためて思ったんだけど、W★INGの1年って凄く短い。あっという間に2年経っちゃう感じで。こんな密度の濃さじゃ、逆に短命に終わるかもしれないって予想できちゃう。そこがいいよね！　W★INGは。

イナズマ　そこらへんがパンク的な感じが凄いして。

金で崩壊と復活を繰り返したり、凄くパンク的な団体だった（イナズマ）

これは失敗した写真ではなく、93年6月後楽園大会で行なわれた松永とフレディによる月光闇討ちデスマッチのもの。カメラマンのフラッシュが焚かれたときぐらいしか見えない試合なのに観客は大興奮。金をかけずに観客を熱狂させるという、まさにW★INGイズムあふれた一戦。

W★INGで何度か行なわれたファイヤーデスマッチだが一番凄惨な試合となったのが93年10月に小田原で行なわれた金村＆中牧vs邪道＆外道戦。邪道の炎の中へのパワーボムを食らった金村のコスチュームが激しく燃焼。大火傷の金村は約3ヵ月欠場……。

W★ING、松永光弘の名を広く知らしめたのが92.2.9の後楽園大会でのバルコニーダイブだ。のちに「最初はアイスマンが飛ぶはずだった」などといった証言が出たり、ほかにもバルコニーダイブを敢行する者も現われたが、やっぱり最初の松永がイチバン！

死と再生
引退と復活

植地　そうそう。セックス・ピストルズ的な衝撃があるんだよね。かなり安い感じですけど（笑）。

イナズマ　ピストルズ以来の衝撃がW★INGにはあった、と（笑）。

植地　金が原因で崩壊と復活を繰り返してみたり、空中分解の仕方とかホントにいいよね。

イナズマ　そこもピストルズ的というか、完全にかぶってますよね（笑）。

植地　最初にW★INGは載せられない話が多いって言ったけど、W★INGはプロレスで言うところのアングルとかシナリオとはまったく別の次元の話も多くて。もちろんデスマッチも凄いんだけど、プロレス以外のところで発生していた人間関係とか、お金の問題がヤバかった（笑）。

菊池　金の問題がほとんどだったけど、あと法的に引っかかるような問題を起こす人もけっこういたり（笑）。

――W★INGでは、よく会場に取り立てが来てたって言いますよね。

植地　自分も普通にその手の方々と一緒に支払いを待ってましたからね。「兄ちゃんも回収か？　ほんましょうもない団体やのう！」って話しかけられたりして（笑）。

イナズマ　今度の復活興行とかは大丈夫かな。前に大日本でW★INGの名前を出しただけで、すぐに電話がかかってきたって話を聞いたけど。

植地　この前、ポーゴの出版イベントで「茨城さんは金が入るとすぐ興行をやりたがる」って言ってて。「なんでアイツはあぶく銭が入るたびに興行をやりたがるのか俺たちにはまったく理解できない」って言ってた。

上野　興行依存症なんですね（笑）。

植地　スケール小さいけど康芳夫みたいもんでしょ（笑）。お客さんがいっぱい入って「ウーイング！　ウーイング！」ってやってるときにアドレナリンがガーッて分泌されて、生きてる実感が湧くんじゃない？

――ちなみに皆さんは5月の復活興行は観に行く予定ですか？

イナズマ　俺は一応目撃者として行くつもりですけど。

植地　俺は全然興味ないです！

上野　自分はその日、ライブが重なってて行けません。

菊池　俺は『kamipro』で仕事があれば行きますよ。でもプライベートで行こうとは思わないな（笑）。

イナズマ　松永なんかも早々と不参加を表明したしね。

――そういえば、今日、松永さんが車から凶器が発見されて警察に捕まったらしいですよ。取り調べを受けて、釈放されたみたいですけど。

一同　ガハハハハ！

イナズマ　さすがミスター・デンジャー！　やっぱりW★INGは最高だね（笑）。

植地　大会はどうでもいいけど、ミスター・デンジャーのステーキは食いに行きたいね。

上野　自分もよく行くんですけど、デンジャーステーキは最高ですよね。

菊池　あの値段であんなうまいステーキ食べれるところはないよね。

イナズマ　じゃあ、今度はみんなでデンジャーステーキを食いながらW★ING話で盛り上がりましょう！

一同　カンパ〜イ！

【09年4月2日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

kamipro SHOPPING

Back Number

［kamipro特選劇場］

困ったときの“神の子”頼み!? KIDとUFC参戦の秋山を大特集!!

No.133 山本KID特集

不発に終わった3.8『DREAM.8フェザー級GP1回戦』の結果を受けて、133号ではフェザー級のド本命、遅れてきた主役、山本“KID”徳郁を徹底解剖!! 本人のロングインタビュー、KIDパパ×谷津嘉章の対談、KRAZY BEEの朴光哲が語るKID列伝など、この一冊でKIDがまるわかり!!

総力特集 魔王とオクタゴン

さらにUFCと契約した“魔王”秋山成勲も大特集! 本誌の名論客・菊地成孔が現在の秋山を総力分析!! さらには“魔王の育て親”山田武士トレーナー、練習仲間の岡見勇信、ミドル級に転向するヴァンダレイ・シウバ、UFCの先輩、郷野聡寛&長南亮も秋山を激語り!!

神様、仏様、KID様!!

パネェ

133号の特集は“神の子と魔王”

注 No.92 以降の「Kamipro」は http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

元祖! 紙のプロレス Back Number すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **神秘とは何か?**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!／遠藤幸吉インタビュー

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負!／K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 ~~1260yen~~⇨630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16➡No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 ［販売元］㈱ダブルクロス（平日13:00～19:00）

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
“新”プロレスとは何か?
［表紙:小川直也］田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
［表紙:小川直也］田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
［表紙:サクマシン(イラスト)］ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
［表紙:橋本真也(イラスト)］ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
［表紙:髙田延彦(イラスト)］忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
［表紙:アントニオ猪木］蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
“最後の黒船”WWF来襲!!
［表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア］リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
［表紙:アントニオ猪木］ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
［表紙:桜庭和志］ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
［表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ］その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
［表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)］悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
［表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア］“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
［表紙:桜庭和志］奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
［表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭］和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
［表紙:桜庭和志］「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
［表紙:橋本真也］両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
［表紙:橋本真也、小川直也］全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
［表紙:桜庭和志］ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪輪育久／独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 880yen
『Dynamite!』を大総括!
［表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ］“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
［表紙:髙田延彦］「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!／金原が『PRIDE』参戦!／メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
［表紙:高山善廣］サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
［表紙:武藤敬司&船木誠勝］夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
［表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル］いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
［表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル］ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
［表紙:橋本真也&小川直也］裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ヴァーと登場! 佐々木健介／現役復帰? 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
［表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)］「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
［表紙:桜庭和志］“異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
［表紙:ミルコ・クロコップ］最後の皇帝大炎上! ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場!／『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
［表紙:ヴァンダレイ・シウバ］ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
［表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長］大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
［表紙:橋本&小川］出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場!／田村潔司／美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
［表紙:ミルコ・クロコップ］シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る!／紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
［表紙:ハッスルイラスト］『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
［表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ］GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
［表紙:小川直也］GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
［表紙:小川直也］PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
［表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦］シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
［表紙:桜庭和志］小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
［表紙:小川直也］「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
［表紙:小川直也］衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
［表紙:髙田総統］キャプテンに休息無し! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
［表紙:桜庭和志］ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
［表紙:ミルコ・クロコップ］04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
［表紙:セルゲイ・ハリトーノフ］“殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
［表紙:前田日明&髙田総統］PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
［表紙:ヴァンダレイ・シウバ］大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
［表紙:吉田秀彦］敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶電話注文⇨03-5368-1797（平日13:00～20:00） ❷メール注文⇨kapra@kamipro.com

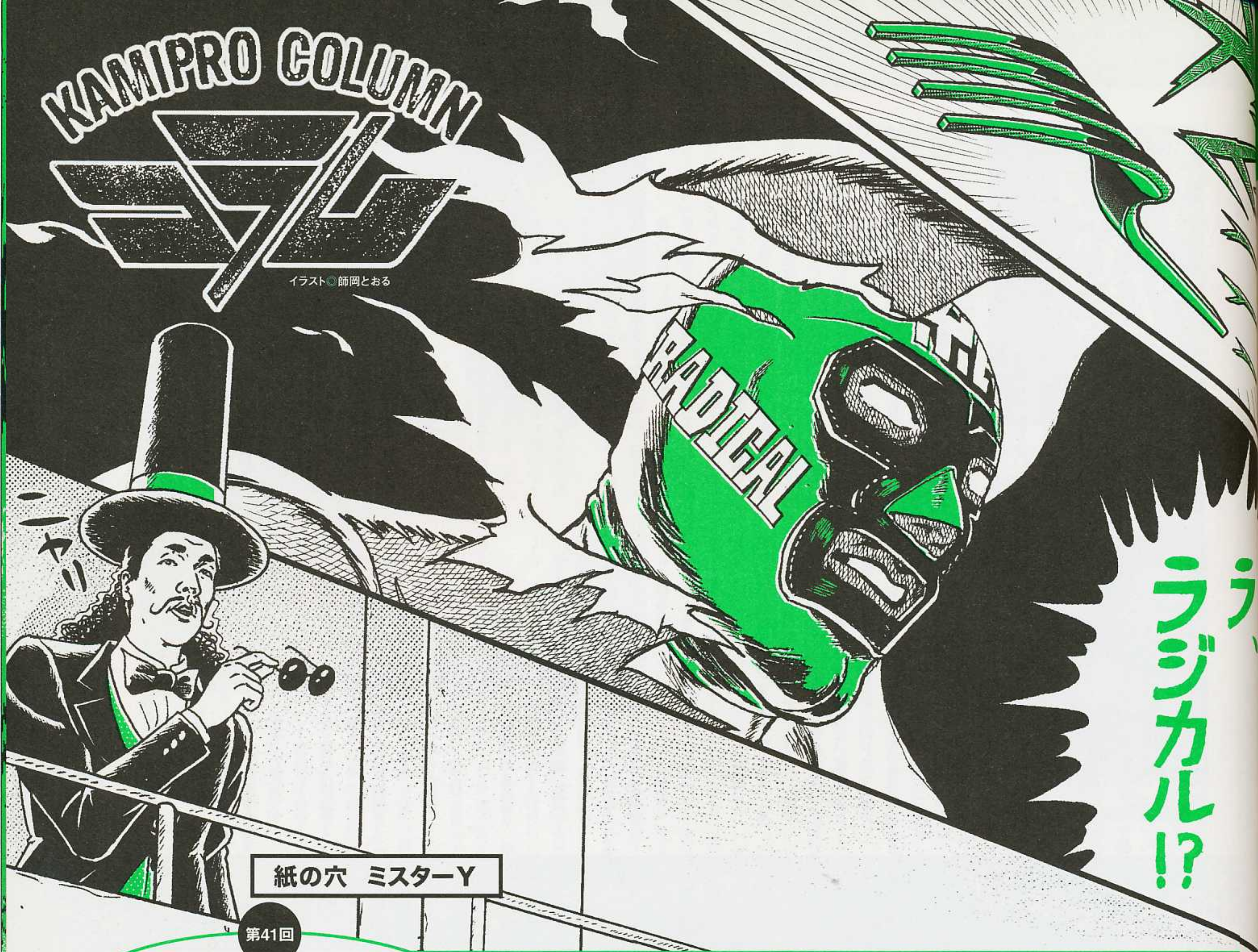
※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

KAMIPRO COLUMN

ラジカル

イラスト◎師岡とおる

ニヤリ

RADICAL

ラ、ラジカル!?

紙の穴　ミスターY

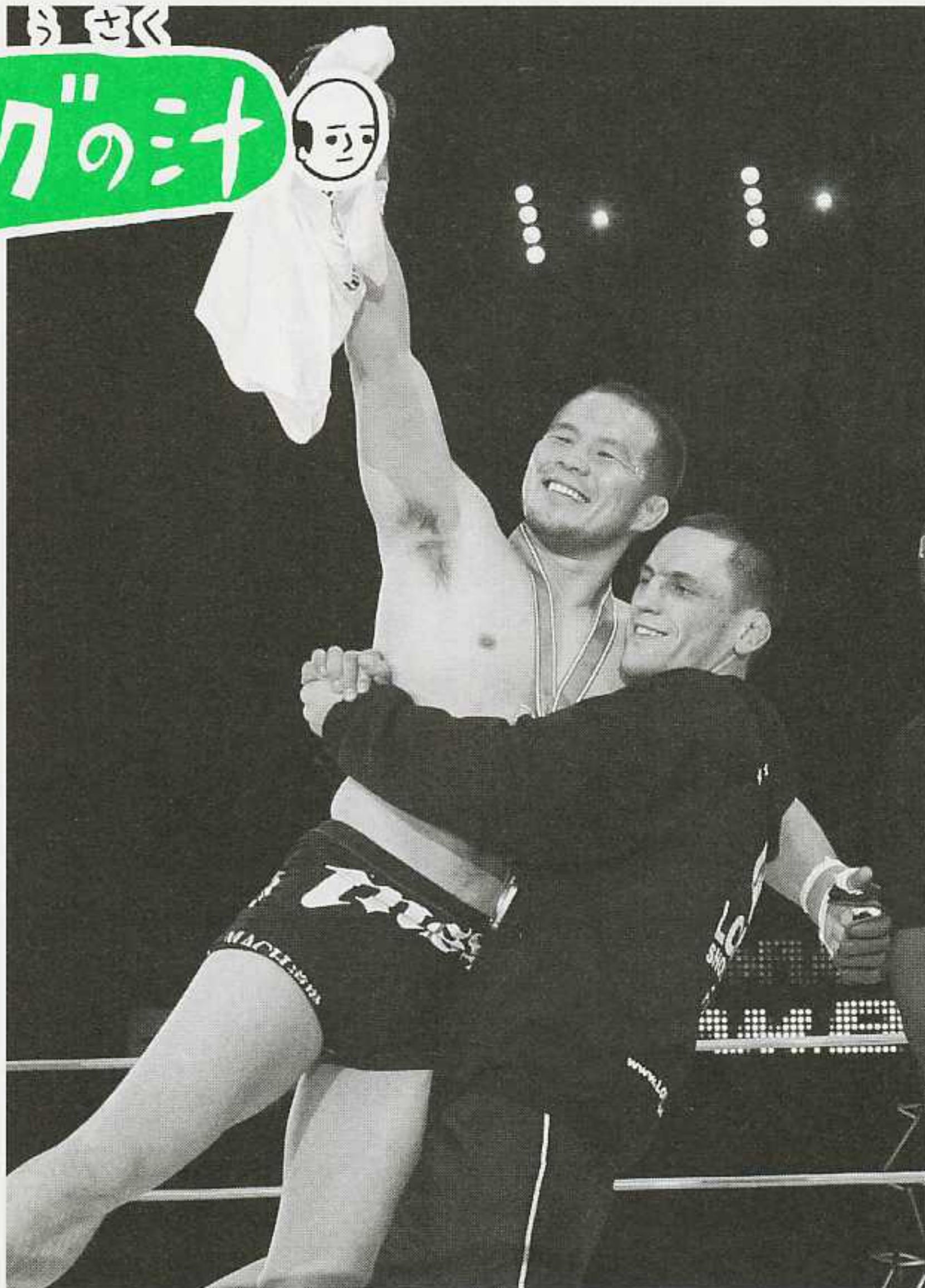
第41回

いい映画

花くまゆうさく

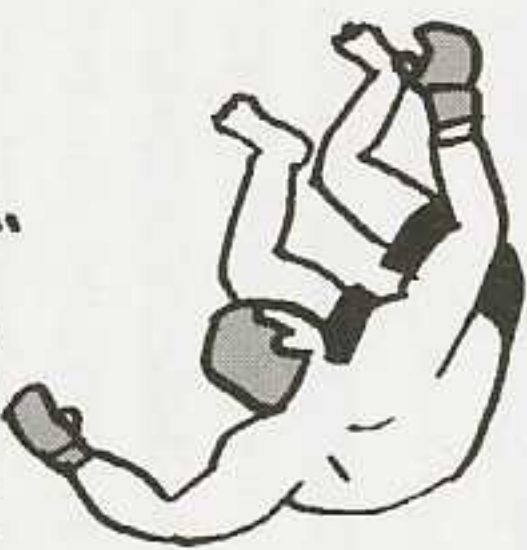
豆リングの汁

この作文書いた翌日に、映画『レスラー』観に行くんだけど、楽しみでしょうがない。町山さんの文章やインタビュー読むと、期待値上がりっぱなしだ。

映画といえば、山本KIDが『俺たちステップブラザース』大好きだというのが嬉しい！　好感度UP。菊田さんが『ナポレオンダイナマイト』好きだというのと同じくらい、マット界ちょっといい豆情報です。

こないだのDREAMをPPVで観た。アンドリュース・ナカハラは試合ぶりも試合後の態度も好印象（セコンドにバルボーサ先生がいたね）、シャオリンとモンソンとガウヴァオンの見事な柔術テク、リトアニア人のバク転（『戦極』のモーガールの腰の動きに続くインパクト）など、いろいろ見どころあったが、メインのマッハにはシビれて熱くなった。煽りVがあんなことになってるからドキドキして観てたけど、あんなカタルシスある試合はトリッグ戦以来だね。

深夜のTBS放送も観たけど、ミノワマンvs柴田戦をたっぷり流してて、あいかわらずどうかしてるよ。TBSでいいのは青木アナだけ！

撮影／乾普也

キミの姿は忘れない（たぶん）

ザムロスキー

Hanakuma Yusaku
◎翌日『レスラー』観て泣きました。いい映画だあ。

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ!

格闘裏情報

最終回

私だけが気になる

ターザン山本!さんの行く末

今月号で最終回となる当コラム。長いあいだご愛読ありがとうございました。さて、今回は今月号の特集テーマでもある「引退」に触れてコラムを引退させていただきます。

「引退」と聞いて思い浮かぶのは、じつはターザン山本！さんなんです（笑）。一時代を築いた山本さんが、いまやとんと見かけない。以前はターザンカフェで動向をチェックしてましたが……、山本さんがプロレスや格闘技に触れることが少なくなってきたので、そのうち見なくなりました。だから『kami-pro』で見かけるぐらいなんですね。それも〝たまに〟のことですから、このまま引退してしまうのでは!?　と案じてるわけです。

なぜそんなに山本さんが気にかかるかといえば、じつは私がマネージメントしている中尾〝KISS〟芳広の〝KISS〟は、山本さんが名付け親。『週刊ファイト』で山本さんに中尾選手インタビューをやってもらったときに提案してもらいました。だから中尾本人も「山本さんはどこへいったんだろう?」と心配気味……って、いきなり話は脱線してしましたね（笑）。とにかく山本さんにはもっと頑張っていただきたい！　というわけで本題へ。

引退で印象深いのは、やっぱり前田日明さんです。この業界にかぎらず、引退しても復活する選手が多い中、前田さんは違いました。

聞くところによると、新日本プロレスから熱心なオファーもあったのにリングに上がることはなかった。そこは前田さんらしい姿ですし、より印象深く私の心に残っています。もう一つ。髙田さんの引退試合も忘れられません。相手が田村潔司選手だったことも素晴らしかった。あの試合で田村選手は新弟子時代に戻るかのように、頭を丸坊主にしてきました。あの姿を見たら、私のUWF時代の記憶が一気によみがえってきました。なんとも言えない気持ちになりました。

UWFには絶対的な上下関係がありました。先輩の言うことは絶対服従。ましてや髙田さんの存在は絶対も絶対、神のような存在。田村選手は髙田さんの引退試合を悲壮な決意で引き受けたはずです。だから、リングに立ったものの、髙田さんの顔を殴りたくはないという気持ちがあったように思います。テイクダウンをしてもパウンドは打てませんでした。

だからこそ、突っ込んできた髙田さんに対して条件反射的に見舞った、いや、見舞ってしまった田村選手の右フックは美しかったのです。髙田さんの最初にして最後の失神KO。非常に切ない気持ちにもなりましたが、あれ以上のドラマ性に富んだ引退試合は見たことがありません。

kamiproMoveで好評連載中!

ニュース特選!★kamiの1週間

傑作編

魔裟斗引退発表&永田兄弟劇場復活!

（4.6更新分より）

◎『kamipro Move』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選!　Kamiの1週間」。このコーナーではプロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり!　興味を持った方は『kamipro Move』にレッツ・加入!!

松　いや〜、まさかの電撃引退にはビックリさせられたな。

竹内　青天の霹靂とはこのことだよ！　反逆のカリスマが引退だなんて！

松　彼のいままでやってきたことを考えれば当然だけど、早すぎるという声も当然ある。

竹内　ホント早すぎるよな。中村雅俊の長男、中村俊太（31）が大麻所持で逮捕、引退とはね。

松　俺は中村雅俊の話はしてないよ！　魔裟斗の早すぎる引退に決まってるだろ！　それに中村雅俊の長男は反逆のカリスマと呼ばれてないから！

竹内　でも、大麻といったら、魔裟斗というより○○じゃないの?

松　やかましい！　大麻は関係ないよ！

竹内　いやあ、魔裟斗の引退は「嘘だろう」と思いました。嘘であってほしいと。けど事実でした」。

松　それが中村雅俊の会見のコメント！

竹内　中村魔裟斗し?

松　全然、字が違うだろ！　中村雅俊ネタから離れろ！

竹内　魔裟斗はあと2試合、大晦日で引退するんだろ?

松　そう。4月の福岡大会でHIROYAとエキシビション、そのあと7月と大晦日に試合をして引退する。

竹内　引退試合は石川敬士と電流爆破マッチで対戦が濃厚。

松　それは大仁田厚だろ！

竹内　もしくは、5人がけとか?

松　それは長州力の引退だろ！　復帰するヤツの例ばかり出すな！

竹内　とにかく魔裟斗の引退試合は盛大にやってほしいな。

DREAMで永田兄弟劇場復活!

松　もう一つ、4月5日には『DREAM・8』が名古屋で開催された。

竹内　今回の目玉はもちろん、煽りVでの永田さん兄弟劇場の復活！

松　確かにあれもおもしろいけど、目玉は青木vsマッハだろ！

竹内　いや、永田さん兄弟劇場は、格闘技版「ドリフの雷様コント」だからね。みんな楽しみだったんじゃない?

松　「ドリフの雷様」って失礼だろ！

竹内　じゃあ、「バカ兄弟コント」?

松　もっとひどいよ！

竹内　そのまんますぎるか。

松　そういうことじゃない！　前回、永田克彦の煽りVは結婚ネタだったけど、今回はお子さんができて、ますます負けられない理由ができたっていう話だったね。

竹内　ま、永田さんの結婚や第一子誕生は、高木ブーの再婚同様、誤報の可能性もあるけどな。

松　ブーと一緒にするな！　で、この当日、兄・裕志は両国国技館で飯塚高史とチェーンデスマッチを行なっていた。

竹内　弟は名古屋で大流血、兄は両国で大流血。

松　確かにそうだけど、兄弟ともに奮闘したよ。

竹内　これで克彦がチョークで絞め落とされてたりしたら、兄弟二人とも白目が実現したのに、惜しかったな。

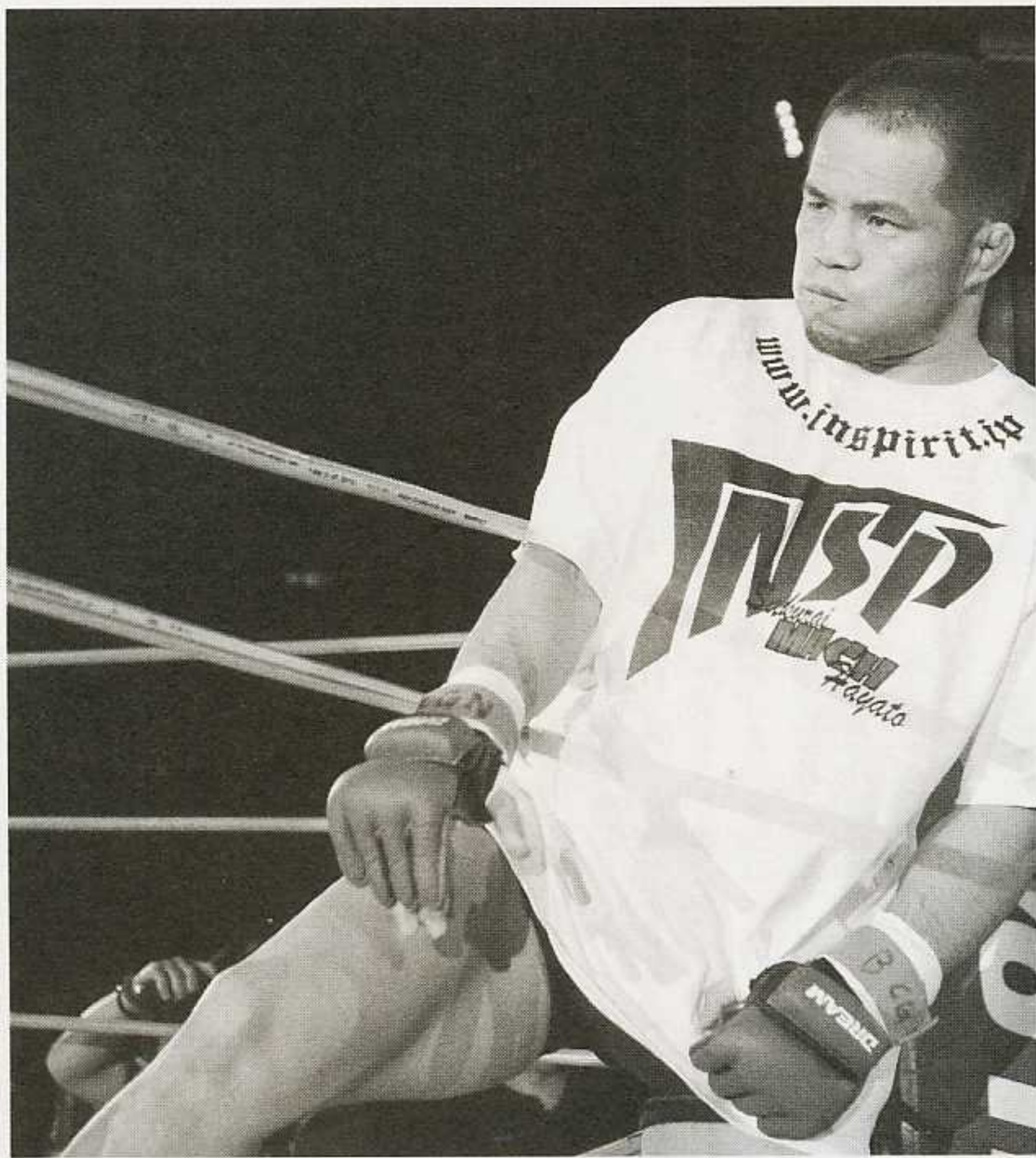
松　惜しくないよ！　何を期待してるんだ。いいかげんにしろ！

椎名基樹のサムライ三昧

第36回

『宿命の対決2連発』

怒りは北斗神拳の究極奥義だとかなんとか。ボクシングとはつまるところ怒りである、なんつーのも聞いたことがある。

そんなことを思い出した、『DREAM・8』の桜井〝マッハ〟速人vs青木真也。興奮した。青木も好きであるが、やっぱマッハへの思い入れとは全然違うので、勝利の瞬間「ヨッシャー！」と雄叫びを上げてしまった。マッハが負けてこのままフェードアウトのようなかたちになっても嫌だったし。

ちょっと前にこの二人がテレビで対談している様子を見るかぎり、お互いに尊敬し合っているようだし、試合後のマッハの様子を見ても、心底憎み合っているワケではないだろうが、マッハがかなりヒートアップしていたことはたしか。やっぱ「普通にやれば優勝できる」なんて言われたら、誰でも怒るか。

マッハが煽りV中に言っていた「ナメ腐りやがって！」つーのが自分の中でちょっと流行中。

流行語といえば解説の山本KIDが言っていた「アピる」。これもなかなかよかったが、中高年（byきみまろ）が使うにはハードルが高い。きみまろ世代はどーしても「アピる」と聞くと、ビートきよし用語である「コピる（コピーを取ること）」を思い出してしまうはずだ。

それにしてもKIDも「体重差といっても2キロしかないのに、それをアピるのもキモい」などと言って、青木にはひそかにカチンときていたご様子。何かあったのだろうかとヤジウマ根性で邪推してしまう。

それはさておき、話は冒頭の言葉に戻るが、格闘技につーか、闘いにおいて「怒り」がいかに大切か実感した、マッハvs青木であった。前回の対戦では判定までいきマッハが勝ったものの、どちらともとれる内容だった試合が、怒りによってまったく違うものになったことに驚く。しかも、素人同士ならいざ知らず、一流の格闘家同士の闘いがである。

普段の試合であったら作戦を立てるであろうが、その観点でいえば、ゴングと同時にツカツカと歩み近寄り、怒りの鉄拳とばかりに大振りのフックを振り回して空振り、倒され上を取られるなんて愚の骨頂だろう。しかし、この試合では、それがあったからこそ、劇的な秒殺KOとなったことは疑いようのない事実である。「ブッ殺す」っていう気持ちのほうが作戦なんかより、勝敗を分ける意味で、よほど重要な要素だと思い知らされた。

怒髪天というように、髪の毛が放射線状に伸びるヤツは強いという持論を持つ筆者。マッハもそのタイプである。さらに彼の師匠のガッツマン・桜田直樹、黒崎健時先生など、怒髪天さんはたくさんいるが、いま最も注目の怒髪天さんは石井慧。いつもニコニコして笑顔の印象が強い彼であるが、怒りに猛り狂ったような試合をケージの中で見せてほしいものだ。と、最後はあらぬ方向に考えが行った、マッハvs青木だった。

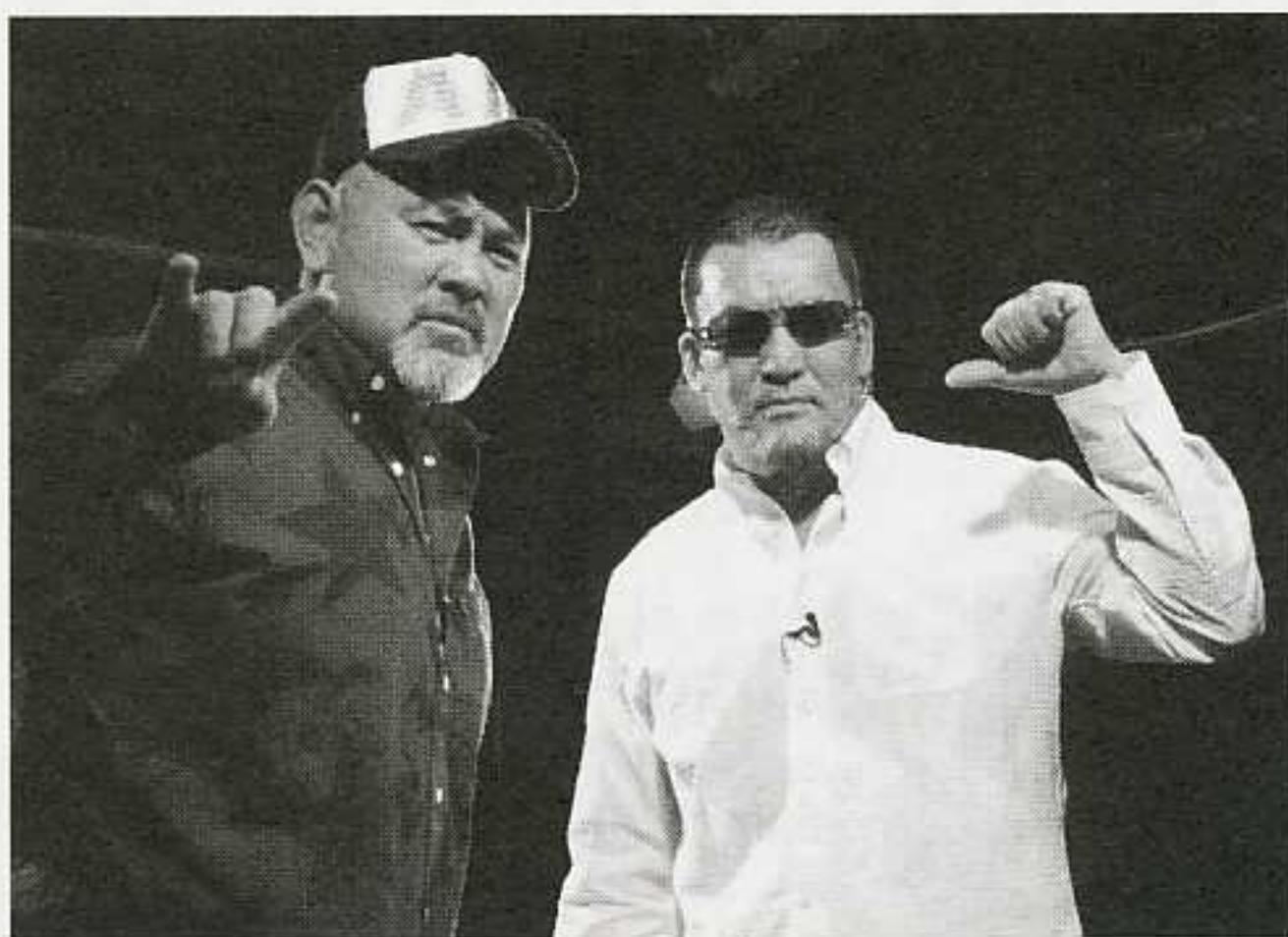
そして、青木！ DREAMを引っぱろうっていう責任感はヒシと感じたぞ！ 次、さらに強くなって復活期待！ あっ、あとお互いのセコンドに、中井祐樹と朝日昇がついたのにも興奮した。

と、今月は、マッハvs青木に続くもう一つ書いておきたい宿命の対決があった。それは武藤vs蝶野である。もちろんこれは試合ではなく、サムライTVで放送された対談。ひさびさの両巨頭の邂逅。お互い苦笑い混じりの、深く知り合った者同士の独特な間合いが、プロレスファンならそれだけでおもしろい。

やはり話題は新日時代の思い出話中心。食事手当てのことをちゃんこ銭（せん）と呼び、新日伝統の湯豆腐のレシピがあるらしいこと、大量離脱のあとは3万円のちゃんこ銭が8千円に減らされたこと、武藤が付き人をしていた木村健悟に向かって「木村さんクラスのほうが気が楽です」と言い放ったこと、最初のG1のときは長州、藤波が一歩引いてくれたことがのちのち耳に入ってきたことなど、変態を悶えさせる小ネタも満載。

その中でも一番興味を惹かれたのが、蝶野が突然あらたまった口調になって「オレ最近、長州さん見てて思うんだけど、ブッチャーにそっくり。長州さん最近だいぶくだけてきて、それで見てるとブッチャーそっくりね」と言い出したこと。ブッチャーとはもちろん、長州とは犬猿の仲であった橋本真也のことである。

それに応じるように武藤も、「西村って本当にマジで長州さんのこと嫌いだな」と素敵な長州トークを披露。さらに続けて「ブッチャーって外すと、とことん外すとこあんじゃん。だから『ハッスル』とか見てて、美しくねえなと思っていた」と言うと、蝶野の答えは「いや、あいうのも好きなんだよ」。

4月からサムライTVで復活の「Versus」で実現した武藤と蝶野の対談。司会進行を務めたGKの想像を上回るガチンコトークとなった二人の対談は必見。ちなみに収録当日、蝶野は武藤に手作りのおにぎりをプレゼント！

過去に蝶野と橋本が一緒にドイツにサーキットしたとき、顔見せで試合前に全選手が順に整列する際に、初日にコールのあと手を上げただけで客の反応が悪かった橋本は、次の日は空手のポーズをとり、それでも反応が悪いので、3日目は日の丸の旗を化粧まわしに見立てて腹から垂らして四股を踏み、それでも反応が悪いので、プロモーターのオットー・ワンツが「もうやめろ！」というのも聞かずに、自分で紙吹雪を用意し、それを片手に握り、もう片手の扇子で扇いで舞い上がらせたエピソードを紹介。

すると武藤もカルガリー時代、橋本が少女のファンにサインを求められ、オ○○コマークを添えて書いたら、あとで親からクレームがつき、プロモーションをクビになったいきさつも紹介。最後はお互いのプロレス観がマジにぶつかり合う場面もあり、興味深くもあったマニア垂涎の1時間であった。

煽りVにもあったように、まさに「ナメ腐りやがって!」といった感じの怒りの表情でリングインしたマッハ。勝ち上がったガイジン選手もマッハの怒りに火をつけて〜!

DDT外伝 by高木三四郎社長
リングを捨て町へ出よう!?
プロレスラーとSNS 最終回

こないだからGREEを始めました。GREEとは、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の一種で最近CMを流したりして携帯ユーザーに好評で、この手の携帯SNSでは断トツだったモバゲーの牙城を脅かしているんだとか（IGFさんでも「闘魂SNS」なるサービスを始めたようです）。

同じSNSであるmixiで成人層の圧倒的な人気を得たので今度は若年層にモテよう（笑）とGREEを始めたのですが、さすがに若年層向けであります。とにかく規約がうるさいです。

mixiでは削除されなかった次回大会のチケット情報や大会告知なんかもGREE事務局に見つかったら即座に削除されます。あー、つまんないSNSだなあ。退会しようかな（爆）。

とまあそんなわけで、いまではそこらのインディーレスラーなら誰でもやってるSNS。利点は手軽に共通の趣味、嗜好、居住地域……etc.がわかり、携帯があれば誰とでもコミュニケーションが取れるということ。ほかにも専門誌やメディアへの露出が少ないぶん、ダイレクトにこちら側の意向を伝えることができて、なおかつファンの方々のニーズやコミュニケーションを取ることができるので、我々インディーズ系のプロレスラーからするとかなりありがたいツールなんです。

しかもビジネス的なコミュニケーションも当然あります。自分もmixiからのお付き合いでイベント興行やらスポンサードのお話が決まったことがいくつかありますからね。キャンプ場プロレスの双子プロモーターなんかもmixiやってるし（笑）。

とにかくいろいろと便利で重宝しております。ウチのプロレスラーだとMIKAMIとか中澤マイケルがヘビーユーザーかな。とくに中澤マイケルはファンの方々の日記検索をして足跡をつけるのが好きでかなりの頻度でキモいコメントを残したりしてます。

ほかのレスラーは主にmixiがほとんどだと思うのですが、渋いところではNOSAWA論外あたりは全世界でシェアナンバーワンのMySpaceをやっております。実際に海外の団体からオファーが来ることもあるのだとか。いや〜、便利な世の中になったもんだ。

そんなわけで皆さん、こちらのコラムは残念ながら今回で最終回とのことで、DDTおよび高木三四郎に興味を持っていただけた方がいましたら、ぜひマイミクになってください！（爆）。

アドレスはhttp://mixi.jp/show_profile.pl?id=20352504です。よろしく！

8月23日に開催するDDT初の両国大会『両国ピーターパン〜大人になんてなれないよ〜』のメインで予定されているのがKO-D無差別級タイトルマッチ。現王者の三四郎社長は順調に防衛ロードを歩んでいるが、はたして両国のメインに無事たどり着けるのか？　気になる方はmixiなどで各自調査！

Sanshiro Takagi ◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

金ちゃんのどこまでやるの？
●第34回● DEEPでイメチェンの巻

もうこの本が出る頃にはとっくに終わってるけど、4・16DEEP後楽園ホール大会に出場しました。

DEEPに出るのは初めてなんだけど、佐伯さんとはリングスが活動休止になる頃から面識があるんだよね。リングスが終わっちゃって、滑川（康仁）、横井（宏考）、伊藤（博之）といった当時の若手が闘う場所なくなったときに、俺が佐伯さんと話して、DEEPに上げてもらったんだよね。あ、そういえば和田（良覚）さんもそうだった（笑）。

だから、佐伯さんのことはその頃から知ってるんだけど、まさかあのDEEPが8年も続くとは思わなかったよね（笑）。Uインターは7年もたなかったし、リングスでも10年だからね。たいしたもんだよ。

いつの間にか、日本の総合格闘技界でDREAM、『戦極』に次ぐ3位の興行規模だからね。そういった意味では、俺にとっても魅力的な舞台だと思って、今回、初出場させてもらうことになったんだよね。

俺は去年までパンクラスを主戦場にしてて、これからも上がりたいんだけど、今年のパンクラスは後楽園ではなくディファ有明を使用して、若い選手を中心にやっていくみたいだし、パンクラスで闘ってるミドル級の選手とはだいたい俺も闘っちゃったから、なかなかカードが組みにくいみたいなんだよね。だから、また俺の出番が来たら、出場したいと思ってるし、負けた選手とは全員ともう一回やりたいぐらいだからさ。また次のチャンスを待ちたいよね。

で、今回DEEPに上がったわけだけど、その前にDREAMにも上がるかもしれなかったんだよ。4月5日に名古屋でやった『DREAM・8』でムリーロ・ニンジャの相手（ユン・ドンシク）が急きょ欠場したじゃん。その代わりを佐伯さんが探してて、福田力選手がもしダメだったら、16日のDEEPを控えた俺がスクランブル出場してくれないかって話があったの。

俺としてはひさびさの大舞台で、相手は大物ニンジャだし、DEEPのために試合の準備もしてコンディションもある程度できてたから、二つ返事でOKだったんだけど。ホントに超直前、二日前の話だったからさ、味わったことがない緊張感と興奮があったよ。

結局、福田選手が受けて俺はなくなったんだけど、あんな急なオファーでニンジャに勝つんだから、彼もたいしたもんだよね。若くて、いま一番無理が利く歳なんじゃないかな。

こういう若い選手が出てきた中で、俺も自分をアピールしなきゃいけないからさ。じつは今回、DEEPに出るにあたって、俺を応援してくれる人たちが「個性を出すためにイメチェンすべきだ」って言うのよ。

でも、急に個性を出すっていっても、俺が長嶋☆自演乙☆雄一郎みたいにコスプレするわけにいかないからさ（笑）。結局、タイ人みたいに真っ黒に日焼けしようってことで、日焼けサロンに通ったんだけど、肌がボロボロになっちゃったよ（苦笑）。

16日のDEEPで「金原はなんで肌が汚いんだろう」って思った人がいたら、日焼けの失敗だと思ってください（笑）。

俺自信は、どうせイメチェンするならヒール転向でさ。金髪に口ヒゲ、田子作タイツに竹刀持って、上田馬之助スタイルでいこうとか一瞬本気で思ったんだけど、それだと安生（洋二）さんのアン・ジョー之助とカブるからね（笑）。

やっぱり個性は試合で出さなきゃダメだなあ。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

GO FOR BROKE! 獄門記

No.1 Commentator MASA RU-CHA

最終回

プロレスラーとファイトマネー

マサさんといえば、70年代から80年代前半にかけて、最もアメリカで成功した日本人プロレスラーの一人。全米でドルを荒稼ぎしたという伝説があるが、はたしてどのくらい稼いでいたのか？

ひとまず最終回となる今回はプロレスラーとお金の秘話をマサさんに語ってもらいました！

——マサさん、今回はプロレスラーの稼ぎについてうかがいたいんですよ。やっぱりレスラーにとっての評価として、ファイトマネーは大事ですよね？

マサ そうね。どれだけ稼げるかはもちろん重要よ。

——で、マサさんがいた70年代のアメリカっていうのは、非常に稼げる時代だったわけですよね？

マサ 稼げたね。ただ、プロレスって商売は、ベースボールとかバスケットボールなんかと違って、やっぱりマイナーよ。でも、その代わりそういうメジャースポーツ以上に、仕事をするところはいっぱいあった。たとえばウエストコーストだけでも、大きなテリトリーが5つもあったからね。ほかにもいろんなところを回ったけど、中でも一番稼げたのは、ビンス・マクマホン・シニアのニューヨークと、バーン・ガニアのミネアポリスかな。

——NWAではなく、WWWF（現WWE）のニューヨークと、AWAのミネアポリスが儲かったんですか？

マサ NWAはサウス一帯がNWAだったんだけど、各プロモーターごとに分かれていたからね。一つのテリトリーとして考えると、ニューヨークとミネアポリスが一番稼げた。

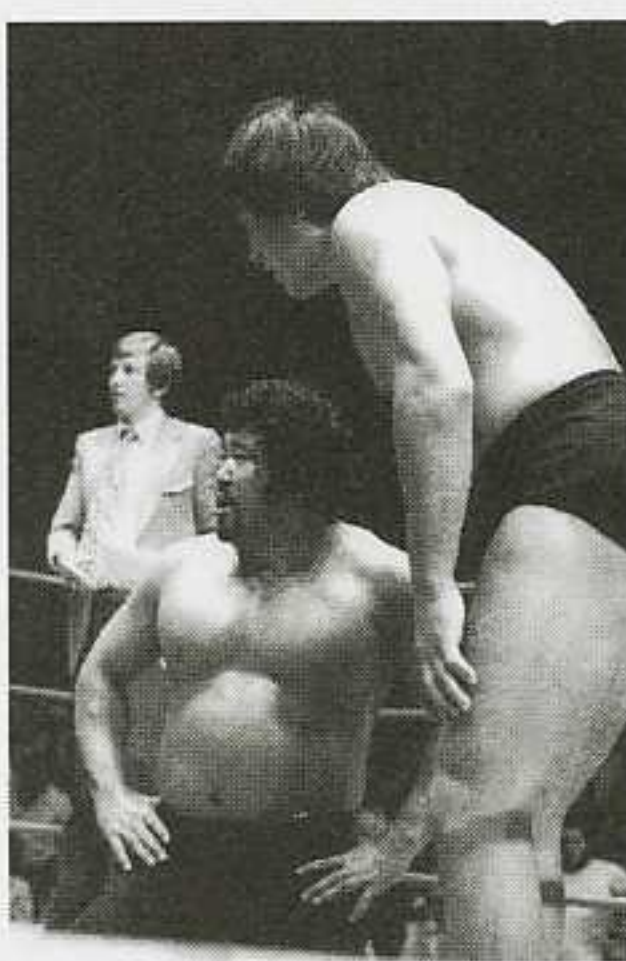
——NWAはテリトリーが広かったわけですね。

マサ NWAの中で俺が一番よかったのはフロリダかな。あそこは金払いがよかったし、デューク・ケムオカや（ヒロ・マツダさん（といった日本人）がいたから、俺にとっては非常に仕事がしやすいエリアだったよ。

——一番稼いだときで、どのぐらい稼いだんですか？

マサ 俺がフロリダにいたのは1975年ぐらいだけど、当時で年間10万ドルは稼いだよ。あの頃の10万ドルってかなりのもんだよ。

——単純計算で当時は1ドル300円ぐらいだから、3000万円！　しかも、当時の貨幣価値ですからね。いまだったらその倍以上かもしれませんね。

マサ 稼ぎ自体はニューヨークのほうが上だけど、フロリダは1週間に2000マイルぐらいしかドライブしなくていいのが良かったね。でも、ニューヨークでは、年間20万ドル稼いだよ。

フロリダマットで師匠格のヒロ・マツダとタッグを組むマサさん。自分の身体だけを武器に全米でドルを稼ぎまくるマサさんは、やっぱり男の憧れだ。

——凄いですねえ。当時のファイトマネーっていうのは、ハウスの収益によって左右されるんですか？

マサ そう。ハウスの収益が良ければ、そのうちの何パーセントが入ってくるっていうかたちだね。

——それは毎試合チェック（小切手）でもらうんですか？

マサ いや、当時はキャッシュよ。

——現金ですか！

マサ しかも、興行収益をそのまま"分け前"みたいに払われるのよ。

——分け前（笑）。

マサ ニューヨークなんかは、ハウスショーが終わった後、でかいテーブルに現金がドーンって積んであってさ、名前呼ばれたらそこに行って、小さなペーパーにサインさせられて、その現金の山から札束をドーンと渡されるのよ（笑）。

——試合後そのままゲンナマって、それは"身体で稼いでる"って気にもなりますね（笑）。

マサ 普通はさ100ドル札とか20ドル札で支払われれば、そんなに束にならなくて済むんだけど、チケット収益そのままだからさ、10ドル札、5ドル札、1ドル札なんかも入ってるから、もの凄い束になっちゃうのよ（笑）。だから、こっちは大変よ。俺たちは1試合1500ドルぐらい稼いでたから、1ドル札や5ドル札じゃ、もの凄い量になるんだよな。銀行に持っていくのにバッグがパンパンになってるんだよ。たまに3試合分ぐらいいっぺんに渡されると、とんでもない量になるのよ。

——そんな大量な現金を持ち歩いてたんですね（笑）。

マサ 毎日、お札を大量に持ってくるもんだからさ、銀行のおばちゃんがいつもへんな顔してたよ（笑）。

——マサさんが一番稼いだときって、一晩でいくらぐらい稼いだんですか？

マサ ハルク・ホーガンとAWAで抗争してたとき、毎晩5000ドルぐらい稼いでたな。

——毎晩5000ドルっていうのは凄いですね。そんな大金をどう使ってたんですか？　マサさんは高級車とか贅沢品にお金使うタイプじゃないし、食事だってお金をかけるわけではないですよね。

マサ 食事なんかメチャクチャよ。いつもハラペコだったから、ビール飲んで、ステーキ、ピザ、スパゲティをいつも一緒に食ってたからね。よく食ったもんだよ。

——では、稼ぎながらも贅沢はしなかったわけですか。

マサ 遊ぶ暇がなかったからな。仕事毎日だもん。午後2時頃ジム行って、メシ食って、試合場までドライブして、夜は試合して、飲みに行っての繰り返しだからね。

——使う暇もなかったんですね。

マサ 何に使うの？

——いや、どうしてたんだろうなって思って（笑）。もしかして、女性に使ったとか……。

マサ 女には使わないよ。使うまでもない（笑）。

——使うまでもない（笑）。じゃあ、財産築いた選手も多いんですかね。

マサ いるんじゃない？　でも、たいていレスラーっていうのは、生活が派手だから、女作っちゃって離婚して、稼ぎは女房に全部持っていかれちゃうんだよ（笑）。

——なるほど（笑）。そういう話はよく聞きますよね。

マサ 一年中旅してたらそうなるさ。

——アメリカってとくに慰謝料が高いんですか？

マサ 子どもなんかいるとメチャクチャよ。全部持っていかれちゃうから。州によっても違うけどね。慰謝料と養育費ね。

——やっぱりレスラーって大変な仕事なんですね。では最後に、いろんなことを含めて、マサさんが一番良かったテリトリーってどこですか？

マサ フロリダかな。タンパが一番良かったよ。気候がいいし、旅は短いし、稼ぎはいいし、俺はよくしてもらったしね。あとは女がイージーなところも良かったな（笑）。

——女がイージーですか（笑）。稼ぎと気候と女性がいいところが一番ということで、ありがとうございました！

Masa Saito ◎60年代末〜80年代前半、アメリカンプロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

いまはなき全女の保養施設・秩父リングスターフィールドの前まで行って帰ってきたことがある女子プロ脳男・掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは今年1月、新日本プロレス・金本浩二選手と見事ゴールインしたHikaru選手。今年4月26日をもって引退する若奥様レスラーの現在の心境はいかに!?

掟　まずはご結婚おめでとうございます！　結婚引退と思われてますけど、じつは引退を決意したほうが先だったとか。体調が悪かったんですか？

H　いや、逆に調子がよかったので辞めたいなっていうか。約10年間プロレスにたずさわってきて、7～8割はケガに悩まされてきてて。Hikaruといえばケガみたいな。でも、ラストの1年は最高に動けて最高に楽しかったです。

掟　じゃあ、延長しましょうか？

H　いや、引退カウントダウンが始まったらヒジをケガしちゃって。やっぱり、プロレスの神様は私のことをHikaruイコール、ケガって言ってるのかなって。でも、それでも闘わなきゃいけないのがHikaruだと思ってるんで。

掟　周りの人からはなんて言われます？

H　「もったないよ！」とか、引退試合の3日後にZERO1の後楽園大会があるんで、「そこで復帰すればいいんじゃないか」とも言われたり（笑）。でも、私の中ではホントに思い残すこともないし、楽しかったなって言えるんで。

掟　ちなみにファン時代に一番憧れていた選手は誰だったんですか？

H　豊田真奈美選手ですね。小学校4年生のときに初めて観て、憧れて全女に入ったんですけど。

掟　実際に闘ってみていかがでした？

H　やっぱり、ほかの選手とは思考が違うというか。でも、豊田選手に限らず女子プロレスラーって普通じゃいけないんですよ。ちょっと飛んでるぐらいがちょうどいい、みたいな（笑）。

掟　豊田さんが飛んでるのはコーナーポストからだけじゃなかった、と（笑）。

H　そうそう（笑）。あ、でも、いま思えば、全女の人ってみんな特殊！

掟　Hikaruさんはどのぐらいですか？　特殊ランキングでいうと（笑）。

H　同じ世代から、「頭がおかしいんじゃないか」って言われるぐらいです（笑）。

掟　それはひどい（笑）。何をもって「頭がおかしい」って言われるんでしょう？

H　試合っぷりもそうだし、普段もそうだし、練習のときも言われてた。

第34回 Hikaru (CHICK FIGHTS SUN)の巻

ひかる■本名=非公開。12月10日、埼玉県越谷市出身。99年2月に全日本女子プロレスに入門。99年7月11日、藤井巳幸戦でデビュー。ケガなどもあり一度退団するも、再デビュー後はオールパシフィック王座を奪取するなど大活躍。全女崩壊後はプロレスリングSUN（のちのCHICK FIGHT SUN）で活躍。今年1月1日のZERO1後楽園大会で新日本プロレスの金本浩二との結婚を発表。4月26日の六本木大会で前村さきとともに現役を引退。170cm、70kg。
ブログアドレス→http://hikaru.blog.players.tv/

掟　けっこう試合中にキレることが多かったみたいですね。

H　Hikaruって大人じゃないんで（笑）。「あぶない」ってよく言われましたね。でも、「あぶない」って言っても頭から落とすわけではなく気性が荒い。「あれ、さっきまで笑ってたよね？」とか。

掟　瞬間湯沸かし器的にスイッチが入っちゃう？

H　そうそう！　怒ったり、泣いたり、叫んだり、チョー大変！

掟　それはあぶないですね（笑）。

H　だから、ホントに一般人じゃないんで、「プロレスラーになってよかったね」ってみんなに言われる。「天職だね」って。

掟　その天職のプロレスをあと数日で辞めちゃうわけで（笑）。これからまずいんじゃないんですか？

H　でも私、普通の女の子になってみたいんですよ。

掟　全女が性に合ってた人は普通の女の子になれません！（笑）。でも引退後は、一応、普通の主婦になるんですよね？

H　なるんです！　ただ、このままの私では一般社会では受け入れられないので。

掟　そんなにヒドいんですか！（笑）。日常生活でもキレたりします？

H　最近だと、若い女の子が電車で酔っぱらってスカート全開で股開いて熟睡してたんですよ。そしたら、オッサンがそれをジロジロ見てたんで、キレましたね。

掟　オッサンにキレたんですか？　それとも女の子に？

H　オッサンに。だって、オッサンは遠くのほうから走ってきて空いてる席に座ってのぞいてたんですよ。それを見て「気持ち悪いんだよ！」ってキレちゃって（笑）。女の子を起こしてあげればよかったんですけど、気持ちよさそうに寝てたんでほっときました。でも、女の子が自分で見せてるから痴女になっちゃうのかなって、凄い悩んだんですよ。

掟　どっちも殴りましょう！　「起きろーッ！　パンツ見えてるぞーッ！　おまえはのぞくなーッ！」って（笑）。

H　そうすればよかったかな（笑）。

掟　で、Hikaruさんといえば新日本の金本選手と結婚したわけですが、プロレスラー同士ということでケンカはかなり激しいんじゃないですか？

H　ぶつかるときはホント激しいですよ。超デッドヒート！　さすがに手は出ないですけど、もう永遠と言い合い。

掟　何が発端でケンカになるんですか？

H　いや、べつにたいした理由じゃないです。関西弁が怖いとか。

掟　エ～～ッ!?　もう根底からダメじゃないですか（笑）。

H　関西弁がなかなか慣れなくて。あと、声が低いっていうのもあると思うんで、ケンカするときは「ソプラノで言ってくれ」ってお願いしてます。

掟　米良美一じゃないんだから（笑）。でも、ソプラノで口ゲンカって、それ夫婦漫才ですよ！

H　そう、周りで聞いてたら絶対おもしろいですよ！

掟　それを客前で見せたほうがいいんじゃないですか？

H　え～、ホントですか。じゃあ、ちょっと企画してみようかな（笑）。

掟　実際、結婚に至った決め手はどういうところだったんでしょう？

H　私、ちっちゃい頃から、プロポーズしてくれた一人目の人と結婚したいと思ってたんですよ。……いま考えたら凄く怖いですけど（笑）。

掟　いませんでした？　いきなり指輪を出して「結婚しよう！」みたいなハードコアなファンは（笑）。

H　いなかった、いなかった（笑）。いなかったからよかった。

掟　いたら「は、はい」って言っちゃう可能性もあったわけですよね（笑）。

H　あぶなかった！（笑）。

掟　これを読んで「求婚しておけばよかった」と悲しんでるファンがいるかもしれませんね（笑）。

H　受付はもう終了！（笑）。

今年1月13日に金本浩二と入籍したHikaruは同月19日、新日本事務所で仲よく結婚報告会見。引退興行となる4・26六本木大会当日、金本は新日本で巡業中のため来場は難しいが、当日は「なんらかのかたちで協力してもらえることになりました」とHikaruはサプライズ予告。アニキは何を披露する？

Okite Porsche◎スペースシャワーTV・毎週水曜日19時～『SPACE SHOWER MUSIC UPDATE』に週一レギュラー出演中！　ただし担当はマペットの声だけ。甘くねぇな、何事も。掟ポルシェのバンド・ロマンポルシェ。のライブ予定は5・30（土）渋谷LUSH（03-5467-3071）、w／バイナリキッド、7・3（金）渋谷club asia（03-5458-2551）、w／アーバンギャルド。その他の情報は掟ブログを死ぬ気でチェキラ！【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

佐藤譲

入場曲五十三次

イラスト◎エロコエロオ

最終回『バカサバイバー』に見る
ウルフルズと青木さんの責任と役割

Yuzuru Sato ◎1976年、静岡県生まれ。千葉県育ち。一年間ありがとうございました。入場曲をプロデュースしてほしいプロ格闘家の方がいらしたらご連絡お待ちしております。

本誌での連載も今回で最終回。というわけでラストはこの1年間、数多くの試合に身を投じ、『DREAM』を支えてきた青木真也さんの入場曲です。

柔術の師匠であり、パラエストラのHPで音楽レビューを執筆していた中井祐樹さんとは違い、基本的に音楽に対して無頓着な青木さん。実際DEEPデビュー時まで使っていた長渕剛『俺らの家まで』は、正直入場曲として機能的とは言い難い曲ですし、現在使っているウルフルズ『バカサバイバー』ももともとは杉江アマゾン大輔さんが使っていたのを拝借した曲。ぶっちゃけ適当です。しかし、適当に選ばれているがゆえに青木さんの性格がよく反映されているとも言えます。つまり具体的に言うと『俺らの家まで』はトンパチな青木さん、そして『バカサバイバー』は使命感を持った（てしまった？）青木さんです。

『俺らの家まで』は「男はどんなときでも浮気のひとつくらい誰でも持っているものさ 納得できないだろが」と「君」と「君の兄貴」の立場を理解しながら「自分の女好きを理解してくれよ」と自分の論理を押し通すかなり図々しい曲。これは異端とされながらも極めの流儀を押し通してきた柔道時代や、のちにわずか2ヵ月であっさり警察官を辞したり、「一生修斗しかやりません！」と宣言しながらPRIDEに参戦したことでブログを炎上させるなど、批判を覚悟で自分の我を通す彼の初期の生き様と重なります。

一方の『バカサバイバー』ですが、こちらは大ヒット曲『ガッツだぜ!!』路線を踏襲した、バカになってこの世をサヴァイヴしていこうぜと歌う曲。一聴するとウルフルズ王道のおバカ・ソングですが、バンドの歴史を知るとこれがなかなかに味わい深い曲となります。

というのも、もともとウルフルズはメジャーデビュー後からかなりの苦労を味わってきたバンド。ファーストアルバムを出した直後に所属していた東芝EMI内のレーベル、プラネットアースが解体。さらに事務所からの給料の支払いもなくなり、メンバーは困窮状態に陥ってしまいます。まるでPRIDE活動休止後の青木さんのようです。

そんな中、バンドのプロデューサーに就任した伊藤銀次は、ミスチルやスピッツが人気のシーンの中で「空きっぱなしになってるRCサクセションの席を占拠しよう」（『@ぴあ』より）とアホ路線の追求をメンバーに勧め、バンドはそれに応じ、ついに『ガッツだぜ!!』でブレイクします。つまりウルフルズにとってのおバカ・ソングとは、成功するため自らの意志で役割を引き受けた証の曲でもあるのです。青木さんは『バカサバイバー』に曲を変え、DREAMに舞台を移して以降、わかりやすいおバカなキャラを引き受け、常に大黒柱という器に収まることを自分に課して成り上がってきました。そんな彼の動きはどこかウルフルズの歴史と重なるように見えるのです。

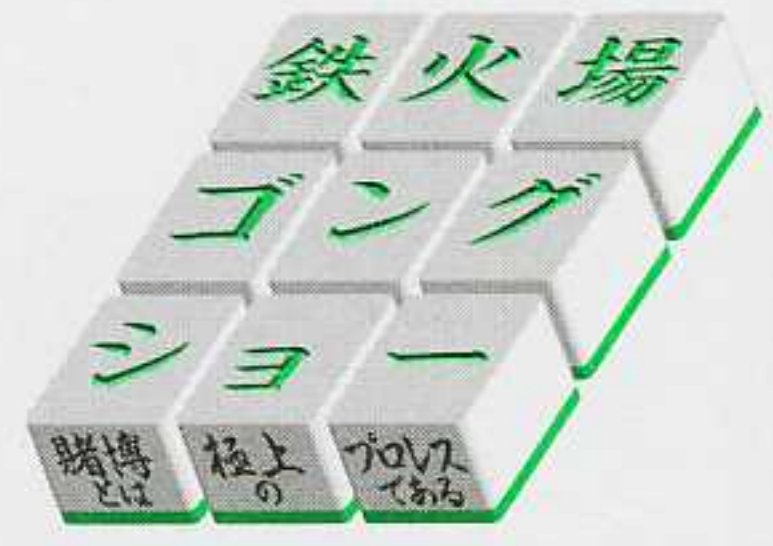
とはいえ、今回のウェルター級GPへの参戦と敗退など、いまの青木さんにはDREAMでの役割と責任がやや重い足かせになっているようにも見えます。以前「いまの青木は演じてる」と北岡さんがキモ鋭すぎる指摘をしていましたが、それはもっと無軌道で自由なバカだった青木さんの魅力を知るゆえの発言なのでしょう。

整合性なき真性のバカへと回帰をするか、責任感を持ってわかりやすいバカを演じ続けるのか。マッハさんに敗退した青木さんの次の入場曲にその変化は表われるのかもしれません。

鉄火場ゴングショー
賭博とは極上のプロレスである

田中太陽のオーラス（最終回）

逆プロレスがジャンルを滅ぼす

Taiyou Tanaka ◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。“観戦記の鬼”として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「人気のあるやつだけが評価されるのなら、プロレスなんて世界は成り立たねえよ！」

というわけで、人気どころか人気（ひとけ）もないままかろうじて成り立っていた当コラムも、いよいよ最終回。ちなみに冒頭の発言は後藤さんこと後藤達俊選手が、新日本プロレスを退団する際に残した捨てゼリフでございます。

振り返れば一年あまり。上井文彦氏の貴重な談話に始まり、山城新伍の名演技やジャッジ金子氏の近況など、まっとうに生きていればまず耳に入ってこない情報ばかりを皆様にお届けできたことには満足しております。が、肝心要の主題、すなわち「プロレスとギャンブルとの間に共通性を見出し、そこに端をかける」という目標に関しては一考の余地がありましょう。はたして〝プロレス的なもの〟と〝ギャンブル的なもの〟のあいだには、本当に同じ河が流れていたのか？

一つ答えじみたものが出たとすれば、それはプロポーカーやプロ麻雀といった、ギャンブルを〝プロ競技〟として見せようという試みに関してのものです。ポーカーはプロレス的な演出を取り入れることによって〝プロ〟を誕生させましたが、麻雀はいまだに競技性やコンプアライアンスといった、しょうもない部分から自由になれぬまま停滞を続けています。

このことが何を意味するか？ すなわちプロレスというジャンルが築いてきた手法は、この世に〝特定ジャンルのプロ〟を誕生させるための方法論としていまも生き続けていることの証明にほかならないのです。サンプル数がいささか少なすぎるような気もしますが、プロ格闘技の世界においてもこの法則が生きていることは周知のとおり。あながち的外れでもない発想といえましょう。

ここでいう〝プロレス的な演出〟とは、いうまでもなく各選手の持つキャラクターとサイドストーリーを掘り下げ、試合そのものにドラマ性を持たせてゆく手法のことです。偶然性が高く、ひと勝負ごとの結果に〝ままならなさ〟が伴ないがちなギャンブルゲームを〝見世物〟として成立させようとするとき、このやり方はたいへん都合がいいように思えます。

ギャンブルとは本質的に観るよりもプレイしたほうが楽しいものであり、それをあくまで見せようとするのならば、そこにはどうやっても〝プレイする以上のおもしろさ〟が必要となってくるからです。

こうした点に着目せず、プレイヤーの都合ばかりが優先されるへんなシステムが構築されてしまうと、現行のプロ麻雀のようなことになります。そこに〝外からの目線〟はいっさい存在せず、中で語られているのはプレイヤー目線の議題ばかり。まさに〝逆プロレス〟です。

阿佐田哲也先生の「麻雀でプロレスをやらないか？」という一言で始まったはずの業界が、なぜ現在のような状態になってしまったのでしょう。本来ならば麻雀の刺激的なゲーム性や、それに翻弄されるプレイヤーの人間模様は、見世物として充分に成立するもののはず。

そして現代においては、プロレスというジャンルそのものもまた、かつての求心力を失なっていたりしますね。プロレスの衰退と復権について考えることは、プロ麻雀の不振について考えることと非常に近く、これもまた興味深い命題であります。で、ギャンブルとプロレスの共通性についての話はどうなったのか？ それはもとから妄想であった可能性が高いのですが（↑一年あまりの結論）、ひょっとしたら何かが共通しているかもしれません。その論については、またどこかで。いままでご愛読ありがとうございました！

「明日が見えない」なんて言ってるボーイズ&ガールズはどこだい？　そんなことを言ったってオレはかまってやらないぞ。それよりオレの定額給付金はいったいいつになったらもらえるんだ。え？オレにはくれないって？　話が違うじゃないか!!　代わりにユーのをよこせ!!（怒）。……ここで切りよく終わろうと思ったが、なんとデザイナーから文字数が足りないからなんとかしろ! と怒られたじゃないか。って、文字稼ぎしたけど、こんぐらいで大丈夫かい？　デザイナーさんよお。

APRIL号へのお便り紹介

柳澤健氏渾身のインタビュー「1993年の女子プロレス」がおもしろかったです。アジャコングさんほどの人でもクサッていた時期があったというのが興味深かったのと、「人間どこにチャンスがあるのかわからないものだな」というのを強く感じました。あとは、覚悟を決めて突き進んでいくということですね。

【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・44歳】

D そうだ、人生どこにチャンスがあるかなんてわからない。もしかしたらオレがイチローと知り合えるかもしれないからな。たしかイチローのブラザーは東京でデザイン関係の仕事をしてるって聞いたぜ。これは余裕でキャン・ミートだ！

プロレスショップ徹底検証！　の記事がよかった。テレビではときどきそれぞれの店が取り上げられているのを見ましたが、まとめて取り上げられているのは初めてではないのか。

【兵庫県・長沢徳尚さん・自営業・32歳】

D 予想以上にこの企画は好評だったみたいだな。でも、それ以上にこのペイジは作成時間がかなりかかったという話は単なる空耳かい？

何度でも読みたいプロレス最狂伝説の

三沢光晴のページがおもしろかった。ノアに取材拒否されている中で、こんなにも深い話があるんなら、解禁になったらどんだけ伝説が出てくるんだって！

【石川県・浅井清治さん・会社員・36歳】

D 聞くところによると、『kamipro』は取材拒否ということに慣れっこらしいな。そろそろオレも拒否してやるぜ！……え？ご自由にどうぞだって!?　そりゃないぜ、トホホホホ……。

女子プロ変態座談会がおもしろかった。ガンツさんの「嵐って高木功？」発言に仲間意識をビッシビッシ感じました。私も以前職場の人に「嵐って知ってる？」と聞かれて「相撲軍団でしょ」と即答したことがあるので。

【北海道・安倍正典さん・フリーター・36歳】

D ハッキリ言って、ヘンタイというヤツは嫌いだ。こっちはまるでわからないからな。嵐とか相撲軍団とか、いったいユーは何を言ってるんだい!?　ちなみに、オレの知ってる話ならいくらでもヘンタイトークしてOKだぜ。クックックック。要するにオレはジコチューってヤツだ!!（充血）。

今号は全部おもしろかったんですが、

やっぱり天山ファミリーは飛び抜けておもしろい！　天山は嫁さんと子どもにもバカにされてるような気がするが、そう思うのは気のせいか？　パパにいないと思うが、ケロちゃんにも「キモイ」と言うなんて、コイツは大物になる予感がする。

【埼玉県・秋田健さん・会社員・40歳】

D「キモい」というのは最近オレのベストフレンド（自称）のKIDも使ったみたいだが、テンザンのラブリー・サンも影響されてるのか…。どんどん浸食されてるな。オレはなんだかジャパンが心配になってきたぜ。

テレ朝・吉野アナの熱さに感動しました！「サラリーマンである前に新日本のファン」という言葉はひさびさの名言です。社会人としてはいかがなものかと思いますが、「聞こえないっ！」。

【福島県・カトーさん・セミ無職・37歳】

D プロレスファンというヤツは、ある種、チームを乱す傾向にあるらしいな。サラリーマン・スピリッツも崩されてしまうとは……。いったいどんな宗教なんだい!?

APRIL号号
おもしろかった記事
RANKING

- NO.1 天山ファミリー
- NO.2 プロレスショップ特集
- NO.3 女子プロ変態座談会
- NO.4 アジャ・コング
- NO.5 菅プロデューサー

プロレス増刊はなかなか好評らしいじゃないか。今回はユーたちのレターの票もいろいろ分かれて接戦だったらしいぜ。これは全部はおもしろかった証拠だ!　しかし、オレもやっぱりトップのテンザン・ファミリーがおもしろかったぜ。あれはジャパニーズでいう“テッパン”ってヤツだ。まだ読んでないというボーイズ&ガールズはチェケラッチョだぜ!!

栃木県・大野洋人さん／ユーはUFCがフェイバリットなのかい？　オレのフレンズであるレスナーの旦那にもよろしく伝えといてくれよ!

大阪府・剣洋人さん／ヒトロはまたまたグレイトすぎるイラストを送ってくれたんだな! オレは感激だぜ!! シゲルが見たらきっと度肝を抜かれるぜぃ!

桜は見たか？
オレは見た。
葉桜もオススメだ

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

“読者ペイジ” ジャクソン

133号へのお便り紹介

「山本“KID”徳郁、フェザー級GPへの決意!!」がおもしろかった。やっぱり『DREAM・7』を会場で観て思ったのですが、KIDがいないと盛り上がらないと思いました。本当にKID選手には期待しています!
【東京都・田中秀和さん・大学生・23歳】

D オレのベストフレンズ(自称)にヒデカズがそんなに注目してくれてるなんて、ベリー・ファンだぜ。……え? ユーは本当にKIDのフレンズなのかって? そ、そんなのリアルに決まってるじゃねえかよお(目を泳がせながら)。

おもしろかった記事は「こんなに似ているアイドル業界とMMA」。この記事を読んで、僕もアイドルとのハグ会に参加しようと思いました(笑)。でも、こういう切り口もアリですね!
【愛知県・久保田太さん・会社員・37歳】

D 「こういう切り口も……」なんて言ってる場合じゃャネエよ!!(怒)。なーんつって、ちょっとだけ怒ってみたが、どうだったかい? おいおい、こんなことでショックを受けないでくれよ。……あ、もしかしてこんなことやってるからオレはいつもユーたちに評判が悪いのかい?

青木真也「格闘探求シリーズ」with金原弘光編がおもしろかった。プロレス、UWFを通過してないと思われる青木選手だが、金原選手に対するリスペクトが感じられた。
【香川県・横山太郎さん・会社員・37歳】

D シンヤ・アオキはDREAMで頑張ってるって聞いたぜ! プロレスとかUWFとかリスペクトとかよく意味がわからないが、そんなこたあどうだっていいと思わないかい? え? 「リスペクト」はさすがに英語だからわかるだろって? ……そ、そうだな。

菊野克紀インタビューがおもしろかった。幻想が膨らみました。木山仁の下って、内弟子だったというのが最高です。理屈はいりません。説明もいりません。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・43歳】

D キクノの三日月蹴りというのは評判がいいらしいじゃないか。ん? なぜそんなこと知ってるかって? そりゃあ、甲冑TKの弟子のことなら調べないと失礼だろ? 甲冑を着てないなら話は別だけどよ。クックックック。

山本郁榮×谷津嘉章の対談がおもしろかった。『kamipro』でしかありえないような対談の組み合わせで、とくにKIDの父親のインタビューはほとんどみたことがなかったのでとても新鮮でした。最後に飲みに行く約束を交わして友情のようなものが芽生えたのはちょっと感動的でした。
【埼玉県・中村孝さん・会社員・36歳】

D 友情といえば、オレのバンドのメンバーはいったいどこに行ってしまったんだい? 最近はバンド活動よりも、読者ペイジのほうがメインのワークになってるじゃないか。勘弁してくれよお〜。

魔王・秋山成勲の黒い選択座談会がおもしろかったです。この座談会を読むと本当にマイケルは黒いと思いました。そしてますます魅力を感じました。
【広島県・岡部怜央さん・学生・16歳】

D そういや、オレにもマイケルというフレンズがいたな。あのマイケルなら、いまのオレにはきっとこう言ってくれるだろう。どんマイケル! ってな。

サスケのインタビューは最高! これからはドンドン撮影してくれというけど、じゃあ、なんでこの前はあんなに怒って捕まるようなことになったのか、ぜんぜん意味がわからない。でも、僕も電車でサスケを見かけたらすぐに写メール撮ろうと思う。
【埼玉県・春日次郎さん・自営業・35歳】

D 「ぜんぜん意味がわからない」なんて言うもんじゃないぜ。サスケってヤツもきっと反省して心をビッグに持とうと決めたんだよ。だから、今度サスケってボーイを見かけたら、ちゃんと写メを撮ってやれよ!

133号 おもしろかった記事 RANKING

No.1 青木真也×金原弘光
No.2 菊野克紀
No.3 秋山、UFC、ドーピング特集
No.4 山本“KID”徳郁
No.5 山本郁榮×谷津嘉章

これはなかなかおもしろいランキングになったと思わないかい? 『kamipro』的にはやっぱりシンヤ・アオキの人気が上がってる感じがするんじゃないか? それから、ヤツというジェントルマンは常連だが、いつもランキングに入ってるイメージがあるぜ。オレも一度コイツと酒を酌み交わしてみたいもんだぜ。頼むぜ、阿修羅(チョロ)!!

埼玉県・超人とおるさん/サトルは『kamipro』の表紙になったことをいろんなところで言いふらしてるらしいじゃないか。まったくうらやましいぜ……。

広島県・梶間浩幸さん/これがTAJIRIが原作だっていってた漫画のキャラクターだな。んー。正直言ってイマイチだな。もっといいのをオレが考えるから出版社さん、お話しないかい?

DREAM.8を観に来たぜ!

ヒャッホー! DREAMサイコー!!

なーんて浮かれてるオレだが、じつは『DREAM.8』があった4月5日にひさびさ編集部に来てやったんだ。いままでは来てないのかって? ユーたちはオレを見くびってるな。オレはユーたちが思ってるより有能だから編集部に来なくても仕事ができるんだよ!! え? おまえの存在はフェイクだろって? ……まあ、いまはその話は置いておいて、とにかく『DREAM.8』に大興奮だ! オレのお気に入りはなんといってもアンドリュースっていうボーイだぜ! アンドリュースは強いよな!! まったくヒャッホーだ。しかし、編集部のボーイズ&ガールズもすっかり興奮して、ひさびさに現われたオレの姿を写真に収めようともしないんだ。ふう……。だから、代わりにオレのフレンズのアンドリュースの写真を載せるからしっかり見てくれよ!

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって! 待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。

- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「2ちゃんねるくん」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

探してます!

★最近、編集部で電話取材のときに使う録音機が紛失しました。最後に使ったのはボクなんじゃないかとみんなに責められ、確かにそんな気がして一生懸命探したのですが、結局見つかりませんでした。最終的にボクが新しい録音機を買ってきたので事は収まりましたが、どこにあるか知ってる人は教えてください。
【東京都・阿修羅チョロさん・M男・37歳】

★最近、自宅でパソコンが紛失しました。会社のパソコンなのでみんなに迷惑がかかると思い一生懸命探したのですが見つかりません。泥棒が入ったのかと心配になって警察まで呼んだのですが、見つかりませんでした。見つからないと僕の弁償になります。助けてください。【東京都・阿修羅チョロさん・M男・37歳】

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

新日本の若きトップレスラーの抗争史を振り返れ!!

棚橋vs中邑、後藤vs矢野のライバルストーリーがDVDに!

新日本プロレスの若きトップレスラー、棚橋弘至、中邑真輔、後藤洋央紀、真壁刀義に焦点を当てた作品がDVDで登場!! 時に共闘し、時には激しい抗争を展開する第5世代の4人は、現在の新日本が紡ぎ出す物語の中核を担うキーマン。女性ファンだけでなく、いまの新日本に疎いオールドファンも、新日本の"現在の旬"をまとめて知るのに最適のDVD! 愛してま~す?(棚橋調)。

★『新日本プロレスライバル伝～棚橋弘至・中邑真輔、後藤洋央紀・真壁刀義～』
★定価/7,140円(税込) 5月22日発売(エイベックス・マーケティング)

DVD

ついに不良たちの祭典が映像化!

『ジ・アウトサイダー』のDVD、第1戦~第4戦が一挙に登場!!

"格闘技界のカリスマ"前田日明がプロデュースする噂の"不良系格闘技イベント"『ジ・アウトサイダー』がついに映像化! 旗揚げ戦から第4戦までの興行を収録したDVDを一挙に発売する(DVD販売は一大会ごと)。『ジ・アウトサイダー』の見どころの一つであるセコンド陣の乱入や元不良同士のオラオラ感満載の喧嘩ファイトは必見!! 会場に行けなかった人は映像で追体験すべし!

★『ジ・アウトサイダー』第1戦~第4戦(NIKKATSU CORPORATION)
★定価/各3,990円(税込) 5月29日発売

DVD

格闘技のパイオニア、修斗のいまを観よ!

打・投・極! 修斗伝承シリーズDVD第2弾が発売!!

山本"KID"徳郁、五味隆典、青木真也、桜井"マッハ"速人、川尻達也、佐藤ルミナなど、日本の格闘技界の屋台骨を支える格闘家を多く輩出する総合格闘技のパイオニア、修斗が現在のベストバウトを集めたDVD、修斗伝承シリーズの第2弾をリリース! 世界ライト級王者・リオン武や世界バンタム級王者・BJなど、プライドを懸けてぶつかり合うシューターたちの激闘を多数収録!

★『修斗伝承 vol.2』(クエスト)
★定価/5880円(税込) 5月20日発売 ★収録時間220分

BOOK

暴露本に続き、新日マットの舞台裏を公開!!

ミスター高橋が新書を発売! 新日本プロレス秘話が満載!!

マット界に新たな爆弾投下? プロレスの暴露本出版でマット界に衝撃を与えた、元新日本プロレスのレフェリー・ミスター高橋が新たな書籍を出版! 猪木が最後まで抵抗した「世代交代」のアングル、前田vs藤波の大流血試合の真相、初代タイガーマスクのデビュー戦秘話など、新日本プロレス黄金時代の事件やスキャンダルの真実、舞台裏秘話を初公開! 漏らさず読め!!

★「新日本プロレス伝説「完全解明」」ミスター高橋著(宝島sugoi文庫)
★定価/480円(税込)発売中

BOOK

アントニオ猪木本人による解説書!!

"世紀の一戦"アリ戦の真実をアントン自らが語りつくす!

テレビ朝日50周年特番で33年ぶりに放送され、柳澤健氏による『完本1976年のアントニオ猪木』発売など、あらためて注目が高まっている"世紀の一戦"アントニオ猪木vsモハメド・アリの異種格闘技戦。これを受けてアントン本人がいまだから明かせる試合の真相、舞台裏を綴った書籍が登場! さらにインタビューDVDもセットで収録。プロレス界の歴史的一戦を振り返れ!

★『真実』アントニオ猪木著(ゴマブックス)
★定価/1,764円(税込)発売中

COMIC

元プロボクサーの殺し屋を描くハードボイルド漫画

月刊雑誌で新たな格闘技系漫画の連載開始!!

『週刊実話増刊号ザ・タブー』で新たな格闘技系漫画の連載がスタート! 内容は「殺しの右」という強力なパンチでプロボクシング日本王者にまでなった男が、引退して"拳獣"と呼ばれる殺し屋となっていた……というハードボイルドなもの。作者のやざま優作氏は、現在『月刊ヤングキング』(毎月19日発売)で連載中の「極王」の原作者。こちらの連載も要チェック!

©日本ジャーナル

★「KNUCKLE BEAST 拳獣」画・やざま雄作(『週刊実話増刊号ザ・タブー』)
★定価/390円(税込) 4月25日発売(日本ジャーナル)

WEB

マグネットマンもIGF舞台裏日記を更新中!!

IGFが猪木&プロレスファンのコミュニティ「闘魂SNS」を開始!!

アントニオ猪木率いるIGFが、プロレスやIGFについて語り合うファンコミュニティ「闘魂SNS」を開始! スペシャルコンテンツとして、IGFファイターたちも闘魂SNSに続々と参加予定。すでにIBMの悪徳マネージャーのマグネットマンも登録してIGFの舞台裏を日記に綴っている。日記、手紙、掲示板などのSNSの基本的な機能もあるぞ! いますぐ登録ダーッ!!

★「闘魂SNS」★利用料金/無料
★登録方法/公式サイトwww.igf.jpで「闘魂SNS」のリンクをクリック

ドキッ!?

あの選手のプライベートを大公開!!

突撃!

隣の注目ファイター!!

妖怪ファミリーほのぼの対談

今成正和

やっぱり猫が好き

小見川道大

『ハッスル』女子部屋へようこそ!

KG

普段は垣間見えない選手の知られざる一面に急接近!!

そしてなぜだかこの男も?

"愛さん＋"足極めジュニア"はじめちゃん

ーほのぼの対談

得体の知れない妖怪足極め
しかしてその実態は——
よき夫であり、よき父だった!?

今成正和×"足極め夫人"愛さ

妖怪ファミリー

現在開催中のDREAMフェザー級GPで打倒山本"KID"徳郁の最右翼と目されると同時に、
そのつかみどころのないキャラクターで唯一無二の存在感を放っている今成。
今回はそんな今成の家族が勢揃い! さぁ本邦初公開、愉快痛快妖怪ワールドにようこそ!?

聞き手／鈴木佑　撮影／金山フヒト

ミリーほのぼの対談

――今回は今成ファミリー対談ということで、〝妖怪足極め〟の知られざる一面に迫りたいと思います！

嫁 フフ、なんかちょっと緊張しますね。よろしくお願いします。

今成 お願いします。

――じつはこの企画を引き受けてもらえるか少し心配だったんですよ。今成さんとしては家族で登場することにべつに抵抗はないって感じですか？

今成 ……とくには（ニヤリ）。

――な、なるほど。今日はいつにも増して言葉少なげで……。え～、そもそもお二人の出会いのきっかけは、奥さんの弟さんである村田卓実さんの紹介だったとか？

今成 そうですね。たっくん（村田卓実）に写メを見せてもらって「紹介してよ」って頼んで。

――奥さんは弟さんになんと？

嫁 たしか普通に「紹介したい人がいるんだけど」って言われたんですよ。2年ちょっと前ですかね。格闘家の人をちゃんと紹介されたのは初めてだったんですけど。

――もちろん、そのとき奥さんは今成さんのことをご存知で？

嫁 いえいえ、もちろん知らないです（笑）。

――えぇ？ 当時から〝足関十段〟といえば格闘技ファンのあいだじゃ有名だったと思うんですけど？

嫁 あの、私はもともと格闘技に全然興味がなかったんですよ。いまも正直そんなにないんですけど（笑）。弟がやってるのが格闘技なんだなくらいの認識で。

今成 ……（ニヤリ）。

――てっきり格闘技がお二人の共通項なのか思ってました。では、実際に会ってみたときのお互いの印象は？

嫁 う～ん、なんかあらたまると気恥ずかしいですね……。まぁ、ゴツいなって（笑）。

――格闘家ですからね（笑）。今成さんはどう思いました？

今成 弟と似てないなって。

――そ、そうですか……。最初のデートのこととか覚えてますか？

嫁 たしか、私が凄く遅刻しちゃったんですよ。それでとりあえずその場をごまかすために、愛想よくしてたのは覚えてますね（笑）。まぁ、デートっていっても映画を観に行くとかじゃなくて、基本的にいつもごはんを食べに行ってた感じですけど。

今成 ……。

――奥さんは格闘技に興味がないってことでしたけど、お二人にはほかに共通の話

どこからが付き合い始めか よくわからないんです（嫁）
……（今成）

題があったってことですよね？

嫁 いえ、とくになかったです（笑）。

――えぇ～？ じゃあどういうきっかけで付き合い始めたんですか？

今成 （嫁に向かって）なんでですかね？

嫁 何しゃべってたんだろうね……ぜんぜん思い出せない（笑）。なんか自然にって感じなんですよね。どこからが付き合い始めかよくわかんないんですよ、気づいたら一緒だったって感じで。弟からは「よく二人で会ってるよね」とは言われましたけど。

――そ、そうですか（汗）。奥さんはお付き合いを始めてから、今成さんの試合の応援に行くようになった感じですか？

嫁 あ、行ってないです（アッサリ）。

――えぇ～？ 本当ですか？

嫁 結婚するまでは行かなかったですね。怖くて見てられないっていうより、やっぱり格闘技自体に興味が……。ここ（DEEPジム）でこんなこと言うのも気まずいですけど（笑）。

――逆に今成さんは奥さんを会場に誘いはしなかったんですか？

今成 本人、全然興味なさそうだったんで。

――アッサリした感じで（笑）。じゃあ、いまも家庭で格闘技の話をすることも？

嫁 ほぼないですね、全然です。

――でも、勝負師の家庭はそういうほうがいいって聞いたことありますよ。

嫁 あ、そうなんですか？ なんでですか？

――島田紳助が「スポーツ選手の家庭が

ジム内をところ狭しと駆け回るわが子を、優しげな表情で見つめる両親。なんだか見てるだけでホンワカした気持ちになってくるシーンである。普段、われわれが知る姿からは家庭の匂いがなかなかしない今成だが、じつは家族を何よりも愛するマイホームパパなのだ。

長谷川秀彦&村田卓実が語る
足極め夫妻のちょっといい話

――そもそも村田さんが今成さんにお姉さんを紹介した理由は？

長谷川 今成さんが一番情熱的だったんだよな？

村田 よく練習仲間からは冗談っぽく「姉ちゃんの写メ見せて、紹介して」って言われてたんですよ。で、今成さんの場合は「写メ、写メ」って書いてあるだけのメールを10通くらい送ってきたりして（笑）。それで写メを送ったら、すぐに「アドレスも」って返信が来たんです。あとは姉と直接二人でやりとりして……やっぱり今成さんが情熱的だったんでしょうね。

――その頃、長谷川さんは今成さんとルームシェアしてたんですよね？

長谷川 はい、同棲してました（笑）。当時は今成さん、ずーっと愛さんに電話してましたよ。そういえば正式に二人が付き合う前、今成さんがたっくん（村田）にキレたことあったよね？ たっくんが青木（真也）に「あんまり脈がなさそう」って言っちゃったら、また青木がそれを今成さんに言っちゃったんですよ。そしたら今成さんがたっくんに凄い剣幕で「なんだ、おまえは！」って（笑）。俺、今成さんが怒ってるの初めて見ましたもん。

――そのくらい真剣だったってことでしょうね。

村田 その頃、僕は姉と二人暮らしだったんですね。で、いつも練習が終わると今成さんが僕のことを家まで送ってくれるんですけど、そのまま今成さんも家に上がり込むっていうのが定番で（笑）。でも、まさか結婚するとは思いませんでしたよ。姉の話を聞いてるかぎりは「格闘家なんて」みたいな感じだったんで、そんなにうまくいってないのかなって。姉は音大を出てから化粧品販売の仕事とかをしていて、まったく格闘技とは関係のない世界の人でしたから。だから二人が一緒になった理由も全然わかんないんですよ。ある日、急に車の中で今成さんに「結婚するから」って言われて驚いた記憶がありますね。

円満に続くには、旦那が試合で勝とうが負けようが、奥さんがそれに触れないのが秘訣」っていうようなことを言ってました。
嫁 あ〜、ヘンに相手にプレッシャーをかけないとかそういうことなんですかね。私、家では格闘技のこと本当に話さないんですけど、とてもそんなことまでは意識してませんでした（笑）。
――ダハハハ！ お二人がご結婚されたのは出会ってどのくらいですか？
嫁 だいたい半年くらい？
今成 ……（黙ってうなずく）。
――今成さん、もっと会話に参加してください（笑）。けっこうスピード婚ですよね。今日はかわいらしいお子さんも一緒ですけど、いまおいくつですか？
嫁 1歳半の男の子です。
今成 できちゃった結婚です（ニヤリ）。
――あ、急にしゃべった（笑）。しかしお父さん譲りなのか、1歳半なのにめちゃくちゃ動きが機敏ですね〜。
嫁 そうなんですよ。まだ言葉がしゃべれないのに、トコトコ勝手に走り回っちゃうんですよね。普通、1歳半だとあそこまでは動かないと思うんですけど。
――大変失礼な言い方ですけど、しゃべれないのにああやって動き回ってると、なんか不思議な生き物を見てる感じというか（笑）。そのつかみどころのなさもお父さん譲りって感じがしますね。
今成 ……（ニヤリ）。
――あ、お子さんのお名前は？
嫁 「はじめ」です。「元」って書いて「はじめ」って読むんですけど。最初は「一」って書いて「はじめ」だったんですけど、調べたら「今成一」だと、字画的に運勢が相当悪いらしくて。
――珍しいお名前ですけど由来は？
嫁 私が『天才バカボン』が大好きなんですよ。
――なるほど、天才児のハジメちゃんから取りましたか（笑）。
嫁 はい、頭がよくなってほしいなって。
――じゃあ、今成さんはバカボンのパパに当たりますね（笑）。
嫁 「これでいいのだ」じゃなく「これでいいのか？」みたいなところもありますけどね（笑）。
――ダハハハ！ お子さんの話になったから聞きたいんですけど、今成さんはあまり教育上よろしくないようなポーズをしたりするじゃないですか？ 奥さん的には……。
嫁 （さえぎるように）ねぇ、本当に品がないですよね！
今成 ……（ニヤリ）。
――ダハハハ！ まぁ、もちろんファンサービスの意味合いが強いんでしょうけど。
嫁 でも、家庭を守る側としてはどうかと思いますよね。子どもがマネする前にやめてほしいんですけどね。
――と、いう奥さんのご意見ですが？
今成 まだ、ああいうことを教えるのは早いんで……あと2、3年経ったら（ニヤリ）。
――それでも早すぎますよ（笑）。ちなみにご家庭での今成さんはどんな感じなんですか？
嫁 基本的にはこんな感じで変わらないですよ。でも、家事に関しては協力的なんで助かってますね。食器なんかは、私よりきれいに洗いますから。
――今成さんのきれい好きはよく聞きますね。ここのジムの掃除も率先して一人でやられてるとか？
今成 気になればやるって感じですね。自分ではそんなきれい好きだとは思ってないんですけど。まぁ、周りにきれい好きじゃない人が多いんで。
――そうですか（笑）。育児とかは？
嫁 率先してやってくれてますね。お風呂に入れたりごはん食べさせてくれたり。よくおにぎりを作ってあげてますよ。
――へ〜、良き夫であり、良き父なんですね。そうそう、今成さんのブログに本格的な料理の写真がよくアップされてるので、奥さんは料理上手なんだな〜って思ったんですけど？
嫁 そんなことないですよ。カレーばっかりで恥ずかしいんですけど（笑）。

妖怪ファミリ

女子体操着に素っ裸……今成といえば常人の理解をはるかに超えた奇抜なパフォーマンスも魅力の一つ。その類を見ない試合ぶりと同様に誰もマネできないというか、誰もマネしないというか。いや〜、はじめちゃん、君のお父さんは偉大にもほどがあります！

――親御さんに結婚の挨拶に行ったときはどんな感じだったんですかね？
村田 父に「結婚します」って伝えたときの返答は、「あ、そう」の一言だったって言ってました（笑）。
長谷川 そうそう、あの日は今成さん、たしかこのジムでネクタイ締めて行ったんだよな。
（その場に居合わせた青木が登場）
青木 てか、そのとき着ていったスーツ、俺が一緒に買いに行ったんだもん。イマナー、最初はいつものハーフパンツで行くって言ってたんだから（笑）。
――そんな今成さんもいまやお父さんになって。
村田 独身だった頃は「人生なんて最終的にルン●ンになってもいい」とか言ってたんですけど、いまは背負うものもできたことだし、フェザー級GPも優勝賞金を狙ってると思います（笑）。
長谷川 しかし、ご子息であるはじめさん（↑なぜか〝さん〟づけ）は驚異的にかわいいですね！ それにどんどんたくましくなってる気がする。
村田 ジャンプとかピョンピョンしてますもんね。
長谷川 まぁ、奥さんとはじめさんはかわいいけど、いまやお父さんは妖怪ですから（笑）。
村田 ちょっとそのニックネームはどうなんですかね〜。子どもが小学校とかに上がったら……。
長谷川 「おまえの父ちゃん妖怪！」って言われたり？ でも、はじめさんも「うるせぇ！」って言いながら、お父さん仕込みのアンクルでみんなを極めたりしてな（笑）。
【08年4月2日／都内・DEEPジムにて収録】

はせがわ・ひでひこ（写真左）■1978年7月13日、兵庫県出身。第2代DEEPウェルター級王者。SKアブソリュート所属。175cm、82kg。
むらた・たくみ（写真右）■1980年6月11日、東京都出身。じつは元『kamipro』投稿者。和術慧舟會A-3所属。167cm、67kg。

この人を動物にたとえたらですか？うーん、なんだろ……妖怪？（嫁）

――でもバリエーションが豊富ですよね。プーニムパッポンカリーとかカレーカオマンガイとか、なかなか一般の食卓には出てこなそうなものまでズラリで。

嫁　本格的ってわけではないと思うんですけど、ルーじゃなくてカレー粉から仕込むので、いろいろ作れるんですよね。

――なんでも奥さんは料理家の小林ケンタロウの熱狂的ファンだとか？

嫁　そうなんですよ、けっこう昔から好きで。レシピ本とかがわかりやすいんですよね。サイン会にも行ったりしましたし。そのときはこの人にも子どものお守りでついてきてもらって（笑）。

今成　……。

――料理が得意なのはすてきな奥さんの証ですよ！　今成さんから見て、こんな奥さんの尊敬するところというと？

今成　……カレーを作ってくれるところです。あと、格闘技の話をしないところです（ニヤリ）。

――なるほど（笑）。お二人は夫婦ゲンカすることは？

嫁　基本的にはないですね、ごくごくたまにあるくらいで。それも私が彼に同調してもらうまで一方的に話し続けるって感じですけど。

――じゃあ今成さんは基本的に聞き役に撤するみたいな？

今成　はい。

――……あの、ご家庭で主導権を握ってるのはどちらでしょう？

嫁　うーん、亭主関白では全然ないですね。かと言って私が尻に敷いてるわけでもないですし。どっちが主導権っていうのはないですね。

――対等な関係なのが夫婦円満のコツなんですかね。ちなみに奥さんは、今成さんの仕事仲間であるNTTの方々とお話したりはするんですか？

嫁　え、NTT？　なんですか、電話の話？

――いやいや、今成さんのチームメイトである青木真也さんたちのことなんですけど（笑）。

嫁　あぁ、青木くんですか。NTTっていう名前なんですか？

――ニホン・トップ・チームの略です、よかったら覚えて帰ってください（笑）。奥さんは青木（真也）さんにどんな印象を持ってますか？

嫁　青木くんは肌がきれいですよね、色が白くて。あとは……しゃべりがうまいなあって思います（笑）。

――北岡（悟）さんなんかはどうですか？

嫁　北……？　あぁ、北岡さんですね、はい、知ってます知ってます。

――え、あまり認識がない感じですか？

嫁　いや、会えば会場でもちろん挨拶とかはするんですけど、そんなに格闘家の人たちと交流があるわけではないので。

今成　……（ニヤリ）。

――格闘技にあまり興味がない奥さんでも、さすがに旦那さんがフェザー級GPの大舞台でメインに登場したときは感慨深いものがあったんじゃないですか？

嫁　私、あの試合観てないんですよ（笑）。

――え〜？　人生一大の晴れ舞台じゃないですか！

嫁　あ、あとで映像で観たんです！（あわてて）。ただ、大会当日はちょっと用事があって行けなくて。まぁ……勝ってくれてよかったなって思いましたね。やっぱり試合観るときはドキドキするので。

――どうですか、優勝したら賞金1000万円ですよ！

嫁　ねえ、優勝してもらわないと困っちゃいますね！

――賞金で何を買いましょうか？

嫁　あの、パイオニアの『KURO』っていうのがあるんですよ。『アメトーーク！』の家電芸人で紹介されてたプラズマテレビで、安いものでも30万近くするみたいなんですけど。

――けっこうしますね〜。でも優勝すればまったく問題ないですね！

嫁　そうですよね、（今成のほうを向いて）本当に頑張ってもらわないと！

――今成さん、これは優勝するしかないですね！

今成　頑張ります（ボソっと）。

妖怪ファミリーほのぼの対談

――フェザー級GPといえば、今成さんのニックネームが〝足関十段〟から〝妖怪足極め〟になってましたけど、あれは奥さん的にはどうなんですか？

嫁　うーん、まぁ、妖怪っぽいですからね（笑）。そんなに気にはしてないですけど。

――でも、お子さんがもう少し大きくなって、自分のお父さんが〝十段〟じゃなく〝妖怪〟って呼ばれてるって知ったら……。

嫁　……あぁ、確かにそうですね！　よく考えたらちょっと失礼ですよね（笑）。

――あ、気づきましたか（笑）。じゃあ誌面を通じて佐藤大輔さんに抗議しておきましょう。今成さんご本人としてはどうですか？

今成　べつに気にしてないです。なんでもいいんじゃないですかね。まだ道で〝妖怪〟って指さされたわけじゃないんで（ニヤリ）。

――そ、そうですか……。あの、奥さんから見て、今成さんは動物にたとえるとなんですかね？

嫁　えー、なんだろ……妖怪？（笑）。

――ダハハハ！　結局は妖怪ですか（笑）。今日はいつにも増して今成さんがつかみどころない感じでしたけど、いろいろと貴重なお話をありがとうございました！

嫁　こちらこそ。私ばっかりしゃべってましたけど大丈夫ですか？

――はじめちゃんもかわいかったんで問題ありません（笑）。

今成　（嫁に向かって）ちょっと、トイレに行ってきます。

――今成さん、奥さんに敬語なんですか？

嫁　なんか会話の節々で他人行儀なんですよね。ヘンなところで律儀なんですよ。

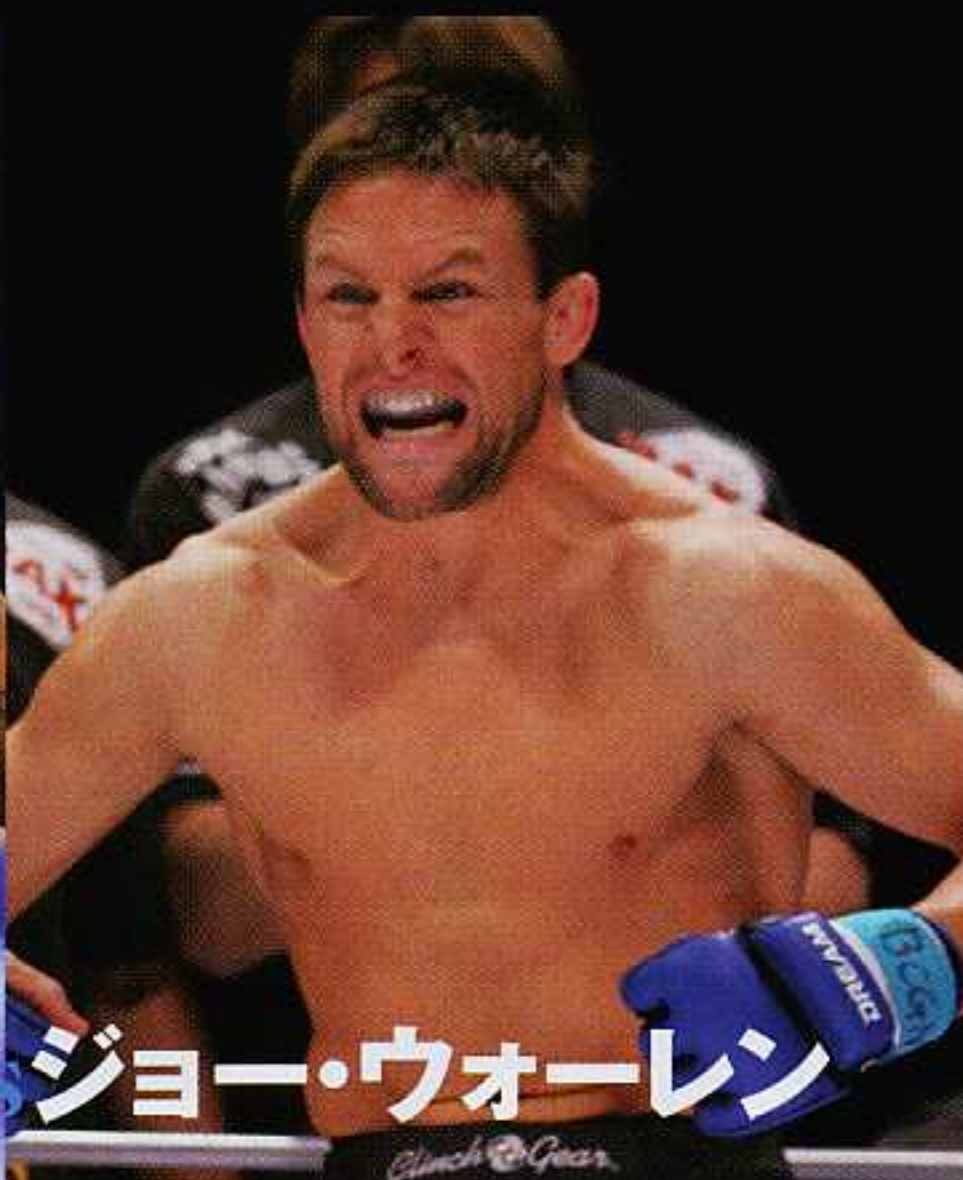
――やっぱりつかみどころがないな〜（笑）。

【08年3月30日／都内・DEEPジムにて収録】

いまなり・まさかず■1976年2月10日、神奈川県出身。アントニオ猪木が旗揚げしたUFO練習生を経て、入江秀忠率いるキングダム・エルガイツでプロデビュー。その後はZST、パンクラス、DEEP、PRDIE武士道などで活躍。現在はDEEPバンタム級王座、ケージレージ世界フェザー級王座を保持している。09年3月のDREAMフェザー級GP1回戦では山本篤から勝利を収めた。165cm、66kg。

2回戦は大爆発必至!?

5.26DREAMフェザー級GP、いよいよ主役KIDが登場!

山本“KID”徳郁vsジョー・ウォーレン

今成正和vsビビアーノ・フェルナンデス

前田吉朗vs高谷裕之

エイブル・カラムvs所 英男

夢の舞台に〝神の子〟山本KIDが初降臨！ 5・26『DREAM・9』横浜アリーナ大会で開催されるフェザー級GP2回戦で、いよいよKIDが約1年半ぶりのMMA復帰戦に臨む。そもそもフェザー級は〝KID階級〟と呼ばれていただけに、まさに満を持して主役が登場するかたちだ。KIDも会見の席上で「オレが盛り上げればいい」と頼もしく宣言！

実際、3・8『DREAM・7』のフェザー級GP開幕戦は不発の印象を残し、日本人ファイターが世界と互角に対抗できる階級の船出として、暗雲立ちこめるものとなった。それに比べ、4・5『DREAM・8』のウェルター級GP開幕戦は好勝負の連続で大爆発！ カードの出し惜しみをせず、1回戦から青木真也vs桜井〝マッハ〟速人を実現したことも、大きな熱を生み出すことにつながった。あの光景を目のあたりにして、何も思わなかったフェザー級ファイターはいないだろう。

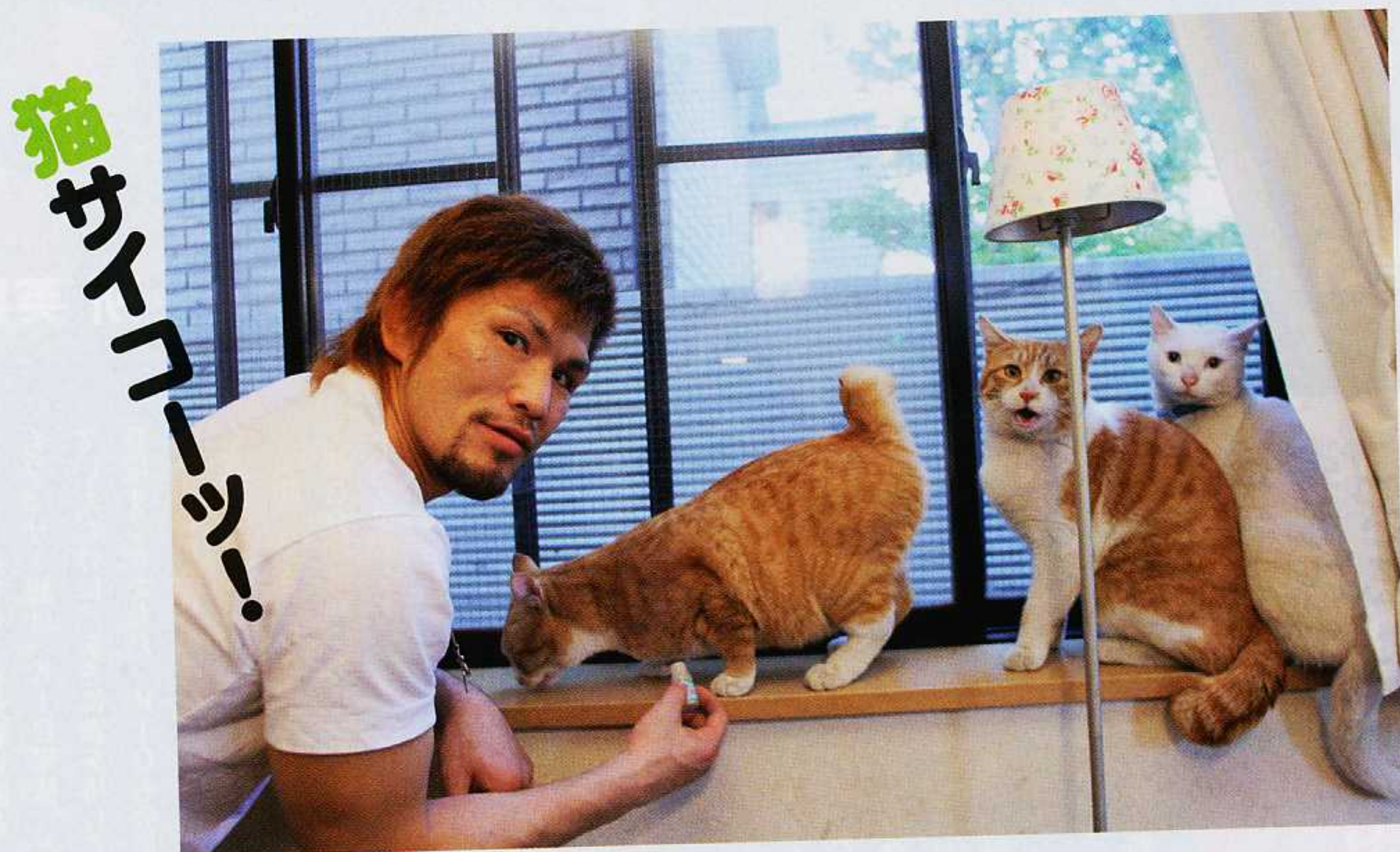
今回の2回戦のキーマン、大爆発の導火線として注目したいのは、やはりKIDの対抗馬とされる今成正和。対戦相手の柔術王者ビビアーノ・フェルナンデスは、青木をして「アイツはヤバい！」とも言わすほどの実力者であり、今成は期待されるKID戦を前に最大の難関を迎えることとなった。また、KIDは青木vsマッハ戦の解説で「やっぱ、キモくて強いより、カッコよくて強いほうがいい」と、今成の盟友をことさらに口撃！ すわ、今成とKIDのあいだに新たな遺恨勃発か!? しかし、当の今成本人は「……あんま関係ないですねぇ」とあいかわらずの薄いリアクション。だがその一方で、「……まぁ、やると決まったらテンションも変わるんじゃないですかね」と、内なる闘志を燃やす。

以前、KIDはビビアーノに判定勝ちを収めるも大苦戦。今成としては1回戦でKIDの弟分・山本篤を破り、2回戦でKIDを追い詰めたビビアーノを足関で仕留めるとあれば、ストーリーラインは完璧。〝キモくて強い〟妖怪足極めは、〝神の子〟までたどり着けるか？

さて、フェザー級GP開幕戦は深夜放送だったが、今回の2回戦、そして9月開催の決勝戦はゴールデンタイムでの放送が予定されている。つまり、一躍全国レベルのスターダムにのし上がるお膳立てが整っているのだ。冷え込みが叫ばれる格闘技の人気低迷を食い止めるためにも、軽くて速くて強いフェザー級ファイターたちの〝プロ意識〟に注目だ！

拙者も楽しみでござる！

（09年大河ドラマ俳優）

戦極フェザー級GP注目ファイターのネコ御殿に突撃潜入！

猫サイコーッ！

猫サイコーッ！　というわけで、今回登場いただいたのは日本格闘技界でも一、二を争う猫好きとして知られる吉田道場の小見川道大だ。動物好きと拾い癖があるという小見川の家には、なんと7匹も猫がいるという情報をキャッチした『kamipro』取材班は、都内の閑静な住宅街の一角にある小見川のネコ御殿に突撃潜入！　そこで見たものとは……!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾晋也

――今回、格闘技界でも一、二の猫好きを誇る小見川選手のお宅におじゃまさせてもらいました。よろしくお願いします。

小見川　よろしくお願いします。……でも、いま2匹ぐらいしかいないんですよ。

――あ、そうなんですか。一応、飼ってるのは全部で7匹なんですよね。

小見川　そうなんですけど、基本的に放し飼いなんで、なかなか7匹は集まらなくて。それでも大丈夫ですか？

――はい、集まるまで待ちますんで（笑）。さっそく、話をうかがいたいんですが、基本的に小見川さんは拾い癖があって、気がついたら7匹になっていたんですよね？

小見川　そんな感じですね。

――事前に小見川さんから飼っている猫の紹介文（122ページの囲み記事参照）をもらったんですけど、それぞれの飼い始めた理由が凄く印象的で。黒猫のスティッチは「表参道で病気になってたので拾った初めての猫」ってことみたいですが。

小見川　スティッチは7～8年前に表参道を歩いてたら、病気で苦しそうにしててかわいそうだったんで拾って連れて帰ったんです。それが一番最初ですね。

――こちらのご自宅は表参道からはかなり距離がありますけど、ほっとけなくて思わず連れて帰ってきた、と。

小見川　そうですね。それでトラっていうのが、スティッチが遊びに行って連れて帰ってきた元野良猫です。ホントはトラのほかに2匹兄弟がいたんですけど、その2匹はいなくなっちゃって。

――遊びに行って、帰ってきたら猫が増えていたわけですね（笑）。

小見川　けっこうそういうことはあるんですよ。放し飼いなんで、見たことない猫が家の中をウロウロしてたりとか（笑）。

っぱり猫が好き

が家の中をウロウロしてたりとか（笑）。

小見川道大のやっぱ

小見川道大
やっぱり猫が好き

――そういうもんなんですか（笑）。で、モーは「避妊手術をしようとした野良猫が身ごもっていたので、そのまま産ませて引き取った猫」っていう、ちょっと複雑な生い立ちですよね。

小見川　モーは生まれたときに里親に出そうと思ってたんですけど、3匹生まれたうちのモーだけがもらい手がなくて。それでウチで引き取ろうかな、と。

――唯一のメス猫のチビを飼い始めた理由も凄いですね。「台風の日に家の前に捨てられていて、そのまま引き取った猫」。

ドラマとか漫画ではよくありますけど。

小見川　ホントにいたんですよ。たぶんこの家は猫好きなんだなって思って誰かが置いていったんじゃないかな。台風の日に、なんか鳴き声が聞こえたんで、外に出てみたら子猫がいたんだよなあ……。

――そんな状況だと、心優しき小見川さんとしては助けてあげるしかないですね。

小見川　そりゃあそうですよ。ほっといたら死んじゃいますからね。自分は拾い癖があって、そういう猫を見かけたら連れて帰ってきちゃうんですけど、拾わなくても勝手にドンドン集まるんですよ。あの家に行けば、なんかもらえんじゃねえかなって思うんじゃないですかね。

――実際、来たら来たで何か食べ物をあげたりするんですよね？

小見川　腹減ってそうだったらあげちゃいますね。自分とこの猫じゃなくても。

――そりゃあ、野良猫もドンドン集まってきちゃいますね（笑）。で、チャラは「近所の野良猫の溜まり場で病気になっていたので拾ってきた」と。

小見川　そうです。溜まり場でぐったりしてたんで助けてあげたんですけど、じつは、そのときもう1匹拾ったんですよ。

――その1匹はいまはいないんですか？

小見川　去年、交通事故で死んじゃって。家の横に花梨の木があるんですけど、そこの木の下に埋葬しました。

――花梨の木の下で安らかに眠っているわけですね。

小見川　そうです。いまはそこから花が咲いちゃってますからね。だから、木になって生きてるんだと思いますよ。

――そうかもしれません。白猫のチロは「近所で野良猫をしていたが2年前にウチの居候になり、そのまま引き取る」と。野良猫が居候って凄い話ですよね（笑）。

小見川　いつの間にか住み着いてて。

――仲間もいっぱいいるし、エサも食べ放題だし、居心地がいいんでしょうね。

小見川　そうかもしれないですね。チロは白猫なんですけど、黒猫2匹と仲悪いんですよ。それに嫁にはなついてるんですけど、自分にはあんまりなついていなくて。

にゃ、にゃんと7匹！ 小見川家の愛猫紹介!!

★スティッチ=黒（首に白い模様）。オス・6歳。表参道で病気になってたので拾った初めての猫。

★トラ=サバトラ×白。オス・5歳。子猫のときスティッチが連れてきた元野良猫。

★モー=黒。オス・3歳。避妊手術をしようとした野良猫が身ごもっていたので、そのまま産ませて引き取った猫。

★チビ=三毛猫。メス・3歳。台風の日に家の前に捨てられていて、そのまま引き取った猫。

★チャプチェ=茶トラ×白。オス・2歳。子猫のとき、家の近所で迷子になってた猫。

★チャラ=茶トラ。オス・2歳。子猫の近所の野良猫の溜まり場で病気になっていたので拾った猫。

★チロ=白。オス・5歳。近所で野良猫をしていたが、2年前、ウチの居候になりそのまま引き取ることになる。ほかにも7匹くらいいたが、無事里親が見つかって幸せに暮らしている。

自分が拾わなくてもドンドン猫が集まって勝手にくるんですよ

でも、ケンカは凄く強いんです。

――会見のときに「猫同士のケンカも参考になる部分がある」みたいなことを言ってたことがありましたよね。

小見川　いや〜、参考にはならないでしょう（笑）。

――あ、ならないですか（笑）。

小見川　ウチの中でケンカになったら「やめろ！」しか言えないし、「もっといけ！」とか「コイツのキックけっこういいね！」みたいなことはないですよ（笑）。会見のときはジョークで言っただけで。

――すみません。ジョークとは気づかず本気にしてしまいました（笑）。

小見川　猫の動きを参考にするっていうのはないですけど、猫って殺気立つっていうか、狙われてるとわかると逃げるじゃないですか。野良猫だからなおさらで。

――猫って警戒心が強いですからね。

小見川　だから、こっちも殺気を殺して相手に近づくとかっていう部分は格闘技に通じるところがあるかもしれない。

――ちっちゃい頃から犬派、猫派でいうと猫派だったんですか？

小見川　いや、もともとは犬を飼ってて。犬派って感じだったんですけど、なんか猫好きになって。まあでも、基本的に自分は動物が好きなんで。

――数年前にはリクガメも飼ってたみたいですけど、リクガメって種類によってはかなりデカいですよね。

小見川　けっこうデカかったですね。30センチぐらいありましたから。

――うわっ、かなりデカいですね！　いまはもう飼ってないんですか。

小見川　7〜8年前から飼ってて、いなくなったのが2年前ぐらいですね。逃げちゃったんですよ。リクガメは猫と違って、放し飼いにはしてなかったんで。

――カメの放し飼いってあまり聞かないですからね（笑）。

小見川　そいつはずっと家の中で飼ってたんですけど、ある日、空を見上げながら外に出たそうに涙ぐんでたんですよ。

――エッ、カメが涙ぐんでたんですか。

小見川　ホントに涙ぐんでて。かわいそうだったんで外に出してやったんですよ。一応、ブロックを置いて逃げないようにしてたつもりだったんですけど、そのブロッ

[2009.4.9 戦極～第猫陣～]
東京・小見川邸

△小見川道大 vs スティッチ&トラ&チャプチェ&チャラ&チロ△

（12R 3分44秒 ノーコンテスト）

4月9日、都内の小見川邸にて行なわれた『戦極～第猫陣～』、小見川道大と愛猫の異種格闘技戦（?）。取材陣を警戒してか、なかなか試合会場となった小見川邸に姿を見せてくれなかった愛猫たちだったが、猫じゃらしなどを使った小見川の挑発に乗ってくれて、ようやく試合開始。小見川というよりも、猫じゃらし相手に強烈な噛みつき攻撃などを披露した愛猫たちだったが、しばらくするとあきてしまったのか、試合場から姿を消してしまいノーコンテストに。

てたつもりだったんですけど、そのブロックをどかしてどっかに行っちゃって。

――それっきり戻ってこなかったと？

小見川　いや、それが1回目は交番にいたんですよ。

――誰かが届けてくれたんですか？

小見川　たぶん。そのへんを探しても全然見つからなかったんで、一応交番に行って「カメがいなくなっちゃったんですけど」って聞いてみたら「え、どんなカメ？」みたいな感じで言われて。

――「どんなカメ？」って、その交番には何種類かカメがいたんですかね（笑）。

小見川　それはわかんないですけど、「リクガメなんですけど」って言ったら、「じゃあ、これかな」ってウチのカメが出てきたんですよ。そのときは連れて帰ったんですけど、しばらくして、またいなくなっちゃって。

――そのときも交番に行ったんですか？

小見川　2回目のときは電話したんですよ。そしたら「どんなカメ？」ってまた聞かれて、「リクガメなんですけど」って言ったら、「あ～、いまはミドリガメしかいないわ」って言われて（笑）。結局見つからなくて、それっきりです。

――カメ話もおもしろいですけど、猫話に戻ります（笑）。一番多いときは10匹以上いたこともあるみたいですね。

小見川　それぐらいいたこともあると思うんですけど、正確にはわかんないですね。入れ替わりが激しいんで。

――入れ替わりが激しい（笑）。

小見川　ウチの中で出産したこともあるんですけど、そのときは俺が初めてだったんでビックリして。思わず舐めようとしましたからね。親みたいな感じで。

――何を舐めようとしたんですか？

小見川　なんかこう、子どもが生まれたときに皮っていうか膜みたいなのがあるじゃないですか？　あれから出さないと呼吸できないんで、どうしようと思って。

——あ～、胎膜ですかね？

小見川　そうそう。こういうときどうすればいいんだろうと考えて、その膜をビビッて破いて舐めてやろうかと思って。まあ、実際は手で破ったんですけど。

——いろんな経験をしてるんですね。

小見川　そうですね。でも、いいんですか。猫の話ばっかりして。格闘技雑誌の取材じゃないみたいですけど（笑）。

——今回は格闘家のプライベート特集ということで、小見川さんには猫話をたっぷりしていただければと思ってまして。ちなみに、放し飼いってことですけど、猫だと一緒に散歩とかはしないですよね。

小見川　散歩にも行きますよ。自分が外に出たら3～4匹がうしろからついてくるんで、近所を猫と巡回してますね。

——おとなしくついてきてくれるもんなんですか？

3.20『戦極～第七陣～』でのフェザー級GP1回戦では優勝候補のL.C.デイビスと対戦し、見事勝利。試合後には、この試合で自身が掲げる理想のスタイル"柔拳等術"に近づけたと語った小見川。試合後には「俺が負けると思ってたヤツら、クソッたれ!」とマイクアピール。この勢いで目指すは優勝だニャー!

小見川　ついてきますね。周りから見たら「あっ、猫おじさんがいる」みたいな感じで（笑）。ひどいときは6匹ぐらい引き連れてますからね。気がついたら、知らない猫までついてきたりとか。

——近所の人からは「猫おじさん」と思われているのかもしれませんが、本業の格闘家としては、フェザー級GPの2回戦の相手がついに決まりましたね。

小見川　あ、格闘技の話ですか（笑）。

——強引につないでみました（笑）。2回戦の相手は1回戦で優勝候補の一人と言われていた門脇英基選手を下したナム・ファン選手ですけど、自信はあります？

小見川　ありますね。やっつけますよ！

——理想のスタイルとして〝ネオ柔道〟とか〝柔拳闘術〟といった言葉を使っている小見川選手ですが、フェザー級GP開幕戦でのLCデイビス戦の試合後は、理想の闘い方ができてきていると手応えを感じているみたいでしたが。

小見川　ようやくコツをつかめてきたような気がしましたね。自分が考えてる〝ネオ柔道〟とか〝柔拳闘術〟っていう闘い方っていうのは、相手の光を出さないんです。消しちゃうんですよ。

——自分だけが光って勝つ、と？

小見川　そうです。相手のいいとこは出させないです。それはなんでかっていったら、俺のほうがトータル的に全部上回っちゃうから、光が消えちゃうんですよ。

——デイビス戦ではその闘いができた？

小見川　できましたね。だから、いまは相手のことはあんまり考えてなくて。今回のGPでも残った選手に比べて、総合的に俺のほうが上回ってるかなって思ってるんで、必ず自分が勝ちますよ。

——2回戦に進んだ選手の中では日沖発

小見川道大
やっぱり猫が好き

猫が自分へのプレゼントで血だらけの鳩を持ってきたりするんですよ（笑）

選手が『戦極』からもフェザー級のエースとしてプッシュされてますけど、そのへんは気にならないですか？

小見川　あまり人のことは気にならないし、関係ないです。残った選手は日沖選手に限らず、金原（正徳）選手もガイジンも弱い選手はいないじゃないですか。自分は自分の闘いをするだけですね。

——その結果、戦極フェザー級のベルトを腰に巻くのは自分だ、と？

小見川　あれが似合うのは俺しかいないでしょうね（ニヤリ）。

——自信がありそうですね。そういえば、1回戦を勝ったあとに家に帰ったら、ちゃんと猫が祝福してくれたんですよね。

小見川　そうなんですよ。でも猫的には祝福だと思うんですけど、こっちにとってはちょっと迷惑なんですよね（苦笑）。

——どんな祝福を受けたんですか？

小見川　いや、ウチの猫って、そういうときには、そのへんの鳩とか捕まえてきて、血だらけの鳩を部屋の中に持ってきたりするんですよ（笑）。

——うわ～！　猫的には「よくやった」って意味のプレゼントなんでしょうね。

小見川　そうだと思うんですけど、朝起きたら、家の中が血だらけになってたりしてビックリしますよ（笑）。

——ちなみにそれはどの猫からのプレゼントかわかったりするんですか？

小見川　それはスティッチですね。たまに部屋の中を血だらけの鳥がバタバタ飛んでるときもあるんで。半殺しで捕まえてきて家の中で放すんですよ。それをほかの猫が追っかけたりして、もう家の中グチャグチャですね（笑）。

——それは大変そうですね（笑）。

小見川　ほかにも、虫とかトカゲとかネズミとか捕ってきて、いつもエサをあげてる茶碗に入れてあったりしますからね。

——それはほかの猫へのプレゼントだったりするんですかね？

小見川　お土産みたいな感じで。猫ってそういうことするんですよ。

——では、今度の2回戦も愛猫のスティッチから祝福されるような豪快な勝利を期待してます！

小見川　いやいや、鳩はもういいです。だって平和の象徴ですよ！（笑）。

【09年4月9日／都内・小見川邸にて収録】

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。MMA転向前は01年のアジア柔道選手権で銀メダルを獲得するなど柔道で活躍。05年5月22日『武士道』でのアーロン・ライリー戦でプロデビュー。その後はUFC、DEEP、修斗、ケージレージなど、さまざまな舞台で活躍。今年3月開幕の今年3月から『戦極』に参戦。『戦極～第八陣～』ではナム・ファンとの対戦が決定している。168cm、65kg。

2 回戦に勝ち進んだすべての選手　田、光岡のS4（※戦極四人衆の略）vs外

65kg最強は『戦極』が決める!?

5.2フェザー級GP2回戦、テーマは“日本vs世界”!!

日沖発vsロニー・牛若

小見川道大vsナム・ファン

金原正徳vsジョン・チャンソン

マルロン・サンドロvsニック・デニス

「2回戦に勝ち進んだすべての選手が優勝候補だと思っています」シャキーン！　3月31日に行なわれた戦極フェザー級GP2回戦カード発表会見で、いつにも増して自信満々に言い放った〝戦極の頭脳〟國保尊弘広報。

DREAMのフェザー級GPでは2回戦から出場の山本KIDを含め5人の日本人が残っているが、『戦極』のGP2回戦進出者は、大会ポスターやパンフレットにもデカデカと登場し、主催者サイドもエースとして大きな期待をかけている日沖発、前ページで愛猫家のハートをガッチリ鷲づかみにした小見川道大、そしてZSTからの刺客・金原正徳の3名。

2回戦進出を決めた残りの選手は世界各国のチャンピオンクラスで実績は充分だが、知名度に関してはまだまだな選手が多いのも事実。ファン、そして『戦極』にとっても日本人3選手にはゼヒとも勝ち上がってほしいはずだ。國保広報は2回戦の組み合わせについて「日本vs世界という構図で日本人に多く残ってもらいたい」と正直な発言も残している。

旗揚げ当初から〝リアル〟とともに〝日本vs世界〟をテーマに掲げてきた『戦極』。北岡が一躍ブレイクをはたした昨年のライト級GPも2回戦では北岡、横田、廣田、光岡のS4（※戦極四人衆の略）vs外国人というマッチメイクが組まれたが、これはフェザー級GPも同様。『戦極』的には日沖、小見川、金原に加え、マルロン・サンドロ（※國保広報によるとパンクラス王者なので日本枠）の4人をフェザー級版S4としてプッシュし、第二の北岡の誕生を期待しているのだろう。

ぱっと見、フェザー級版S4にはキモ強キャラは見当たらないが、フェザー級GPの盛り上がりはリアルな強さはもちろん、それ以外の部分で北岡に匹敵するインパクトを残す選手が現われるかどうかにかかっていると言える。はたして、フェザー級の北岡になるのは誰だ!?

このほかワンマッチには、小見川に負けじとグラバカの〝猫好き〟戦士、KEI山宮が『戦極』初登場。杉浦貴に勝利して以来の『戦極』登場となる〝柔術王〟シャンジ・ヒベイロと激突する山宮は愛猫・道夫のために勝利をつかめるのか？

同じグラバカの横田一則も柔術界の大物レオ・サントスと対戦。さらには金メダリスト瀧本誠が、ウェルター級に階級を落として再起戦に挑むなど、〝S4〟、〝柔術王者〟、〝金メダリスト〟と、『戦極』テイスト満載の5・2代々木第二大会。ゴールデンウィークは『戦極』へ、いざ！

リアルな闘いにご期待ください！

『戦極～第八陣～フェザー級グランプリ2009 2nd ROUND』

東京・国立代々木競技場第二体育館

5月2日（土）開場14:00 開始16:00

主要対戦カード

[戦極フェザー級グランプリ2回戦]

日沖発vsロニー・牛若

小見川道大vsナム・ファン

金原正徳vsジョン・チャンソン

マルロン・サンドロvsニック・デニス

[ワンマッチ]

KEI山宮vsシャンジ・ヒベイロ

瀧本誠vsマイケル・コスタ

横田一則vsレオ・サントス

トラビス・ビューvsスタニスラブ・ネドコフ

お問い合わせ

ワールドビクトリーロード TEL.03-5381-7108

http://www.sengoku-official.com/

——今回は『ハッスル』の女子部屋に潜入

——いえいえ、NO問題です（笑）。ちな

男子禁制、秘密の花園!?
それとも単なる物置部屋!?

子部屋へようこそ!

『ハッスル』妖精の

独占潜入!!

萌え萌えハッスラー

KGの『ハッスル』女子部

**『ハッスル』で人気急上昇中の空手美少女KGを、またもやクローズアップ！
なんでもハッスル道場には“女子部屋”なる、素晴らしい響きの秘密の花園が存在するとか。今回、本誌はなんとその現場に潜入することに成功！
胸キュンもののKGのあんな姿やこんな姿、とくとご覧あれ！**

聞き手／鈴木佑　撮影&試合写真／山口比佐夫

——今回は『ハッスル』の女子部屋に潜入ってことでちょっとワクワクしてたんですけど……ここって、いうところの物置部屋ですよね？（笑）。

KG　アハハ！　いえいえ、私、ここで寝泊まりしたこともあるんですから！　TAJIRIさんやKUSHIDAさん、チエさんに練習を見ていただいてたとき、夢中になってたら終電を逃してしまって、どうしても帰れなくなったことがあって……。そのときはみんなで道場に泊まったんですけど、私はこの部屋で寝袋にくるまって寝ちゃいました（笑）。

——そこの大量に積まれたダンボールには何が入ってるんですか？

KG　あー、それは『島田二等兵のヤドカリTシャツ』ですね。

——ダハハ！　俗にいう在庫ですね（笑）。でも、ここは物置部屋じゃなく……？

KG　女子部屋です！（かわいらしく）。

——そうですか（笑）。KGさんがここに泊まったのはその一回だけですか？

KG　そうですね。やっぱり床だからなのか、次の日は身体が痛くて痛くて（笑）。リングの後片づけや先輩方の洗濯をやったりして、遅い時間になるときは帰るのが大変だなぁって思うこともあるんですが、やっぱりおウチのお布団でぐっすり眠りたいんで。

——じゃあ、女子部屋と言いつつも、そんなには使われてない感じですか？

KG　いやいや、練習の合間の休憩時間とかはここでお昼寝したり、音楽を聴いたりしてますよ！

——へ〜。こんな殺風景なところでリラックスできます？

KG　はい！　逆になんにもないほうが落ち着く感じなんですよ、……へんですか？

——いえいえ、NO問題です（笑）。ちなみにKGさんの実家の部屋はどんな感じなんですか？　女の子らしくぬいぐるみ置いてたりとか？

KG　あ、置いてますよ！　テレビの上にでっかいダンボとか。とくにディズニー好きじゃないんですけど。

——そうですか（笑）。部屋はちゃんと整理整頓されてます？

KG　やっぱり疲れすぎてると、ちょっとおろそかになっちゃいますよね。脱いだ服がそのまんまの状態とか（笑）。A型だから本当は几帳面なはずなんですけど……。

——なるほど（笑）。KGさんのブログを見たところ、この道場では相当ハードな練習メニューをこなしてるみたいですね。

KG　はい！　ここではプロレスの練習以外に、総合とキックボクシングの練習もやってるんですよ。基本的に月、水、金が格闘クラブで、ほかの男の人たちに混じって一緒に練習してます。で、火、木、土は小路晃先生にマンツーマンで稽古をつけてもらって。プロレスの練習はそれが終わってからって感じですね。あと、これとは別に個人的にキックのジムにも通ってるんですけど。

——凄い！　練習漬けなんですね〜。

KG　とくに小路晃先生にはメチャクチャしごいてもらってますね。もう泣きながら練習してます（笑）。

——かつての“ミスターPRIDE”の指導を受けてるわけですね。

KG　そうなんですよ。でもいまだに、あの優しい小路先生と、モンスター軍の小路二等兵が同一人物なんて信じられなくて……。もし本当だったら、いつか小路先生の目を覚ましてあげなくちゃって思ってるんです！

現在発売中の『kamipro Special 2009 APRIL』では7ページに渡ってKGに急接近！　まるでマルベル堂に売っているアイドルブロマイドばりの特写や、モデル時代の秘蔵写真、さらには30のアンケートなど、KGの魅力盛りだくさんなので、まだ読んでない方は要チェック！

『ハッスル』に舞い降りた妖精の魅力を徹底特集!!
近藤朱里20歳、まだ誰のものでもありません
（KGの本名）
空手美少女
KG

――なるほど～、練習を見てもらっているときは心優しい小路先生なんですね(笑)。ちなみにゆくゆくは『ハッスル』だけじゃなく、格闘技方面への進出も考えてたりとか?

KG そうですね。いまはまだまだですけど、もっと知名度が上がれば向こう側から声をかけてもらえるじゃないですか? そのくらいの存在になりたいですね。あと、ここことは別に個人的にキックボクシングのジムにも通ってます。

――そんなKGさんにまさにうってつけの情報なんですが、FEGの谷川貞治イベントプロデューサーが、世間を巻き込むような女子の格闘技イベントを開催するらしいです!

KG あ、その話は小路先生から聞きました!

――じゃあ、誌面を通してサダハルンバにアピールしましょう! 一気に全国区になるチャンス!(笑)。

KG う～ん、でも、もっと練習を積んで実力をつけないと、ボコボコにされちゃうと思うんで……。

――いやいや、KGさんは空手歴10年で初段、さらにいまは本格的にキックのトレーニングもしてるんだし、素養は充分ですよ! ほら、アピールアピール!

KG いえいえ、やっぱりもう少し自信をつけてからじゃないと……。ケガしたら『ハッスル』の試合にも影響がでちゃいますし。

――そこまで考えるとはハッスラーの鑑ですね～。『ハッスル』が第一優先だ、と。でも、じつは格闘技でもちょっと自信あったりしませんか?

KG 空手は全国大会に出場したりしましたけど、まだキックは去年の7月から始めたばっかりですし。そのイベントに声をかけてもらったときに対応できるよう、もっともっと鍛え上げたいですね!

――KGさんは顔面パンチも違和感ないんですか? 一回、鼻が折れた折れないで検査に行ったって聞きましたけど。

KG 全然抵抗ないですよ。というか、パンチよりも小路先生のローキックが本当に痛いんですよ! 何回もローを効かせられて立てなくなるなんてしょっちゅうですし。

――壮絶ですね～。

KG しかも練習って、ここだけじゃなく外でもやるんですよ。あの、「出世の階段」って知ってますか?

――いや、ちょっと知らないんですけど。

いやはや、なんとも雑然とした感じの女子部屋。少々想像していたものに比べて殺風景であるものの、ちゃんとKGのうしろには女の子らしく化粧品もチラっと見える。

KG

なんですかそれは?

KG 愛宕神社っていうところにある、84段の凄く急な階段のことなんですけど。そこで10本ダッシュや手押し車をやったり、あと小路先生をおんぶして昇降運動したり。

――まさにスポ根モノの世界ですね(笑)。KGさんはいままでもいろいろなスポーツをやってきたそうですが、ここまでキツい練習環境ってありました?

KG 空手の稽古でやった「突き3000本」とか、中学の陸上部の合宿も大変でしたけど、それと比べても小路先生のトレーニングのハードさはズバ抜けてますね。キックのスパーを3分×13ラウンドとかマンツーマンでやらせてもらうんですけど、痛いと悔しいに加えて「なんでこんなに私はできないんだろう?」みたいな悲しい気持ちになりますから。

――女の子だからって特別扱いはされない感じですかね。

KG 小路先生はほかの男の選手よりも、私の練習量を多くしてくれるんですよ。たとえば手押し車がほかの人が3本だったら私は5本とか。そういう意味では特別扱いしてくれてるのかなって思いますね。

――ある意味で特別扱いですけど、女の子扱いではないですね(笑)。それはKGさんにとって嬉しいものなんですか?

KG 自分で言うのもなんですけど、ちょっとは期待してくれてるのかなって。私がくじけそうになると、小路先生は「勝ちたいんだろ?」ってハッパをかけてくれるんです。私がローとか効かされすぎて立てなくなったときには、「立てよ!」って檄を飛ばしながら蹴ったりとか。すべては愛のムチだと思ってます!

――健気ですね～。でも、プロレスと格闘技の練習を一緒にやってると混乱したりしません?

なったね」って言われて。できれば、きれいな体型を維持しながら鍛えたいんです

KGの母への手紙

前回のインタビュー時に「私の宝物はお母さん」と語ったKGが、母への素直な気持ちを告白!

お母さんは都内の大会のときには、大体試合を観にきてくれますね。試合後には「痛いんじゃないの? 身体、大丈夫?」って凄く心配してくれて。やっぱりお母さんが観てると思うと、私も「恥ずかしいところは見せられない!」って気合いが入るんですよね!

私が中学1年のときに両親が離婚して、それからお母さんと二人暮らしすることになったんですけど、当時は私も敏感な年頃というか反抗期だったので、しょっちゅう親子ゲンカしてましたね～(シミジミと)。ちょっと言われたことに対して私がイラっとしちゃったり。もちろん、お母さんのことは大好きだし尊敬してるんですよ。それなのに、いまだに私が反抗しちゃうことがあるんですよね。20歳になったのに全然大人になりきれてないっていうか(苦笑)。で、後悔するクセに、照れくさくて謝れなくて。それでも次の日になると、お母さんが何事もなかったように普通に話しかけてくれるのは嬉しいですね。

やっぱりお母さんが凄いなって思うのは、女手ひとつで私のことを育ててくれたことです。お母さんはフィリピン人なんで、いまでこそ日本語はペラペラですけど、私が小さい頃はいろいろ言葉の面で大変だったと思うんですよ。でも、それを乗り切ったんだから凄く芯の強い人だなぁって。

もちろん母の日には毎年プレゼントしてますよ! 1回失敗したのが、ウチのお母さんは金属アレルギーなのに、すっかりそれを忘れてアクセサリーをあげちゃったことがあって(笑)。金属アレルギーでも高級なアクセサリーだと大丈夫らしいんで、頑張って有名な選手になってプレゼントしたいですね!

もっともっとトレーニングを積んでFEGの女子格イベントに出たいです！

KGといえば得意の空手技のキレ味や華麗な空中殺法も見ものだが、その豪快なやられっぷりもお見事の一言！かわいい顔をヘン顔寸前までゆがめてモンスター軍の攻撃に耐える姿は、その手のマニアならずとも惹きつけられること間違いなし。ズバリ、一見の価値アリです！

技の練習を一緒にやってると混乱するというか、混乱したりしません？

KG　う〜ん、混乱するというか、何よりも疲れが……。

――それ以前に満身創痍だ、と（笑）。

KG　プロレスもやっぱり受け身とか凄くキツいですし。

――は〜。たぶん、いま女子プロレスラーでそこまでの環境の選手もなかなかいないと思いますよ。道場もなかったりしますから。そういう意味ではKGさんは恵まれてるのかもしれないですね。

KG　……確かにそうですね！　ちょっと元気が湧いてきました（笑）。ぶっちゃけ、朝起きて全身筋肉痛だったりすると、行きたくないって思うこともあるんですよ。でも、「小路先生が私のために時間を割いてくれてるのに」って考えると、頑張らなきゃって思うんですよね。

――お母さんは心配したりしませんか？

KG　練習内容は言ってないですね、心配しちゃうので。

――でも、これ読んだら気づいちゃいますよ（笑）。

KG　あ、そうか（笑）。そういえば最近、お母さんにかぎらず周りの人から「マッチョになってきたんじゃないの？」って言われるのが微妙なんですよね〜。服も肩幅が広くなったから、前のやつが着れなくなってきたのが悩みで……。

――小路先生のハードトレーニングの賜物ですね（笑）。

KG　美容院に行っても「なんかでっかくなったね」って言われて。できれば、きれいな体型を維持しながら鍛えたいんですけど。

――観る側的にもKGさんにはあんまりゴツくなってほしくないです（笑）。さっきから本当にハードな話ばっかりなんですけど、さすがに高校の頃とかは普通に学生らしく遊んでましたよね？

KG　その頃も毎日テニス部の練習があって大変でしたけど、カラオケとかにはよく行ってましたよ。絢香とかHYを歌ったり。でも最近はまったく行ってないですね。

――20歳になったことですし、息抜きでお酒を飲んだりは？

KG　あんまり飲みたいと思わないんですよね。体質的に受けつけないことはないと思うんですけど、飲むと次の日の練習に影響するのでなるべく飲まないようにしています！

――本当に練習がすべての基準なんですね〜。

KG　それに、たとえば周りの人に「お酒飲めるようになったんでしょ？」って言われても、山口（日昇）社長が「こいつはトップになるまで飲ませないから」って気を使ってくれて。

――それはまた山口（日昇）社長らしからぬちょっといい話です（笑）。それだけ周りからも期待をかけられてるってことでしょうね。練習でクタクタになったあと、いまは何が一番楽しみですか？

KG　もともと私はお風呂に入るのが大

好きなんですよ。漫画読んだり音楽聴いたりしながら、平気で1時間以上とか。でも、最近は疲れすぎてお風呂にも入れなくなっちゃって、シャワーで精一杯って感じです（笑）。

——じゃあ、オフの日は完全休養って感じですか？

KG 友だちから食事とかに誘われたりするんですけど、基本的に断っちゃいますね。それなら明日の練習のために少し身体を休めたいって思いますし……。と言いつつ、キックのジムに顔出したりするんですけど（笑）。

——えぇ！ もはやストイックというか、ちょっとした修行僧ですね（笑）。オフでもジッとしてられない？

KG そうかもしれないです。日曜はキックのクラスが13時半から16時半まであるんですけど、それに全部出てから追加でミット打ちをやったりして。だいたい18時頃に終わって家に帰る感じですね。でも普段の道場の練習がキツいから、キックのジムの練習はちょうどいい気分転換になるんですよ。で、そういう日はお風呂にゆっくり浸かって。それがいまの私にとっては凄い癒しになってますね～（ウットリした表情で）。

——なるほど（笑）。それだけ追い込んだ生活をしてると、世間の話題とかもあんまり興味ないって感じですか？

KG 私、おそらく世間のことはまったく知らないと思います（笑）。最近観たテレビもK-1ぐらいですし。

——あ、K-1といえば、解説をやってる藤原紀香さんと陣内智則さんの離婚報道はさすがに知ってますよね？

KG それは道場にあったスポーツ新聞でちょっと読みました！

——じゃあKGさんの見解をお聞きしましょうか（笑）。

明日のスターを夢見て稽古に励むKG。その流した汗は決して嘘をつかない。そしてKGくらいスポーティになると、その流した汗はもはや果汁のようにフルーティに違いない（妄想）。また一人ポツンとたたずむ姿が、まるで捨てられた子犬のようにはかなくていい感じ！

いまは恋愛する暇が全然ないので リングが私にとっての恋人なんです

KG うーん、やっぱり男の人は浮気をするものなのかなぁって。まだよくわかんないですけど、私は夫婦がお互い浮気とかしない、平和な結婚生活を送りたいですね。

——ちなみにいまは恋愛する暇もないって感じですか？

KG 全然ないです（残念そうに）。いずれは幸せなオーラのある人にめぐり会えたらいいですけど。でもいまの自分には恋愛は必要ないかなって思いますね。

——じゃあ、いまは「リングが恋人」みたいな？

KG リングが恋人……。そうですね、リングが恋人です！（自分に言い聞かせるように）。

——以前、好きなタイプは「優しいけど、私が間違えたことをしたらちゃんと叱ってくれる人」って言ってましたよね。

KG そうですね、あといろいろ教えてくれたり。年上で頼りになる人のほうがいいですね。

——ちなみにいままで年上の人と付き合ったことはありますか？

KG えーと、16歳のときに2歳上のテニス部の先輩と、1年8ヵ月くらい付き合ったことがあります（照）。

——お、では何か甘酸っぱいエピソードをお願いします！（笑）。

KG うーん、それがあんまりいい思い出がないんですよ～（苦笑）。私がバカだったんですけど……。でも優しいところもあって、凄くいい人で。

——どんなれそめで付き合うことに？

KG 最初に私が彼に一目惚れしちゃったんですね。で、彼のアドレスをほかの先輩から聞いて、メールのやりとりが始まって。そのうちデートするようになって、映画を観に行ったりしてたら、向こうから告白してくれたんです（照）。たぶん、私から好きなオーラが凄い出ちゃってたと思うんですけど。

——恋が成就したわけですね。

KG だから最初は楽しかったんですよ。でも、付き合ってみると、その人が凄くヤキモチ焼きなことがわかって。私が男友だちと話してるのを目撃すると、凄く機嫌が悪くなるんです。

——ジェラシーを燃やしてた、と（笑）。でも優しかったんですよね？

KG はい、寒いときに私が薄着だとジャンパーを貸してくれたり、家まで送ってくれたりとか（嬉しそうに）。でもある日、私と一緒にいるときに彼がメールをしていて、たまたまハートの絵文字を使ってるのが見えちゃったんですよ！

——それは穏やかじゃないですね～。

KG で、問いただしてみたらメールの相手が女の子だったんです……（悲しそうに）。当時、その彼は大学生だったんですけど、クラスメイトの女の子から告白されたみたいで。もちろん、私は「どっちが好きなの？」って聞いたんですね。そしたら彼は「おまえだよ」って言ってくれて。その場はそれでよかったんですけど、しばらくしたら彼が急に「1週間だけ別れてくれ」って言ってきて。

KG

——はぁ？　なんですか、その期間限定は？（笑）。

KG　でも、「必ず戻ってくるから」って言われて。私も嫌だったんですけど、ほかの女の子とも遊ばせたほうがいいのかなって思っちゃったんですよね。本当にバカなんですけど、「わかった」って答えちゃって（苦笑）。いま思い返してもありえないって感じなんですけど、そのときは好きだったから……。

——愛は盲目、と（笑）。で、そのあとにまたヨリが戻ったんですか？

KG　はい、普通に何事もなかったように。でも、またしばらくしたら、彼が今度は「大学のあいだだけ別れてくれ」って言いだしてきて（笑）。

——……あの、この話はネタですか？

KG　違いますよ～、本当なんですコレ！　で、私もようやく「もうダメだな」って気づいて別れたんですけど。そうしたら、またちょっと経ったあとに、向こうがやっぱりヨリを戻したいって言ってきて。

——もはやなんでもアリですね（笑）。

KG　さすがに私もまた同じことを繰り返すなって思って、そのときは断ったんです。……でも、やっぱり私も彼のことが忘れられなくて。

——ええ、まだ続くんですか⁉　たぶん、ミスター高橋なら「バカじゃないの、あんた？」って言ってますよ（笑）。

KG　本当に私、バカだと思うんですけど、バレンタインデーにチョコレートを届けに行っちゃったんです。そしたら彼から「ありがとう、最近どう？」ってメールが来たので、私が「元気だよ。新しい彼女できた？」みたいな内容で返信したんです。そうしたら「いないよ」って返ってきて。で、そのあともいい感じでメールのやりとりが続いてたんですね。でも、それからちょっとして、私が友だちとデパートを歩いてたんですよ。そうしたら前から……。

——あ、なんだかオチが見えてきましたよ（笑）。

KG　そうなんです、その彼と彼女らしき人が手をつないで歩いてきて、ハチ合わせしちゃったんですよ！　それですぐに彼に「彼女いるんじゃん！」てメールして、それでようやく終わった感じなんですけどね……（シミジミと）。まぁ、いまとなってはいい経験したかなって（笑）。

——は～、そうですか（笑）。いやぁ、今日はハードな練習の話から貴重な恋バナまで、赤裸々にありがとうございました！

KG　いえいえ、こちらこそこんな場所にすいませんでした（恐縮して）。……あの、いまの元カレの話なんですけど、私、バカって思われないですかね？

——ダハハハ！　いやいや、〝悲劇のヒロイン〟としてファンの好感度がますますアップすると思いますよ（笑）。

【09年3月30日／都内・ハッスル道場にて収録】

けー・じー■本名・近藤朱里。1989年2月8日、神奈川県海老名市出身。『ハッスル』オーディションを経て08年10月26日の栃木大会でデビュー。『ハッスル』ではほんこんがマスターを務める喫茶店『ともだち』の看板娘としても活躍。164cm、51kg。ブログ『☆朱里のハッとした出来事☆』
http://ameblo.jp/aaabbbcccdddabcd/

——今回はプライベート特集のつい
でに、佐伯さんの東京のマンション

（・ハイスクール）』の話させてよ！
——（無視して）ここ最近とくに目立

DEEP代表・
佐伯繁の自宅を

6月も大会はあるけど、まだ全然や
れてないから！（キッパリ）。

極論から言うと、いま前田吉朗がD
REAMのフェザー級GPに出てる
けど、あれはカード発表が遅れてた

プライベート企画ついでに
自宅に潜入！

佐伯繁のなぜなにQ&A

「なんで日本のMMAの大会はカード発表が遅いの？」

新宿の夜景をバックにポーズを決める一人の男。シ、シブイ！　プライベート特集のトリ（というかオチ？）を務めるのはDEEP代表の佐伯繁さん。新宿からほど近いマンションの13階で撮影した写真がこちらの一枚なのだ。自宅での取材を申し込むとこれを快諾。DEEPジムからほど近いマンションの13階で撮影した写真がこちらの一枚なのだ。お宅訪問もそこそこに佐伯さんに日本のMMAに関する素朴な疑問をぶつけてみました！

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

カードが決まらないのはスタッフに比べて大会数が多いからじゃない？

――今回はプライベート特集のついでに、佐伯さんの東京のマンションにうかがわせていただきました！

佐伯　なんだよ、ついでって！　ま、いっか。まあ、ぶっちゃけ、ここはDVDを観たり寝るぐらいで俺的には自宅って感じもしないんだけどな。

――そうか。佐伯さんには名古屋に家があるんですよね。

佐伯　そうそう。名古屋のマンションは広いよ。ベランダだけでも幅が3メートルで、長さが30メートルぐらいはあるからな。

――べ、ベランダが30メートル⁉　それは凄いですねぇ！

佐伯　バーベキューだってできるもん！（得意げに）。モノとかも向こうはいっぱい置いてあるんだけど、ここはスペースもちっちゃいし、あんまり見せたくないんだよな。ほらっ、俺も一応社長だから。

――まあ、そうですよね（笑）。

佐伯　でもね、いろいろとこだわりはあるんだわ。俺はカメラマンをやってたから、やっぱり明かりは昔から間接照明にこだわってるし、映画も好きなんで映画館では月に4～5本、レンタルでも週に4～5本は観てるんだけど……（このあと、大好きな映画について必要以上に熱く語り始める佐伯さんだったが、当然カット）。

――え～、佐伯さん、そろそろ本題に入りたいと思います！

佐伯　なんだよ、本題って映画の話じゃないの？　もっと『ビー・バップ・ハイスクール』の話させてよ！

――（無視して）ここ最近とくに目立ってきてると思うんですが、対戦カードがなかなか決まらなかったり、大会直前でカード変更になることがよくあるじゃないですか。その原因はいったいなんなのかなって思って。

佐伯　う～ん、難しいなぁ。まあ、俺の予想だけど、FEGさんに関して言えば、いまはK-1だけじゃなく、DREAMもやってて、ハッキリ言って大会数が多すぎると思うんですよ。

――選手数に比べて、大会数が多いということですか。

佐伯　いやいや、スタッフの人数に比べて大会が多すぎるってこと。K-1があってMAXもあってDREAMもあるわけだから。言い方悪いけど、先々のことをやっていけてないと思うんですよ。僕の予想では。

――佐伯さんの予想では（笑）。

佐伯　それはFEGさんだけでなく、ウチなんかもそうなんだけど、次は4月16日に後楽園大会があって、4月29日には僕が日本代表の監督を務めるM-1チャレンジがある。ハッキリ言って、いまウチもカード発表が遅いじゃないですか？

――DEEPは試合数が多いイメージは強いですけど、比較的カード発表は早かったですよね。

佐伯　いままではそうだったんだけど、たとえば、ほかの団体ではいまは5月とか6月のマッチメイクをやってると思うんだよね。ウチなんかも6月も大会はあるけど、まだ全然やれてないから！（キッパリ）。

――そんなに力強く言われても（笑）。

佐伯　その前の大会のことを終わらせないと手がつけられない。ホント、一個ずつやっていかないと大会数が多すぎて前に進めないんだわ。それはウチだけじゃなくて感覚的にどこも同じだと思う。FEGさんでも、次にMAXが4月21日にあって、先週はK-1もやってたでしょ。

――3月28日にワールドGPの横浜大会がありましたね。

佐伯　ぶっちゃけ、2ヵ月間何も大会がなかったら、次の大会のことだけを考えればいいけど、実際にはそのあいだにも大会があるし、その中でも選手がケガしたりとかでギリギリにならないと決められないんだわ。

――MAXとK-1のワールドGPの大会はテレビ局も階級も違いますけど、運営しているスタッフは一緒だったりしますからね。

佐伯　そうでしょ。だから、どこで線引きするかだと思いますよ。実際、いろんな人が関わってるぶんだけ、いろんな思いもあるし、意見もまとめなきゃいけないっていうのもあるからカードはなかなか決まらない。

――佐伯さんから見て、K-1もそうですし、DREAMもそうだと思うんですけど、やっぱりテレビの影響でカードが決まらないという部分は大きいんでしょうか？

佐伯　それもあるんじゃない？　ホントだったら、今日決めなきゃいけないのが、あさってだったらもっといいカードになるかもしれない。それをどこで線引きするかなんですよ。極論から言うと、いま前田吉朗がDREAMのフェザー級GPに出てるけど、あれはカード発表が遅れてたから出られたんですよ（笑）。

――前田さんはWECとの契約問題があったみたいですからね。

佐伯　そう。もっと発表が早かったら間に合わなかったんですよ。だから、テレビもそうだけど、もっといいものを作ろうとしたときに、どうしても待たなきゃいけないものが出てくる。そういう問題もあるし、ウチなんかでいうとDREAMの影響は正直大きい。ウチからDREAMに出る選手もいれば、逆のパターンも最近はあったりするんで。

――柴田選手やチョン・ブギョン選手とかもDEEPに出ましたからね。

佐伯　そうでしょ。ホントなら券売のスケジュールに合わせて、先行発売の前に何カードか出したいっていうのも当然ある。DREAMでいえば、今日は4月8日だけど、次の大会の5月26日までだいぶ時間があるじゃん？　でも、なるべく早くカードを出そうとしてる。それはいままで発表が遅れてきた反省点から。

――改善していこうというのは主催者側としては当然あるわけですね。

佐伯　もちろんですよ。

――佐伯さんはインターネットの情報とかは、あまり信用しないところがあるみたいですけど、実際にはカード発表だったり、参戦情報とか、海外の選手は主催者から正式発表がある前にホームページとかで載せちゃうことが多いじゃないですか。

佐伯　そうみたいだね。でも今回のDREAMに出たウェルター級GP

DEEP代表・佐伯繁の自宅をプチ公開！

「社長の家に行くんですか？　俺も行きたいッス！」と、なぜか取材にはマッハ戦から二日後の青木真也も同行。初めて訪れた佐伯さんのマンションを見て「俺もこんなところに住みたい」とさかんにうらやましがってました。

佐伯さんといえば大食漢のイメージが強いが意外や意外、基本的に外食中心のため冷蔵庫の中には飲み物ぐらい。しかし、冷凍庫には糖尿病患者にやさしい低カロリーのお弁当がたんまり入ってました。また明日食べるぞ！

きれい好きで二日に一回は部屋の隅々まで掃除をしているという佐伯さん。名古屋の本宅はモノであふれかえっているらしいが、こちらのマンションには大好きなドラえもんグッズと田村潔司フィギュアが並んでいるくらい。

佐伯繁のなぜなにQ&A

最近は大会直前に毎回誰か選手を探してるよなぁ

のガイジンだって、誰が出るとかよくネットとかで出てたみたいだけど、半分は当たってないでしょ？（笑）。

——（アンドレ・）ガウヴァオンやマルセロ・ガルシアとか、だいぶ前から参戦が決まったとかネットには出てましたからね。

佐伯　でも、ガルシアは出てないじゃん。実際に、オファーはしただけで、「決まった」とか書かれてることも多いしね。そこでフライングして書いちゃって、あった話がなくなる場合もけっこうあるからな。

——フライングしたばっかりに、出られなくなるケースもある、と。

佐伯　そうそう（笑）。難しいのは日本人選手だって、発表する直前にならないとわからないから。実際にカードが組まれるかどうかなんて（笑）。

——過去に、発表直前でカードが変更されたり、なくなってきた事実があるわけですね。

佐伯　そうそう。だから、このあいだウェルター級ＧＰに出た池本（誠知）だって、対戦相手を知ったのは会見の当日だからね。

佐伯さんが「『DREAM.8』は福田くんにつきる!」と試合後には涙も流したのがニンジャvs福田力の一戦。大会2日前の緊急オファーを受け、強豪ニンジャ相手に勝利をつかんだ福田。元WJ戦士ということもあってか入場曲はパワーホール。ド真ん中!

——プロレスみたいですね（笑）。

佐伯　僕は対戦相手を前日に聞いたんだけど、もう夜遅かったんで、次の日に大阪から新幹線に乗って、こっちに来てから教えたから。

——最近はそういうこともそれほど珍しくはないんですかね？

佐伯　珍しくはないわな。実際、２週間前に聞いてた選手とは変わってたし、ハッキリと「この選手」っていうものがないと、僕の場合は選手には伝えないから。ウェルター級ＧＰで言ったら、３月のウチの大会で白井祐矢とキム・ヨンヤンで出場者決定戦をやって、どっちの選手が勝つかによって、いろいろと変わってくる部分も出てくるし。３月14日にその試合をやってるから、それが終わってからじゃないとマッチメイクはできないわけじゃん。

——まあ、そうなりますよね。

佐伯　だから、カード発表が遅くなってるのは興行数が多いのが一番の原因だと思う。……まあでも、そんなこと言ったら、俺なんか、両方合わせてどれだけ関わってんの！

——ん？　両方といいますと？

佐伯　自分のところと、ＤＲＥＡＭ関係を含めたら。

——さらに最近は長島☆自演乙☆雄一郎選手の件でＫ－１ＭＡＸにも関わったりしてますからね。

佐伯　ホントそうだよ。よく選手から、「どこどこの団体からオファーが来てるんですけど、どうしましょう？」って言われるんだけど、「ちょっと待って。その前の大会が終わらないと考えられないから」って言ってるもん。頭なんて回らんわ。……まあでも大会まで一週間切った段階で、誰か探さなきゃいけない状況っていうのは最近は毎回あるよなぁ。

——珍しくなりましたよね（笑）。

佐伯　もちろん、いいことじゃないのは主催者サイドとしてもわかってるよ。でもまあ、しゃあない部分もあるんだわ。だから、いいふうに捉えると普段から身体を作ってた人間がチャンスをつかめるわけだよ。

——そういう意味では、『ＤＲＥＡＭ・８』で大会２日前のオファーを受けて、強豪のムリーロ・ニンジャを下した福田力選手なんかはチャンスをつかんだっていう感じですよね。

佐伯　そうそう。普段だったら声がかからないような選手でも、ギリギリだったから声がかかったっていう人もいるかもしれないし。逆に今回、福田くんを出したっていうのは俺的に言ったら苦肉の策だよね。

——苦肉の策だったんですか？

佐伯　だって、福田くんはＤＥＥＰでタイトルマッチの予定があったし、今月のＭ－１の日本代表のメンバーでもあったわけだから。そういう部分では最終手段。今回みたいなケースはよくあるけど、やっぱり体重の問題もあるし、なかなか相手は見つからないんですよ。実際、ほかにも何人か声をかけてはいたんだけどね。

——いくらＤＲＥＡＭというメジャーなイベントでも、大会の２日前とかだとさすがに厳しいんでしょうね。

佐伯　「出たい」っていう人がいたとしても、相手のこともあるしな。ましてや今回はニンジャだよ。そりゃあ簡単に見つからないよ。

——かなり厳しい相手ですからね。

4月5日に開幕したDREAMフェザー級GPは大きな盛り上がりを見せたが、佐伯さんルートで参戦した池本誠知と白井祐矢の1回戦敗退はさすがにショックか？　「池本ちゃんはいい試合をしたし、白井も残念だけど、自分のところの選手の結果より、興行が盛り上がることのほうが重要!」。さすが社長!

3月8日に開幕したDREAMフェザー級GPの評価が低いことに関して不満げな佐伯さん。「大舞台を経験してない選手が多かったし、負けたらもう呼ばれないって状況もあるし、しょうがない部分もあった。でも、一回DREAMの舞台を経験したから次は絶対におもしろくなるって!」と2回戦には太鼓判!

佐伯　実力的には福田くんはDREAMに上がっても全然問題ない選手だと思うんですよ。そういうことを考えたら、福田くんにとってはチャンスだったと思うんですけど、よく受けてくれたなって思って。僕が思うに、ニンジャと福田くんの試合は、内容的にもいい場面もあったし、途中でスタミナをロスしたりもしたけど、スタミナがなくなるのはあたりまえですよ、そんなもん！

——まるでファイターのような口ぶりですね（笑）。

佐伯　（無視して）しかも、初の10分ルールだよ！　いつも5分3ラウンドとかでやってる選手が1ラウンド10分は大変だぜ！　福田くんはそれをわかってるから、最初から勝負かけたじゃん。だから、スタミナもなくなるし、ましてや大舞台！　相手はニンジャ。悪いけど、あのニンジャに勝ったっていう事実がどんだけ凄いことかみんなわかってないんですよ。ニンジャが弱くなったって言う人もいるけど、あの階級でニンジャと渡り合える日本人はいないよ！

——なかなかいないですよね。

佐伯　いない！　84キロ以下でいったら、ヘタしたら福田くんは日本のトップだと思うよ。この3年で間違いなくトップになるよ。まあでも、今回無理言って出てもらったのもあって、4月29日のM-1は無理なんで、代役を考えなきゃいけない。

——そういうこともあって、またカード発表が遅れるわけですよね（笑）。

佐伯　そういうことだよ（苦笑）。

——UFCとかは半年先の大会のカードも発表したりしてますけど、日本の大会ではそういうのは現状では難しいわけですね？

佐伯　それは難しいね。UFCがなんで先の大会のカードを発表できるかっていったら、簡単な話で全部独占契約してるから。契約中には、ほかの大会には出れないから、ほかの選手や大会の結果を待つ必要がない。

——そうですね。

佐伯　逆にオファーが早すぎても決まらないこともあるからな。

——それはどういうことですか？

佐伯　たとえば、グラジエーターの大会を9月にやるってことで動いてるんだけど、「この選手を出してほしい」って言われても早すぎてどうにもならない。9月っていったら、まだ5ヵ月も先だから、そのあいだに試合する可能性も大きい。そうなると、その試合の勝ち負けも影響するだろうし、ケガするかもしれないし。ホント、2ヵ月前ぐらいじゃないと、その先の話はできないよね。現状の日本の格闘技界は。

——理想を言えば、独占契約して、DEEPだけで回していくのが一番やりやすいんでしょうけど。

佐伯　そうだね。それが一番楽だよ。その代わり、変わったカードとか、おもしろいことはできないよね。独占契約にもメリットとデメリットはあると思うんだけどな。

——最後に、つい先ほどまでここにいた青木さんのことも聞いておきますが、佐伯さんから見てマッハ戦はいかがでした？

佐伯　今回のマッハ戦っていうのは凄く自信があった部分もあるんだろうけど、やっぱり勝負はこういうこともあるっていうのをちゃんと捉えて、もう一皮剥けてほしいよね。

——自信というのは対マッハ戦？　それともウェルター級でもやっていけるという部分ですか？

衝撃の結末となった『DREAM.8』のマッハvs青木戦。佐伯さんが言うように勝利したマッハは試合後リング内を占拠し喜びを大爆発。マッハはその勢いで一夜明け会見後は、そのままぶらりと広島、さらにはイカを食べに福岡に！

佐伯　いや、世間すべてに対して。

——それはかなりの自信ですね（笑）。

佐伯　すべてにおいて自信がつきすぎてた部分があったでしょ。それに対して今回の負けでもう一皮剥けるんじゃないかなと思うんで、青木にとってはよかったと思うよ。

——世間に対する自信っていうのは、簡単に言うとちょっと天狗になってたということですか？

佐伯　いや、天狗とは違うな。まあ、実際凄いことをしてきてるとは思うし、プロとしてマッハ戦を盛り上げるっていうのはわかるんだけど、ちょっと行きすぎてたからな（笑）。

——でも、あの試合前の舌戦があったからこそ、あの盛り上がりにつながったとは思いますけどね。

佐伯　そうなんだよね。まあ、ああいう経験をしたことによって、また大きくなれるんじゃないかなとは思うけどね。それに今回はマッハが凄すぎた。俺も長いこと見てるけど、あんなマッハは見たことない。

——青木さんが引き出しちゃったってことなんでしょうね。

佐伯　そうだろうな。試合前、「マッハ先輩、尊敬してます！」っていうテンションだったら、マッハは勝てなかったかもしれない。あんなに怒って、あんなに喜んだマッハの姿を見たのは2回目！

——前に見たのはいつですか？

佐伯　DEEPでやった上山（龍紀）戦。あのときは修斗から出てきて、あとがない中で、他団体のチャンピオンとやって、もう戻ることができないかもしれないという、絶対負けられない一戦。あのとき以来だね。まあでも、今回マッハの怖さや強さだったりを引き出したのは、やっぱり青木の力が大きかったと思うしね。

——準決勝はどんなカードになるかわかりませんけど、マッハさんの対戦相手は、いろいろ挑発的なことを言ってマッハを怒らせたほうがおもしろくなるのかもしれませんね（笑）。

佐伯　そのほうが間違いなく試合は盛り上がる。でもやっぱり、今回の大会に関しては自分が関わったこともあるけど、福田くんにつきる。あの試合が終わった瞬間、涙が出たよ……（目頭を押さえる）。2日前のオファーで出てもらって申し訳ないなぁって気持ちでいっぱいだったから。

——大変ですねぇ、佐伯さんの立場も。言いたくても言えないようなこともたくさんあるでしょうし。

佐伯　いやいや、そんなことはないよ。……まあでも、何年か経ってエンタープレインで自伝が出せることになったら、いまは言えないようなことも全部書いてやるから（笑）。

——自伝出版の際には、そのへんのぶっちゃけ話も期待してます！

【09年4月8日／都内の佐伯邸にて収録】

さえき・しげる■1969年6月24日、富山県出身。DEEP代表、さらにはDREAMの広報も務めるマット界の名物関係者。4月29日にはディファ有明にて自身が日本代表監督を務めるM-1チャレンジが開催される。ヒョードルも来場が噂されるM-1大会情報はコチラから→http://www.deep2001.com/

船木誠勝監督の“幻”の自主映画をついに大発掘!!

THE PROPHECY

音楽家にして文筆家

菊地成孔

「船木の自主制作映画、観たことありますよ」『kamipro Special 2009 MAY』のパンクラス特集にて菊地成孔氏が語った言葉から約1カ月……。ついに発掘された幻の船木監督作品！　船木のすべてが込められたその衝撃的な内容がいよいよ明らかに!!

聞き手／ジャン斉藤

――今回は、『kamipro Special 2009 MAY』のパンクラス特集で菊地さんが「船木のグロテスクサイドの結晶」とおっしゃっていた、幻の船木の自主映画『THE PROPHECY』についてうかがいたいと思います！

菊地　いや、これはホントに凄い映画でねぇ……（言葉を失ない）。DVDをお渡ししてご覧になってもらいましたけど、いかがでした？

――ちょっと言葉が見つからないほど、凄い衝撃でしたね（笑）。

菊地　ワタシはネットで知り合ったある格ヲタのご夫婦からDVDを焼いてもらったんですけど、その二人はこの映画の上映会に行ってるんですよ。

――えっ？　上映会があったんですか？

菊地　そこでこの映画のVHSビデオを買ったみたいで。詳しくはその方からの手紙があるのでご覧ください。

――（手紙を読みながら）はぁ～。築地の高級マンションの小ホールで自主上映会？　しかも約20名の限定予約制？（詳細は139ページ下段を参照）。2003年制作ってことは、総合格闘技バブルの真っただ中ですけど、あの熱狂の裏側でこんな映画が作られてたとは（笑）。

菊地　船木の引退が2000年ですから、その時期は役者を3年ぐらいやっている頃ですね。映画の現場を知った、こなれてる感じもありますから。

――ただし、この映画は格闘技業界では話題になったことがないんですよ。

菊地　『kamipro』が知らないってことは相当ですね（笑）

――存在を知らないうえに、映画を観て、わけのわからない異様さに打ちのめされて、この手紙を読んでますます謎が深まりましたね。「船木はなんのために作ったんだろう？」って。

菊地　しかも、上映したのはコレ一回だけでしょうから。

――ビデオを含めてこの映画を観てるのは世界で100人いないかもしれない。……そんな映画についてしゃべっていて、はたして読者に伝わるのか不安ですけど（笑）。

菊地　伝えましょう。なんとか（笑）。

――映画のストーリーを簡単に説明すると、会社経営をしてる主人公がなんの仲間かわからないけど、かつての仲間たちを手紙で招待してマンションの事務所みたいな場所で同窓会的なものを開く。で、寿司屋とか、中古車販売の人とか、プロレスラーやボクサーとか、ヤクザやコ○キとか、いろんな職業の人が集まって、勝手なことをダベってる。……そんな中、もの静かだった主人公が突然「明後日、地球が滅亡する！」と宣言するという驚愕の展開になるんですけど。

菊地　後半は完全に収拾がつかなくなるというか、マリア像のカットが突然インサートされて宗教的な感じになったり……誇大妄想とか自己愛の人が収拾つかなくなってしまう、というのは、『kamipro』読者層だったら、やっぱり『エヴァンゲリオン』かもしれませんが、ああいう“失敗が成功した例”じゃなくて、まあ、自主映画的ですよね、混乱の仕方は。

――同窓会をする目的もハッキリ提示されないし、そのわりには一人一人のキャラがやたらと濃いんですよね。出演者はVシネに出てるプロの俳優さんとパンクラスやグラバカ勢が混じってますけど。

菊地　格闘技選手で俳優を志向する人ってアンディ・フグもそうだし、ミルコ（・

いい意味で船木のダークサイドや思想が全部詰め込まれています

クロコップ）も映画に出てましたよね？

――ミルコは『アルティメット・フォース　孤高のアサシン』というアクション映画に主演してました。

菊地　そういうブルース・リーが入り口で格闘技に魅かれた人って俳優になりたがるじゃないですか？　ただ、完全に成功した人はいないですよね。船木は監督志向だったところが特殊ですよね。

――それで完成したのがこの映画ってのも凄いですけど……（映画でたこ八郎似のボクサーが暴走するシーンを観ながら）うわ〜、やっぱり凄いなぁ〜！

菊地　いやホントに凄いです、これ。

――読者は全然わからないだろうけど……かなり凄いですよ！

菊地　格ヲタであればあるほど観ておもしろい作品だと思いますし、もっと広く世に放たれるべき映画ですし、いろんな見立てができますよ。「プロレスラーはやっぱり演技がうまい」とか（笑）。なんといっても謙吾の演技が観れる貴重な映画ですから（笑）。

――プロモーター役の菊田（早苗）の演技も素晴らしいし、三崎（和雄）なんてまだ華のなかった頃なのに、重要な役どころのコ○キ役を自然な演技でこなしてますから（笑）。

菊地　一言、前衛芸術ですよ（キッパリ）。

――ワハハハハハ！

菊地　Vシネマの画と自主映画の空気を持った前衛芸術、というのが一番妥当かなあ。

――あと船木のパブリックイメージに反して、やたら下ネタが多いのも不思議なんですよ。オナニーネタとか。

菊地　下ネタはちょっと引くくらい多いよね（笑）。

――それに、プロレスラーやボクサーの扱いも驚くほど愛がないというか。「船木ってプロレスや格闘技に対して、こんなふうに思っていたんだ」っていう部分もショッキングですし。

菊地　とにかくいい意味で、船木のダークサイド、グロテスクサイドが結晶し、船木の思想が全部詰め込まれてます。観るとちょっと気持ち悪くはなりますけど、前衛芸術というのはそうでなくちゃいけない部分もあるし、なんせ船木の闇や不条理な部分さえもすべて伝わってきますから。

――で、映画における一番重要なメッセージが「人生は一度きりだ」っていうのも凄いですけど。

菊地　まさに船木節というか、普段の言動と一貫してますよね。

――船木がプロレスラーになるという宣言をしてお母さんに反対されたときに言ったことと同じですね。「人生が二度あればお母さんの言うとおりにしますが、人生は一度しかないので自分の思うようにさせてください」という。

菊地　こうした芸術作品は本人解説が一番正しい、というわけではないどころか、本人だからこそ分析や解説がおかしくなってしまいがちですが、とはいえ今回は本人に解説してもらえればいいんじゃないですか。でも……どうなんだろう？（真剣な表情で）。

――ワハハハハハハ！

菊地　船木の中でこの映画は黒歴史になってるんだろうか？　それとも自信マン

映画「PROPHECY」より

コ○キ役で名演技!!　三崎和雄の証言

自分のコ○キの演技、そんなによかったですか？　フフフフフ。ただ正直、自分ではどんな演技だったかあまり覚えてないんです（笑）。この映画は「船木さんが映画を作るから、協力してもらえないか」と菊田（早苗）さんと僕に船木さんから個人的に依頼がありまして。ただ、当時は船木さんとの接点がほとんどなくて立場的に雲の上の存在でしたから、自分は演技とか興味はなかったんですけど、船木さんから言われたら「絶対やるしかない」って感じで。菊田さんは俳優に色気があるみたいですけど（笑）。映画を観ても思いますけど、船木さんはやっぱりアーティストですね。感性や考えてることが普通の方とは違うんですよ。いい意味で変わり者だし、凄くハイセンスな方だと思うし、話していても「船木さんの考え方っておもしろいな」って思いますから。撮影現場では船木さんからの演技指導もあったんです。僕は初めて演技をしたんですけど、船木さんのツボに妙にハマったみたいで、僕のコ○キの演技の最中に「いいよ！　凄くいいよ！」ってずーっと爆笑してるんです。だから、好感触を持ってもらえたとは思うんですけど……。ただ、船木さん監督の映画出演としてはこれっきりだったんで、ホントは好感触じゃなかったのかな（笑）。

映画上映会にも参加!!　ビデオ購入者の証言

今回、船木映画発掘の原動力となったのが、菊地氏とネットで知り合った菊地氏曰く「格ヲタのご夫婦」の方が提供してくださった映画DVD（原盤は上映会で購入したVHSビデオ）だった。

今回の記事に関して、あらためて菊地氏に届いたDVD、そして手紙から、幻の上映会の様子を回想してもらった。その上映会の模様とは？　以下、手紙からの抜粋。

（前略）この作品は37分と短く、自主映画でもありますので、普通には上映されていませんが、私と夫が観た上映会もかなり異様なものでした。その頃つけていた日記を引っぱり出してきて読んだのですが、こんなカンジです。

「今日は築地の○○○○○○○であった船木の自主映画の上映会に行ってきた。（中略）船木本人が入り口で出迎えてくれて、ビシッとスーツを着て『今日はよくいらっしゃいました』なんて言う。ひ〜、近くで見たナマ船木は凄い二枚目だった。しかし、映画は……観終わった客たちは、みな『何も言うまい』という空気に包まれていた」

（中略）映画は、このマンション内の住民のためにある小さなホールで上映されました。席数は50席ぐらいだったでしょうか。無料でしたが予約が必要でした。船木は本当にカッコよかったです。入り口で一般客を（といっても20人ぐらい？）を笑顔で出迎えていました。会場内には、尾崎氏や鈴木みのるがいて……。菊田もいたかもしれません。皆さんスーツ姿で監督のために顔を揃えた雰囲気でした。

観た映画の怖さと目の前の船木のさわやかな笑顔とのギャップによれよれ状態で外に出てコーヒーを飲んで夫と「いやぁ……凄かったねー……」とタメ息をついていたら鈴木みのるが一人でブラブラ出てきました。

（中略）船木の狂気については、誰か書いてほしいとずっと願っておりましたが、それにはやはり船木の「映画への思い」がはずせないと思います。

マンで解説してくれるんだろうか。

――読めないですね。ここまで作りながら、映像が全然流出していないのも凄いですし。

菊地　ブツの存在すら情報として知られてないというのは、いまどき珍しいことですね。

――グーグルで検索してもマトモな情報はなかったですから。

菊地　昔は日本武道館にリングスを観に行ったら、前田vsアンドレ戦のボロボロのコピーのVHSをオッサンが売ってたじゃないですか。

――2002年くらいまで大会場に行くと裏ビデオ販売が必ずありましたね。

菊地　そこから、『YouTube』で裏映像がアップされる時代になったのに、なぜこれが流通してないのか不思議でなりません。

――2003年制作っていう時期も微妙だったんでしょうね。裏ビデオがなくなってきた一方で動画サイトには早すぎたというか。

菊地　あるいは観た人が、船木の毒に感染しちゃって何も言えなかったのかもしれない。ブログこそいまほど定着してなかったとはいえ、掲示板とかホームページとかはあったじゃないですか？　そこで「今日は『PROPHECY』を観た感想を書こう」と思ったとしても、たやすく書ける映画じゃないですから。

――観たお客はディープな船木信者ばかりだろうし。難解な内容で笑うわけにもいかないから、心にしまっておこうと思ったのかもしれない。

菊地　その「笑おうにも笑えない」感覚こそ、まさしく船木自身ですよね。船木の触りづらいイメージって、かなり固定しちゃいましたから。この映画をきっかけにもっとツッコんであげて船木という美しい偶像を降ろしてあげるといいかもしれない。

――前回のインタビューの「船木の東北弁をからかったりモノマネしてたら、もっとパンクラスはヘルシーになっていた」ということと同じですね。

菊地　昔は幸福の科学の映画を一般の映画館でやってたりしてたじゃないですか？　もっと前には……（以下自主規制）。信者以外の人が観たら引くのは言うまでもないけど、この作品は信者の人も上映会のあとに黙って下を向いてしまうような力があるわけで。これはどんなクリエーターにも言えるんだけど、成功して成功して最終的に映画をやるんだけど、それでその人の息の根を止める法則ってあるじゃないですか。

――ああ、確かにありますね。

菊地　映画の魔力ですよね。約束の土地というかな。

――PRIDE社長だった榊原（信行）さんもそうですね。PRIDEが大成功したあと、『殴り者』っていう格闘家を出演させた映画を作ったんですけど、『殴り者』というタイトルなのに最後はピストルで決着がつくという（笑）。

菊地　せめてピストルで殴ればよかったですね（笑）。

――あとカーリングをテーマにした『シムソンズ』って映画も作ってて、そっちはそこそこヒットしたんですけど。その数カ月後にフジテレビショックが起こってしまって。

菊地　「フジテレビショック」って、いま聞くとうずくような痛さですね（笑）。ともかく映画はいろんなクリエーターにとって約束の土地なんですね。なんかでうまくいってお金も貯まり、認知度も上がると、最後は映画に行くんですよ。で、映画がコケて滅ぶっていう……船木の場合は滅んだわけじゃないですけど（笑）。

――一般公開して勝負に出たわけではないですしね。むしろ、映画の存在はずっと隠されていたような感じですから。

菊地　厳密には〝一般映画〟と〝自主映画〟も分けて考えるべきなんですけどね。船木の場合は〝自主映画〟のテイストに撞着があったかも知れない。

――一方、一般映画に向かった有名人の例でいくと桑田圭祐さんも作りましたね。

菊地　あれも大ヤケドだったけど主題歌がヒットしてとり返してるから（笑）。『真夏の果実』ですよ。しろくじちゅうもすきっていってえ～。ゆめのなあかにつれえていってえ～（歌いだす）。

――ワハハハハハ！　長渕剛の映画『ウォータームーン』も凄かったですね。最後は主人公のお坊さんが宇宙人でしたっていう驚天動地のオチでしたけど（笑）。

菊地　『お坊さんは宇宙人』ってタイトルのほうがよかったんじゃないかっていうね（笑）。『映画秘宝』が90年代にまとめて扱ってました。

――そう考えると有名人監督の中では、たけし（北野武）さんの評価はズバ抜けてますね。

菊地　あの人はなりゆきで監督になったんで、少しケースが違うんですよ。代役で監督をやらなきゃいけなくなって（『その男、凶暴につき』。深作欣二監督が途中で

機会があれば『kamipro』読者にもぜひ観てもらいたい映画です

プロモーター役で名演技!!

菊田早苗の証言

映画『PROPHECY』より

この映画に出た経緯ですか？　当時、パンクラスとグラバカって対抗戦が続いてたんで、船木さんとまったく接点はなかったんですが、この映画で声をかけてもらってつながりができたんです。このときは僕も演技をしたことはなかったんですが……それにしては演技がよかったですか？（笑）。このあと『無比人』って映画で主演をやらせてもらうことになるから「やっておいてよかったな」と。ただ、船木さんのは自主映画だから「簡単なもんだろう」と思ってたら何度か入念なリハーサルがあったんです。逆に、そのあとプロの映画やドラマの現場ではぶっつけ本番が多くて、撮り直しとかしないから驚きましたね。あとから船木さんは凄くこだわって作っていたことがわかりました。映画自体は独特の間がある船木さんらしい映画ですけど、自分はこのあと何本か船木さんの映画に出てるんですよ。表には出してないと思うんですけど、たしか変態みたいな役をやらされた覚えがあります（笑）。でもこの映画がきっかけで、船木さんといいコミュニケーションができて、一緒に練習したり、家に行ったりしていたんで、いまに至る船木さんとの交流はホントにこの映画から始まったんですよ。

降板し、監督を引き継いだ）、やったらうまくいった珍しいケースで。

――失敗するのが通例ですよね。

菊地　ただ、たけしさんのように映画が作りたくて始めた人じゃない人が、映画に向かうときは相当なおもちゃになるし、それはユングの箱庭療法に似ていると思うんですよ。そういう意味で、『マッスル』主宰のマッスル坂井さんはカメラを手にしてないだけで、『マッスル』でも映画を撮り続けているのと同じだと思うんです。演劇と映画の、どっちにも行ける才覚があの人にはありますが、その踏みとどまり具合もいいし、いまはステージアクト中心ですよね。でも本来はプロレスの興行って映画なんか吹き飛ばす熱量があってしかるべきだと思うんです。だって、猪木が映画を撮りたいなんて話はないじゃないですか？

――ええ。ちなみに猪木さん主演の映画（『ACASIA』・『アカシアの花の咲き出すころ』から改題）も公開予定が立ってないみたいですが（笑）。

菊地　それこそ監督は辻仁成さんですから（笑）。だから映画には「とうとうやっちゃう」って側面があって、それは前回のパンクラスのインタビューで言った「組織はリーダーを粛正すると永遠の命を手に入れる」なんていうことと同じく、ジャンルを超えた原型的な現象なんですね。誇大妄想狂みたいな人の最後の夢になりやすい。

――誇大妄想の最終ステージというか。

菊地　以前、佐藤（大輔）Ｖについてお話ししたときに言ったように、映画はプロパガンダ的な側面も強いし。ちなみに佐山（サトル）って作っていないですよね？

――やりそうですけど、作ってはいないですね。

菊地　前田（日明）もパソコンを手にしたときは「パソコンさえあれば、映画だってすぐ撮れる」と言ってたけど結局撮ってないから、あの二人はからくも踏みとどまってる。そこがあの二人の色気と器です。で、映画に進まずに、興行に演劇的なカタルシスと狂気を盛り合わせられるという意味では、猪木とマッスル坂井さんには似たものを感じたんですよね。『マッスル』は、猪木が座長時代の新日本プロレスというか、狂気の独裁者による箱庭療法ですからね。

――じつは、マッスル坂井はちょっと映画に向かってるんです。脚本学校に行こうとしていたり、昨年も吉本興業の短編映画を撮りましたし。

菊地　うー。そうかあ、なるほど。やっちゃうわけね（笑）。でもまあ、あの人はかなりの才人だし、うまくいく可能性もありますよ。たとえはアレだけど、エノケン（榎本健一）なんて昔はオーケストラまで入れたエノケン一座って200人くらいの一座を抱えて大成功した興行団体ですけど、それがエノケン映画になっても大成功しましたから。

――絶頂期は年間4～5本も作られていたみたいですね。

菊地　格闘技の興行もDVD化されるでしょう。あれ、気持ちはわかるし、もう言っても無駄だけどやめたほうがいいと思います。

本誌No.133でミッキー・ローク主演の映画『レスラー』について語ってくれた船木だが、次号ではいよいよ"映画監督"船木誠勝について本人にインタビュー敢行予定！　震えて待て!!

――興行は聖なる一過性に適したジャンルで、映画というのはソフトとして後世に残るジャンルですから。

菊地　いずれにせよ桑田圭祐の『稲村ジェーン』も、カールスモーキー石井の『河童』も、そして船木の『THE PROPHECY』もどこかが似てるんだよね。おしなべて不気味なムードがあるんです（笑）。それから話の視点を移せば、"歌"がありますよね。いろんなジャンルの人が歌のCDを出すでしょ。それらにはある種、統一されたカラーがあるよね。でも、歌は映画と違って巨大な妄想が大きく傾いて凄いことになるっていうスケール感はないじゃない。

――確かにそうですね（笑）。

菊地　歌を出した格闘家はいっぱいいた。でも、映画監督をした格闘家は船木だけだ、と。とにかく機会があれば、この映画はぜひ『kamipro』読者にも観ていただきたい。

――ちなみに菊地さんは「映画に向かいたい」って欲望はないんですか？

菊地　いや、じつはワタシも「撮りませんか？」と言われてるんですけど……いまのところは寸止めで断ってます（笑）。

――いまのところ寸止め中でしたか（笑）。今回もありがとうございました！

【09年4月2日／都内・菊地氏の事務所にて収録】

きくち・なるよし■1963年6月14日生まれ。音楽家、文筆家。ジャズミュージシャンとして活動する一方、音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。『kamipro』の論客としても知られ、谷川貞治FEG代表のキャッチフレーズ"谷川黒魔術"の生みの親でもある。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』（白夜ライブラリー）。

カッコいいなぁ〜なプレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年5月25日(月)以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦秋山成勲と闘ってほしい選手は?⑧今後、読者プレゼントでほしい賞品は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「発光体」係まで

※応募締切は2009年5月15日(金)当日消印有効

PRESENT*01

FRONT / BACK

1名様

棚橋弘至vsカート・アングル IWGP対戦記念Tシャツ

[新日本プロレスリング株式会社/¥3,500]

2009.4.5新日本プロレス両国国技館大会で対戦した両者の姿がプリントされたアメリカンテイストの対戦記念Tシャツ。サイズはL。

PRESENT*02

FRONT / BACK

1名様

中西学「野人」Tシャツ(黒)

[新日本プロレスリング株式会社/¥3,000]

どこかで見覚えがあるようなデザインだが、中西の野人らしさをシンプルに表現した力作! サイズはL。会場やHP通販で買えます!!

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

PRESENT*03

1名様

HIROKO サイン色紙

[非売品]

元SM女王様という異色の経歴を持つ女子格闘家HIROKO。本誌Webサイト『kamipro.com』での連載を記念してプレゼント!

ジュエルス■http://www.w-jewels.jp/

PRESENT*04

1名様

北岡悟 表紙GET記念 サイン色紙

[非売品]

『kamipro Special』で表紙を飾った"キモ強"戦極ライト級王者・北岡悟の表紙GETを記念してサイン色紙をプレゼント!!

パンクラス■http://www.pancrase.co.jp/

PRESENT*05

2名様

小見川道大 サイン色紙

[非売品]

今号で猫と闘ってくれた戦極ファイター・小見川道大のサイン色紙をGET!! 動画は『kamipro Move』で公開中!

戦極■http://www.sengoku-official.com/pc/

PRESENT*06

1名様

NYC BATTLE CROWD LONG TEE

[リバーサル/¥6,825(税込)]

ニューヨークの街並みと巨大なボクシンググローブが強烈なインパクトで、これからの季節に最高! サイズはL。カラーはホワイト。

PRESENT*07

3名様

リバーサルrvddwカタログ

[リバーサル/非売品]

リバーサルで7,000円以上のお買い物をした人しかもらえない、じつにハイクオリティなしっかりとしたカタログです。この機会にGETだ!!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*08

©2008 sahamongkolfilm international all rights reserved. designed by pun international

1名様

映画『チョコレート・ファイター』生傷絆創膏

[配給:東北新社/非売品]

タイ生まれの生傷アクション映画『チョコレート・ファイター』の生傷絆創膏をプレゼント! 5月23日(土)より新宿ピカデリー他にて全国ロードショー!

映画『チョコレート・ファイター』■http://www.chocolatefighter.com/

PRESENT*09

1名様

サイン入り

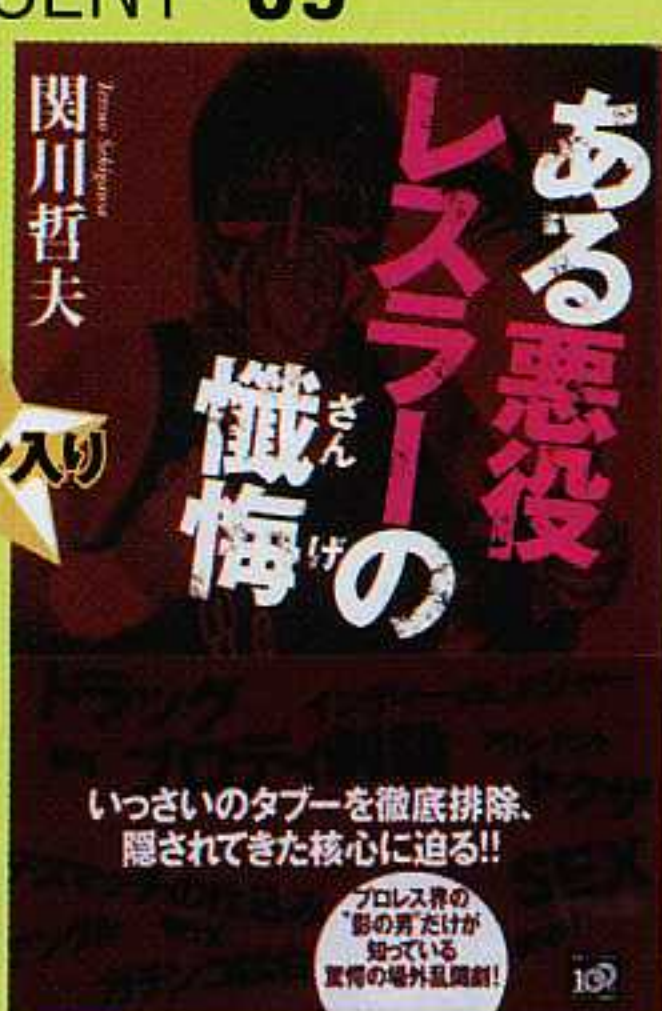
関川哲夫『ある悪役レスラーの懺悔』

[講談社/¥1,680(税込)]

あのミスター・ポーゴが悪役人生を振り返る!! W★INGマニア感涙の名著にポーゴ様の貴重なサインを入れてプレゼント!!

講談社■http://www.kodansha.co.jp/

PRESENT*10

2名様

アントニオ猪木『真実』

[ゴマブックス/¥1,764(税込)]

アントニオ猪木が33年前のモハメド・アリ戦を振り返って語った! インタビューDVD付きで絶賛発売中!!

IGF■http://www.igf.jp/

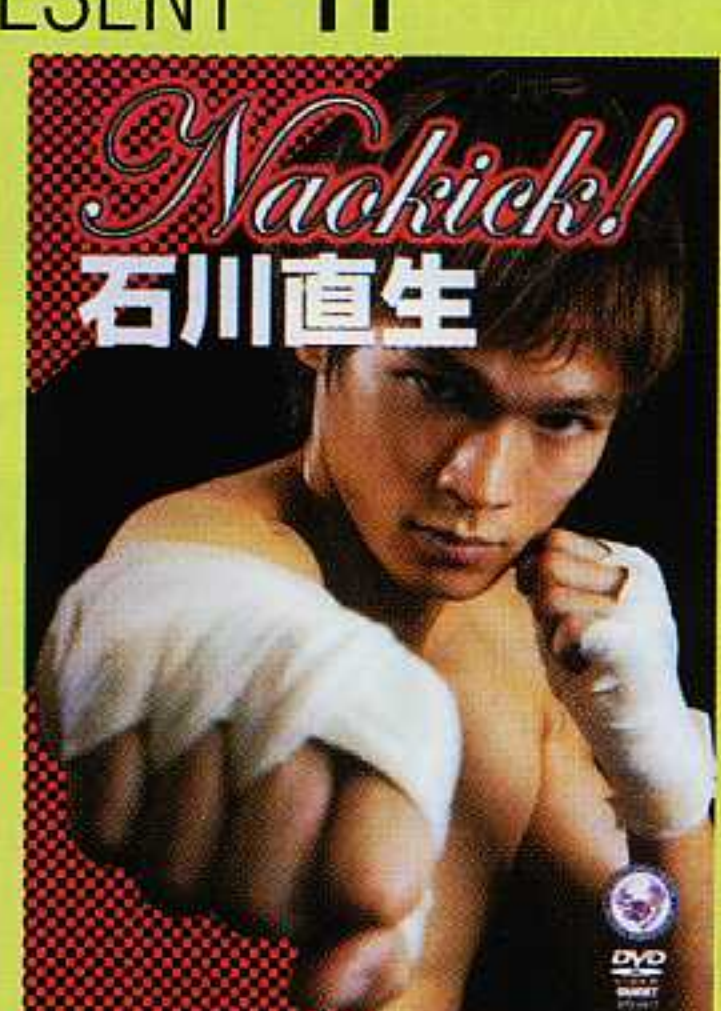
PRESENT*11

1名様

DVD『Naokick! 石川直生』

[クエスト/¥5,880(税込)]

本人が選んだベストバウト集!! 4.25(土)渋谷・大盛堂書店、5.3(日)名古屋・公武堂MACSで発売記念トーク&サイン会開催!!

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro134 応募券
AB型

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.134
2009年5月6日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（姫誕生のため非番）
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長（○○続行中!!）
松林 貴
デザイン大将
出田さん（TwoThree）
デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
デザイン練習生
遣田やっちゃん（TwoThree）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃん
しっかりガード
入江サルバ（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本"ホログラムHK015"義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川"酒消毒"奈津子
白倉明子
カッコよくて強いマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

5.29 JCBホールで『キン肉マニア2009』開催!

映像は佐藤大輔! 裏方はマッスル坂井!
ついに本物のキン肉マンも登場!

どうなる『キン肉マニア』!?

NEXT ISSUE

フェザー級GP2回戦開催! 5.2『戦極〜第八陣〜』詳報!
同じくフェザー級GP2回戦直前! 5.26『DREAM.9』特集!!

No.135は5月22日（金）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れマッソー!

kamipro 2009 134
男の散り際とは何か？ 辰吉丈一郎インタビュー
2009年5月6日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

9784757748033
特別定価：本体895円＋税
雑誌 61957-20 Ⓗ2009.8
Printed in Japan 図書印刷株式会社
ISBN978-4-7577-4803-3
C9476 ¥895E
1929476008954
enterbrain